大阪府埋蔵文化財調査報告 2015－6

久　宝　寺　遺　跡

－久宝寺緑地遊水池周辺整備工事に伴う発掘調査－

平成 28 年 3 月

大阪府教育委員会

久　宝　寺　遺　跡

－久宝寺緑地遊水池周辺整備工事に伴う発掘調査－

大阪府教育委員会

序　文

久宝寺遺跡は八尾市、東大阪市にまたがる東西 1.6km、南北 1.8km の拡がりをもつ府内を代表する遺跡の一つです。

近畿自動車道建設に伴う大規模な発掘調査をはじめ、これまでの調査によって弥生・古墳時代の遺構、遺物が数多く見つかるなど、その当時に大規模な集落を営んでいた様子が明らかとなっています。なかでも古墳時代前期に属する準構造船の出土は、類例の少ない貴重な実物資料として、全国的にも注目されました。

今回の調査は、久宝寺緑地の北地区における遊水池周辺整備工事に伴う発掘調査で、平成 23 年度から平成 26 年度にかけて実施したものです。

調査の結果、弥生時代中期の堤を伴う排水溝、供献土器を伴う方形周溝墓と想定されるマウンド状遺構、水田畦畔、古墳時代前期の水田跡、古墳時代前期～中期の流路、奈良時代の井戸や土坑、平安時代～江戸時代の耕作関連の畦畔や溝を検出するなどの成果を得ています。

これらは、久宝寺遺跡における土地利用の歴史に、新たな知見を加える貴重な成果ということができます。

最後になりましたが、調査の実施にあたり、大阪府都市整備部公園課、八尾土木事務所都市みどり課、久宝寺緑地管理事務所、八尾市教育委員会、公益財団法人八尾市文化財調査研究会の方々および関係各位に多大なご協力をいただきましたことに深く感謝いたしますとともに、今後とも府内の文化財保護行政により一層のご理解とご協力をお願いいたします。

平成 28 年３月

大阪府教育委員会事務局
文化財保護課長　星住哲二

例　言

１．本書は、大阪府教育委員会が大阪府都市整備部の依頼を受けて、平成 23 ～ 26 年度に実施した、久宝寺緑池遊水池周辺整備工事に伴う、東大阪市大蓮南三丁目及び八尾市西久宝寺所在の久宝寺遺跡の発掘調査報告書である。

２．現地調査は、文化財保護課調査第一グループ課長補佐　山本 彰（平成 23 ～ 25 年度）、同課長補佐　宮野淳一（平成 26 年度）の指導の下、同主査　宮崎泰史（平成 23 ～ 25 年度）、専門員　阿部幸一（平成 25 年度）、同主査　岡田　賢（平成 26 年度）を担当者として実施した。

３．遺物整理作業は、同課調査管理グループ主査　三宅正浩（平成 24 ～ 25 年度）、同主査　小浜　成（平成 26 年度）、同主査　三木　弘（平成 27 年度）、同副主査　藤田道子を担当者として実施した。

４．調査に要した経費は、大阪府都市整備部が負担した。

５．調査の実施にあたっては、大阪府都市整備部、大阪府八尾土木事務所都市みどり課、八尾市教育委員会、公益財団法人八尾市文化財調査研究会、久宝寺緑地管理事務所をはじめとする諸機関、諸氏の協力を得た。

６．本書の執筆は宮崎、岡田が行った。分担は目次に示すとおりである。

７．本書に掲載した遺構写真の撮影は調査担当者が行い、遺物写真の撮影は、有限会社阿南写真工房に委託した。

８．本書の編集は宮崎、岡田が担当した。

９．平成 23 年度については、基準点測量業務を株式会社エムズに委託して実施した。また平成 27 年度については、土壌分析業務を一般社団法人文化財科学研究センターに委託して実施し、その報告を第３章に掲載した。

10．現地調査および報告書作成にあたっては、以下の方々より御指導・御教示・御協力いただいた。

　別所秀高、大庭重信、樋口 薫、森村健一、西村 歩　（順不同、敬称略）

11．本書は、300 部を作成し、一部あたりの単価は 1350 円である。

凡　例

1．本書における層序は、基本層序については「第〇層」と標記し、各調査区における細別層位については「第」を省きアラビア数字およびアルファベットで表記する。

2．土色および遺物の色調については、『新版　標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 24 版)に準拠した。

3．遺構名は、遺構種別名と三桁の通し番号の組み合わせによって表記する。通し番号は各調査区ごとに検出順に付したものであり、遺構種別、時期ごとにまとまっていない。

4．本書における遺物番号は挿図ごと図版ごとに１からの番号を付している。なお図版中に括弧書きで斜体表記した数字は、挿図における遺物番号を示している（例：(*32-1*)→第32図１）。

5．本書で用いる座標値は世界測地系（平面直角座標系第Ⅵ系）に基づき、必要に応じて日本測地系を括弧書きとした。水準値は、T.P. 値（東京湾平均海面値）を用い、本文および挿図中では基本的にT.P.＋〇mと表記する。

6．遺物実測図の縮尺は、土器、鉄器については 1/4、石器については 1/2 である。

7．図示した土器実測図の断面は、須恵器を黒塗りとし、その他の陶磁器、土師器、鉄製品、石製品等を白抜きとした。

8．須恵器の型式編年は、『陶邑Ⅲ』（大阪府教育委員会 1977)、『陶邑古窯址群Ⅰ』（田辺 1966）に拠っている。

9．脚注は各章末に記し、引用・参考文献は本文末に記した。

久 宝 寺 遺 跡

Kyuuhouji site

－久宝寺緑地遊水池周辺整備工事に伴う発掘調査報告書－

序文

例言

凡例

目次

第１章　調査経過と調査の方法 ……………………………………… 宮崎・岡田 …1

第１節　調査経過

第２節　調査の方法

第２章　調査成果

第１節　Ａ調査区 ………………………………………………………… 宮崎 …5

第１項　基本層序

第２項　検出された遺構と遺物

（1）第 12c 層上面（弥生時代中期）

（2）第 10 層上面（弥生時代中期）

（3）第 9c 層上面（弥生時代中期）

（4）第 9b 層上面（弥生時代中期）

（5）第 9a 層上面（弥生時代中期～後期）

（6）第 8 層上面（弥生時代後期後半）

（7）第 7 層上面（古墳時代前期初頭）

（8）第 6b 層上面（古墳時代前期）

（9）第 6a 層上面（古墳時代前期）

（10）第 5 層（古墳時代前期～中期）

（11）第 5 層上面（奈良時代）

（12）第 3a 層下面、第 3b 層上面及び第 4 層上面（古代～近世）

（13）第 2 層下面及び第 3a 層上面（近世）

第２節　Ｂ調査区 ………………………………………………………… 宮崎 …33

第１項　基本層序

第２項　検出された遺構と遺物

（1）第 11 層下～上面（弥生時代中期中頃～後期）

（2）第 6a 層上面～第 6a 層下面（古墳時代初頭～前期）

（3）第 5b 層下面～第 5c 層上面（古墳時代前期～中期）

（4）第 4 層下面および第 5a 層上面（古代～中世）

（5）第 3 層下面～第 4 層上面（中世～近世）

（6）第 3 層上面（近世）

第３節　Ｃ調査区 ………………………………………………………… 宮崎 …53

第１項　基本層序

第２項　検出された遺構と遺物

（1）第 16a 層上面（弥生時代前期～中期）

（2）第 14a 層上面（弥生時代中期）

（3）第 13a 層上面（弥生時代中期）

（4）第 12a 層上面（弥生時代中期中頃～後半）

(5) 第 10b 層上面（弥生時代中期後半）　(6) 第 8 層上面（弥生時代後期）
(7) 第 6a 層上面（古墳時代前期）　(8) 第 5 層（古墳時代前期～中期）
(9) 第 5 層上面（奈良～平安時代）　(10) 第 4 層上面（中世）
(11) 第 3 層上面及び第 3 層下面（近世）
第４節　Ｄ調査区 …… 宮崎 …71
第１項　基本層序
第２項　検出された遺構と遺物
(1) 第 6a 層上面（古墳時代前期）　(2) 第 4 層上面（平安時代）
(3) 第 3 層上面（中世～近世）
第５節　Ｅ調査区 …… 宮崎 …77
第１項　基本層序
第２項　検出された遺構と遺物
(1) 第 9b 層上面（弥生時代後期）　(2) 第 6 層上面（古墳時代前期）
(3) 第 5 層上面（古代）　(4) 第 4 層上面～第 3 層下面（中世）
(5) 第 2 層上面（近世）
第６節　Ｆ調査区 …… 岡田 …83
第１項　基本層序
第２項　検出された遺構と遺物
(1) 下層確認トレンチ　(2) 第 9 層上面（弥生時代後期）
(3) 第 6a-2 層上面（古墳時代前期）　(4) 第 6a-1 層上面（古墳時代前期）
(5) 第 5 層上面（中世以降）　(6) 各層出土遺物
第７節　Ｇ調査区 …… 岡田 …89
第１項　基本層序
第２項　検出された遺構と遺物
(1) 第 5 層上面（中世）　(2) 第 4 層上面（中世～近世）
(3) 第 3 層上面（近世）　(4) 各層出土遺物
第３章　花粉分析・植物珪酸体分析 …… （一般社団法人）文化財科学研究センター …101
第１節　試料および分析原理
第２節　考察

第４章　総　括 …… 岡田 …109
第１節　調査成果について
第２節　古墳時代前期の水田耕作域について
第３節　弥生時代中期の方形周溝墓について

付表目次

第 1 表　久宝寺遺跡Ｆ調査区南壁における花粉分析結果 …… 103
第 2 表　久宝寺遺跡Ｆ調査区南壁における植物珪酸体分析結果 …… 105

挿図目次

第 1 図　久宝寺遺跡 位置図（1/40000）…… 2
第 2 図　久宝寺遺跡 調査区配置図（1/5000）＊既往の調査区含む …… 3
第 3 図　A 調査区 東壁（北半部）断面図（1/100・1/40）、東壁・南壁 全体図（1/200・1/80）……7・8
第 4 図　A 調査区 東壁（南半部）・南壁断面図（1/100・1/40）……9・10
第 5 図　A 調査区（南半部）第 12c 層上面 遺構平面図（1/200）…… 12
第 6 図　A 調査区 第 10 層上面 遺構平面図（1/200）…… 13
第 7 図　A 調査区（北半部）第 9c 層上面 遺構平面図（1/200）…… 14
第 8 図　A 調査区（北半部）第 9b 層上面 遺構平面図（1/200）…… 14
第 9 図　A 調査区（北半部）第 9a 層上面 遺構平面図（1/200）…… 15
第 10 図　A 調査区 第 7 層上面 遺構平面図（1/200）…… 16
第 11 図　A 調査区（南半部）第 6b 層上面 遺構平面図（1/200）…… 17
第 12 図　A 調査区 第 6a 層上面 遺構平面図（1/200）…… 18
第 13 図　A 調査区 第 6a 層 出土土器（1/4）…… 19
第 14 図　A 調査区 第 5 層 出土土器（1/4）・石器（1/2）…… 20
第 15 図　A 調査区 流路 057・058・060・063 出土土器（1/4）…… 22
第 16 図　A 調査区 第 5 層上面 井戸 024 断面図（1/30）…… 23
第 17 図　A 調査区 第 5 層上面 遺構平面図（1/200）…… 24
第 18 図　A 調査区 第 5 層上面 土坑 049 断面図（1/40）…… 25
第 19 図　A 調査区 第 5 層上面 土坑 056 断面図（1/40）…… 25
第 20 図　A 調査区 第 5 層上面 土坑 056 出土土器（1/4）…… 25
第 21 図　A 調査区 第 5 層上面 土坑 059 断面図（1/40）…… 25
第 22 図　A 調査区 第 5 層上面 土坑 065 断面図（1/40）…… 26
第 23 図　A 調査区 第 3a 層下面～第 4 層上面 遺構平面図（1/200）…… 27
第 24 図　A 調査区 第 3b 層上面 溝 036 断面図（1/40）…… 29
第 25 図　A 調査区 第 4a 層上面 小溝 039・小溝 040 断面図（1/40）…… 29
第 26 図　A 調査区 第 2 層下面～第 3a 層上面 遺構平面図（1/200）…… 31
第 27 図　A 調査区 第 3a 層上面 溝 013、小溝 014・015 断面図（1/40）…… 32
第 28 図　B 調査区 東壁（北半部）断面図（1/100・1/40）…… 34
第 29 図　B 調査区 東壁（南半部）断面図（1/100・1/40）…… 36
第 30 図　B 調査区 北壁断面図（1/40・1/20）…… 38
第 31 図　B 調査区 第 11 層下面 遺構平面図（1/200）・高まり 051 等高線図（1/100）…… 40
第 32 図　B 調査区 第 11 層下面 高まり 051 出土土器（1/4）…… 41
第 33 図　B 調査区 第 5b 層下面 流路 043 出土土器（1/4）…… 42
第 34 図　B 調査区 第 5b 層下面～第 6a 層下面 遺構平面図（1/200）…… 43
第 35 図　B 調査区 流路 044、包含層 出土土器（1/4）…… 44

第 36 図　B 調査区 第 5b 層下面 流路 044 出土土器（1/4）・石器（1/2） …… 44
第 37 図　B 調査区 土坑 028・031 出土土器（1/4） …… 45
第 38 図　B 調査区 第 4 層下面 土坑 031 断面図（1/40）…… 45
第 39 図　B 調査区 第 4 層下面～第 5a 層上面 遺構平面図（1/200）…… 46
第 40 図　B 調査区 第 5a 層上面 土坑 038 断面図（1/40）…… 47
第 41 図　B 調査区 第 5a 層上面 溝 029 断面図（1/20）…… 47
第 42 図　B 調査区 第 3 層下面～第 4 層上面 遺構平面図（1/200）…… 49
第 43 図　B 調査区 第 3 層上面 遺構平面図（1/200）…… 50
第 44 図　B 調査区 第 3 層上面 土坑 007 断面図（1/40）…… 51
第 45 図　B 調査区 第 3 層上面 溝 002 ～ 006 断面図（1/40）…… 52
第 46 図　B 調査区 包含層 出土土器（1/4） …… 52
第 47 図　C 調査区 東壁（北半部）断面図（1/40）…… 56
第 48 図　C 調査区 東壁（南半部）断面図（1/40）、東壁・南壁断面全体図（1/100）…… 58
第 49 図　C 調査区 南壁断面図・流路 037 断面図（1/40）…… 60
第 50 図　C 調査区 第 16a 層上面 遺構平面図（1/100）…… 61
第 51 図　C 調査区 第 15 層上面 等高線図（1/100）（単位：T.P.＋m）…… 62
第 52 図　C 調査区 第 13a 層上面 遺構平面図（1/100）…… 62
第 53 図　C 調査区 第 13a 層上面 流路 038 出土土器（1/4） …… 63
第 54 図　C 調査区 第 13a 層上面 溝 039 断面図（1/40）…… 63
第 55 図　C 調査区 第 12a 層上面 遺構平面図（1/100）…… 64
第 56 図　C 調査区 第 10b 層上面 遺構平面図（1/100）…… 64
第 57 図　C 調査区 第 6a 層上面 遺構平面図（1/100）…… 65
第 58 図　C 調査区 第 5 層 出土土器（1/4） …… 66
第 59 図　C 調査区 第 5 層上面 遺構平面図（1/100）…… 67
第 60 図　C 調査区 第 5 層上面 小溝 014 断面図（1/20）…… 68
第 61 図　C 調査区 第 4 層上面 遺構平面図（1/100）…… 68
第 62 図　C 調査区 第 4b 層上面 小溝 005 断面図（1/20）…… 69
第 63 図　C 調査区 第 4b 層上面 溝 009 出土土器（1/4） …… 69
第 64 図　C 調査区 第 3 層下面～第 5 層上面 溝 010・021・023、小溝 022 断面図（1/20）…… 69
第 65 図　C 調査区 第 3 層上面～第 3 層下面 遺構平面図（1/100）…… 70
第 66 図　D 調査区 東壁（北半部）断面図（1/125・1/40）…… 72
第 67 図　D 調査区 東壁（南半部）・南壁断面図（1/125・1/40）、東壁断面全体図（1/250･1/80）…… 73
第 68 図　D 調査区 第 4 層上面 遺構断面図（1/20）…… 74
第 69 図　D 調査区 第 6a 層上面 遺構平面図（1/250）…… 75
第 70 図　D 調査区 第 4 層上面 遺構平面図・調査区横断面図（1/250）…… 75
第 71 図　D 調査区 第 3 層上面 遺構平面図（1/250）…… 76
第 72 図　E 調査区 南壁・東壁断面図（1/125・1/40）…… 78
第 73 図　E 調査区 第 9 層上面 遺構平面図（1/200）…… 80
第 74 図　E 調査区 第 6a’層上面 遺構平面図（1/200）…… 80
第 75 図　E 調査区 第 5 層上面 遺構平面図（1/200）…… 81
第 76 図　E 調査区 第 5 層上面 遺構断面図（1/40）…… 81
第 77 図　E 調査区 第 4 層上面～第 3 層下面 遺構平面図（1/200）…… 81
第 78 図　E 調査区 第 4 層上面～第 3 層下面 遺構断面図（1/20）…… 82
第 79 図　E 調査区 第 2 層上面 遺構平面図（1/200）…… 82
第 80 図　F 調査区南壁断面図（1/80・1/40） …… 84
第 81 図　F 調査区下層確認箇所および北壁土層断面（1/200・1/40） …… 85
第 82 図　F 調査区第 9 層上面遺構平面図（1/200） …… 86

第 83 図　F 調査区第 6b 層上面遺構平面図（1/200）……………………………………… 86
第 84 図　F 調査区第 6a-2 層上面遺構平面図（1/200）……………………………………… 87
第 85 図　F 調査区第 6a-1 層上面遺構平面図（1/200）……………………………………… 87
第 86 図　F 調査区第５層上面遺構平面図（1/200）……………………………………… 88
第 87 図　F 調査区溝 039 断面図（1/20）……………………………………… 88
第 88 図　F 調査区溝 039 出土土器（1/4）……………………………………… 88
第 89 図　F 調査区各層出土土器（1/4）……………………………………… 88
第 90 図　G 調査区土層断面図・１……………………………………… 90
第 91 図　G 調査区土層断面図・２……………………………………… 91・92
第 92 図　G 調査区第４層上面・第５層上面遺構平面図（1/200）……………………………………… 93・94
第 93 図　G 調査区第３層上面・アゼ①～③断面図（1/200・1/20）……………………………………… 95・96
第 94 図　G 調査区第５層上面遺構断面図（1/40・※は 1/80）……………………………………… 98
第 95 図　G 調査区溝 012・014 断面図（1/40）……………………………………… 99
第 96 図　G 調査区遺構出土土器（1/4）……………………………………… 100
第 97 図　G 調査区各層出土土器等（1/4）……………………………………… 100
第 98 図　久宝寺遺跡 F 調査区南壁における遺体出現頻度……………………………………… 101
第 99 図　久宝寺遺跡 F 調査区南壁における花粉ダイアグラム……………………………………… 104
第 100 図　久宝寺遺跡 F 調査区南壁における植物珪酸体分析結果……………………………………… 105
第 101 図　加美遺跡基本層序把握地点と今回調査地……………………………………… 109
第 102 図　加美遺跡基本層序と今回調査地層序……………………………………… 110
第 103 図　調査地周辺における古墳時代前期の様相……………………………………… 111
第 104 図　1985 年度調査区出土方形周溝墓……………………………………… 112
第 105 図　加美遺跡 KM95-14 次調査区……………………………………… 112

図版目次

図版 1　久宝寺遺跡 A 調査区 弥生時代中期 遺構
図版 2　久宝寺遺跡 A 調査区 弥生時代終末～古墳時代前期 遺構
図版 3　久宝寺遺跡 A 調査区 古墳時代前期 遺構
図版 4　久宝寺遺跡 A 調査区 奈良時代 遺構
図版 5　久宝寺遺跡 A 調査区 古代～近世 遺構
図版 6　久宝寺遺跡 B 調査区 弥生時代中期 遺構
図版 7　久宝寺遺跡 B 調査区 弥生時代後期～古墳時代前期 遺構
図版 8　久宝寺遺跡 C 調査区 奈良時代～中世 遺構
図版 9　久宝寺遺跡 C 調査区 弥生時代前期～中期後半 遺構
図版 10 久宝寺遺跡 C 調査区 弥生時代中期後半～中世 遺構
図版 11 久宝寺遺跡 D 調査区 中世～近世 遺構
図版 12 久宝寺遺跡 E 調査区 弥生時代後期～古墳時代前期 遺構
図版 13 久宝寺遺跡 E 調査区 古墳時代前期～中世 遺構
図版 14 久宝寺遺跡 F 調査区 古墳時代前期 遺構
図版 15 久宝寺遺跡 F 調査区 古墳時代前期 遺構
図版 16 久宝寺遺跡 F 調査区 古墳時代前期・近世 遺構
図版 17 久宝寺遺跡 G 調査区 古墳時代前期以前 遺構面等
図版 18 久宝寺遺跡 G 調査区 中世 遺構
図版 19 久宝寺遺跡 G 調査区 中世 遺構
図版 20 久宝寺遺跡 G 調査区 中世 遺構
図版 21 久宝寺遺跡 G 調査区 中世 遺構
図版 22 久宝寺遺跡 G 調査区 中世～近世 遺構
図版 23 久宝寺遺跡 G 調査区 近世 遺構
図版 24 久宝寺遺跡 G 調査区 近世 遺構等
図版 25 久宝寺遺跡 A 調査区 縄文時代～古墳時代前期 遺物 土器
図版 26 久宝寺遺跡 A 調査区 縄文時代～古墳時代前期 遺物 土器
図版 27 久宝寺遺跡 A 調査区 古墳時代初頭～前期 遺物 土器
図版 28 久宝寺遺跡 A 調査区 古墳時代中期 遺物 土器
図版 29 久宝寺遺跡 A 調査区 古代 遺物 土器・製塩土器
図版 30 久宝寺遺跡 A 調査区 中世～近世 遺物 土器
図版 31 久宝寺遺跡 B 調査区 弥生時代中期～後期 遺物 土器
図版 32 久宝寺遺跡 B 調査区 弥生時代中期～後期 遺物 土器
図版 33 久宝寺遺跡 B 調査区 弥生時代前期～古墳時代前期 遺物 土器
図版 34 久宝寺遺跡 B 調査区 古墳時代初頭～古墳時代中期 遺物 土器・サヌカイト
図版 35 久宝寺遺跡 B・C 調査区 古代～近世 遺物 土器
図版 36 久宝寺遺跡 B 調査区 古墳時代後期～近世 遺物 土器・陶磁器
図版 37 久宝寺遺跡 C 調査区 縄文時代後期～古墳時代前期 遺物 土器
図版 38 久宝寺遺跡 C 調査区 弥生時代前期～古墳時代中期 遺物 土器
図版 39 久宝寺遺跡 A・B・C 調査区 古墳時代中期～中世 遺物 土器・木製品
図版 40 久宝寺遺跡 A・C 調査区 弥生時代 遺物 木製品・サヌカイト
図版 39 久宝寺遺跡 A・B・C 調査区 古墳時代中期～中世 遺物 土器・木製品
図版 41　久宝寺遺跡 D・E 調査区 古墳時代前期～近世 遺物 土器・陶磁器
図版 42　久宝寺遺跡 F・G 調査区 弥生時代～近世 遺物 土器・陶磁器
図版 43　久宝寺遺跡 G 調査区 古墳時代前期～近世 遺物 土器・陶磁器等

第１章　調査経過と調査の方法

第１節　調査経過

久宝寺遺跡は、八尾市南久宝寺一丁目を中心として東西 1.6km、南北 1.8km の範囲に広がる縄文時代晩期から近世にかけての府域を代表する大規模な複合遺跡である（第１図）。とくに、古墳時代では広範囲にわたって遺構が検出されている。久宝寺遺跡の既往の調査及び周辺の歴史環境については『久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書 VII』（財団法人大阪府文化財センター 2007）、『久宝寺遺跡－第 77 次調査－』（財団法人八尾市文化財調査研究会 2012）で詳細に触れられているので、そちらを参照されたい。

今回の調査は、久宝寺緑地遊水池周辺整備工事に伴う事前調査である。工事に合わせて調査地点をそれぞれＡ～Ｇ調査区と呼称している（第２図）。いずれも久宝寺緑地の北地区の西半部に位置する。Ａ調査区は平成 23 ～ 24 年度、Ｂ・Ｃ調査区は平成 24 ～ 25 年度、Ｄ・Ｅ調査区は平成 25 年度、Ｆ・Ｇ調査区は平成 26 年度に調査を実施した。

今回、調査の契機となった北地区の遊水池は、公園西端を流れる神武川による浸水被害防止のため、公園内の排水について河川への流入負荷をなくす目的で、暫定的に設けられた施設（雨水貯留池）である。その後周辺での下水道整備が進んだこともあり、大阪府都市整備部は、遊水池の役割を終了させるとともに、遊水池周辺を「生き物と触れ合える公園計画」に基づいた府民の憩いの場として、親水性を有する水辺広場として、また防災公園の観点から広域避難地として整備をすることとなった。遊水池の廃止にあたっては、公園内の排水について管渠（下水管）を新設し、周辺の公共下水道へ接続することにより、河川への流入負荷をなくすこととした。

この整備工事の計画地は、久宝寺遺跡の範囲内に位置していることから、大阪府教育委員会と大阪府八尾土木事務所都市みどり課は埋蔵文化財の取り扱いについて協議し、工事に先立って記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

調査は工事の進捗状況に伴い、Ａ～Ｇ調査区の順に実施した。いずれの調査区も久宝寺緑地の北地区の西半部に位置する（第２図）。

Ａ調査区は八尾市西久宝寺に所在する。現地調査は平成 24 年１月 24 日に着手し、５月 31 日に終了した。幅２m、延長 82.5m の調査区で、鋼矢板を打設して、600mm の管渠（北側 T.P.+3.586m、南側 T.P.+2.91m）及び３箇所のマンホール設置深度（北から T.P.+3.5m、T.P.+3.3m、T.P.+2.9m）まで調査を実施した。調査面積は約 180 ㎡、調査番号は 11052・12001 である。

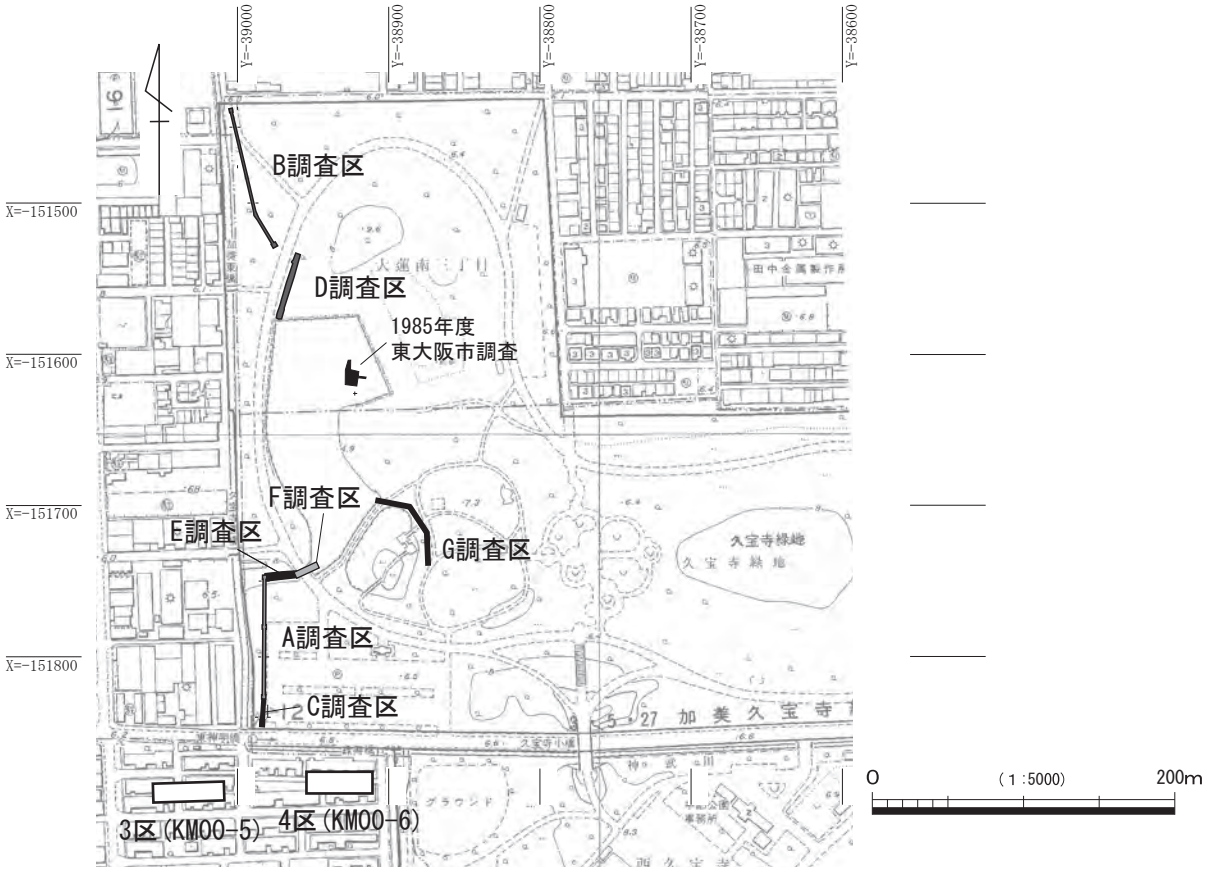
Ｂ調査区は久宝寺緑地の北西部、東大阪市大蓮南三丁目に所在する。現地調査は平成 25 年１月 10 日に着手し、４月 19 日に終了した。幅 1.3m、延長約 95m の調査区で、鋼矢板を打設して、350mm の管渠（北側 T.P.3.634m、南側 T.P.4.383m）及び３箇所のマンホール設置深度（北から T.P.+3.086m、T.P.+3.745m、T.P.+4.13m）まで調査を実施した。調査面積は約 150 ㎡、調査番号は 12038・13003 である。

Ｃ調査区は、八尾市西久宝寺に所在し、Ａ調査区に南接する。現地調査は平成 25 年３月 29 日に着手し、６月 18 日に現地調査を終了した。幅約 2.4m、延長 18.5m の調査区で鋼矢板を打設して、600mm の管渠

1 若江遺跡
2 若江北遺跡
3 上小阪遺跡
4 小若江遺跡
5 西郷遺跡
6 山賀遺跡
7 西郡廃寺
8 西郡廃寺遺跡
9 衣摺遺跡
10 弥刀遺跡
11 加美北遺跡
12 支井東遺跡
13 美園遺跡
14 萱振遺跡
15 東郷遺跡
16 東郷廃寺
17 穴太廃寺
18 宮町遺跡
19 佐堂遺跡
20 八尾寺内町遺跡
21 久宝寺寺内町遺跡
22 久宝寺遺跡
23 加美遺跡
24 長楽廃寺
25 平野寺前遺跡
26 平野環濠都市
27 亀井北遺跡
28 竹渕遺跡
29 亀井遺跡
30 跡部遺跡
31 跡部遺跡銅鐸出土地
32 渋川廃寺
33 成法寺遺跡
34 小阪合遺跡
35 中田遺跡
36 東弓削遺跡
37 矢作遺跡
38 竜華寺跡
39 植松遺跡
40 植松南遺跡
41 太子堂遺跡
42 喜連東遺跡
43 瓜破遺跡
44 瓜破廃寺
45 三宅遺跡
46 三宅東遺跡
47 長吉野山遺跡
48 長原遺跡
49 城山古墳跡
50 六反古墳跡
51 藏重遺跡
52 別所遺跡
53 大堀遺跡
54 八尾南遺跡
55 木の本遺跡
56 老原遺跡
57 志紀遺跡
58 田井中遺跡
59 大田遺跡
60 弓削遺跡
61 本郷遺跡

0　1km

第１図　久宝寺遺跡位置図（1/40000）
（財団法人八尾市文化財調査研究会 2006 より一部改変）



第２図　久宝寺遺跡調査区配置図（1/5000）（既往の調査地を含む）

（北側 T.P.+3.467m、南側 T.P.+2.708m）及び１箇所のマンホール設置深度、南側の推進立坑の始点箇所については T.P.+2.0m まで調査を実施した。調査面積は約 40 ㎡、調査番号は 12038・13003 である。

Ｄ調査区は、東大阪市大蓮南三丁目に所在し、遊水池が南接する。現地調査は平成 25 年 10 月１日に着手し、平成 26 年２月 28 日に現地調査を終了した。上端幅約 3.1m、延長約 50m の調査区で、300mm の管渠（北側 T.P.+4.571m、南側 T.P.+4.68m）及び１箇所のマンホール設置深度（T.P.+4.0m）まで調査を実施した。調査面積は約 100 ㎡、調査番号は 13036 である。

Ｅ調査区は、八尾市西久宝寺に所在し、Ａ調査区の北端に接する東西方向の調査区である。現地調査は平成 25 年 10 月１日に着手し、平成 26 年２月 28 日に終了した。幅 4.28 ～ 4.8m、延長 21.58m の調査区で、300mm の管渠（西側 T.P.+3.756m、東側 T.P.+4.68m）及び１箇所のマンホール設置深度（T.P.+3.7m）まで調査を実施した。調査面積は約 80 ㎡、調査番号は 13036 である。

Ｆ調査区は、八尾市西久宝寺に所在し、Ｅ調査区に東接する調査区である。現地調査は平成 26 年 11 月１０日に着手し、平成 26 年 11 月 26 日に終了した。幅約 2.5m、延長約 12m の調査区で、工事深度（東側 T.P.+4.00m、西側 T.P.+3.91m）及び１箇所のマンホール設置深度（T.P.+3.8m）まで調査を実施した。調査面積は約 30 ㎡、調査番号は 14014 である。

Ｇ調査区は、八尾市西久宝寺に所在し、通称「心字池」の北東側にあたる。現地調査は平成 26 年９月１日に着手し、平成 26 年 11 月 10 日に終了した。幅２m、延長約 70m の調査区で、工事深度（南端 T.P.+4.956m、北端 T.P.+4.353m）および４箇所のマンホール設置深度（T.P.+4.811m、T.P.+4.394m、

T.P.+4.486m、T.P.+3.5m）まで調査を実施した。調査面積は約 140 ㎡、調査番号は 14014 である。

第２節　調査の方法

調査は、盛土、整地土を機械掘削（Ａ～Ｃ調査区については鋼矢板を打設後）によって除去後、調査区内に排水を兼ねた先行トレンチを入れ、堆積状況を確認したうえで、掘削単位を設定し、１層ごとに人力掘削を実施した。地区割りについては､1/2500 地形図（都市計画図）を基本として､各調査区ごとに、アルファベットとアラビア数字を組み合わせた 10m 四方の区画を設定した。なお、この 10m 区画は遺物取り上げの最小単位（遺物登録番号）としている。遺物登録番号および遺構番号は各調査区ごとに 001 から与えている。

検出した遺構面の実測については、10m 単位のメッシュを基準として 1/100 の平板測量を行い、土層断面図、遺物出土状況図については 1/20 を基調とし、適宜 1/10 を併用している。土層、遺構の断面図は、東京湾平均海面値（T.P.）を基準として作成した。

今回の調査区は、久宝寺緑地北地区の西半部（南北 400m ×東西 200m）の範囲内にあるが、各調査区間の土層の対応関係については、Ａ調査区の基本層序を基準とし、Ｂ～Ｇ調査区にも適用させている。また、隣接する既往の調査地区との対応関係についても可能な限り触れるよう心がけた。本文中において、1985 年度の久宝寺緑地公園内雨水貯溜池築造工事に伴う調査区（財団法人東大阪市文化財協会 1986）を「1985 年度」、2000 年度の市営住宅建設に伴う KM00-5・6 次調査区（財団法人大阪市文化財協会 2003）を「KM00-5・6」と略称・表記し、たとえば、基本層序の第１層が KM00-5・6 次調査区の１層と対応関係にある場合、基本層序の第１層は、KM00-5・6 の「１層」に対応するとした。

第２章　調査成果

第１節　Ａ調査区

Ａ調査区は、大阪市文化財協会が実施した「KM00-5・6」の北側約 40m に位置する（第２図）。幅２m、長さ 82.5m の南北方向の調査区である。調査は世界測地系による 10m 区画の地区割りを設定し（南から A01 区、・・・A10 区）、遺物の取り上げ、遺構の位置表示に使用している（第６図）。調査区の北端部、A07 ～ 09 区については、南南東から北北西方向に走行する近現代の流路によって、第５層の中程（T.P.+4.6m）まで削平を受けていた。

調査は工事深度の関係で、周囲に鋼矢板を打設して、北側は T.P.+3.586m、南側は T.P.+2.91m まで実施している。なお３ヶ所（北、中央、南）のマンホール設置部分については、各掘削深度まで調査を実施している（第１章第１節参照）。

第１項　基本層序

Ａ調査区では、第０層から第 12 層の層序を確認している（第３・４図）。基本層序は、南側約 40m に位置する「KM00-5・6」を参考に、新規に付し、層の記述後に、対応関係を付記している。

第０層　久宝寺緑地造成時の盛土で、上面の標高は T.P.+6.92 ～ 6.73m で、層厚 1.4m をはかる。南側に傾斜している（第３・４図－１）。KM00-5・6 の「０層」、1985 年度の「第１層」に対応する。

第１層　久宝寺緑地造成前の旧表土、近現代の耕作土で、上面の標高は T.P.+5.43 ～ 5.56m、層厚 10 ～ 17cm をはかり、南側に傾斜している（第３・４図－２・３）。KM00-5・6 の「１層」、1985 年度の「第２層」に対応する。

第２層　近世の耕作土で、上面の標高は T.P.+5.36 ～ 5.46m、層厚 14 ～ 20cm をはかる（第３・４図－４）。下面で耕作に伴う小溝 004・009、溝 008 を検出している（第 26 図）。KM00-5・6 次の「２層」に対応する。層中より染付３、瓦質土器１、瓦器１、土師質土器 39、17 世紀前半の景徳鎮窯系白磁端反碗、12 世紀前半の閩南沿岸窯系白磁碗、備前焼２、18 世紀の丹波焼甕１、瓦８、土人形１、銭貨１、須恵器 11 片が出土している（図版 30-18・20 ～ 23）。

第３層　近世の耕作土で、a・b に分かれる。調査時は第 3a 層を第 3-1 層、第 3b 層を第 3-2 層と呼称していた。KM00-5・6 の「２層」に対応する。第 3a 層（緑灰色細粒砂～微砂～シルト）上面の標高は T.P.+5.34 ～ 5.26m、層厚 10 ～ 20cm をはかる（第３・４図 -17・18）。層中より 18 世紀の京焼系灰釉椀、17 世紀前半の志野焼長石釉椀が出土している（図版 30-17・19）。上面で小溝 001・005・010・014・015、溝 006・011 ～ 013、畦畔 002、落込 003、畦畔 007 を検出した（第 26 図）。下面で溝 016・017・021・026・027・028 ～ 030・033、小溝 019・020・022・025・032・034・041・042 を検出した（第 23 図）。第 3b 層（青灰色細粒砂～微砂～シルト）は、南端及び北端では第 3a 層の形成時に撹拌、削平

され、存在しない。上面の標高はT.P.+5.08 ～ 5.10m、層厚６～ 20cmをはかる（第３・４図-24・25)。層中より染付１、陶磁器４、磁器２、瓦質土器３、瓦器３、土師質土器33、東播系練鉢２、瓦５、土師器42、製塩土器３、須恵器25片が出土している。上面で溝035・036、畦畔045を検出している。

第４層　a・bに分かれる。調査時は第4a層を第4-1層、第4b層を第4-2層と呼称していた。KM00-5･6の「３層」に対応する。層中より瓦質土器１、土師質土器３、土師器69、製塩土器７、サヌカイト１、須恵器９片が出土している。第4a層（灰オリーブ色細粒砂～シルト）上面の標高はT.P.+5.16 ～ 5.10m、層厚８～ 26cmをはかる（第３・４図-45 ～ 49)。上面で土坑047、小溝018・031・039・040・043・044・046を検出している（第23図、図版5-a ～ 5-c)。第4b層（緑灰色微砂～シルト）は南端、A01区のみで確認され、上面の標高はT.P.+5.05 ～ 5.09m、層厚４～８cmをはかる（第４図-50)。

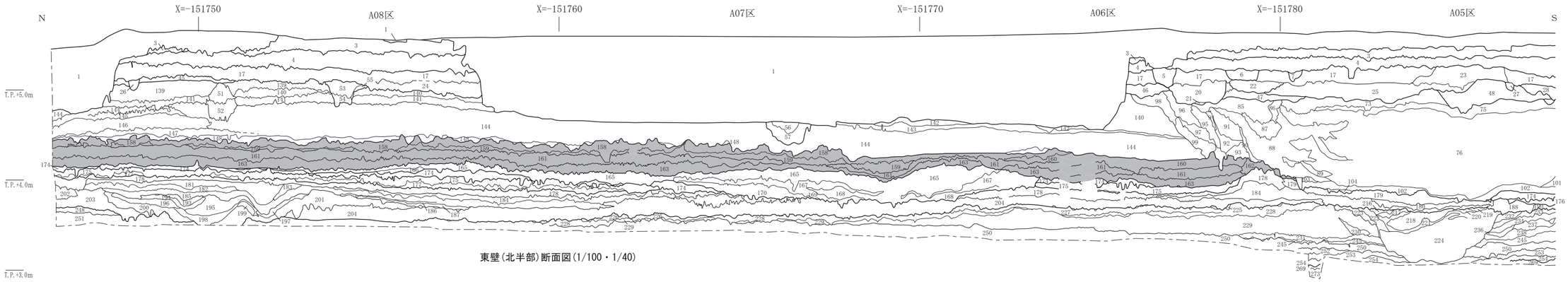
第５層　古墳時代前期から古墳時代中期にかけて、流路057・058・060・063・064・090・091が重層して、形成された流水堆積層である。最上位のシルト層はKM00-3･4の「5A層」、1985年度の「第５層」、中位以下はKM00-5・6の「5B層」に対応する。検出面の標高はT.P.+5.04 ～ 5.17m、層厚68 ～ 92cmをはかる。層中より土師器436、須恵器６、韓式系（軟質）土器１、サヌカイト４、弥生土器３、縄文土器１片が出土している（第14図)。上面で奈良時代の井戸024、土坑049・056・059・065・073・074、東西方向の溝048、東西方向の小溝050 ～ 054、南北方向の小溝055を検出している（第17図、図版４)。なお、溝048、小溝050 ～ 055は第４層の耕作関連遺構の可能性も考えられる。

第６層　a ～ cに分かれる。第6a層（オリーブ黒色シルト～粘土）上面の標高はT.P.+4.44 ～ 4.24m、層厚８～ 14cmをはかる（第３・４図-158 ～ 160)。南側に傾斜し、上面で畦畔061・062・066・068 ～ 072、小溝067を検出している（第12図、図版3-a)。KM00-5・6の「6Ai’層」、1985年度の「第６層」に対応する。層中より古墳時代前期の布留形甕（第13図、図版27-1）が埋置したような状態で出土している（第12図、図版３)。第6b層（オリーブ黒色シルト～粘土と暗緑灰色シルト～粘土の混合土）上面の標高はT.P.+4.34 ～ 4.12m、層厚６～ 12cmをはかる（第３・４図-161)。南側に傾斜し、上面で溝075・077・078、小溝076を検出している（第11図、図版2-c)。第6c層（暗緑灰色シルト～粘土）上面の標高はT.P.4.24 ～ 4.05m、層厚８～ 14cmをはかる（第３・４図-163・164)。南側に傾斜している。第6c層は第6b層の基盤層と考えられる。

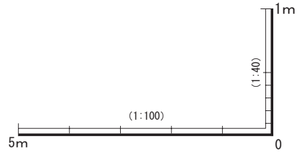
第７層（灰オリーブ色粗～中～細粒砂～微砂）　流水堆積層で、上面の標高はT.P.+4.14 ～ 4.04m、層厚５～８cmをはかる（第３・４図-174)。南側にやや傾斜する。上面で流路079・081を検出している（第10図、図版2-a・b)。KM00-5・6の「6Aii層」に対応する。Ｂ調査区では、弥生時代後期～古墳時代初頭の底部片（第35図２、図版32- ６）が出土している。

第８層（オリーブ黒色シルト～粘土）　上面の標高はT.P.+4.02 ～ 3.85m、層厚10 ～ 26cmをはかる（第３・４図-175 ～ 177)。南側にやや傾斜する。上面で足跡を検出している。KM00-5・6の「6Aiii層」に対応し、弥生時代後期後半頃に相当する。

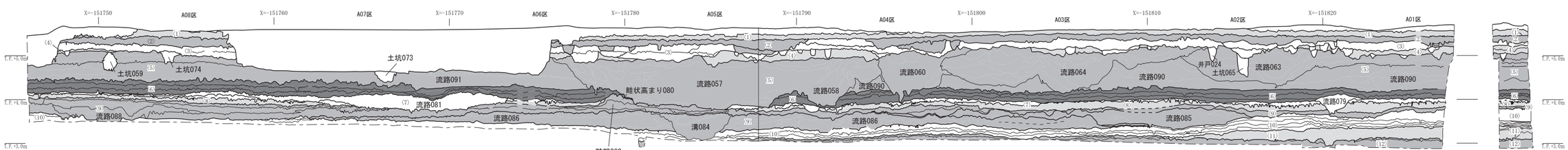
第９層　a ～ cに分かれる。第9a層（暗緑灰色細粒砂～シルト）上面の標高はT.P.+4.04 ～ 3.90m、層厚５～ 10cmをはかる（第３図-178・179)。南側にやや傾斜し、A04区以南には認められない。上面で畦状高まり080を検出している（第９図)。第9b層（青灰色微砂～シルト）上面の標高はT.P.+3.98 ～ 3.76m、層厚５～ 12cmをはかる（第３・４図-181 ～ 192)。上面で畦畔083、落込082を検出してい



東壁（北半部）断面図（1/100・1/40）

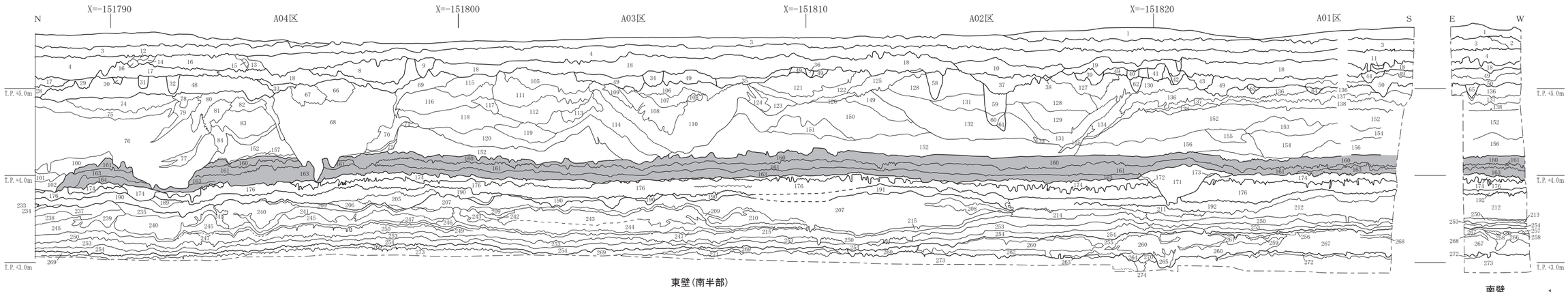


1　第0層　盛土、撹乱
3　第1b層　10BG4.5/1青灰色微砂～シルト。全体に粗～中粒砂微量混入し、青黒色有機物あるいは鉄分径1～2mmの粒状で40～50%混入。旧耕土。
4　第2層　5GY5.5/1オリーブ灰色(細粒砂～)微砂～シルト。全体に径3～10mmの細礫～粗粒砂10～15%混入。近現代作土。
5　溝012　10BG6/1青灰色(細粒砂～)微砂～シルト。全体に径3mmの細礫が2～3%混入。灰白粗粒砂混り。酸化鉄斑紋沈着。
6　溝011　10BG5.5/1青灰色微砂～シルト。
7　溝010　10BG5.5/1青灰色微砂～シルト。
17　第3a層相当　10BG6/1青灰色(細粒砂～)微砂～シルト。全体に径3mmの細礫が2～3%混入。灰白色粗粒砂混り。酸化鉄斑紋沈着。近世作土。
20　溝036　2.5Y5/3黄褐色細粒砂～微砂(～シルト)。全体に径3mm以下の細礫～粗粒砂2～3%混入。酸化鉄斑紋沈着。径5mmの粒状または長さ15mm前後の酸化マンガン斑紋(管状)沈着2～3%。植生痕あり。
21　溝036　5Y6/1.5灰色シルト。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
22　溝035　2.5Y5.5/2灰黄色細粒砂～微砂(～シルト)。全体に粗粒砂2～3%混入。
23　畦畔045　10BG6/1青灰色細粒砂～シルト。全体に極粗～粗粒砂1～2%混入。酸化鉄斑紋沈着。
24　第3b層　5BG5/1青灰色微砂～シルト。粗～中粒砂全体に7～10%混入。酸化鉄斑紋(管状)沈着やや顕著。
25　第3b層相当　10BG6/1青灰色(細粒砂～)微砂～シルト(シルト主体)。全体に極粗～粗粒砂1～2%混入。粘質強い。近世陶磁器を包含する。
26　溝042　10BG6/1青灰色(細粒砂～)微砂～シルト。全体に径3mmの細礫が2～3%混入。灰白色粗粒砂混り。酸化鉄斑紋沈着。
27　溝046　17と48とのブロック混合土。
28　溝033　10BG5.5/1青灰色微砂～シルト。
45　第4a層　10Y6/1灰色微砂～シルト粘土。全体に粗～中粒砂1～2%混入。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
46　第4a層　10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂～シルト。全体に極粗～粗粒砂1～2%混入。酸化鉄斑紋沈着。植生痕あり。
47　第4a層　2.5Y6/1.5灰黄色シルトとN7.0灰白色細粒砂～微砂の径10mm前後のブロック混合土(5:5)。
48　第4a層　10BG5.5/1青灰色微砂～シルトとN6/0灰色中～細粒砂のブロック混合土(8:2)。酸化鉄斑紋沈着顕著。
51　土坑059上層　2.5GY6/1オリーブ灰色微砂～シルトと7.5Y6.5/1灰白色(粗～)中～細粒砂の混合土(8:2)。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
52　土坑059　2.5GY6/1オリーブ灰色微砂～シルトと7.5Y6.5/1灰白色(粗～)中～細粒砂の混合土(9:1)。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
53　土坑074　2.5GY6/1オリーブ灰色微砂～シルトと7.5Y6.5/1灰白色(粗～)中～細粒砂の混合土(8:2)。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
54　土坑074　2.5GY6/1オリーブ灰色微砂～シルトブロック(径5～20mm)と7.5Y6.5/1灰白色(粗～)中～細粒砂の混合土(7:3)。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
55　土坑074　5Y6/1灰色(極粗～)粗～中粒砂。酸化鉄斑紋沈着により、黄褐色を帯びる。
56　土坑073　10Y7/1～6/1灰白色細粒砂に7.5GY5/1緑灰色シルト(細～微砂微量混)ブロック(径4～10mm)が60%混入。
57　土坑073　10Y7/1～6/1灰白色細粒砂に7.5GY5/1緑灰色シルト(細～微砂微量混)ブロック(径4～10mm)が20～25%混入。
73　流路057・058　10Y6.5/1灰白色細粒砂～微砂に10Y6/1.5オリーブ灰色シルトブロック(小斑状)15%混入。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
75　流路057・058　5Y5/1灰色極粗～粗粒砂。南端部(粗～)中～細粒砂。
76　流路057・058　10Y6/1灰色(径20mm礫～)径5mm礫～粗粒砂。平行ラミナ。
85　流路057　5Y7/1灰白色細粒砂に2.5Y5.5/2灰黄色微砂～シルトブロック(径10～20mmの不整な塊状)40～50%混入。酸化鉄斑紋(管状)沈着やや顕著。
86　流路057　5Y7/1灰色細粒砂に2.5Y5.5/2灰黄色微砂～シルトブロック(小斑状が下部に集中)15%混入。酸化鉄斑紋(管状)沈着やや顕著。
87　流路057　10Y6.5/1灰白色細粒砂～微砂に10Y5/1灰色小斑状シルトブロック30～40%、10Y6/2オリーブ灰色微砂～シルトブロック(径5～10mm)10%混入。酸化鉄斑紋(管状)沈着。ラミナ不明瞭。
88　流路057　10Y6.5/1灰白色細粒砂～微砂と7.5Y4.5/1灰色微砂～シルト(腐植混じり)の互層(6:4)。腐植、自然木片が微量混入。上部部分に酸化鉄斑紋(管状)沈着。
89　流路057　7.5Y4.5/1灰色粗～中粒砂(腐植混じり)。
90　流路057　10Y6.5/1灰白色細粒砂～微砂。平行ラミナが明瞭に確認される。
91　流路057　10Y6.5/1灰白色細粒砂～微砂と7.5Y4.5/1灰色微砂～シルト(腐植混じり)の互層(8:2)。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
92　流路057　上半:10Y6.5/1灰白色細粒砂～微砂と7.5Y4.5/1灰色微砂～シルト(腐植混じり)の互層(7:3)。下半:7.5Y4.5/1灰色微砂～シルト(腐植混じり)。腐植片が微量混入。
93　流路057　上半:10Y6.5/1灰白色細粒砂～微砂と7.5Y4.5/1灰色微砂～シルト(腐植混じり)の互層(7:3)。下半:10Y7/1灰白色(極粗～)粗粒砂。
94　流路057　10Y6.5/1灰白色(細粒砂～)微砂。ラミナ明瞭。
95　流路057　10Y6.5/1灰白色細粒砂～微砂と7.5Y4.5/1灰色微砂～シルト(腐植混じり)の互層(8:2)。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
96　流路057　7.5Y7/1灰白色細粒砂～微砂とN6/0灰色細粒砂の互層(8:2)。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
97　流路057　10Y6/1灰色細粒砂～微砂と10Y4/1灰色微砂～シルト(腐植混じり)の互層(5:5)。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
98　流路057　7.5Y7/1灰白色細粒砂とN6/0 灰色細粒砂の混合土(6:4)。ラミナ不明瞭。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
99　流路057　7.5Y7/1灰白色細粒砂とN6/0灰色細粒砂の互層(4:6)。炭化物または腐植微量混入。上部、部分的に酸化鉄斑紋(管状)沈着。
101　流路057　5Y6/1～5/1灰色(極粗～)粗粒砂。
102　流路057　10Y4/1灰色シルトと10Y5/1灰色微砂の互層(7:3)。
103　流路057　10Y4/1灰色シルト。
104　流路057　10Y5/1灰色細粒砂。
139　流路091　N6.5/0灰白色細粒砂～微砂。酸化鉄斑紋(管状)沈着。平行ラミナ不明瞭ながら確認できる。
140　流路091　10Y6.5/1灰色(粗～)中～細粒砂。シルト混じり。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
141　流路091　5BG5/1青灰色微砂～シルト。10Y7/1灰白色微砂10～15%。平行ラミナ明瞭。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
142　流路091　5Y6/1～6/2灰～灰オリーブ色径5～10mmの礫～極粗～粗粒砂。10Y5.5/1.5オリーブ灰色細～微砂ラミナ5%。
143　流路091　10GY4.5/1暗緑灰色細粒砂～微砂とシルトの互層(5:5)。
144　流路091　5Y6/1～6/2灰～灰オリーブ色(径20mm礫～)径5～10mm礫～粗粒砂。平行ラミナ明瞭。
145　流路091　10Y5.5/1灰色シルトと10Y7/1灰白色細粒砂～微砂の互層(8:2)。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
146　流路091　10Y5/1灰色微砂。ペースト状腐植ラミナ混じり。平行ラミナ明瞭。上部10Y7/1灰白色細粒砂。
147　流路091　144とほぼ同じ。
148　流路091　5Y4/1灰色細～微砂混シルト～粘土。腐植片混入。平行ラミナ明瞭。
158　第6a層　10Y2.5/1オリーブ黒色シルト～粘土。腐植細片混入。
159　第6a層　10Y2.5/1オリーブ黒色シルト～粘土と10GY4/1暗緑灰色シルト～粘土の小斑状(径5～10mm)混合土(7:3)。腐植細片混入。水田作土。
160　第6a層　10Y2.5/1オリーブ黒色シルト～粘土と10GY4/1暗緑灰色シルト～粘土の小斑状(径5～10mm)混合土(10:0～7:3)。腐植細片混入。水田作土。
161　第6b層　10Y2.5/1オリーブ黒色シルト～粘土と10GY4/1暗緑灰色シルト～粘土の小斑状(径5～10mm)混合土(5:5～3:7)。腐植細片混入。水田作土。
162　畦畔072　10Y5.5/1灰色[やや緑灰色がかる]微砂～シルト。粗粒砂ブロック(径50mm)5%混入。
163　第6c層　10GY4/1暗緑灰色シルト～粘土。腐植細片混入。ラミナ不明。
165　流路081　10Y5/1～4/1灰色極粗～粗粒砂。
166　流路081　5BG4/1暗青灰色(細粒砂～)シルト。
167　流路081　5GY4/1暗オリーブ灰色シルト。灰白色細粒砂3～5%(平行ラミナ)。
168　流路081　10Y5/1～4/1灰色極粗～粗粒砂。
169　流路081　10GY4.5/1暗緑灰色シルトと10BG6/1青灰色細粒砂の互層(7:3～5:5)。南端は径5mm礫～極粗粒砂。
170　流路081　5GY4/1暗オリーブ灰色シルトと10Y6/1灰色細粒砂の互層(5:5)。
174　第7層　7.5Y5/1.5灰オリーブ色(粗～中～)細粒砂(～微砂)。場所により176成分ラミナ混入。
175　第8層　10GY4/1暗灰色(微砂～)シルト～粘土。底部粗粒化(細粒砂～微砂)。
176　第8層　10Y3.5/1オリーブ黒色シルト～粘土と(細砂～)微砂との小斑状混合土(9:1)。
177　第8層　10Y5/1灰色細粒砂に5BG4/1暗青灰色シルトブロックが30～50%混入。
178　第9a層　10GY4/1暗緑灰色(細粒砂～)微砂(～シルト)。全体に腐植細片微量混入。
179　第9a層　10GY4/1暗緑灰色細粒砂～シルト。
180　落込082　10Y3.5/1オリーブ黒色シルト～粘土と10Y2.5/1オリーブ黒色シルト～粘土の小斑状混合土(5:5)。全体に腐植ないし炭化物細片(径2～3mm)5～7%混入。
181　第9b層　10BG5.5/1青灰色中粒砂。
182　第9b層　10BG5/1青灰色シルト混細粒砂。腐植細片粒状に2～3%混入。平行ラミナ明瞭。
183　第9b層　10BG5.5/1青灰色中～細粒砂。
184　第9b層　5G4.5/1緑灰色径5mm前後礫少量混微砂～シルト。畦畔083を形成する。
185　第9b層　5GY4/1暗オリーブ灰色シルトと10Y6/1灰色細粒砂の互層(5:5)平行ラミナ明瞭。
186　第9b層　10Y5/1灰色細粒砂。
187　第9b層　10BG4/1暗青灰色シルト。
188　第9b層　10Y7/1灰白色細粒砂に10BG5/1青灰色シルトブロック(径10～20mm)が斑状に80%混入。
190　第9b層　10BG5/1青灰色微砂～シルト。細粒砂40%(平行ラミナ)。
193　流路088　10Y5/1灰色粗～細粒砂。平行ラミナ。
194　流路088　10BG5/1青灰色シルト。10Y7/1灰白色細粒砂10～20%(ラミナ)。
195　流路088　N6/0灰色径5mm礫～極粗粒砂。シルト15～20%(ラミナ)。
196　流路088　194とほぼ同じ。
197　流路088　10Y4/1灰色シルトと細粒砂の互層(7:3)。腐植微量混入。
198　流路088　10Y4.5/1灰色シルトと10Y7/1灰白色(中～)細粒砂の互層(5:5)。腐植片(径5mm前後)7～10%混入。
199　流路088　10BG5.5/1青灰色中～細粒砂。
200　流路088　10Y4.5/1灰色シルトと10Y7/1灰白色(中～)細粒砂の互層(8:2)。腐植片(径5mm前後)微量混入。
201　流路088　10BG6.5/1明青灰色粗～細粒砂。北に向かって粗粒化(径3mm礫～極粗粒砂)。下部細粒砂。10BG4/1暗青灰色シルト20%(ラミナ)。
202　第9c層　10Y4.5/1灰色シルトと10Y7/1灰白色(中～)細粒砂の互層(8:2)。腐植片(径5mm前後)微量混入。
203　第9c層　10Y4.5/1灰色シルトと10Y7/1灰白色(中～)細粒砂の互層(6:4)(下方粗粒化)。腐植片(径5mm前後)微量混入。
204　第9c層　10BG4.5/1青灰色シルト。下半細粒砂混腐植ラミナ2～3%。
216　溝084　10Y6/1.5オリーブ灰色細粒砂。
217　溝084　10Y7/1灰白色極粗～粗～中粒砂。
218　溝084　10Y7/1灰白色極粗～粗～中粒砂。
219　溝084　10Y4.5/1灰色微砂～シルト。
220　溝084　10Y7/1～6/1灰白色細粒砂(～シルト)。
221　溝084　5Y5/1灰色細粒砂～シルト(ラミナ)。腐植混じり。
222　溝084　216とほぼ同じ。
223　溝084　188とほぼ同じ。
224　溝084　10Y7/1灰白色(径5mm礫～)極粗～粗～中粒砂。
225　流路086　10BG6.5/1明青灰色細粒砂。
226　流路086　10Y6/1灰色中～細粒砂。
227　流路086　7.5GY5/1緑灰色細粒砂とシルトブロックの混合土(4:6)。中位:腐植ラミナ。
228　流路086　5GY6/1オリーブ灰色微砂～シルト。腐植ラミナ3～5%。
229　流路086　10Y6/1.5オリーブ灰色粗～細粒砂。平行ラミナ明瞭。北に向かって、底部に腐植ラミナがやや顕著になる。
230　流路086　10GY7/1明緑灰色細粒砂。腐植片(木質残存)50～90%全体に混入。平行ラミナ明瞭。
231　流路086　10Y5/1灰色細粒砂とシルトの互層(5:5)。腐植ラミナ2～3%。腐植片微量混入。
232　流路086　10Y4.5/1灰色微砂～シルト。平行ラミナ明瞭。
233　流路086　10Y7/1灰白色(粗～)細粒砂～シルト。平行ラミナ明瞭。腐植ラミナ1～2%。
234　流路086　10Y5/1灰色細粒砂とシルトの互層(5:5)。腐植ラミナ2～3%。腐植片微量混入。
236　流路086　10GY7/1明緑灰色細粒砂。腐植片(木質残存)50～90%全体に混入。平行ラミナ明瞭。
237　流路086　7.5Y6/1～5/1灰色極粗～粗粒砂。
238　流路086　10GY7/1明緑灰色細粒砂。腐植片10%混入。平行ラミナ明瞭。
245　流路086　10GY7/1明緑灰色細粒砂。腐植片(木質残存)50～90%全体に混入。平行ラミナ明瞭。
246　流路086　10GY7/1明緑灰色(5Y6/3オリーブ黄色に変色)極粗粒砂。
247　流路086　10Y6/1～5/1灰色細粒砂～シルト。ラミナ。
248　第10b層　10Y4/1灰色細粒砂混シルト。腐植片微量混入。
250　第10b層　上部:10Y4.5/1灰色シルト(腐植ペースト状混)。下部:7.5GY5.5/1緑灰色シルト。
251　第10c層　10Y4/1灰色シルト。
252　第10c層　5GY4.5/1オリーブ灰色シルト。灰白色微砂10%(ラミナ)。
253　第10c層　5Y3.5/1オリーブ黒色シルト～粘土。腐植ラミナ2～3%。
254　第10d層　5Y3.25/1オリーブ黒色シルト～粘土。腐植ラミナ(オリーブ黒)10～15%。
269　第12a層　5Y3.5/1灰色シルト。腐植細片混入。
273　第12c層　10BG4.5/1青灰色シルト。全体に細粒砂微量混入。



東壁・南壁 断面全体図(1/200・1/80)　＜ ＞は基本層序

第３図　Ａ調査区　東壁（北半部）断面図（1/100・1/40）、東壁・南壁全体図（1/200・1/80）



1　第0層　盛土、撹乱
2　第1a層　10BG5.5/1青灰色微砂～シルト。全体に粗粒砂微量混入。酸化鉄斑紋沈着。旧耕土。
3　第1b層　10BG4.5/1青灰色微砂～シルト。全体に粗～中粒砂微量混入。青黒色有機物あるいは鉄分径1～2mmの粒状で40～50%混入。旧耕土。
4　第2層　5GY5.5/1オリーブ灰色(細粒砂～)微砂～シルト。全体に径3～10mmの礫混～粗粒砂10～15%混入。近現代作土。
8　溝006埋土？　10BG 5.5/1青灰色細粒砂～シルト。全体に極粗～粗粒砂1%混入。酸化鉄斑紋沈着。
9　溝005　10BG 5.5/1青灰色細粒砂～シルト。全体に径3～5mmの細礫～粗粒砂7～10%混入。酸化鉄斑紋沈着。
10　落込003上層　5GY5.5/1オリーブ灰色(細粒砂～)微砂～シルト。全体に径3～10mm の細礫～粗粒砂10～15%混入。
11　溝001　7.5Y5/1.5灰オリーブ色細粒砂～微砂。酸化鉄斑紋沈着。
12　畦畔007　10BG6/1青灰色微砂～シルト。酸化鉄斑紋沈着。
13　畦畔007　10BG 5.5/1青灰色細粒砂～シルト。全体に極粗～粗粒砂1%混入。酸化鉄斑紋沈着。
14　畦畔007　10GY6/1緑灰色細粒砂～微砂(～シルト)。全体に極粗～粗粒砂1～2%混入。酸化鉄斑紋沈着。
15　畦畔007　10Y6/1灰色(粗～)中～細粒砂。酸化鉄斑紋沈着。
16　畦畔007　7.5GY5/1緑灰色(細粒砂～)微砂～シルト。
17　第3a層相当　10BG6/1青灰色(細粒砂～)微砂～シルト。全体に径3mmの細礫が2～3%混入。灰白色粗粒砂混り。酸化鉄斑紋沈着。近世作土。
18　第3a層相当　7.5GY5/1緑灰色(細粒砂～)微砂～シルト。全体に径3～10mmの細礫～粗粒砂1～7%混入。有機物を含み、N系灰色の縞色を帯びる。酸化鉄斑紋沈着。近世作土。
19　畦畔002　5BG6/1～10BG6/1青灰色(細粒砂～)微砂～シルト。全体に極粗～粗粒砂が1～2%混入。染付椀高台部出土。
25　第3b層相当　10BG6/1青灰色(細粒砂～)微砂～シルト(シルト主体)。全体に極粗～粗粒砂1～2%混入。粘質強い。近世陶磁器を包含する。
28　溝033　10BG5.5/1青灰色微砂～シルト。
29　溝044　28と同じ。
30　溝032　28と同じ。
31　溝031　28と同じ。
32　溝043　28と同じ。
33　溝030　10BG5/1青灰色シルトと2.5GY5/1オリーブ灰色細粒砂との混合土。(5:5)
34　溝027　10GY5/1緑灰色細粒砂～微砂(～シルト)。全体に極粗～粗粒砂3～5%混入。酸化鉄斑紋沈着。
35　溝026　34と同じ。染付片高台部出土。
36　溝025　34と同じ。
37　落込003下層　10BG6/1青灰色細粒砂～シルト。径10mmの細礫～極粗～粗粒砂20～30%混入。酸化鉄斑紋沈着。染付片出土。
38　溝022　10BG6/1青灰色細粒砂～シルト。粗～中粒砂10～15%混入。酸化鉄斑紋沈着。
39　溝021　2.5GY5.5/1オリーブ灰色(細粒砂～)微砂～シルト。全体に極粗～粗粒砂3～5%混入。酸化鉄斑紋沈着。
40　溝020　39と同じ。
41　溝019　2.5GY5.5/1オリーブ灰色(細粒砂～)微砂～シルト。全体に極粗～粗粒砂3～5%混入し、酸化鉄斑紋沈着。
42　溝018　41と同じ。
43　溝017　41と同じ。
44　溝016　7.5GY6/1緑灰色細粒砂～微砂(～シルト)。全体に径3～5mmの細礫～粗粒砂10～15%混入。酸化鉄斑紋沈着。
48　第4a層　10BG5.5/1青灰色微砂～シルトと N6/0灰色中～細粒砂のブロック混合土(8:2)。酸化鉄斑紋沈着顕著。
49　第4a層　7.5Y5/1.5灰オリーブ色細粒砂～シルト。全体に径8mm以下の細礫～粗～中粒砂7～10%混入。径1mmの粒状の炭化物微量混入。土師器片を包含する。酸化鉄斑紋沈着。
50　第4b層　7.5GY5/1緑灰色微砂～シルト。全体に径3mm以下の細礫～中粒砂5～7%混入。場所により、層上部に径6～10mmの酸化マンガン斑紋沈着顕著。酸化鉄斑紋沈着やや顕著。
58　井戸024　2.5GY6/1オリーブ灰色微砂。全体に極粗～粗粒砂20%混入。酸化鉄斑紋沈着。
59　土坑065上層　2.5Y5.5/1黄灰色径3～5mm礫～粗粒砂と、10BG5.5/1青灰色微砂～シルト(径100mm前後の塊状)ブロックの混合土(2:8)。
60　土坑065中層　2.5Y5.5/1黄灰色径3～5mm礫～粗粒砂と、10BG5.5/1青灰色微砂～シルト(径100mm前後の塊状)ブロックの混合土(5:5)。
61　土坑065下層　2.5Y5.5/1黄灰色径3～5mm の礫～粗粒砂。全体にシルト少量混じる。
62　溝054　50とほぼ同じ。
63　溝052　50とほぼ同じ。
64　溝051　50とほぼ同じ。
65　溝055　50とほぼ同じ。
66　流路060　5Y5/1灰色(極粗～)粗～中粒砂(～細粒砂)。酸化鉄斑紋沈着。ラミナ不明瞭。
67　流路060　10GY5/1緑灰色細粒砂～微砂と7.5Y6/1.5灰オリーブ色微砂～シルトの互層(7:3)。平行ラミナ形成。
68　流路060　5Y7/1灰白色～7Y6/3オリーブ黄色径5mm礫～極粗～粗(～中粒砂)とN5/0灰色細粒砂(～シルト)の互層(8:2)。底部粗粒化し、径10mm前後の礫混じる。
69　流路060　7.5Y5/2灰オリーブ色微砂。7.5Y5/1灰色シルトブロック混じり。
70　流路060　10Y 7/1～6/1灰白色細粒砂。
71　流路060　5Y3.5/1オリーブ黒色微砂～シルト(腐植ペースト状ラミナ)。腐植片微量混入。
72　流路060　10Y6/1灰色(粗～)中～細粒砂と10Y4/1灰色微砂～シルトの互層(8:2)。
73　流路057・058　10Y5/1灰色微砂～シルトと10Y6.5/1灰白色粗～中粒砂の混合土(5:5)。酸化鉄斑紋沈着一部顕著。
75　流路057・058　5Y5/1灰色極粗～粗粒砂。南端部(粗～)中～細粒砂。
76　流路057・058　10Y6/1灰色(径20mm礫～)径5mm礫～粗粒砂。平行ラミナ。
77　流路057・058　10Y4.5/1灰色細粒砂～微砂。
78　流路057・058
79　流路057・058　5Y5/1灰色粗～中粒砂。
80　流路057・058　N6/0灰色細粒砂～微砂と10Y6.5/1灰色色中～細粒砂の互層(5:5)。酸化鉄斑紋沈着。
81　流路057・058　10Y5/1灰色微砂～シルトと10Y7/1灰白色粗～中粒砂の互層(6:4)。
82　流路057・058　10Y7/1灰白色粗～中粒砂と10Y5.5/1灰色微砂(～シルト)の互層(8:2)。
83　流路057・058　2.5Y7/1～6/1灰白色径20mmの礫～粗粒砂。斜交ラミナ形成。2.5Y4/1黄灰色シルト～粘土ブロック(径20～50mmの扮錬状～球状)1～2%混入。淘汰不良。
84　流路057・058　10Y7/1灰白色粗～中粒砂と10Y5/1灰色細粒砂～微砂(～シルト)と5Y4/1灰色シルト(腐植ペースト状)の互層(4:4:2)。平行ラミナ。腐植片微量混入。
100　流路057　10Y2.5/1オリーブ黒色シルト。径3～5mm礫～粗粒砂が30～40%混入。
101　流路057　5Y6/1～5/1灰色(極粗～)粗粒砂。
102　流路057　10Y4/1灰色シルトと10Y5/1灰色微砂の互層(7:3)。
105　流路064　10Y6/1灰色細礫～細粒砂に、5BG5/1青灰色細粒砂～シルトブロック(径10～50mm)40～50%混入。ラミナ。
106　流路064　5Y7/1～6/1灰白色(粗～中～)細粒砂～微砂。
107　流路064　10YR5/3にぶい黄褐色中～細粒砂。南半5Y6/1灰色微砂ラミナ。酸化鉄斑紋沈着。
108　流路064　10YR5/3にぶい黄褐色中～細粒砂。ラミナ明瞭。酸化鉄斑紋沈着。
109　流路064　10YR5/3にぶい黄褐色(粗～)中～細粒砂。酸化鉄斑紋沈着。
110　流路064　7.5Y6/1灰色微砂と7.5Y4/1灰色微砂～シルトの互層(8:2)。腐植ラミナ微量。上部酸化鉄斑紋沈着。
111　流路064　2.5Y6/2灰黄色(極粗～)粗～中粒砂。7.5Y4/1～4/2灰オリーブ色シルトブロック(径100～20mm)15混入。部分的にラミナが確認される。酸化鉄斑紋沈着。北側：2.5Y6/2灰黄色(極粗～)粗～中粒砂。7.5Y4/1～4/2灰オリーブ色シルトブロック(径100～20mm)15混入。中央:10YR4/1～4/2褐灰色極粗粒砂。南側:2.5Y5/2灰黄色微砂。酸化鉄斑紋沈着。
113　流路064　10YR5.5/4にぶい黄褐色とN6/0灰色の細粒砂～微砂の混合土。
114　流路064　7.5Y7/1灰白色粗粒砂～中粒砂と7.5Y4/1灰色微砂～シルトの互層(7:3)。底部腐植ラミナ。酸化鉄斑紋沈着。
115　流路064　5Y5/1灰色極粗～粗粒砂。酸化鉄斑紋沈着顕著(10YR5/2灰黄褐色に変色)。
116　流路064　5Y6/1灰色径10～5mm の礫。 N6/0灰色シルトラミナ。
117　流路064　2.5Y6/2灰黄色(極粗～)粗～中粒砂。酸化鉄斑紋沈着。
118　流路064　5Y6/1灰色(径20mm礫～)径5mm礫～粗(～中粒砂)。5Y4/1～4/2灰色シルトブロック微量混入。ラミナ不明瞭。
119　流路064　5Y6.5/1灰色(極粗～)粗～中粒砂。ラミナ不明瞭。
120　流路064　7.5Y7/1灰白色粗粒砂～中粒砂と7.5Y4/1灰色微砂～シルトの互層(7:3)。ラミナ明瞭。底部腐植ラミナ。北側は5Y6/1灰色粗～細粒砂とN5/0灰色細粒砂～微砂の互層(7:3)。腐植ラミナ1%以下。平行ラミナ明瞭。
121　流路064　N6/0灰色粗～細粒砂。平行ラミナ明瞭。酸化鉄斑紋沈着。
122　流路064　N5.5/1灰色細粒砂。平行ラミナ明瞭。酸化鉄斑紋沈着。
123　流路064　10Y5/1灰色径5～10mmの礫～極粗粒砂(～粗粒砂)。
124　流路064　10Y 7/1～6/1灰白色～灰色微砂。酸化鉄斑紋沈着顕著。
125　流路064　10Y6/1灰色細粒砂～微砂。酸化鉄斑紋沈着。
126　流路064　10Y6/1灰色細粒砂～微砂。径5mm前後の礫が3～5%混入。酸化鉄斑紋沈着。
127　流路063　N6.5/0灰白色微砂(～シルト)。酸化鉄斑紋沈着により、明黄褐色(2.5Y6/6)を帯びる。酸化鉄斑紋沈着。
128　流路063　N5.5/0灰色径2～3mmの礫～極粗粒砂。酸化鉄斑紋沈着。
129　流路063　2.5Y6/1～6/2灰黄色径3mm前後の細礫～粗粒砂と、N5.5/0灰色微砂～シルトの互層(8:2)。斜交ラミナ明瞭。
130　流路063　10Y7/1灰白色細粒砂～微砂。
131　流路063　N5.5/0灰色微砂～シルト。腐植ラミナ30%。平行ラミナ明瞭。北半は2.5Y6/1～6/2黄灰色～灰黄色(極粗粒砂～)粗粒砂。北端は径3～5mmの礫～極粗粒砂。
132　流路063　2.5Y6/1～6/2灰黄色(径10mm～)径3～5mmの細礫～粗粒砂。平行ラミナ明瞭。
133　流路063　N5.5/0灰色細粒砂～微砂。
134　流路063　N6/0灰色細粒砂～微砂。平行ラミナ明瞭。下部5Y7/1灰白色粗～中粒砂。
135　流路063　N6/0灰色細粒砂～微砂。下部腐植ラミナ。
136　流路063　10Y6/1～6/2灰～灰オリーブ色径10mm前後の細礫～粗粒砂(～中～細粒砂)。下半部2.5Y6/2灰黄色微砂。平行ラミナ明瞭。
137　流路063　2.5Y5/1.5黄灰色シルトと2.5Y7/1灰白色微砂の互層(9:1)。酸化鉄斑紋(管状)沈着顕著。平行ラミナ明瞭。
138　流路063　2.5Y7/1灰白色微砂と2.5Y5/1.5シルトの互層(7:3)。炭化物ラミナ1%。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
149　流路090　10Y5.5/1灰色径20mm の礫～径5mmの礫(～粗～中粒砂)。
150　流路090　5Y6/1～5/1灰色径10mmの礫～極粗粒砂(～細粒砂)に10Y6/1灰色シルトブロック径70mm1%混入。淘汰不良。
151　流路090　10Y 7/2～6/1灰白色～灰色粗粒砂～細粒砂。平行ラミナ明瞭。腐植片径3～10mmが1～2%混入。底部5Y3.5/1オリーブ黒色微砂～シルト。腐植ラミナ。流木片混入微量。
152　流路090　2.5Y7/1～6/1灰白色径20mmの礫～粗粒砂。斜交ラミナ明瞭。2.5Y4/1黄灰色シルト～粘土ブロック(径20～50mmの扮錬状～球状)1～2%混入。淘汰不良。
153　流路090　7.5Y6/1灰色径10mmの礫～極粗～粗(～中粒砂)。北へ向けて粗粒化。
154　流路090　10Y 7/1～6/1灰白色～灰色(極粗～)粗(～中粒砂)。北側口に<6a層>ブロック(径10～20mm)混入。
157　流路090　7.5Y6/1灰色極粗～中粒砂。中～細粒砂10%(ラミナ)。
156　流路090　10Y6/1～5/1灰色(極粗～)粗～中粒砂。<6a層>ブロック径15mm微量混入。自然木片微量混入。
157　流路090　10Y6/1灰色(粗～)中～細粒砂と10Y4/1灰色微砂～シルトの互層(8:2)。
160　第6a層　10Y2.5/1オリーブ黒色シルト～粘土と10GY4/1暗緑灰色シルト～粘土の小斑状(径5～10mm)混合土(10:0～7:3)。腐植繊片混入。水田作土。
161　第6b層　10Y2.5/1オリーブ黒色シルト～粘土と10GY4/1暗緑灰色シルト～粘土。径5～10mmの小斑状混合土(5:5～3:7)。腐植繊片混入。水田作土。
163　第6c層　10GY4/1暗緑灰色シルト～粘土。腐植繊片混入。ラミナ不明。
164　第6c層　163に7.5Y5/2灰オリーブ色細～微砂(ラミナ状)7～10%混入。163との境界に腐植ラミナ挟在。
171　流路079　5Y6/1～5/1灰色極粗～粗粒砂。
172　流路079　10BG4.5/1暗青灰色シルト～微砂(171の北肩口の層)。
173　流路079　7.5Y5/1灰色シルト～微砂に粗砂混入(171の南肩の層)。
174　第7層　7.5Y5.1.5灰オリーブ色(粗～中～)細粒砂(～微砂)。場所により176成分ラミナ混入。
176　第8層　10Y3.5/1オリーブ黒色シルト～粘土と(細砂～)微砂との小斑状混合土(9:1)。
189　第9b層　7.5Y6/1～5/1灰色径5mm礫～粗粒砂。
190　第9b層　10BG5/1青灰色微砂～シルト。細粒砂40%(平行ラミナ)。
191　第9b層　5B5/1青灰色シルト～粘土。微砂がラミナ状に混入する。北に向かって粗砂化し、5Y8/4淡黄色粗砂となる。
192　第9b層　10GY5/1緑灰色シルト。腐植平行ラミナ。
205　第9c層　10GY7/1明緑灰色細粒砂。下部粗粒砂。腐植片微量混入。
206　第9c層　10BG5/1青灰色細粒砂。シルト40%(平行ラミナ)。腐植片微量混入。
207　流路085　2.5Y8/4淡黄色粗砂。10Y5/1灰色微砂のラミナ顕著。下部は3N3.5/1暗灰色シルト～微砂。
208　流路085　2.5Y8/4淡黄色粗砂を基色として2.5Y4/1黄灰色粘質シルト、N5/0灰色シルトのラミナが入る。
209　流路085　2.5Y4/1黄灰色細粒砂～シルト。(腐植ペースト状)ラミナ。
210　流路085　上半:N6/0灰色粗～細粒砂。上方粗粒化。中位:2.5Y4/1黄灰色シルトラミナ。下半:N6/0灰色細粒砂。
211　第10a層　10GY5/1緑灰色シルト。
212　第10a層　5Y6.5/2灰白色粗～中粒砂。10BG6/1～5/1青灰色細粒砂～シルト20%(平行ラミナ)。
213　第10a層　10Y4.5/1灰色細粒砂～微砂ラミナ。腐植細片混入。
214　第10a層　7.5GY5.5/1緑灰色シルト。10Y7/1灰白色微砂ラミナ。
215　第10a層　10Y4.5/1灰色シルト。灰白色微砂10%(ラミナ)。腐植片混入。
233　流路086　10Y7/1灰白色(粗～)細粒砂～シルト。平行ラミナ明瞭。腐植ラミナ1～2%。
234　流路086　10Y5/1灰色細粒砂とシルトの互層(5:5)。腐植ラミナ2～3%。腐植片微量混入。
235　流路086　10Y5/1.5オリーブ灰色粗～細粒砂。
237　流路086　7.5Y6/1～5/1灰色極粗～粗粒砂。
238　流路086　10GY7/1明緑灰色細粒砂。腐植片10%混入。平行ラミナ明瞭。
239　流路086　7.5Y6/1～5/1灰色極粗～粗粒砂。
240　流路086　7.5Y6/1～5/1灰色径5mm礫～粗粒砂。
241　流路086　10GY7/1明緑灰色(5Y6/3オリーブ黄色に変色)極粗粒砂～細粒砂。北側に向かって細粒化、腐植片7～10%混入。平行ラミナ明瞭。
242　流路086　10GY7/1明緑灰色細粒砂。腐植片(木質残存)50～90%全体に混入。平行ラミナ明瞭。
243　流路086　10GY7/1明緑灰色細粒砂。腐植片10%混入。平行ラミナ明瞭。
244　流路086　10GY7/1明緑灰色細粒砂。腐植片(木質残存)50～90%全体に混入。平行ラミナ明瞭。
245　流路086　244とほぼ同じ。
246　流路086　10GY7/1明緑灰色(5Y6/3オリーブ黄色に変色)極粗粒砂。
247　流路086　10Y6/1～5/1灰色細粒砂～シルト。ラミナ。
249　第10b層　10Y4/1灰色微砂～シルト。ラミナ。
250　第10b層　上部:10Y4.5/1灰色シルト(腐植ペースト状混)。下部:7.5GY5.5/1緑灰色シルト。
253　第10c層　5Y3.5/1オリーブ黒色シルト～粘土。腐植ラミナ2～3%。
254　第10d層　5Y3.25/1オリーブ黒色シルト～粘土。腐植ラミナ(オリーブ黒)10～15%。
255　第11層　10Y4/1灰色シルト。細粒砂平行ラミナ(やや不明瞭)。
256　第11層　257とほぼ同じ。
257　第11層　7.5Y4.5/1灰色微砂～シルト。
258　第11層　7.5Y3.5/1オリーブ黒色シルト混粗粒砂。
259　第11層　258とほぼ同じ。
260　第11層　10Y6/1～5/1灰色粗～中粒砂。平行ラミナ。
261　第11層　7.5Y3/1オリーブ黒色微砂～シルト。腐植片2～3%混入。
262　第11層　5Y3.5/1オリーブ黒色微砂～シルト。灰白色微砂7～10%(平行ラミナ)。腐植細片全体に2～3%混入。
263　第11層　10Y6/1～5/1灰色粗～中粒砂。平行ラミナ。
264　第11層　7.5Y3.5/1オリーブ黒色シルトと7.5Y6.5/1灰白色中～細粒砂の互層(5:5)。
265　第11層　7.5Y3.5/1オリーブ黒色微砂～シルト。腐植片2～3%混入。
266　第11層　7.5Y3.5/1オリーブ黒色微砂～シルト。腐植片2～3%混入。
267　第11層　5Y6.5/1～6.5/2灰白色極粗～中粒砂。平行ラミナ。
268　第11層　7.5Y4.5/1灰色シルト(ラミナ)。
269　第12a層　5Y3.5/1灰色シルト。腐植細片混入。
270　畦畔089　7.5Y3.5/1オリーブ黒色シルトに7.5Y6.5/1灰白色細粒砂ブロックが15～20%混入。腐植片微量混入。
271　第12b層　5Y2.5/1オリーブ黒色シルト。腐植細片混入。
272　第12b層　5Y4/1灰色シルト。全体に細粒砂微量混入。腐植片少量混入。平行ラミナ。
273　第12c層　10BG4.5/1青灰色シルト。全体に細粒砂微量混入。
274　第12c層　273とほぼ同じ。炭酸ノジュールを多く含む。

第４図　Ａ調査区　東壁（南半部）・南壁断面図（1/100・1/40）

る（第８図、図版 1-c)。第 9c 層（青灰色シルト、下半に細粒砂混）上面の標高は T.P.+3.92 ～ 3.81m、層厚５～ 14cm をはかる（第３・４図 -202 ～ 206)。A03 区以南には認められない。上面で流路 088 を検出している（第７図)。

第 10 層　水成層で、ａ～ｄに分かれる。第 10a 層（灰色細粒砂～微砂）上面の標高は T.P.+3.43 ～ 3.62m、層厚５～ 10cm をはかる（第４図 -211 ～ 215)。A04 区以北には認められない。上面で流路 085・087 を検出している（第６図)。第 10b 層（灰色シルトで、腐植ペースト状混）上面の標高は T.P.+3.71 ～ 3.36m、層厚５～ 10cm をはかり、南側へ傾斜している（第３・４図 -248 ～ 250)。上面で溝 084、流路 086 を検出している（第６図、図版 1-b)。第 10c 層（オリーブ黒色シルト～粘土に、腐植ラミナ 2 ～ 3%）上面の標高は T.P.+3.66 ～ 3.44m、層厚４～ 14cm をはかる（第３・４図 -251 ～ 253)。第 10d 層（オリーブ黒色シルト～粘土に、腐植ラミナ 10 ～ 15%）上面の標高は T.P.+3.10 ～ 3.21m、層厚４～９cm をはかる（第３・４図 -254)。上位は KM00-5・6 の「6B 層」、下位は「7B 層」に対応すると考えられる。

第 11 層（灰色粗～中粒砂）　流水堆積層で、A03 区以北は予定掘削面に達していたため未調査である。上面の標高は T.P.+3.15 ～ 3.31m、層厚５～ 15cm をはかる（第４図 -255 ～ 268)。

第 12 層　ａ～ｃに分かれる。A02 区以北は予定掘削面に達していたため未調査である。第 12a 層（灰色シルト。腐植細片混入）上面の標高は T.P.+3.08 ～ 3.18m、層厚４～７cm をはかる（第３・４図 -269)。KM00-5・6 の「8ai 層」に対応すると考えられ、弥生時代中期後半に相当する。第 12b 層（オリーブ黒色シルト。腐植細片混入）上面の標高は T.P.+3.12 ～ 3.15m、層厚３～５cm をはかる（第４図 -271・272)。層中より弥生時代中期の甕体部 1 片が出土している。第 12c 層（青灰色シルト。全体的に細粒砂微量混入）上面の標高は T.P.+3.16 ～ 3.06m、層厚３～ 10cm をはかる（第３・４図 -273・274)。上面で畦畔 089、足跡を検出している（第５図、図版 1-a)。

第２項　検出された遺構と遺物

（１）第 12c 層上面（弥生時代中期）

検出面の標高は T.P.+3.16 ～ 3.06m で、上面で畦畔 089、足跡を検出している（第５図、図版 1-a)。なお、A03 区以北は予定掘削面に達していたため未調査である。

畦畔 089

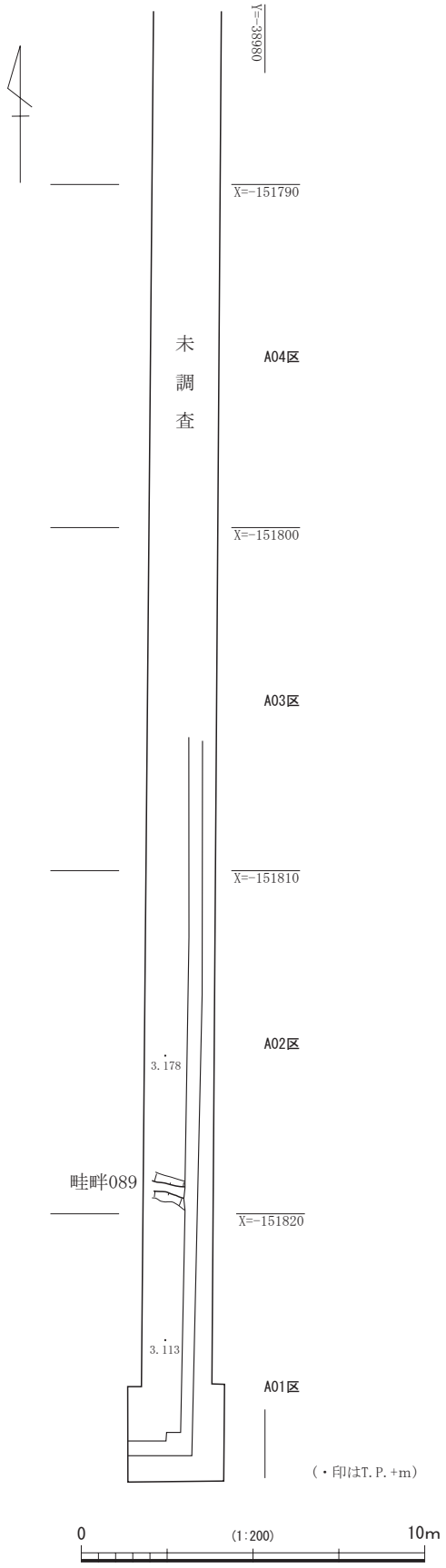
調査区の南端、A02 区で検出した。東西方向の畦畔で、幅 0.8m、高さ７cm をはかる。埋土は 7.5Y3.5/1 オリーブ黒色シルトに 7.5Y6.5/1 灰白色細粒砂ブロックが 15 ～ 20%混入（第４図 -270)。

（２）第 10 層上面（弥生時代中期）

検出面の標高は T.P.+3.43 ～ 3.62m で、第 10 層上面で流路 085・087、第 10b 層上面で溝 084、流路 086 を検出した（第６図、図版 1-b)。

溝 084

調査区の中央部、A05 区、第 10b 層上面で検出した（第６図)。幅 4.65m、深さ 63cm をはかる東西方



第５図　Ａ調査区（南半部）第 12c 層上面遺構平面図（1/200）

向の溝で、流路 086 を切る（第３図 -216 ～ 224）。検出面の標高は T.P.+3.73m をはかる。

流路 085

調査区の南半部、A02 ～ 04 区、第 10a 層上面で検出した北東 - 南西方向の流路である（第６図）。幅 10m 以上と推定され、層厚 45cm をはかり、流路 086 を切る（第４図 -207 ～ 210）。検出面の標高は T.P.+3.6 ｍで、底面の標高は T.P.+3.33m をはかる。

流路 087

調査区南端、A01 区、第 10a 層上面（検出面の標高は T.P.+3.79m）で検出した（第６図）。幅 1.6m 以上、深さ９cm をはかる。埋土は 10GY5/1 緑灰色シルト（腐植平行ラミナ）である。

流路 086

調査区の南半部、A02 ～ 04 区で検出した流路で、幅 40m 以上と推定され、層厚は 45cm をはかる。検出面の標高は T.P.+3.57 ～ 3.71m で、溝 084、流路 085 に切られる（第３・４図 -225 ～ 247）。

（３）第 9c 層上面（弥生時代中期）

検出面の標高は T.P.+3.92 ～ 3.81m で、上面で流路 088 を検出した（第７図）。

流路 088

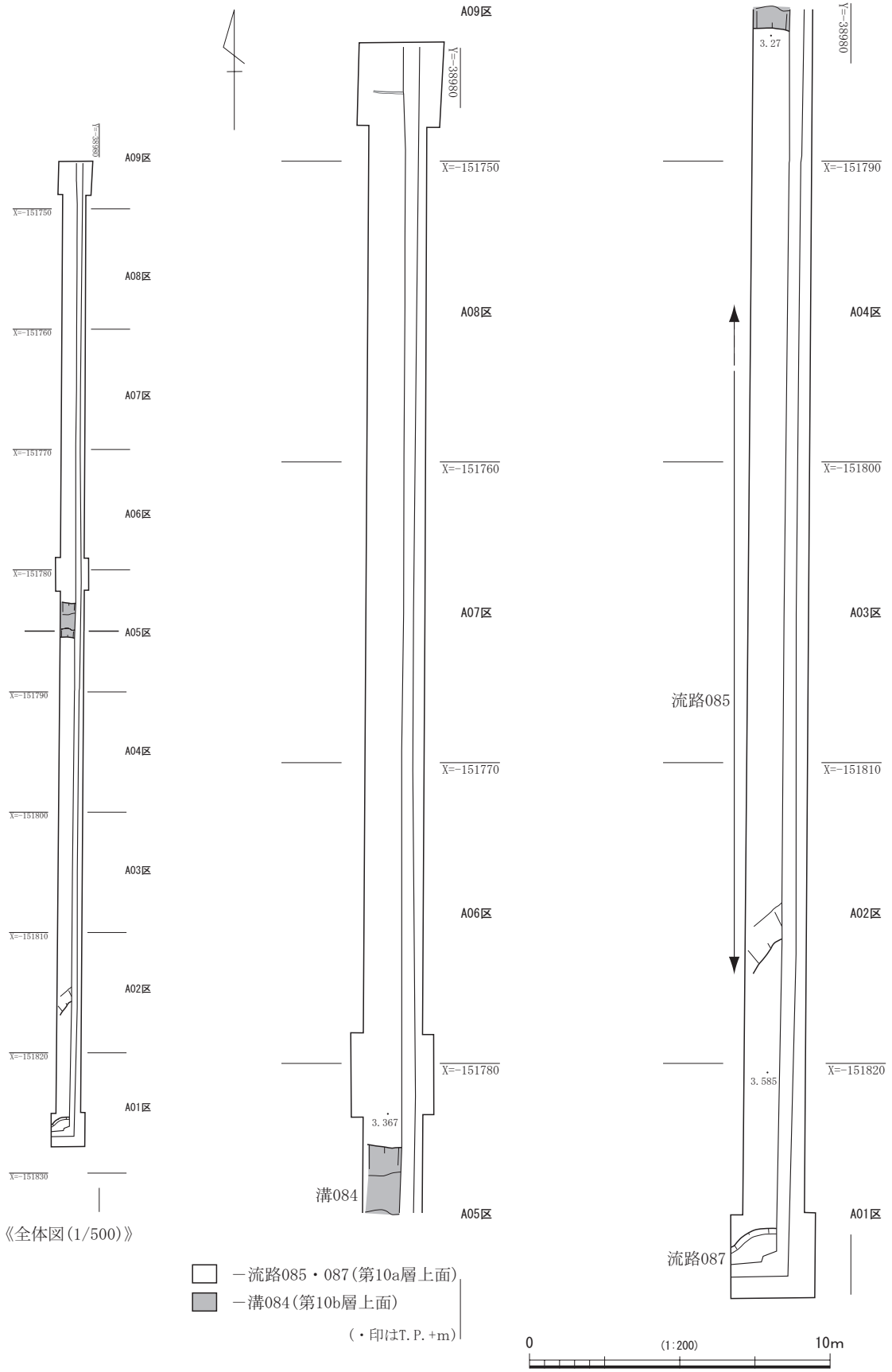
調査区の北端、A08・09 区で検出した東西方向の流路である。幅 8.6m、堆積層の厚さは 30cm 以上をはかる（第３図 -193 ～ 201）。調査の際には、第 10 層上面の遺構と考えていたが、のちに土層断面の検討を行い、第 9c 層上面の遺構とする。

（４）第 9b 層上面（弥生時代中期）

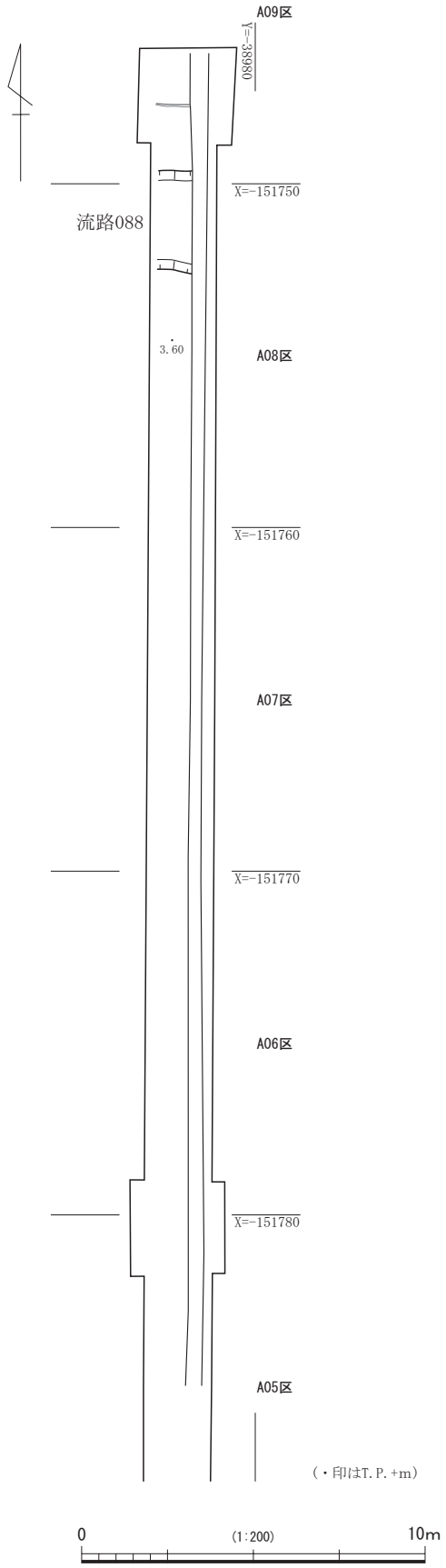
検出面の標高は T.P.+3.98 ～ 3.76m で、南側にやや傾斜している。上面で落込 082、畦畔 083 を検出している（第８図、図版 1-c）。

落込 082

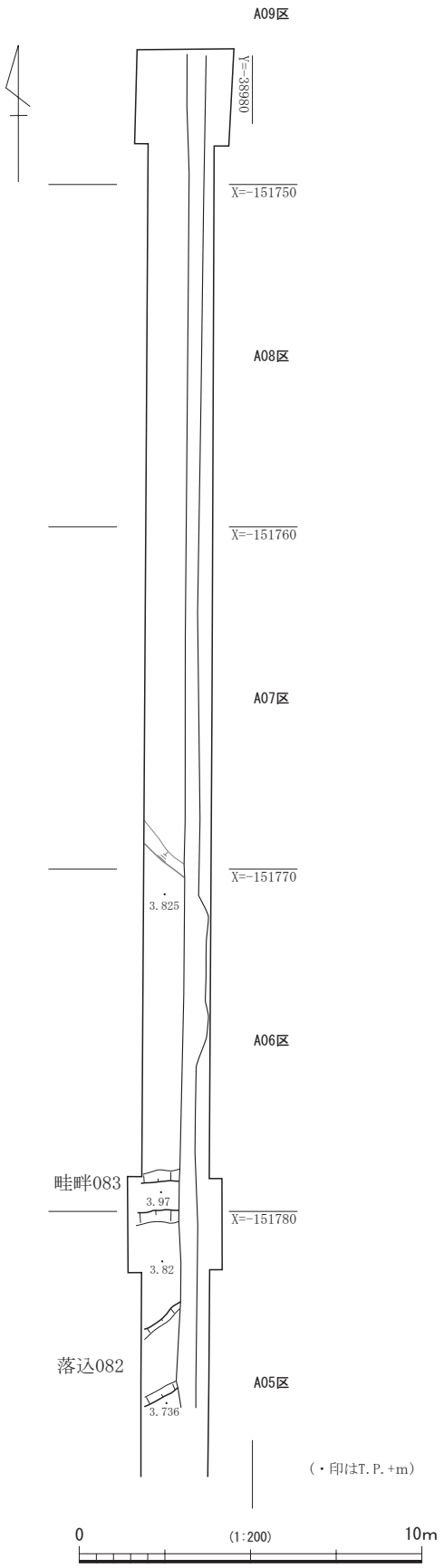
調査区の中央部、A05 区で検出した。幅 2.0m、深さ 15cm をはかる（第３図 -180）。



第６図　Ａ調査区第 10 層上面　遺構平面図（1/200）



第７図　Ａ調査区（北半部）第 9c 層上面遺構平面図 (1/200)



第８図　Ａ調査区（北半部）第 9b 層上面遺構平面図 (1/200)

畦畔 083

調査区のほぼ中央部、A05・06 区で検出した東西方向の畦状高まりである。幅 1.5m、高さ 12.6cm をはかる。埋土は基本層序の第 9b 層で、5G4.5/1 緑灰色微砂～シルトである（第３図 -184）。

（５）第 9a 層上面（弥生時代中期～後期）

検出面の標高は T.P.+4.04 ～ 3.90m で、上面で畦状高まり 080 を検出している（第９図）。

畦状高まり 080

調査区のほぼ中央部、A05・06 区で検出した東西方向の畦状高まりである。幅 1.88m、高さ 14cm をはかる。下位に畦畔 083 がある。埋土は基本層序の第 9a 層である（第３図 -178）。

（６）第８層上面（弥生時代後期後半）

検出面の標高は T.P.+4.02 ～ 3.85m で、上面で足跡を検出している。

（７）第７層上面（古墳時代前期初頭）

検出面の標高は T.P.+4.14 ～ 4.04m で、南側にやや傾斜している。上面で流路 079・081 を検出している（第 10 図、図版 2-a・b）。

流路 079

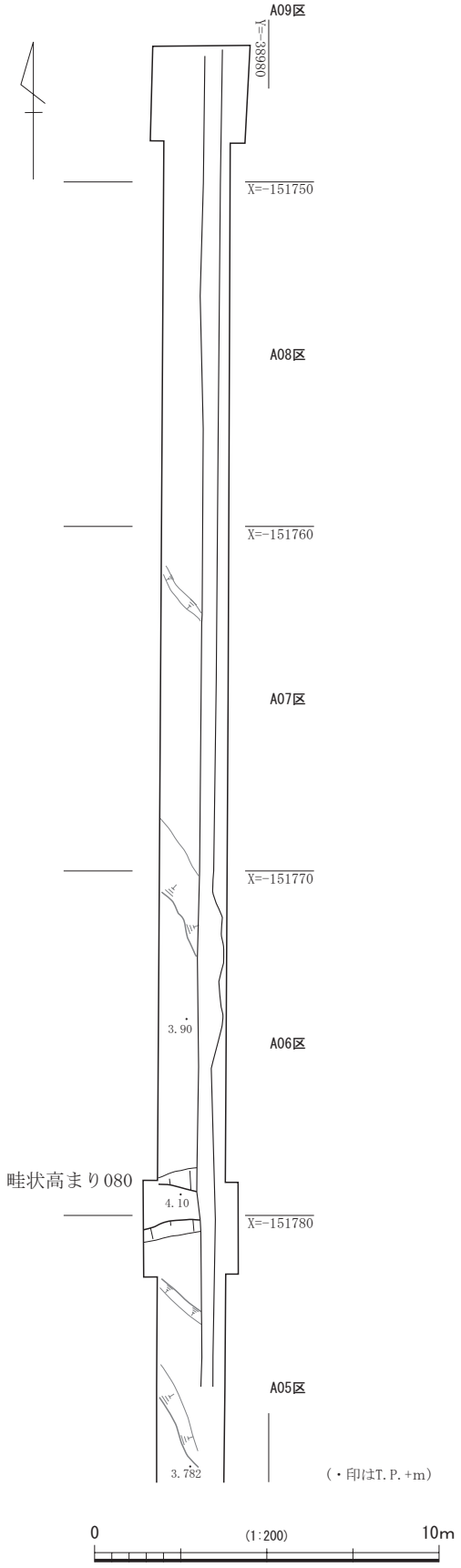
調査区南端、A01 区で検出した東西方向の流路である。幅 1.5 ～ 1.8m、深さ 20cm をはかる。埋土は 5Y6/1 ～ 5/1 灰色極粗～粗粒砂である（第４図 171 ～ 173）。

流路 081

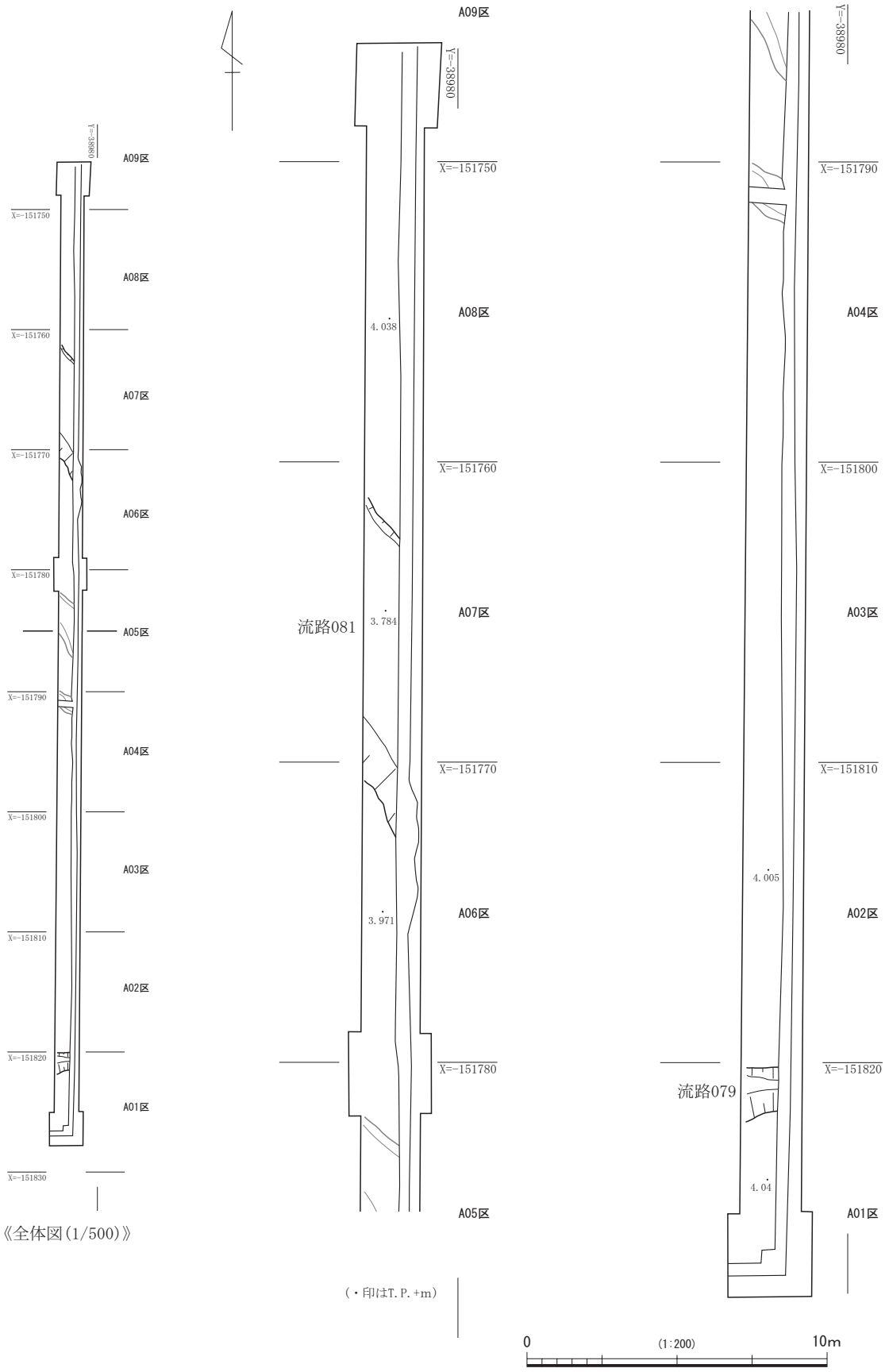
調査区北半部、A06・07 区で検出した北西－南東方向の流路である。幅 7.3m、深さ 23cm、最大厚 42cm をはかる（第３図 -165 ～ 170）。

（８）第 6b 層上面（古墳時代前期）

検出面の標高は T.P.+4.34 ～ 4.12m で、南側に傾斜している。南半部の上面で東西方向の溝 075・



第９図　Ａ調査区（北半部）第 9a 層上面遺構平面図 (1/200)



第 10 図　Ａ調査区第７層上面遺構平面図 (1/200)

077・078、小溝 076 を検出している（第 11 図、図版 2-c）。

溝 075

調査区の南半部、A04 区で検出した東西方向の溝で、幅 0.8m、深さ 10cm をはかる。埋土は 10Y2.5/1 オリーブ黒色シルト～粘土に、10GY4/1 暗緑灰色シルト～粘土ブロック（径５～ 10mm）が 30%、腐植細片微量混入する。

小溝 076

調査区の南半部、A02 区で検出した東西方向の小溝で、幅 0.25 ～ 0.4m、深さ 10cm をはかる。埋土は基本層序の第 6a 層である。

溝 077

調査区南端、A01・02 区で検出した。幅 0.69m、深さ 3.6cm をはかる東西方向の溝である。埋土は 10Y2.5/1 オリーブ黒色シルト～粘土に、10GY4/1 暗緑灰色シルト～粘土ブロック(径５～ 10mm)が 30%、腐植細片微量混入する。

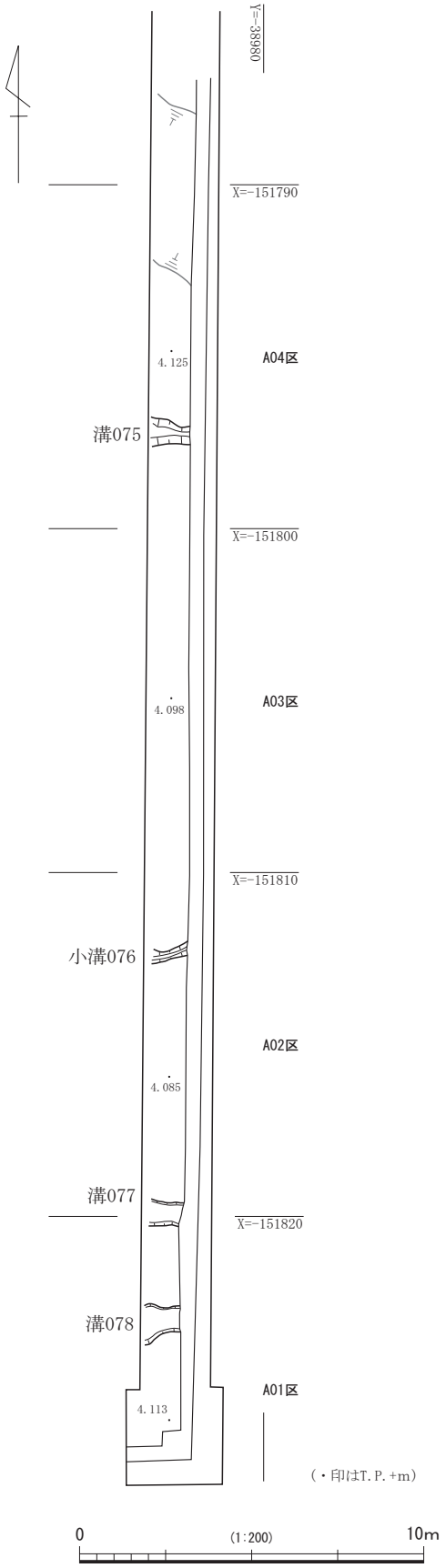
溝 078

調査区南端、A01 区で検出した。幅 0.7 ～ 1.0m、深さ 13.6cm をはかる東西方向の溝である。埋土は 10Y2.5/1 オリーブ黒色シルト～粘土ブロック（径５～ 10mm）が 30%、腐植細片微量混入する。

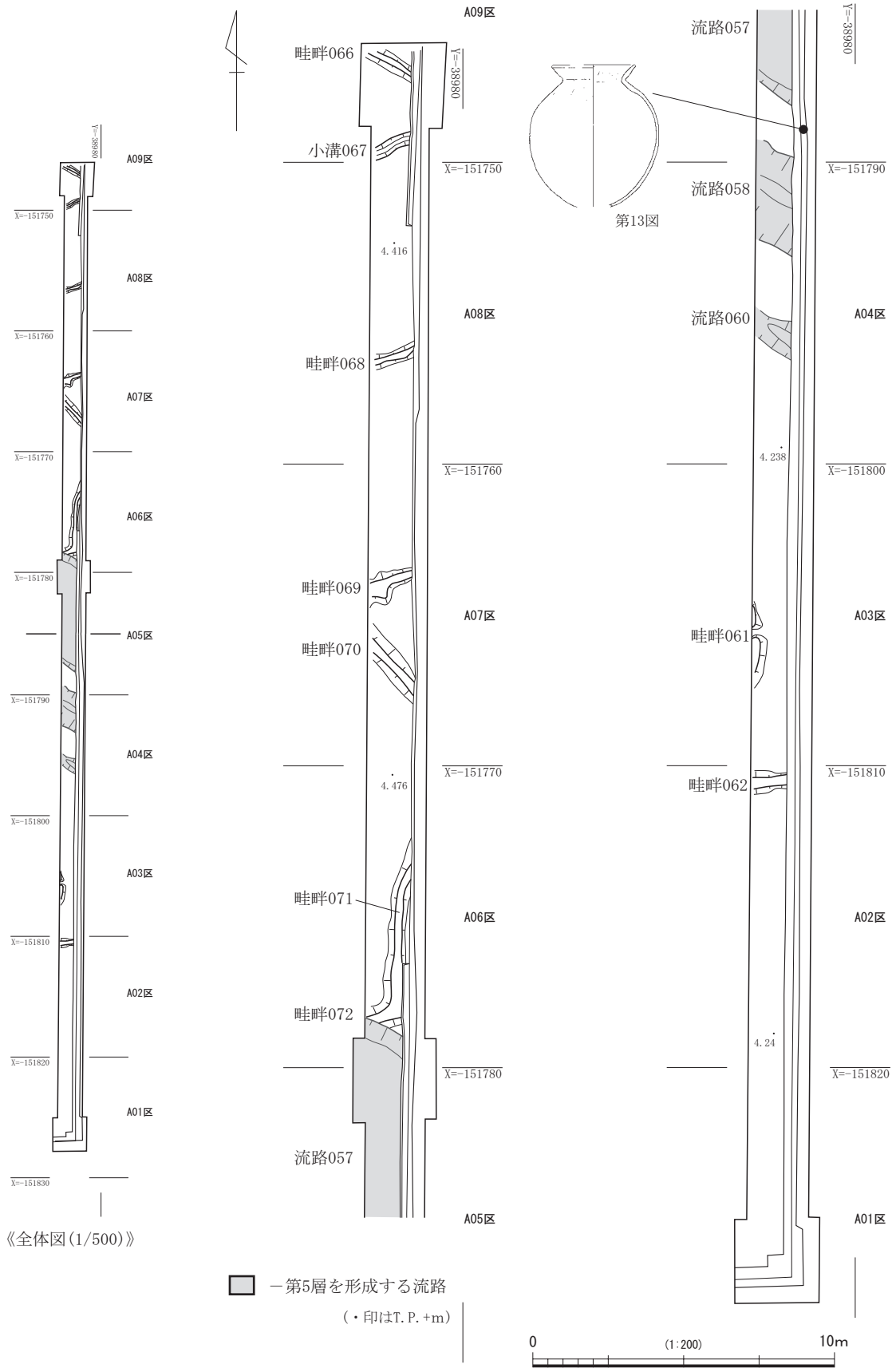
（９）第 6a 層上面（古墳時代前期）

水田面に相当し、検出面の標高は T.P+.4.44 ～ 4.24m で、南側に傾斜している。KM00-5･6 の「6Ai’層」、1985 年度の「第６層」に対応する。上面で畦畔 061･062･066 ～ 072､小溝 067 を検出している（第 12 図、図版 3-a）。

A05 区の南側の東端で、古墳時代前期の布留形甕（第 13 図、図版 27-1）が横位の状態で出土している（図版３）。北及び南側は流路 057・058 によって削平されているため、断定はできないが、出土地点（T.P.+4.167m）は畦畔中に相当していた可能性が考えられた。畦畔の埋土は基本層序の第 6a 層にほぼ



第 11 図　Ａ調査区（南半部）第 6b 層上面遺構平面図 (1/200)

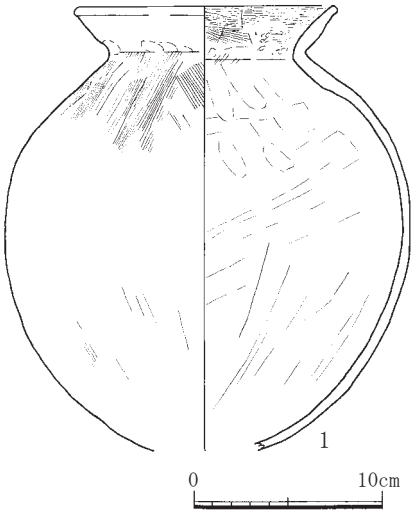


第 12 図　Ａ調査区第 6a 層上面遺構平面図 (1/200)

対応する。

＜第 6a 層出土遺物＞（第 13 図－１、図版 27）

布留形甕で、口径 13.5cm、底部の一部は破損するが、器高 23.45cm、体部最大径 21.4cm をはかる。外面の色調は 10YR7/3 にぶい黄橙色を呈する。頸部はややしまる。体部外面上位はハケメ、下半部はススおよび炭化物付着のため調整は不明。内面下半は工具によるナデ、中位はケズリ、上位は指ナデ、口縁部内面はハケメ調整である。布留形甕は出土状況から、畦畔内に埋納された可能性が考えられた。時期は（西村 2008）の庄内式新段階～布留式古段階古相に相当する。



第 13 図　Ａ調査区第 6a 層出土土器 (1/4)

畦畔 061

調査区の南半部、A03 区で検出した。南北方向の畦畔で、幅 0.45m、高さ５cm をはかる。

畦畔 062

調査区の南半部、A02 区で検出した。東西方向の畦畔で、幅 0.75m、高さ８cm をはかる。

畦畔 066

調査区の北端、A09 区で検出した。北西－南東方向の畦畔で、幅 0.52m、高さ５cm をはかる。

畦畔 068

調査区の北半部、A08 区で検出した。東北東－西南西方向の畦畔で、幅 0.4m、高さ 6.1cm をはかる。

畦畔 069・070

調査区の北半部、A07 区で検出した。畦畔 069 は東北東－西南西方向の畦畔で、幅 0.5m、高さ３cm をはかる。畦畔 070 は北西－南東方向の畦畔で、幅 0.79m、高さ 10cm をはかる。

畦畔 071

調査区北半部の南寄り、A06 区で検出した。南北方向の畦畔で、幅 0.55m、高さ 11.5cm をはかる。

畦畔 072

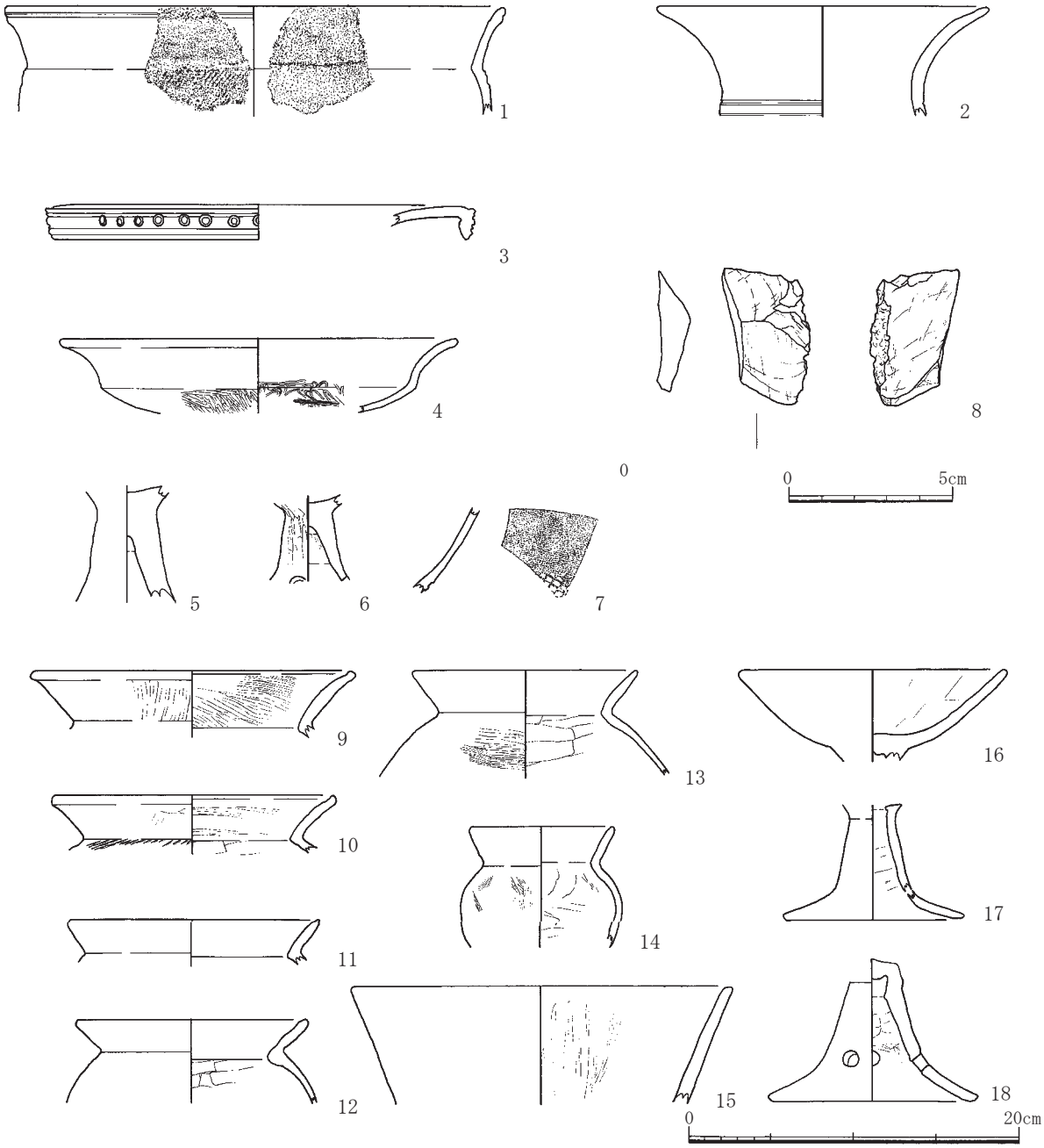
調査区中央部のやや北寄り、A06 区で検出した。東北東－西南西方向の畦畔で、幅 0.75m、高さ 11cm をはかる。

小溝 067

調査区の北端、A09 区で検出した東北東－西南西の溝で、幅 0.4m、深さ７cm をはかる。埋土は 5Y4/1 灰色細～微砂混シルト～粘土で、腐植片混入する。

(10) 第５層（古墳時代前期～中期）

第５層は古墳時代前期から古墳時代中期にかけて、流路 057・058・060・063・064・090・091 が重層して形成された氾濫堆積層である（第 12 図）。これらの流路（氾濫堆積土）は 1985 年度の「第６層」、KM00-5・6 の「5B 層」に対応する。検出面の標高は T.P.+5.04 ～ 5.17m である。



第 14 図　Ａ調査区第５層出土土器 (1/4)・石器 (1/2)

＜第５層出土遺物＞（第 14 図－１～ 18、図版 25 ～ 29）

１は縄文土器、２～６・18 は弥生土器、7・図版 28- ３は須恵器、９～ 17・図版 27- ７は土師器、８はサヌカイト剥片、図版 29-12 は製塩土器、図版 28- ４は韓式系土器である。１は後期前葉の北白川上層式２期で、鉢もしくは深鉢。色調は外面 2.5Y7/2 灰黄色、内面 2.5Y5/1 ～ 4/1 黄灰色で、胎土に１～２㎜前後の礫を多く含む。口縁端部外面、体部外面に LR 縄文を巡らす。２は弥生時代前期の壺で、口径 19.7cm をはかり、頸部に２条以上の沈線を巡らしている。３は弥生時代後期の器台で、口径 25.7cm をはかる。胎土は生駒西麓産で、7.7YR6/6 橙色のスリップを塗布する。口縁端部に４条の擬凹線を巡らし、円形竹管文をスタンプする。４～６・18 は高坏で、４は口径 23.8cm をはかり、坏部内面はハケ

の後に縦方向の粗いヘラミガキ、外面はヘラミガキ調整を施す。５・６・18 は脚部片で、18 は裾部径 12cm をはかり、透孔は三方透かし。９・10 は庄内形甕で、９は口径 19cm をはかり、口縁部内外面はハケメ、頸部内面はヘラケズリ調整を施す。10 は口径 16.9cm をはかり、口縁部外面はヨコナデ、内面は痕跡的にハケメ、肩部外面はタタキメ、内面はヘラケズリ調整を施す。胎土は生駒西麓産である。11 は弥生形甕で、口径 15cm をはかり、口縁部はヨコナデ、頸部内面はヘラケズリ調整を施す。胎土は生駒西麓産。12・13、図版 27- ７は布留形甕で、12 は口径 13.8cm をはかり、頸部内面はヘラケズリ調整を施している。13 は口径 13.4cm をはかり、口縁部内外面はヨコナデ、肩部外面は横方向のハケメ、内面はヘラケズリ調整を施し、胎土は生駒西麓産である。図版 27- ７の端部は内側に肥厚する。14 は小型丸底壺で、口径 8.5cm をはかり、口縁部内外面、体部外面はヨコナデ、体部内面は横方向のヘラケズリ。15 は土師器広口壺の口頸部で、口径 23cm をはかる。内面は縦方向の粗いヘラミガキ調整を施している。16・17 は土師器高坏で、16 は坏部、17 は脚部片で、裾部径 10.9cm、残器高 6.8cm をはかり、透孔は三方透かし。７は須恵器壺もしくは甕の体部片で、外面は格子タタキメ調整を施す。胎土は緻密ではなく、焼成はやや甘い。図版 28- ３は須恵器甕 or 壺で、色調は 5YR5/6 明赤褐色で、内外面ナデ調整を施す。胎土は緻密ではなく､焼成はやや甘い。0.5mm 以下の白色粒を含む。図版 28- ４は韓式系(軟質)土器の甕片で、内面はナデ、外面は斜格子タタキメ調整を施している。

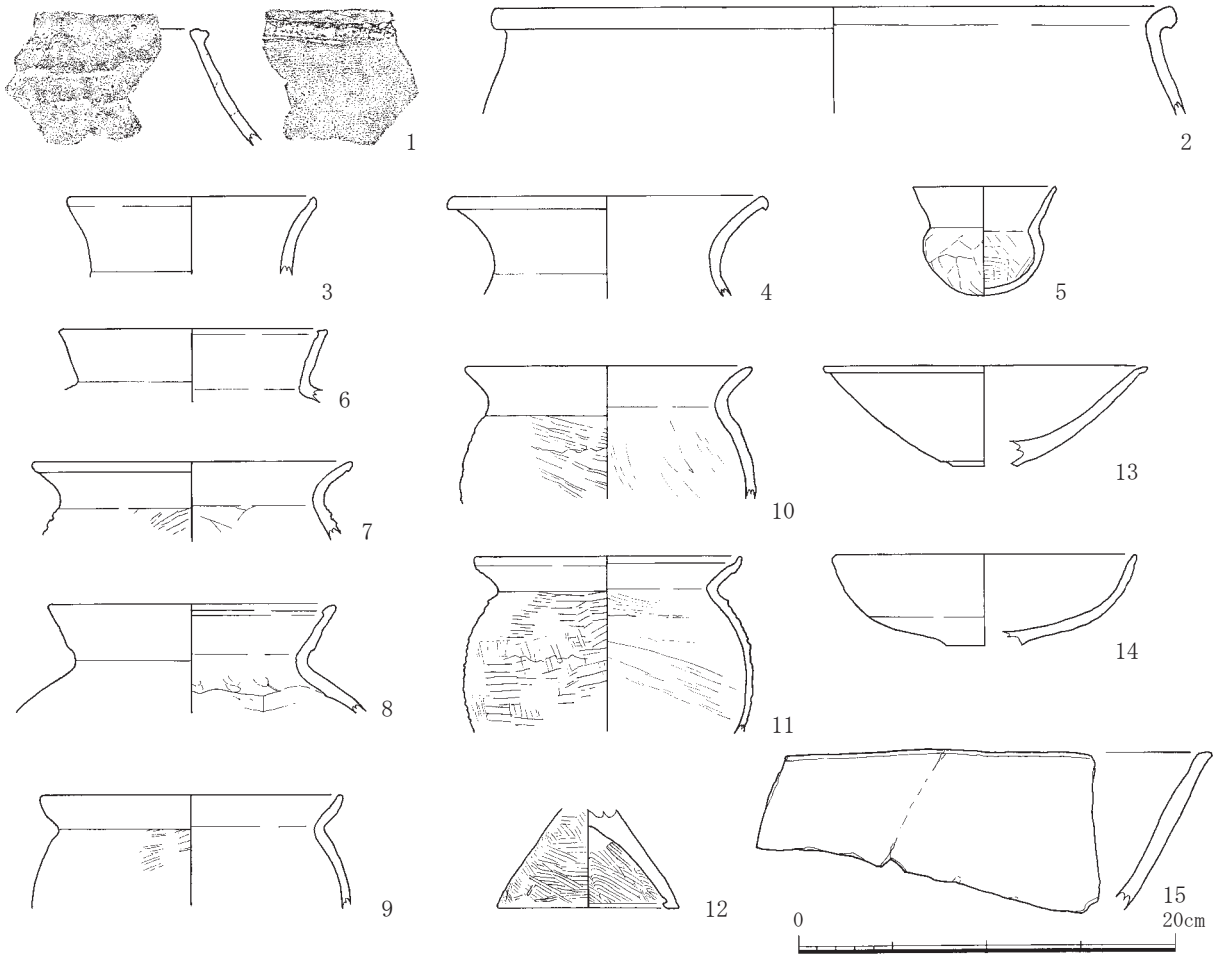
流路 057・058

調査区の中央部、A04 ～ 06 区で検出した（第 12 図)。北側を流路 057、南側を流路 058 と呼称し、調査を行っている。幅約 11.5m、深さ約 110cm をはかる西北西 - 東南東方向の流路で、流路 060 に切られ、流路 090 を切る（第３・４図 -73 ～ 104)。流路 057 から土師器 87、弥生土器１、縄文土器１片、流路 058 から土師器 131、須恵器２、縄文土器１、サヌカイト４、桃核１片が出土している。

従前の調査（財団法人大阪市文化財協会 2003）では、これらの流路（氾濫堆積土）の時期は、古墳時代前期と考えられていたが、今回の調査で古墳時代中期の須恵器が出土したことで、古墳時代前期から中期にかけて堆積したことが明らかとなった。

＜出土遺物＞（第 15 図 - １～４・７～ 13、図版 25 ～ 28)

１～３・７～ 13・15 は流路 058、４・14 は流路 057 から出土した。１は突帯文土器で、口縁部から頸部の破片で、突帯上面に刻み目を加えている。磨耗のため調整等は不明である。船橋式の深鉢で、生駒西麓産の胎土をもつ。２・３は弥生時代の土器で、２は中期の大甕で、口径 35.6cm をはかり、胎土は生駒西麓産。３は後期の短頸壺で、口径 13cm をはかり、口頸部外面には不明瞭ながらハケメ調整が認められた。７・９～ 11 は弥生形甕で、体部外面はいずれもタタキメ調整を施している。７は口径 16.8cm をはかり、体部内面はヘラケズリ調整を施す。９は口径 15cm をはかり、口縁部はやや内側に短く内湾する。体部内面はナデ調整を施す。10 は口径 15cm をはかり、口縁部は頸部から緩やかに外反し、口唇部は丸くおさめている。体部内面はヘラケズリ後にナデ調整を施している。11 は口径 14cm をはかり、口縁部はわずかに受け口状を呈する。体部内面は板ナデ調整を施す。12 は台付き甕の台部で、底径 9.4cm をはかり、内外面はハケメ調整を施している。13 は高坏の坏部片で、口径 17cm をはかる。８は布留形甕で、口径 15cm をはかり、体部内面はヘラケズリ調整。15 は初期須恵器と考えられ、器形は方形の容器（大鉢 or 盤）と推定される。口縁端部は内側にやや肥厚させ、上端は平坦面をもつ。内外



1 ～ 3・7 ～ 15(流路 058)、４・14(流路 057)、５(流路 063)、６(流路 060)

第 15 図　Ａ調査区流路 057・058・060・063 出土土器 (1/4)

面は回転ナデ調整を施し、色調は N7/ 灰白色～ N6/ 灰色を呈する。一部、外側に折り曲げている点から、注ぎ口をもつ可能性も考えられる。胎土は緻密ではなく、焼成はやや甘い。４は弥生時代後期の短頸壷で口径 16.4cm をはかる。14 は土師器椀形高坏で、口径 16cm をはかる。口縁部と底部の境目に弱い稜線が入る。

流路 060

調査区のほぼ中央部、A04 区で検出した（第 12 図）。幅 3.7m、深さ 126cm をはかる西北西 - 東南東方向の流路で、流路 058・064・090 を切る（第４図 -66 ～ 72）。層中より土師器３片が出土している。

＜出土遺物＞（第 15 図 - ６、図版 27- ５）

布留形甕で、口縁端部をやや内側に肥厚させている。口径 14cm をはかり、口縁部内外面の調整はヨコナデを施し、口縁部外面に一部ススが付着する。

流路 063

調査区の南半部、A01・02 区で検出した。検出面の標高は T.P.+5.16m で、幅 15m 以上、深さ 60cm をはかる流路（氾濫堆積土）で、流路 064 に切られ、流路 090 を切る（第４図 -127 ～ 138）。

＜出土遺物＞（第 15 図－５、図版 25－７）

小型丸底壺で、口径 7.5cm、器高 5.85cm をはかる。口縁部内外面はヨコナデ、体部外面は板状ナデ、内面は指オサエと板状ナデ調整を施す。第４図 -134 から出土した。

流路 064

調査区の南半部、A02・03 区で検出した。検出面の標高は T.P.+5.2m で、幅 15m 以上、深さ 105cm をはかる流路（氾濫堆積土）で、流路 063・090 を切り、流路 060 に切られる（第４図 -105 ～ 126）。層中より土師器４片が出土している。

流路 090

調査区中央～南半部、A02 ～ 04 区で検出した。検出面の標高は T.P.+4.98m で、幅 40m 以上、層厚約 70cm をはかる流路（氾濫堆積層）で、流路 057・058・060・063・064 に切られる（第４図 -149 ～ 157）。層中より土師器８片が出土している。

流路 091

調査区の南半～中央部、A06 ～ 09 区で検出した。幅 30m 以上、層厚 72cm をはかる流路（氾濫堆積層）で、流路 057 に切られる（第３図 -139 ～ 148）。Ｅ調査区の「第５層」（第 72 図 -10 ～ 40）に対応する。

(11) 第５層上面（奈良時代）

井戸 024、土坑 049・056・059・065・073・074、東西方向の溝 048、東西方向の小溝 050 ～ 054、南北方向の小溝 055 を検出している（第 17 図、図版４）。なお、溝及び小溝は第４層面に帰属する可能性も考えられる。検出面の標高は T.P.+5.07 ～ 5.15m をはかる。

井戸 024

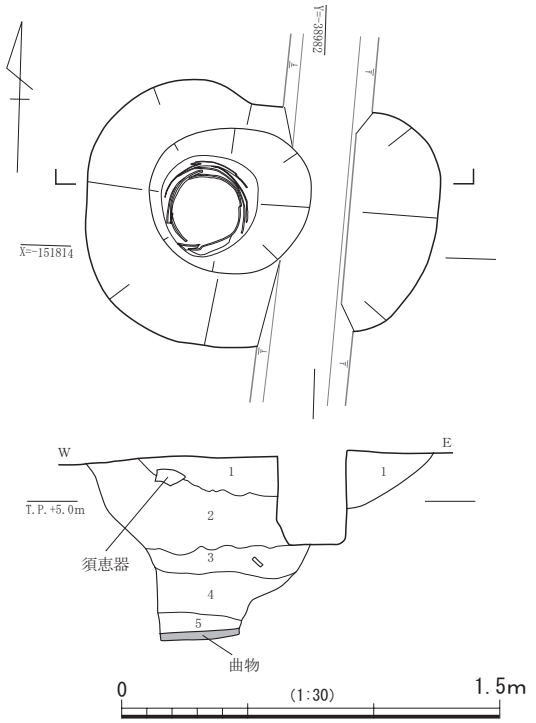
調査区の南半部、A02 区で検出した。径 0.97 × 1.38m、深さ 75cm をはかる（第 16 図、第４図 -58、図版 4-d）。下層に曲物を据えていた。埋土から土師器（羽釜・高坏・庄内形甕）22、須恵器甕８、製塩土器２片が出土している。

＜出土遺物＞（図版 29－１～７）

１・２は土師器坏、３は製塩土器、４は土師器羽釜、５～７は須恵器甕片で、時期は８世紀と考えられる。なお、５～７は同一個体であろう。

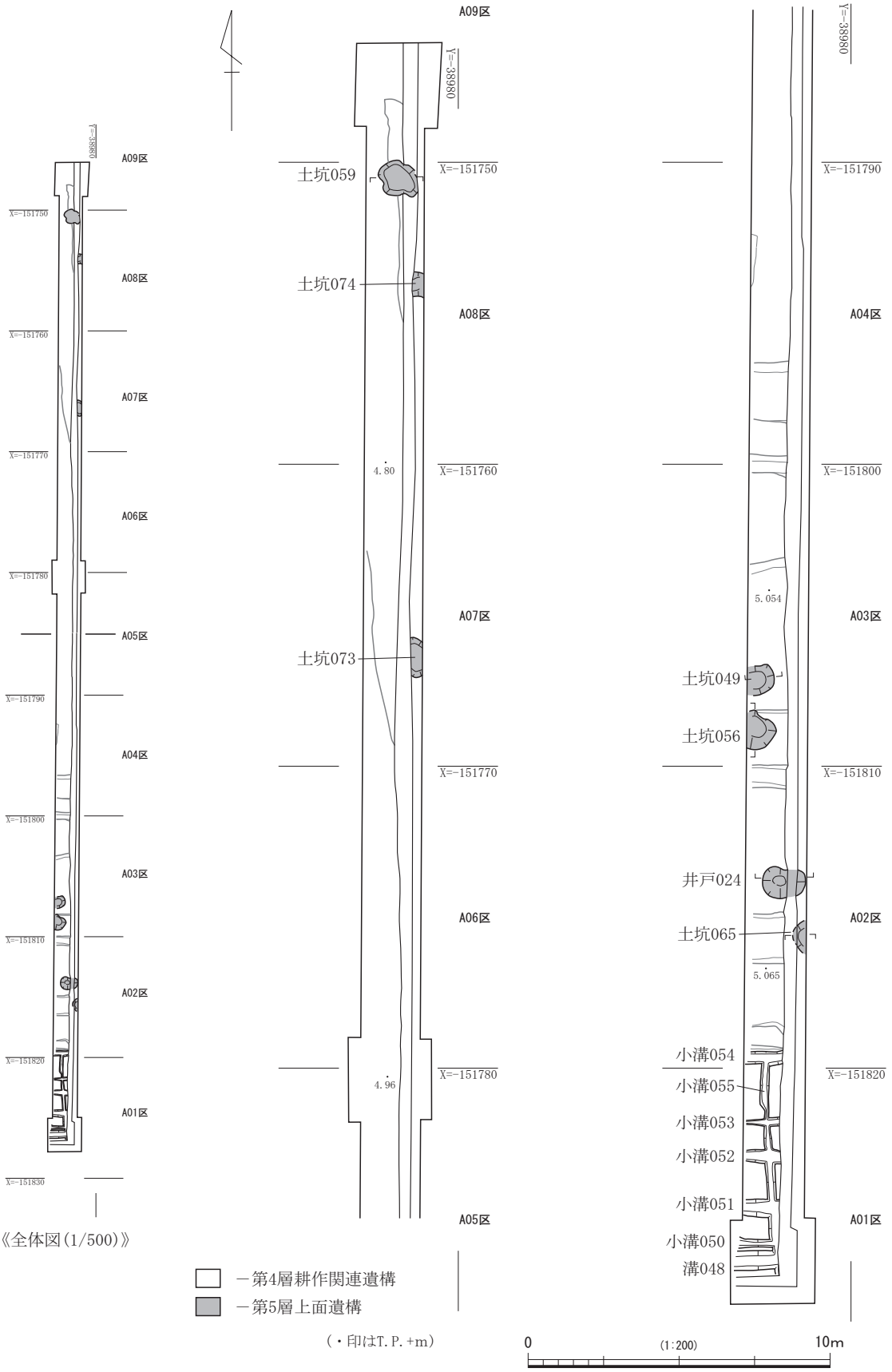
土坑 049

調査区の南半部、A03 区で検出した。平面プランは円形を呈し、径 1.1m、深さ 44cm をはかる（第 18 図）。西側は調査範囲外に広がる。埋土は２層

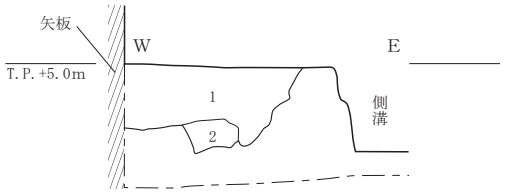


1　2.5GY6/1オリーブ灰色微砂。全体的に極粗～粗粒砂20%混入。
2　10YR5/3にぶい黄橙色径5mmの細礫～粗粒砂。全体的に微砂30～40%混入。酸化により変色。酸化鉄斑紋沈着顕著。
3　7.5Y6/1灰色微砂～シルト。全体的に極粗～粗粒砂20%混入。酸化鉄斑紋沈着。
4　10Y7/1灰白色径5mmの細礫～粗粒砂（～細粒砂）と7.5Y5/1.5灰色微砂～シルトの互層（6:4）。
5　10Y7/1.5灰白色径5mmの細礫～粗粒砂（～細粒砂）。

第 16 図　Ａ調査区第５層上面井戸 024 断面図 (1/30)



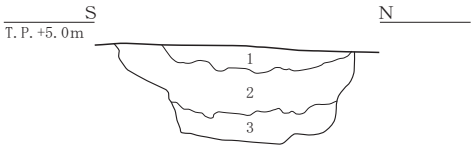
第 17 図　Ａ調査区第５層上面遺構平面図 (1/200)



1. 5Y6/1～6/2灰～灰オリーブ色微砂と7.5GY6/1緑灰色微砂～シルト、5Y6.5/1灰白色(極粗～)粗～中粒砂の混合土(4：4：2)。
2. 5Y6.5/1灰白色(極粗～)粗～中粒砂。

0　(1:40)　2m

第 18 図　Ａ調査区第５層上面土坑 049 断面図 (1/40)



1. 2.5Y5.75/1黄灰色微砂～シルト。酸化鉄斑紋(管状)沈着顕著。
2. 2.5Y5/1黄灰色微砂～シルト。2.5Y7/1灰白色細粒砂～微砂2～3%混入(ラミナ形成)。酸化鉄斑紋沈着。
3. 7.5Y7/1灰白色径5～7mmの礫～粗(～中粒砂)と、7.5Y6/1.5灰色細粒砂～微砂の混合土(8：2)。2.5Y5/1黄灰色微砂～シルトブロック(径10～20mm) 7～10%混入。

0　(1:40)　2m

第 19 図　Ａ調査区第５層上面土坑 056 断面図 (1/40)

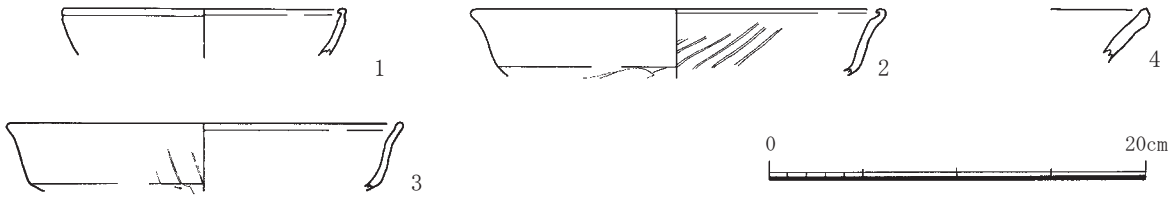
に分かれ、土師器１片が出土している。

土坑 056

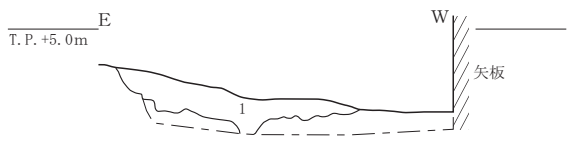
調査区の南半部、A03 区で検出した。径 1.25m のほぼ円形を呈し、深さ 43cm をはかる（第 19 図、図版 4-c)。西側は調査区外に広がる。埋土から奈良時代の土師器（坏）８片が出土している。

＜出土遺物＞（第 20 図１～５、図版 29 左下）

１～３は土師器坏Ａで、１は口径 14.8cm をはかり、口縁端部を内側に軽く折り曲げ、口縁部外面は沈線状に窪む。２は口径 21.4cm、残存高 3.5cm をはかり、口縁端部を内側に折り曲げている。口縁部はヨコナデ調整後、内面に斜格子状の暗文を巡らし、底部外面はヘラケズリ調整を施している。３は口径 20.8cm、残存高 3.55cm をはかり、口縁端部は丸くおさめている。口縁部はヨコナデ調整後、外面に斜格子状の暗文を巡らし、底部外面はヘラケズリ調整を施している。４は土師器羽釜または甕の口縁部片で、外面にススが付着する。



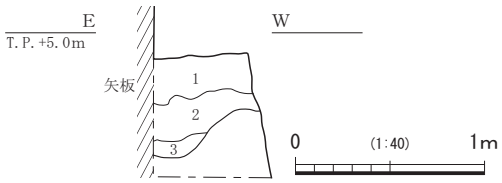
第 20 図　Ａ調査区第５層上面土坑 056 出土土器 (1/4)



1. 2.5GY6/1オリーブ灰色微砂～シルトと7.5Y6.5/1灰白色（粗～）中～細粒砂の混合土（8:2）。酸化鉄斑紋（管状）沈着。

0　(1:40)　2m

第 21 図　Ａ調査区第５層上面　土坑 059 断面図 (1/40)



1. 2.5Y5.5/1黄灰色径3～5mm礫～粗粒砂と10BG5.5/1青灰色微砂～シルト（径100mm前後の塊状）ブロックの混合土（2：8）。
2. 2.5Y5.5/1黄灰色径3～5mm礫～粗粒砂と10BG5.5/1青灰色微砂～シルト（径100mm前後の塊状）ブロックの混合土（5：5）。
3. 2.5Y5.5/1黄灰色径3～5mm礫～粗粒砂。全体的にシルト少量混じる。

第 22 図　Ａ調査区第５層上面土坑 065 断面図

土坑 059

調査区北端、A08 区で第５層掘削中に検出した（第 17 図）。平面プランは不定形を呈し、径 1.45 × 1.15m、深さ 37cm をはかる（第３図 -51・52、第 21 図）。

土坑 065

調査区南半部､A02 区で検出した（第 17 図）。上部は落込 003 に切られ､東側は調査範囲外に広がる（第 22 図）。径は南北 1.1m、東西 0.5m 以上、深さは 55cm をはかる（第４図 -59 ～ 61）。埋土から土師器１片が出土している。

土坑 073

調査区北半部、A07 区で検出した（第 17 図）。東側は調査区外、西側は撹乱で破壊され、東西 1.37m、深さは現状で 26cm をはかる。埋土は２層に分かれる（第３図 -56・57）。

土坑 074

調査区北端、A08 区で検出した（第 17 図）。上部は近現代の流路によって削平され、東側は調査区外、西側は撹乱で破壊され、径 0.82m（南北）、深さ 30cm をはかる（第３図 -53 ～ 55）。

溝 048・小溝 050 ～ 055

調査区南端、A01・02 区で検出した（第 17 図）。いずれも耕作に関連する遺構と考えられ、埋土は基本層序の第 4b 層である。溝 048 は幅 0.6m、深さ 17cm をはかる。埋土から土師器３片が出土している。小溝 050 は幅 0.3m、深さ４cm をはかり、埋土から土師器１片が出土している。小溝 051 は幅 0.6m、深さ９cm をはかる。小溝 052 は幅 0.45m、深さ 11cm をはかり、埋土から土師器７片が出土している。小溝 053 は幅 0.3m、深さ３cm をはかる。小溝 054 は幅 0.5m、深さ 19cm をはかり、土師器 11、製塩土器４片が出土している。小溝 055 は幅 0.3m、深さ 17cm をはかり、埋土から土師器１片が出土している。

(12) 第 3a 層下面、第 3b 層上面及び第 4 層上面（古代～近世）

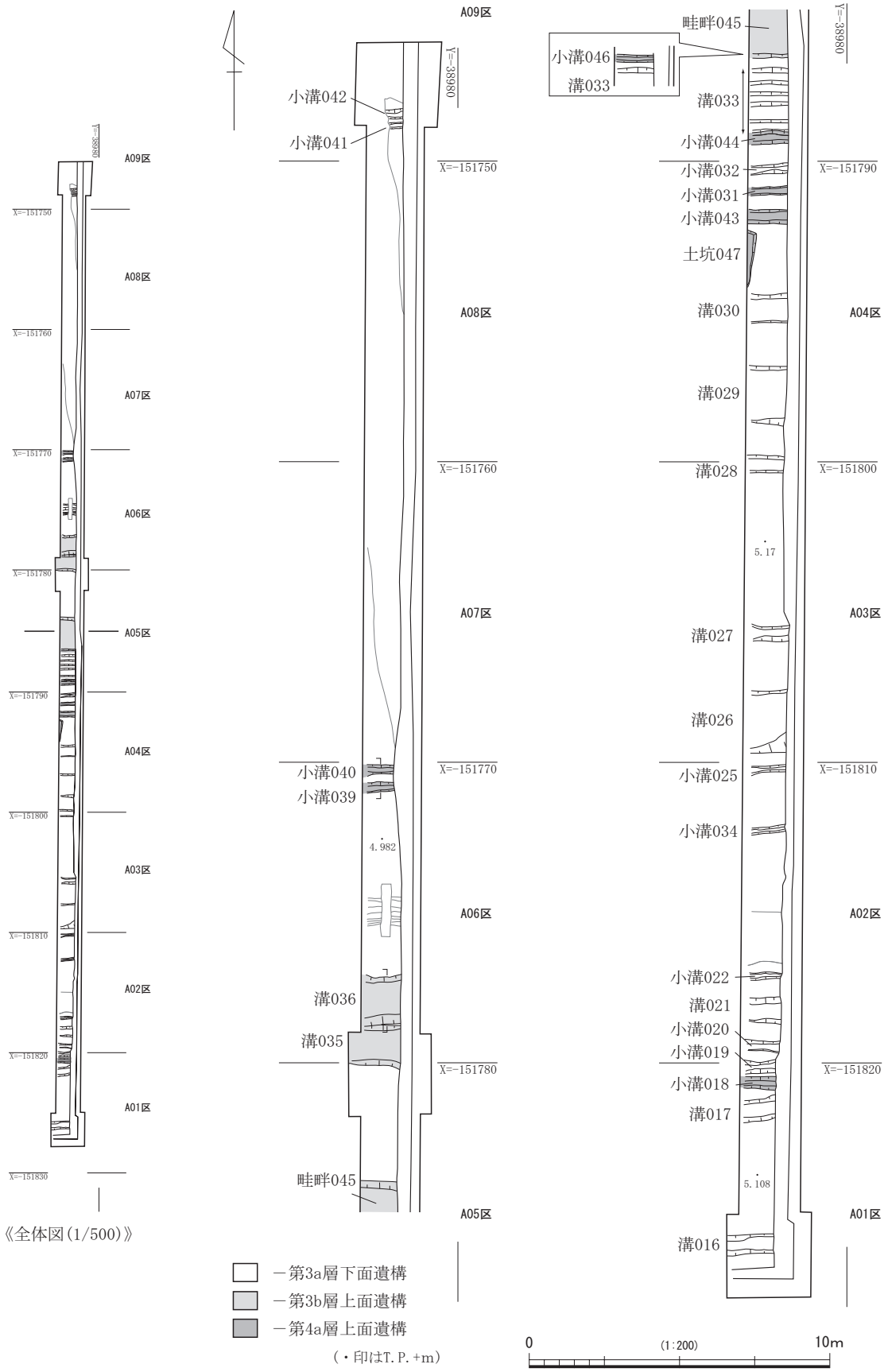
第 3a 層下面で溝 016・017・021・026・027・028 ～ 030・033、小溝 019・020・022・025・032・034・041・042、第 3b 層上面で溝 035・036、畦畔 045、第 4a 層上面で土坑 047、小溝 018・031・039・040・043・044・046 を検出した（第 23 図、図版 5-a ～ c）。第 4a 層上面の標高は T.P.+5.16 ～ 5.1m をはかる。

溝 016

調査区南端、A01 区、第 3a 層下面で検出した。幅 0.65m、深さ 13cm をはかる東西方向の溝である（第４図 -44）。埋土から瓦器椀１、土師質土器３、須恵器２片が出土している。

溝 017

調査区南端、A01 区、第 3a 層下面で検出した。幅 0.72 ～ 0.79m、深さ 20cm をはかる（第４図 -43）。



第 23 図　Ａ調査区第 3a 層下面～第４層上面遺構平面図 (1/200)

埋土から瓦質土器１、土師質土器５、須恵器１片が出土している。時期は中世後期と考えられる。

小溝 019

調査区南端、A01 ～ 02 区、第 3a 層下面で検出した。幅 0.43 ～ 0.52cm、深さ 19cm をはかる（第４図 -41)。埋土から瓦器２、土師質土器 11、土師器１、須恵器３片が出土している。

小溝 020

調査区南端、A02 区、第 3a 層下面で検出した（第 23 図)。幅 0.34m、深さ 13cm をはかり、小溝 054 を切る。埋土から土師質土器 15、須恵器１、製塩土器２片が出土している。時期は古代～中世後期と考えられる。

溝 021

調査区南端、A02 区、第 3a 層下面で検出した（第 23 図)。幅 0.86m、深さ 16cm をはかる（第４図 -39)。埋土から土師質 15、製塩土器２片が出土している。

小溝 022

調査区南半部、A02 区、第 3a 層下面で検出した。幅 0.21m、深さ５cm をはかる（第４図 -38)。

小溝 025

調査区南半部、A02 区、第 3a 層下面で検出した（第 23 図)。幅 23cm、深さ 11cm をはかる（第４図 -36)。埋土から土師質土器２、土師器１片が出土している。

溝 026

調査区南半部、A03 区、第 3a 層下面で検出した（第 23 図)。幅 2.10cm、深さ 20cm をはかる（第４図 -35)。埋土から波佐見焼染付碗（図版 30-10)、土師質土器３片が出土している。時期は染付碗から近世（18 ～ 19 世紀）と考えられる。

溝 027

調査区南半部、A03 区、第 3a 層下面で検出した（第 23 図)。幅 50cm、深さ 18cm をはかる（第４図 -34)。埋土から瓦質土器 1、土師質土器５片出土している。

溝 028

調査区中央、A03 ～ 04 区、第 3a 層下面で検出した（第 23 図)。幅 0.57m、深さ 4cm をはかる。埋土は基本層序の第 3a 層である。

溝 029

調査区中央、A04 区、第 3a 層下面で検出した（第 23 図)。幅 1.98m、深さ 15cm はかる。埋土は基本層序の第 3a 層で、瓦質土器１、瓦器椀１、土師質土器５、土師器１、須恵器４片が出土している。

溝 030

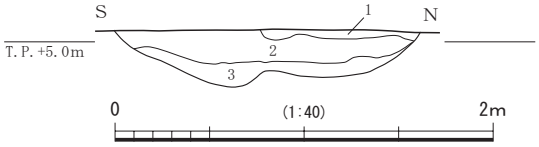
調査区中央、A04 区、第 3a 層下面で検出した（第 23 図)。幅 1.0 ～ 1.11m、深さ 15cm をはかる（第４図 -33)。埋土から瓦器椀１、土師質土器６片が出土している。

小溝 032

調査区中央、A04 区、第 3a 層下面で検出した。幅 0.26 ～ 0.34m、深さ８cm をはかる（第４図 -30）。

溝 033

調査区中央、A05 区、第 3a 層下面で検出した（第 23 図)。幅 2.07 ～ 2.10m、深さ 16cm をはかる（第４図 -28)。埋土から土師質土器５、瓦１片が出土している。



1. 第3層　10BG6/1青灰色（細粒砂～）微砂～シルト。全体的に径3mmの細礫が2～3%混入。灰白色粗粒砂微量混入。酸化鉄斑紋沈着。近世作土。
2. 溝036上層　2.5Y5/3黄褐色細粒砂～微砂(～シルト)。全体的に径3mm以下の細礫～粗粒砂2～3%混入。酸化鉄斑紋沈着。径3～5mmまたは長さ15mm前後の管状酸化マンガン斑紋沈着2～3%。
3. 溝036下層　5Y6/1.5灰色シルト。酸化鉄斑紋(管状)沈着。

第 24 図　Ａ調査区第 3b 層上面溝 036 断面図 (1/40)

小溝 034

調査区南半部、A02 区、第 3a 層下面で検出した（第 23 図)。幅 0.30m、深さ６cm をはかる。埋土は基本層序の第 3a 層で、土師質土器３片が出土している。

小溝 041

調査区北端、A09 区、第 3a 層下面で検出した（第 23 図)。幅 0.2m、深さ 3.7cm をはかる。埋土は 10BG6/1 青灰色（細粒砂～）微砂～シルトに、全体的に径３mm の細礫が２～３％混入。

小溝 042

調査区北端、A09 区、第 3a 層下面で検出した。幅 0.34m、深さ 13cm をはかる（第３図 -26)。

溝 035

調査区の北半部、A06 区、第 3b 層上面で検出した（第 23 図)。幅 1.35m、深さ 15cm をはかる（第３図 -22)。埋土から瓦器椀１、土師質土器１、波佐見焼白磁小碗（図版 30- ７)、須恵器１片が出土している。時期は 18 世紀頃と考えられる。

溝 036

調査区の北半部､A06 区､第 3b 層上面で検出した（第 23 図)。幅 1.7m､深さ 26cm をはかる（第 24 図)。埋土から瓦質土器４、土師質土器 10、瓦１、須恵器１片が出土している（第３図 -21)。

畦畔 045

調査区中央、A05 区で検出した。幅 2.6m、高さ 28cm をはかる（第 23 図)。第 3b 層の上に盛土して形成する（第３図 -23)。染付１、土師質土器８、唐津焼碗１、備前焼擂鉢１、須恵器２片が出土している。

＜出土遺物＞（図版 30- ４・５・11)

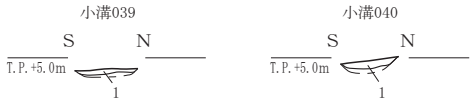
４は 17 世紀前半の唐津焼茶褐釉碗の口縁部片、５は 16 世紀の備前焼擂鉢、11 は 18 世紀中頃の波佐見焼染付碗で、遺構の時期は近世（18 ～ 19 世紀）と考えられる。

小溝 018

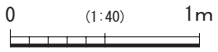
調査区南端、A01 区、第 4a 層上面で検出した（第 23 図)。幅 0.44m、深さ 15cm をはかる（第４図 -42)。埋土から土師質土器４、須恵器１片が出土している。

小溝 031

調査区中央、A04 区、第 4a 層上面で検出した（第 23 図)。0.22 ～ 0.26m、深さ 16cm をはかる（第４図 -31)。埋土から瓦器椀１、土師質土器２、土塊４片が出土している。時期は中世後期と考えられる。



1.　10Y6/1灰色(微砂～)シルト。粗粒砂～中粒砂全体的に10%混入。酸化鉄斑紋沈着。



第 25 図　Ａ調査区第 4a 層上面小溝 039・小溝 040 断面図 (1/40)

小溝 039・040

調査区の北半部、A06 区、第 4a 層上面で検出した（第 23・25 図）。小溝 039 は幅 0.32m、深さ 4cm をはかる。小溝 040 は幅 0.30m、深さ７cm をはかる。

小溝 043

調査区の中央、A04 区、第 4a 層上面で検出した（第 23 図）。幅 0.4m、深さ 22cm をはかる。埋土は 10BG5.5/1 青灰色微砂～シルトで、土師器３片が出土している。図版 30- ３は土師器椀である。

小溝 044・小溝 046

調査区中央､A05 区､第 4a 層上面で検出した（第 23 図）。小溝 044 は幅 0.52m､深さ 14cm をはかる（第４図 -29）。小溝 046 は幅 0.25m、深さ 11cm をはかり、畦畔 045 の下で検出した（第３図 -27）。

土坑 047

調査区の中央、A04 区、第 4a 層上面で検出した（第 23 図）。西側は調査範囲外で、径 2.0 × 0.3m 以上､深さ 33cm をはかる。埋土は 10Y6/1 灰色細礫～細粒砂に､5BG5/1 青灰色細粒砂～シルトブロック（径 10 ～ 50mm）40 ～ 50％混入。埋土から土師器３、須恵器１が出土している。

(13) 第 2 層下面及び第 3a 層上面（近世）

第２層下面で小溝 004・009、溝 008、第 3a 層上面で小溝 001・005・010・014・015、溝 006・011 ～ 013、畦畔 002、落込 003、畦畔 007 を検出した（第 26 図、図版 5-d)。第 3a 層上面の標高は T.P.+5.34 ～ 5.26m をはかる。なお、第 3a 層から図版 30-17・19、第３層から図版 30-12 ～ 16 が出土している。12 は 12 ～ 13 世紀の東播系練鉢の口縁部片、13 は 16 世紀の丹波焼擂鉢、14 は不明陶器の体部片、15 は 17 世紀前半の唐津焼黄褐釉鉢、16 は 18 世紀の京焼系碗、17 は 18 世紀の京焼系灰釉碗、19 は 17 世紀前半の志野焼長石釉碗である。

小溝 001

調査区の南端、A01 区、第 3a 層上面で検出した。幅 0.34 ～ 0.4m、深さ７cm をはかる（第４図 -11)。

畦畔 002

調査区の南端、A02 区、第 3a 層上面で検出した。検出面の標高は T.P.+5.4m で、基底部幅 1.77m、高さ８cm をはかる（第４図 -19)。埋土から染付碗の高台部片が出土している。

落込 003

調査区の南端、A02 区、第 3a 層上面で検出した。幅 3.44m、深さ 46cm をはかり、土坑 065 を切る（第４図 -10・37)。埋土から染付１、瓦器１、土師質土器４、サヌカイト１、須恵器１片が出土している。

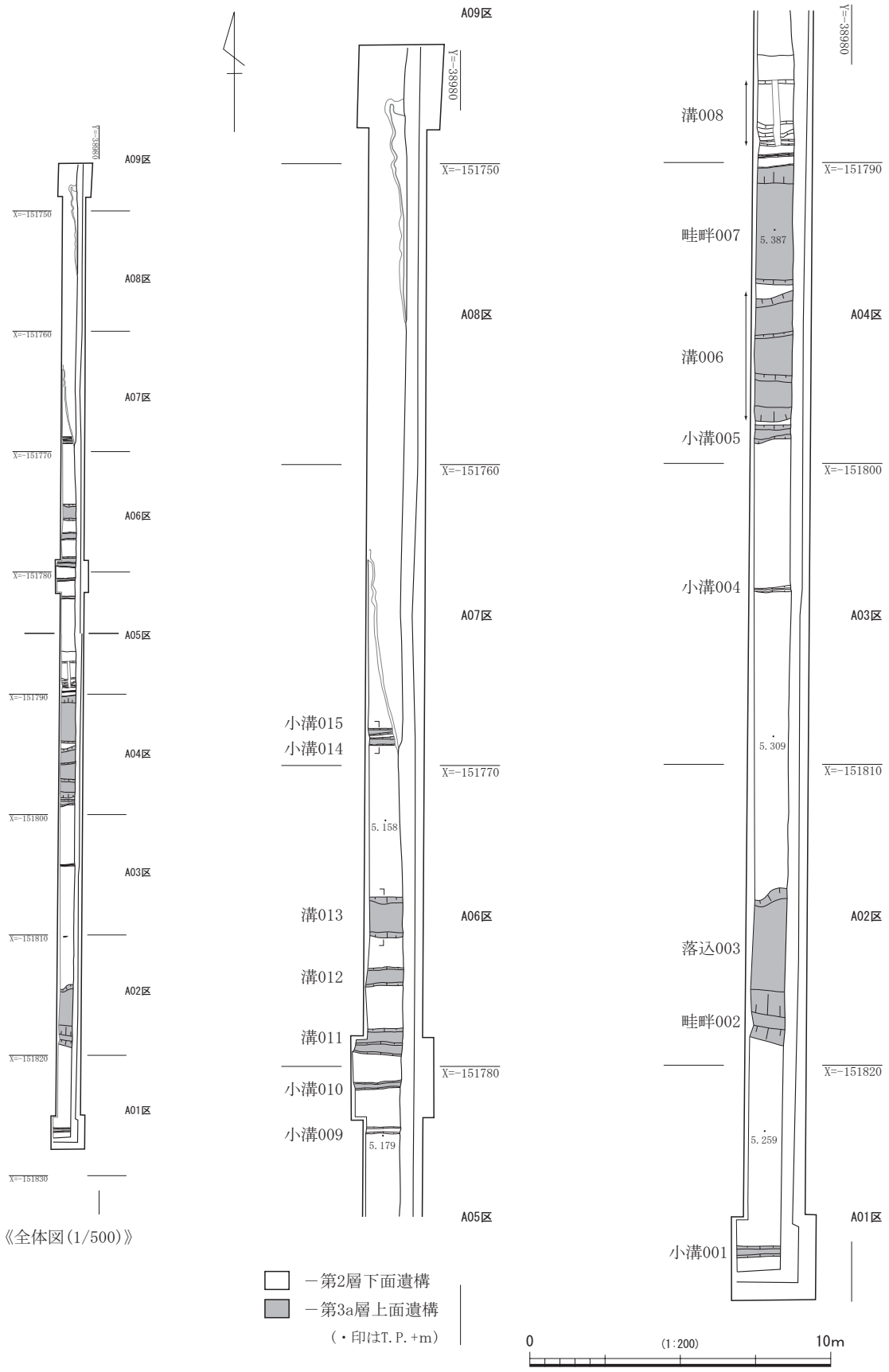
小溝 004

調査区の南半部、A03 区、第２層下面で検出した。幅 0.1 ～ 0.2m、深さ 3.8cm をはかる。埋土は基本層序の第２層系で、土師質土器２片が出土している。

小溝 005

調査区の南半部､A04 区､第 3a 層上面で検出した。幅 0.46 ～ 0.63m､深さ 22cm をはかる(第４図 - ９)。埋土から土師質土器２、須恵器１片が出土している。

溝 006



第 26 図　Ａ調査区第２層下面～ 3a 層上面遺構平面図 (1/200)

調査区の中央、A04 区、第 3a 層上面で検出した。幅 4.6m、深さ 33cm をはかる。埋土は 10BG5.5/1 青灰色細粒砂～シルトで、全体的に径３～５㎜の細礫～粗粒砂７～ 10%混入。埋土から磁器２、瓦器１、土師質土器 21、須恵器１片が出土している。図版 30- ２は 18 世紀の波佐見焼白磁瓶である。

畦畔 007

調査区のほぼ中央、A04 ～ 05 区、第 3a 層上面で検出した（第 26 図）。幅 4.46m、高さ 18cm をはかる。基本層序の第 3a 層の上に盛土する（第４図 -12 ～ 16）。埋土から青磁１、瓦質土器２、土師質８、須恵器７片が出土している。青磁（図版 30- １）は 15 世紀後半の龍泉窯系無文碗である。

溝 008

調査区のほぼ中央、A05 区、第２層下面で検出した（第 26 図）。幅 2.19m、深さ 28cm をはかる。埋土は基本層序の第２層で、染付１、瓦器椀１、土師質土器５片が出土している。

小溝 009

調査区の北半部、A05 区、第２層下面で検出した（第 26 図）。幅 0.24m、深さ 12cm をはかる。埋土は基本層序の第２層で、土師質土器１片が出土している。

小溝 010

調査区の北半部、A05 区、第 3a 層上面で検出した（第 26 図）。幅 0.25m、深さ 13cm をはかる（第３図－７）。

溝 011・012

調査区の北半部、A06 区、第 3a 層上面で検出した（第 26 図）。溝 011 は幅 0.95m、深さ 14cm をはかる（第３図－６）。埋土から 18 世紀の肥前系緑釉陶器（図版 30- ８）、土師質土器６、須恵器２片が出土している。肥前系緑釉陶器の色調は 5G6/1 緑灰色を呈する。溝 012 は幅 0.58m、深さ 22cm をはかる（第３図－５）。

溝 013

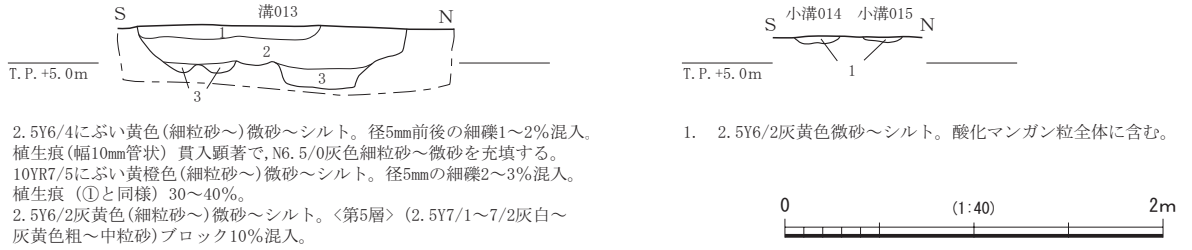
調査区の北半部、A06 区、第 3a 層上面で検出した（第 26 図）。幅 1.32m、深さ 20cm をはかる（第 27 図）。埋土から 17 世紀前半の唐津焼灰釉皿（図版 30- ９）、17 世紀前半の景徳鎮窯系白磁碗（図版 30- ６）、土師質土器１片が出土している。

小溝 014

調査区の北半部、A07 区、第 3a 層上面で検出した（第 26 図）。幅 0.25m、深さ４cm をはかる（第 27 図）。埋土は 2.5Y6/2 灰黄色微砂～シルト。

小溝 015

調査区の北半部、A07 区、第 3a 層上面で検出した（第 26 図）。幅 0.25m、深さ４cm をはかる（第 27 図）。埋土は 2.5Y6/2 灰黄色微砂～シルト。



1. 2.5Y6/4にぶい黄色（細粒砂～）微砂～シルト。径5㎜前後の細礫1～2%混入。植生痕（幅10㎜管状）貫入顕著で，N6.5/0灰色細粒砂～微砂を充填する。
2. 10YR7/5にぶい黄橙色（細粒砂～）微砂～シルト。径5㎜の細礫2～3%混入。植生痕（①と同様）30～40%。
3. 2.5Y6/2灰黄色（細粒砂～）微砂～シルト。〈第5層〉（2.5Y7/1～7/2灰白～灰黄色粗～中粒砂）ブロック10%混入。

1. 2.5Y6/2灰黄色微砂～シルト。酸化マンガン粒全体に含む。

第 27 図　A 調査区第 3a 層上面溝 013、小溝 014・015 断面図 (1/40)

第２節　Ｂ調査区

久宝寺緑地の北西部、Ａ調査区の北側約 200m に位置する（第２図）。幅 1.3m、長さ約 95m の南北方向の調査区である。調査は世界測地系による 10m 区画の地区割りを設定し（南から B01 区、･･･B10 区）、遺物の取り上げ、遺構の位置表示に使用している。調査区の中央部、B03・04 区は南北方向に走行する近現代の流路よって、第６層中（T.P.+4.1m）まで削平を受けていた。調査は工事深度の関係で、周囲に鋼矢板を打設して、北側で T.P.+3.634m、南側で T.P.+4.383m まで実施している。ただし、３ヶ所のマンホール設置部分（北、中央、南）については、それぞれ T.P.+3.086m、T.P.+3.745m、T.P.+4.130m まで調査を実施した。

第１項　基本層序

Ｂ調査区では、第０層から第 12 層の層序を確認している（第 28 ～ 30 図）。層序は基本的にＡ調査区に準拠している（第３・４図）。

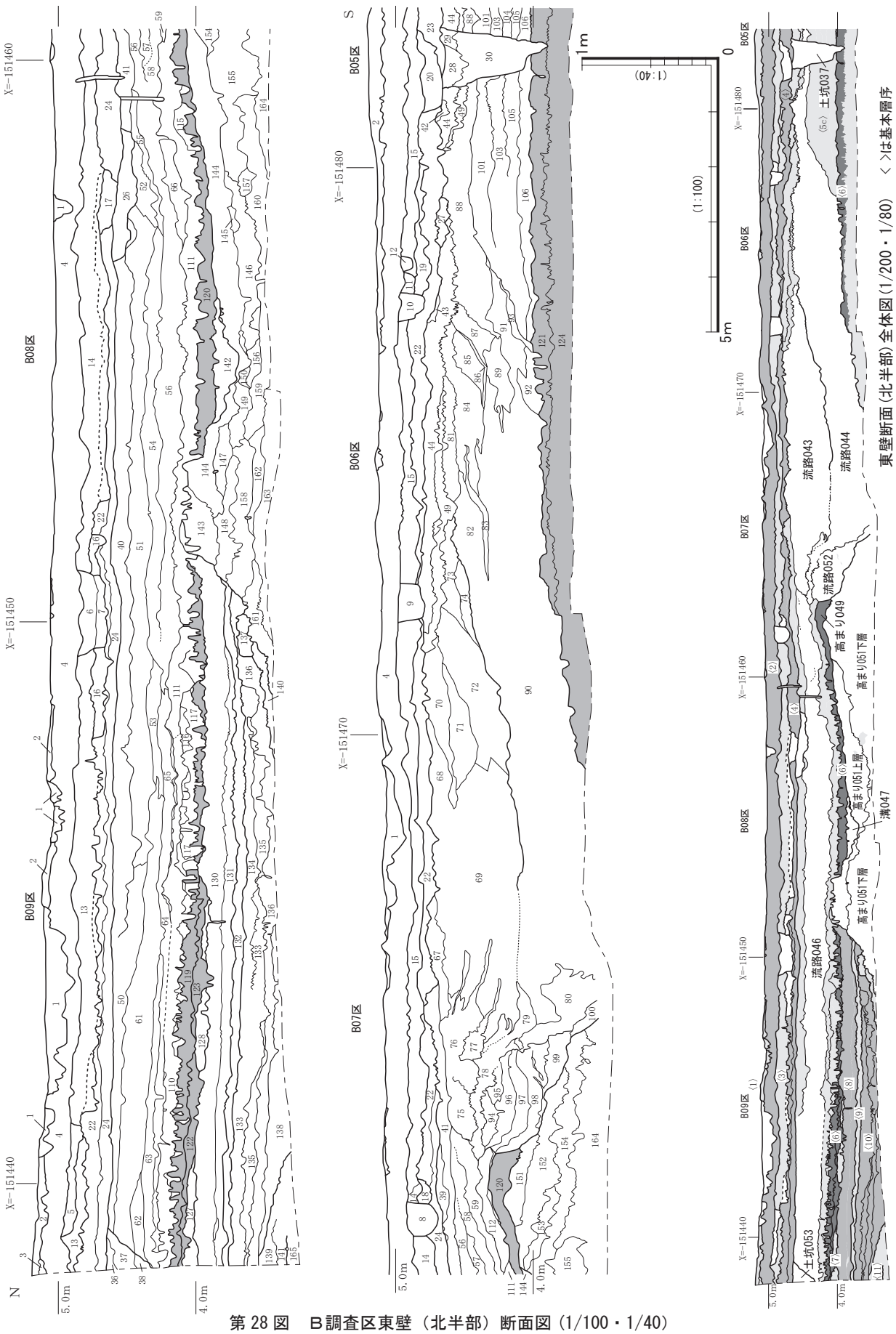
第０層　久宝寺緑地造成時の盛土で、上面の標高は T.P.+6.424 ～ 6.586m、層厚 1.23 ～ 1.58m をはかる（第 28 ～ 29 図－１）。

第１層　久宝寺緑地造成前の旧表土、近現代の耕作土で、上面の標高は T.P.+5.20 ～ 5.05m で、南側へやや傾斜し、層厚２～ 11cm をはかる（第 28 ～ 30 図－２・３）。層中より土師質土器４、景徳鎮窯白磁端反皿（16 世紀末～ 17 世紀前半）１、瓦２片が出土している。

第２層　近世の耕作土で、上面の標高は T.P.+5.09 ～ 4.89m、層厚 16 ～ 22cm をはかる（第 28 ～ 30 図－４）。層中より染付４、青花１、陶磁器４（京・信楽窯系黄褐釉２、18 ～ 19 世紀の伊万里白磁上絵付碗、波佐見焼白磁広東碗）、瓦質土器２、土師質土器 14（羽釜、小皿など）、15 世紀の瀬戸焼香炉１（図版 36-15）、唐津焼碗底部１（第 46 図５、図版 36-13）、瓦４、須恵器２片が出土している。

第３層（灰色微砂～シルト）　上面の標高は T.P.+5.02 ～ 4.88m、層厚８～ 29cm をはかる（第 28 ～ 30 図 -13 ～ 15）。上面で土坑 007、溝 001 ～ 005・054、小溝 006、下面で溝 008・013・015・020・021・023・024、小溝 014・016 ～ 018 を検出している。層中より青花２（17 世紀前半の景徳鎮窯青花瓶、16 世紀後半～ 17 世紀前半の漳州窯青花碗）、染付１、陶磁器２（京焼系碗、14 世紀の備前焼甕）、瓦質土器２、瓦器椀 13、土師質土器 29、白磁１、瓦３片が出土している（図版 36-16 ～ 19）。

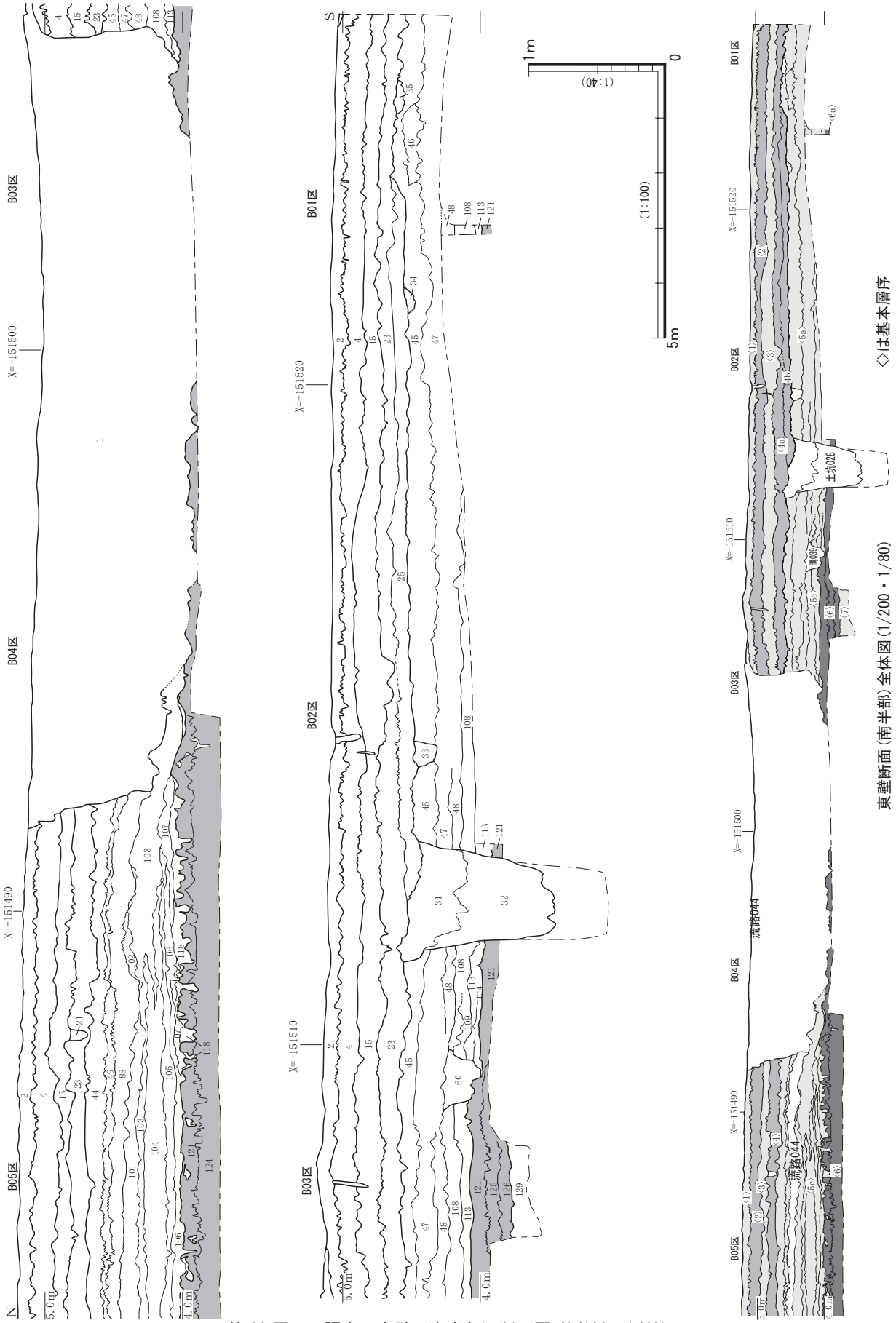
第４層　a・b に分かれる。調査時は第 4a 層を第 4-1 層、第 4b 層を第 4-2 層と呼称していた。第 4a 層（灰色シルトで、全体的に細粒砂を少量含む）上面の標高は T.P.+4.89 ～ 4.68m、層厚４～ 20cm をはかり、南側へ傾斜している（第 28 ～ 30 図 -22・23）。第 4b 層（灰色微砂～シルト）は B08 区以南には認められない。上面の標高は T.P.+4.78 ～ 4.54m、層厚６～ 18cm をはかる（第 28・29 図 -24）。第４層上面で小溝 009 ～ 012・027、溝 019・022・025・026（第 42 図）、下面で土坑 028・031・053、溝 033、035、小溝 034 を検出している（第 39 図）。層中より瓦器 10（12 世紀以前）、土師質土器 39（11 ～ 12 世紀の小皿など）、東播系練鉢１、須恵質土器鉢１、瓦２、７世紀の須恵器坏蓋２片が出土してい



第 28 図　Ｂ調査区東壁（北半部）断面図（1/100・1/40）

B調査区 東壁(北半部)断面図注記

1	第0層	撹乱・整地土
2	第1層	10Y5/1灰色微砂～シルト(全体的に粗～中粒砂微量混入)。酸化鉄斑紋沈着。旧耕土。
3	第1層	10Y6/1灰色微砂～シルト。酸化鉄斑紋沈着。旧耕土床土。
4	第2層	7.5Y5.5/1灰色細粒砂～微砂(～シルト)。全体的に粗～中粒砂微量混入。酸化鉄斑紋・マンガン斑紋沈着。近世作土。
5	溝001	7.5Y5.5/1～6/1灰色(細粒砂～)微砂(～シルト)。
6	溝002上層	10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂～微砂(～シルト)。酸化鉄斑紋沈着により、にぶい黄褐色を呈する。マンガン斑紋あるいは炭化物(粒状)混入により、暗褐色味を帯びる。
7	溝002下層	2.5Y5/2暗灰黄色細粒砂～シルト。酸化鉄斑紋沈着により、斑状に黄褐色を呈する。マンガン斑紋あるいは炭化物(粒状)1～2%混入。
8	溝003	5と同じ。
9	溝004	5と同じ。
10	溝005	10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂～微砂(～シルト)。酸化鉄斑紋沈着顕著。
11	溝054	2.5Y5.5/1黄灰色微砂～シルト(全体的に中～細粒砂2～3%混入)。
12	小溝006	4と同じ。
13	第3層	7.5Y6/1灰色微砂～シルト。7.5Y7/1灰白色細粒砂7～20%混入(場所により偏りがある。部分的に22との層界に顕著に認められる)。酸化鉄斑紋・マンガン斑紋沈着。近世作土。
14	第3層	5Y6/1灰色(細粒砂～)微砂。酸化鉄斑紋沈着顕著で、10YR5/4にぶい黄褐色を呈する。
15	第3層	7.5Y5.5/1灰色(中粒砂～)微砂(～シルト)。微砂(～シルト)に、(中～)細粒砂が7～10%混入。
16	溝019	5Y5.5/1灰色微砂～シルト(細粒砂5～7%、粗粒砂微量混入)。酸化鉄斑紋沈着顕著。
17	溝020下層	2.5Y5/1灰色微砂～シルト(全体的に粗～中粒砂5%前後混入)。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
18	溝022	5Y6/1灰色細粒砂～微砂(～シルト)。
19	溝025	20と同じ。
20	溝026	5Y5/1灰色微砂～シルト(粗粒砂微量混入)。酸化鉄斑紋(粒状)沈着顕著。
22	第4a層	2.5Y5/1黄灰色シルト。酸化鉄・マンガン斑紋沈着。酸化鉄斑紋により、斑状ににぶい黄褐色を呈する。南へ行くほどグライ化が強まる。
23	第4a層	5Y6/1～5/1灰色シルト(全体的に細粒砂を少量含む)。酸化鉄斑紋沈着により、斑状ににぶい黄褐色を呈する。
24	第4b層	5Y6/1灰色微砂～シルト。酸化鉄・マンガン斑紋沈着。
26	溝036	10Y5/1灰色微砂(～シルト)。酸化鉄斑紋・マンガン斑紋(粒状)沈着。にぶい黄橙色を帯びる。
27	溝035下層	2.5Y5.5/1黄灰色(微砂～)シルト。主に下半部に10Y6.5/1灰白色微砂50%混入。酸化鉄斑紋沈着やや顕著。
28	土坑037上層	2.5Y5.5/1黄灰色(微砂)～シルト。酸化鉄斑紋沈着。
29	土坑037中層	2.5Y5.5/1黄灰色微砂～シルト。酸化鉄斑紋沈着。
30	土坑037下層	2.5Y5/1黄灰色微砂ブロック(径30～40mm)と、5Y5.5/1灰色極粗～粗(～中粒砂)のブロック混合土(6:4)。
36	土坑053上層	5Y6/1.5灰色微砂(～シルト)。全体的に粗粒砂微量混入。マンガン斑紋沈着。
37	土坑053中層	2.5Y6/1黄灰色(粗～)中～細粒砂(～シルト)。酸化鉄斑紋(管状)沈着やや顕著。マンガン斑紋(径1～2mm粒状)沈着やや顕著。
38	土坑053下層	2.5Y6/1黄灰色(中～)細～シルト。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
39	第5a層	7.5Y6/1灰色(細粒砂～)微砂～シルト(全体的に粗～中粒砂微量混入)。酸化により灰オリーブ色がかる。酸化鉄斑紋沈着。
40	第5a層	10Y5/1灰色細粒砂～微砂(～シルト)。酸化鉄斑紋、マンガン斑紋(粒状)沈着。
41	第5a層	10Y5.5/1灰色(微砂～)シルト。酸化により10Y7/2灰白色がかる。7.5YR5/6明褐色酸化鉄斑紋(管状)沈着。
42	第5a層	2.5Y5.5/1黄灰色(微砂～)シルト。基本的に44と同じ。
43	第5a層	42とほぼ同じ。
44	第5a層	2.5Y5.5/1黄灰色微砂～シルト(全体的に粗～中粒砂微量混入)。酸化鉄斑紋沈着やや顕著で、10YR6/8明黄褐色を帯びる。幅10mmの乾痕あるいは植生痕と思しき灰白色の貫入が顕著に見られる。
49	第5b層	2.5Y5/1黄灰色微砂～シルト。44と同様の貫入あり。
50	流路046	2.5Y6/1黄灰色(粗～)中～細粒砂(～シルト)。酸化鉄斑紋沈着。
51	流路046	2.5Y5/1.5暗灰黄色シルト。ごく部分的にではあるが、底部に腐植細片が微量混入。7.5YR5/6明褐色酸化鉄斑紋(管状)沈着。マンガン斑紋(粒状)やや顕著。
52	流路046	5Y6/1灰色(微砂～)シルト。酸化のため10YR～2.5Y系黄褐色を帯びる。7.5YR5/6明褐色酸化鉄斑紋(管状)沈着やや顕著。マンガン斑紋(粒状)沈着。
53	流路046	2.5Y5/1黄灰色シルトと5Y6.5/1灰色微砂の互層。平行ラミナが認められる。マンガン斑紋(粒状径1mm)沈着。
54	流路046	5Y6/1灰色微砂～シルト。酸化により2.5Y6/4にぶい黄色に変色。酸化鉄斑紋(7.5YR5/6明褐色管状)沈着。
55	流路046	7.5Y6.5/1灰白色微砂～シルト。酸化により2.5Y系にぶい黄色を帯びる。
56	流路046	10Y5.5/1灰色(微砂～)シルト。酸化により10YR5/6黄褐色がかる。7.5YR5/6明褐色酸化鉄斑紋(管状)沈着やや顕著。
57	流路046	5Y6/1灰色シルト。7.5YR5/6明褐色酸化鉄斑紋(管状)沈着やや顕著。
58	流路046	2.5Y5.5/1黄灰色シルト。7.5YR5/6明褐色酸化鉄斑紋(管状)沈着。
59	流路046	5Y6/1灰色微砂～シルト。酸化により5Y6/2オリーブ灰色を帯びる。7.5YR5/6明褐色酸化鉄斑紋(管状)沈着。
61	流路046	上:5Y5/1.5灰オリーブ色粗粒砂。下:5Y7/1.5灰白色中～細粒砂。平行ラミナ。
62	流路046	7.5Y6.5/1灰白色細粒砂～微砂。平行ラミナ。底部に酸化鉄斑紋集積顕著。
63	流路046	10Y6/1灰色微砂。平行ラミナ。
64	流路046	2.5Y4/1黄灰色シルトと10Y6/1灰色微砂の互層(8:2)。
65	流路046	10Y6/1灰色微砂。
66	流路046	5Y5/1灰色シルト。酸化鉄斑紋(7.5YR4/6褐色管状)沈着。
67	流路043	2.5Y6/1～6/2黄灰～灰黄色微砂(～シルト)。平行ラミナ。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
68	流路043	5Y7/1.5灰白色細粒砂と2.5Y6/4にぶい黄色極粗～粗粒砂の互層。平行ラミナ。酸化鉄斑紋沈着(弱)。
69	流路043	5Y6.5/1～6.5/2灰白色径5mm前後の礫～極粗～粗粒砂。両肩部は[10Y7/1灰白色と5Y6/1灰色細粒砂～微砂との互層]との互層。平行ラミナ。
70	流路043	5Y7/1～7/2灰白色中～細粒砂と10Y6/1灰色細粒砂～微砂の互層。平行ラミナ。酸化鉄斑紋沈着(弱)。
71	流路043	上:5Y6.5/1灰白色中～細粒砂。底部に10Y6/1灰色細～微砂。中:10YR4.5/6にぶい黄褐色径5～3mm礫～粗粒砂。酸化鉄斑紋沈着。下:2.5Y5/4黄褐色中～細粒砂。平行ラミナ。
72	流路043	5Y6/1～6/2灰～灰オリーブ色粗～中粒砂と10Y7/1～6/1灰白～灰色。
73	流路043	5Y5.5/1灰色(細～)微砂(～シルト)。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
74	流路043	5Y6/1灰色粗～中粒砂と10Y6/1灰色微砂～シルトの互層。平行ラミナ。酸化鉄斑紋沈着(弱)。
75	流路043	10Y7/1～6.5/1灰白色微砂～シルト。酸化鉄斑紋(7.5YR5/8明褐色および10YR4/1褐灰色管状)沈着顕著。
76	流路043	10Y7/1～6.5/1灰白色微砂。酸化鉄斑紋(7.5YR5/8明褐色および10YR4/1褐灰色管状)沈着顕著。
77	流路043	10Y7/1～6.5/1灰白色微砂～シルト。酸化鉄斑紋(7.5YR5/8明褐色および10YR4/1褐灰色管状)沈着顕著。
78	流路044	10Y7/1～6.5/1灰白色(細～)微砂と5Y3.5/1オリーブ黒色シルトの互層。平行ラミナ。北端は10Y7/1～6.5/1灰白色微砂～(シルト)。酸化鉄斑紋(7.5YR5/8明褐色および10YR4/1褐灰色管状)沈着顕著。
79	流路044	10Y7/1～6.5/1灰白色と5Y4/1灰色細粒砂～微砂の互層。自然木片微量混入。平行ラミナ。
80	流路044	10Y7/1～6.5/1灰白色微砂～シルト。腐植細片微量混入。
81	流路044	5Y6/1灰色中～細粒砂と微砂～シルトの互層。平行ラミナ。
82	流路044	上:5Y6/1灰色中粒砂(シルト微量混入)。中:5Y7/1～7/2灰白色径5～2mm礫～粗～中粒砂。下:5Y6/4オリーブ黄色中粒砂(シルト微量混入)。
83	流路044	10Y6/1灰色細～微砂と10Y4.5/1灰色微砂～シルトの互層。平行ラミナ。
84	流路044	5Y7/1灰白色微砂と10YR6/1褐灰色微砂～シルトの互層。平行ラミナ。
85	流路044	2.5Y6/1黄灰色微砂。北半5Y7/1灰白色中粒砂と5Y6/1灰色細～微砂の互層。
86	流路044	10YR5.5/1灰色シルト。
87	流路044	2.5Y6.5/1黄灰色微砂。
88	流路044	10Y6.5/1灰白色微砂と2.5Y5/1黄灰色シルトの互層(7:3)。酸化鉄斑紋(管状)。
89	流路044	10Y7/1～6.5/1灰色細粒砂(～微砂)と10Y5/1灰色シルトの互層。腐植粒状径1mm微量混入。平行ラミナ。
90	流路044	5Y7/1～7/2灰白色径10mm礫～極粗～中粒砂。上方細粒化。平行ラミナ。
91	流路044	7.5Y6/1.5灰オリーブ色細粒砂～微砂。腐植粒状径1～2mm微量混入。平行ラミナ。
92	流路044	10Y5.5/1灰色(中～)細粒砂。平行ラミナ。
93	流路044	2.5Y3.5/1黄灰色シルト。腐植微量混入。
94	流路052	5Y5/1灰色シルト。平行ラミナ。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
95	流路052	10Y7/1灰白色と10Y4.5/1灰色(微砂～)シルトの互層。平行ラミナ。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
96	流路052	10Y6.5/1灰白色微砂と10Y4.5/1灰色微砂～シルトの互層。平行ラミナ。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
97	流路052	5Y3.5/1オリーブ黒色シルトと10Y6/1灰色微砂の互層(8:2)。平行ラミナ。炭化物粒径1～2mm微量混入。
98	流路052	5Y3/1オリーブ黒色シルト～粘土とペースト状炭化物の互層(9:1)。平行ラミナ。炭酸ノジュール。
99	流路052	2.5Y4.5/4黄褐色粗～中粒砂。ラミナ。
100	流路052	10Y7/1灰白色極粗粒砂～細粒砂。
101	第5c層	5Y6/1灰色径2～3mm礫(～粗～細粒砂)。
103	第5c層	5Y5.5/1灰色シルトと5Y6/1灰色微砂の互層(4:6)。平行ラミナ。南半部、5Y4/1灰色シルトと10Y6/1灰色微砂の互層(4:6)腐植(ペースト状)混入。部分的に10Y7/1灰白色粗～細粒砂がレンズ状に挟在。南端部、10Y7/1～6/1灰白色極粗～粗(～中粒砂)。
104	第5c層	5Y6.5/1灰白色粗粒砂(～中～細粒砂)と5Y5.5/1灰色微砂の互層(7:3)。
105	第5c層	2.5Y3.5/1黒褐色微砂とシルトの互層。
106	第5c層	10Y7/1灰白色粗～中粒砂(～細粒砂)。平行ラミナ。部分的に底部に2.5Y4/1灰色微砂(～シルト)。
110	第5d層	2.5Y4/1黄灰色シルト。10Y6/1灰色微砂ブロック(切れ切れのラミナのようにも見える)3～5%、2.5Y3/1黒褐色シルト～粘土ブロック(不定形)5～7%混入。作土の可能性あり。
111	第5d層	5Y5/1灰色(微砂～)シルト。上半10YR5/6黄褐色に変色。酸化鉄斑紋(7.5YR4/6褐色管状)沈着。粗粒砂ところどころに混じる。作土の可能性あり。
112	第5d層	5Y5/1灰色シルト。7.5YR5/6明褐色酸化鉄斑紋(管状)沈着。
115	第5d層	5Y4/1灰色シルト。粗粒砂微量混入。酸化鉄斑紋(7.5YR4/6褐色、管状)沈着。
116	第5e層	5Y6/2灰オリーブ色微砂～シルト。
117	第5e層	2.5Y3/1黒褐色シルトと5Y6/1灰色粗粒砂の混合土(5:5)。作土の可能性あり。
119	第6a層	2.5Y3/1黒褐色シルト～粘土(全体的に粗～細粒砂40%混入)。水田作土。
120	第6a層	2.5Y3/1黒褐色シルト～粘土。全体的に極粗～粗粒砂微量混入。炭化物粒状微量混入。



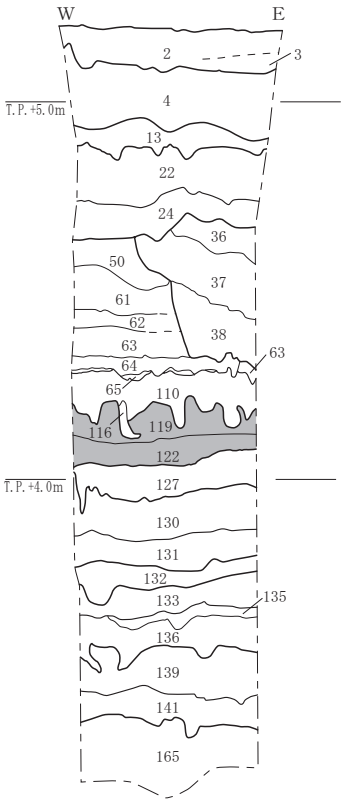
第 29 図　Ｂ調査区東壁（南半部）断面図（1/100・1/40）

B調査区 東壁(北半部)断面図注記

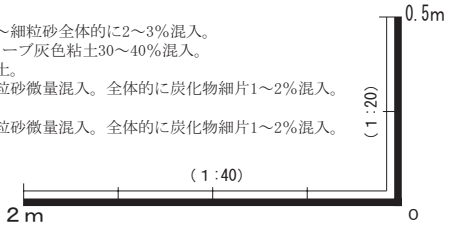
121	第6a層	5Y3.5/1オリーブ黒色シルト～粘土(全体的に粗粒砂微量混入)。南半、グライ化。北半では10YR3.5/1黒褐色、北端では2.5Y3/1黒褐色シルト～粘土。全体的に粗粒砂～細粒砂40%混入。
122	第6b層	2.5Y4/1黄灰色粗～中粒砂とシルトの混合土(8:2)。
123	第6b層	10Y4/1灰色シルト～粘土。全体的に粗粒砂10～15%混入。
124	第6b層	7.5GY4.5/1緑灰色シルト～粘土。炭化物(径5mm粒状)微量混入。
127	第7層	10Y6.5/1.5オリーブ灰色粗～中粒砂と10Y5/1.5灰色シルトの互層(7:3)。
128	第7層	7.5Y5/2灰オリーブ色粗粒砂。酸化鉄斑紋沈着。
130	第8a層	7.5GY4.5/1暗緑灰色シルト～粘土。炭化物ラミナ及び粒状に3～5%混入。上半部はN4/0灰色で暗色化を示す。平行ラミナ。
131	第8b層	10Y3/1オリーブ黒色粘土。腐植微量混入。ラミナ不明瞭。
132	第9層	10Y2.5/1オリーブ黒色粘土。全体的に中～細粒砂1～5%混入。場所により偏りがある。腐植微量混入。
133	第10a層	7.5GY5.5/1緑灰色シルト～粘土。全体的に中～細粒砂2～3%混入。
134	第10a層	5Y3/1オリーブ黒色シルト～粘土。全体的に極粗～粗粒砂2～3%混入。
135	第10b層	7.5Y4/1灰色粗粒砂。2.5GY5.5/1オリーブ灰色粘土30～40%混入。
136	第10c層	2.5GY5.5/1オリーブ灰色シルト～粘土。
137	第10c層	10GY3.5/1暗緑灰色シルト～粘土。全体的に径3～2mm礫20～30%混入。
138	第10d層	10GY5.5/1緑灰色粘土。炭化物ラミナ状に7～10%混入。自然堆積層。
139	第11a層	N3.5/0灰色粘土。全体的に極粗～粗粒砂微量混入。全体的に炭化物細片1～2%混入。
140	第11a層	10Y3.5/1オリーブ黒色粘土。
141	第11b層	N5/0灰色シルト～粘土。
142	溝047	10Y4.5/1灰色シルト～粘土。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
143	高まり051上層	5Y3/1オリーブ黒色シルト～粘土。径2～3mm礫全体的に2～3%混入。炭化物細片(2mm前後)微量混入。酸化鉄斑紋(管状)沈着顕著。
144	高まり051上層	5Y3/1オリーブ黒色シルト～粘土。径2～3mm礫全体的に2～3%混入。炭化物細片(2mm前後)微量混入。酸化鉄斑紋(管状)沈着顕著。マウンド流出土の可能性あり。
145	高まり051上層	10Y4/1灰色シルト～粘土。全体的に径5～2mm細礫1%微量混入。
146	高まり051上層	10GY4/1暗緑灰色シルト～粘土。径5～2mm細礫10～15%混入。
147	高まり051下層	2.5Y4/1黄灰色シルト～粘土。全体的に粗～中粒砂1～2%混入。
148	高まり051下層	2.5Y4/1黄灰色粘土。粗粒砂1～2%混入。10GY6/1緑灰色シルトブロック40%混入。炭酸ノジュール。
149	高まり051下層	2.5Y4/1黄灰色シルト～粘土。極粗～粗粒砂1～2%混入と10GY6/1緑灰色(微砂～)シルトのブロック混合土(5:5)。有機物を含むため、やや暗色がかる。
150	高まり051下層	145とほぼ同じ。
151	高まり051下層	2.5Y4/1～4/2黄灰～暗灰黄色シルト(～粘土)。極粗～粗粒砂微量混入。酸化により変色。炭化物粒状微量混入。
152	高まり051下層	2.5Y4/1黄灰色シルト～粘土。全体的に極粗～粗粒砂1～2%混入。炭化物粒状微量混入。
153	高まり051下層	2.5Y4/1黄灰色径10～3mm礫と2.5Y3.5/1黒褐色シルト～粘土の混合土(8:2)。
154	高まり051下層	2.5Y4/1黄灰色シルト～粘土。全体的に極粗粒砂1～2%混入。酸化鉄斑紋沈着により明黄褐色を呈する。
155	高まり051下層	10GY3.5/1暗緑灰色シルト～粘土。径5mm礫～粗粒砂全体的に30～40%混入。
156	高まり051下層	10Y4/1暗灰色シルト～粘土と5GY6/1オリーブ灰色シルト～粘土のブロック混合土(2:8)。
157	高まり051下層	7.5GY4.5/1緑灰色シルト～粘土。粗粒砂3～5%混入。
158	高まり051下層	10GY3.5/1暗緑灰色シルト～粘土。全体的に径3～2mm礫20～30%混入。
159	高まり051下層	7.5GY5.5/1緑灰色粘土。有機物を含むため、やや暗色がかる。
160	高まり051下層	2.5GY4.5/1オリーブ灰色粘土。
161	高まり051下層	N4/0灰色シルト～粘土に、2.5GY5/1オリーブ灰色シルト(～粘土)(細粒砂5～7%混入)がブロック状に混入20%。
162	高まり051下層	N4/0灰色シルト～粘土(径5mm以下礫～極粗粒砂2～3%混入)に、2.5GY5/1オリーブ灰色シルト(～粘土)(細粒砂5～7%混入)がブロック状に混入20%。
163	高まり051下層	10Y5.5/1灰色細粒砂～微砂。2.5Y4/1灰色粘土ブロック(径10～30mm)3～5%混入。下半:5GY6/1オリーブ灰色シルト～粘土と10Y4/1灰色シルト～粘土のブロック混合土(5:5)。
164	高まり051下層	10GY3.5/1暗緑灰色シルト～粘土。10GY5/1緑灰色微砂～シルトブロック(幅80mm×厚さ10mm・幅20mm×厚さ10mm)1～2%混入。
165	第12a層	N3.5/0灰色粘土。全体的に極粗～粗粒砂微量混入。全体的に炭化物細片1～2%混入。

B調査区 東壁(南半部)断面図注記

1	第0層	撹乱・整地土
2	第1層	10Y5/1灰色微砂～シルト(全体的に粗～中粒砂微量混入)。酸化鉄斑紋沈着。旧耕土。
4	第2層	7.5Y5.5/1灰色細粒砂～微砂(～シルト)。全体的に粗～中粒砂微量混入。酸化鉄斑紋・マンガン斑紋沈着。近世作土。
15	第3層	7.5Y5.5/1灰色(中粒砂～)微砂(～シルト)。微砂(～シルト)に、(中～)細粒砂が全体的に7～10%混入。
21	小溝027	2.5Y5/1黄灰色(細粒砂～)微砂～シルト。酸化鉄斑紋沈着顕著。
23	第4a層	5Y6/1～5/1灰色シルト(全体的に細粒砂を少量含む)。酸化鉄斑紋沈着により、斑状ににぶい黄褐色を呈する。
25	第4b層	5Y6/1～5/1灰色シルト。酸化鉄斑紋沈着により、斑状ににぶい黄褐色を呈する。
31	土坑028上層	5Y5.5/1灰色微砂～シルトと2.5Y5/1.5黄灰色微砂～シルト(全体的に粗～中粒砂少量混入。混入比率には偏りがある)の斑状混合土(5:5)。5Y3.5/1オリーブ黒色シルト～粘土(全体的に粗粒砂微量混入)ブロック3～5%混入。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
32	土坑028下層	10BG4.5/1青灰色シルト～粘土。
33	溝029	5Y5.5/1灰色(微砂～)シルト。45よりシルトの比率が高い。酸化鉄斑紋沈着。
34	溝030	33と同じ。
35	溝032	33と同じ。
44	第5a層	2.5Y5.5/1黄灰色微砂～シルト(全体的に粗～中粒砂微量混入)。酸化鉄斑紋沈着やや顕著で、10YR6/8明黄褐色を帯びる。幅10mmの乾痕あるいは植生痕と思しき灰白色の貫入が顕著に見られる。
45	第5a層	5Y5.5/1灰色微砂～シルト。下半部に中～細粒砂が認められ、上方細粒化している。酸化鉄斑紋沈着。
46	第5a層	7.5Y7/1灰白色細粒砂(～微砂)。酸化鉄斑紋沈着顕著。
47	第5a層	2.5Y5/1.5黄灰色微砂～シルト(全体的に粗～中粒砂少量混入。混入比率には偏りがある)。酸化鉄斑紋(管状)沈着顕著で、黄橙色を帯びる。
48	第5a層	10BG5/1青灰色微砂～シルト。酸化鉄斑紋(管状)沈着やや顕著で黄橙色を帯びる。
49	第5b層	2.5Y5/1黄灰色微砂～シルト。44と同様の貫入あり。
60	溝039	5Y5/1灰色(やや黄灰色がかる)シルト。
88	流路044	10Y6.5/1灰白色微砂と2.5Y5/1黄灰色シルトの互層(7:3)。酸化鉄斑紋(管状)。
101	第5c層	5Y6/1灰色径2～3mm礫(～粗～細粒砂)。
102	第5c層	10Y6/1灰色細粒砂～微砂。
103	第5c層	5Y5.5/1灰色シルトと5Y6/1灰色微砂の互層(4:6)。平行ラミナ。南半部、5Y4/1灰色シルトと10Y6/1灰色微砂の互層(4:6)腐植(ペースト状)混入。部分的に10Y7/1灰白色粗～細粒砂がレンズ状に挟在。南端部、10Y7/1～6/1灰白色極粗～粗(～中粒砂)。
104	第5c層	5Y6.5/1灰白色粗粒砂(～中～細粒砂)と5Y5.5/1灰色微砂の互層(7:3)。
105	第5c層	2.5Y3.5/1黒褐色微砂とシルトの互層。
106	第5c層	10Y7/1灰白色粗～中粒砂(～細粒砂)。平行ラミナ。部分的に底部に2.5Y4/1灰色微砂(～シルト)。第6a層上面の足跡を充填するものもある。
107	第5c層	2.5Y3.5/1黒褐色シルト～粘土(腐植(ペースト状&細片)混入)。10Y7/1灰白色粗～細粒砂が部分的にレンズ状に挟在。
108	第5c層	10BG6/1青灰色粗～中粒砂に、微砂～シルトがレンズ状にところどころ30%混入。酸化鉄斑紋沈着顕著で黄橙色を帯びる。
109	第5c層	10BG7/1明青灰色微砂～シルト。酸化鉄斑紋沈着顕著。部分的に粗粒砂がレンズ状に混入。
113	第5d層	10BG5.5/1青灰色微砂(～シルト)。酸化鉄斑紋(管状ないし斑状)沈着。
114	第5d層	2.5Y6/1にぶい黄色微砂(～シルト)。酸化鉄斑紋沈着。
118	第5e層	10Y6/1灰色粗～細粒砂。
121	第6a層	5Y3.5/1オリーブ黒色シルト～粘土(全体的に粗粒砂微量混入)。南半:グライ化。北半:10YR3.5/1黒褐色、北端:2.5Y3/1黒褐色シルト～粘土。全体的に粗粒砂～細粒砂40%混入。
124	第6b層	7.5GY4.5/1緑灰色シルト～粘土。炭化物(径5mm粒状)微量混入。
125	第6b層	10BG5/1青灰色粘土。炭化物(ペースト状)ラミナ状に数条5～7%程度混入。2.5Y7/1灰白色粘土小斑状に30～40%混入(ブロックではなく、植生痕と思われる)。
126	第6c層	10BG5/1青灰色粘土。2.5Y7/1灰白色粘土小斑状に30～40%混入(ブロックではなく、植生痕と思われる)。
129	第7層相当	10BG4/1暗青灰色極粗～中粒砂とシルト～粘土との混合土。



2	第1層	10Y5/1灰色微砂～シルト(全体的に粗～中粒砂微量混入)。酸化鉄斑紋沈着。旧耕土。
4	第2層	7.5Y5.5/1灰色細粒砂～微砂(～シルト)。全体的に粗～中粒砂微量混入。酸化鉄斑紋・マンガン斑紋沈着。近世作土。
13	第3層	7.5Y6/1灰色微砂～シルト。7.5Y7/1灰白色細粒砂7～20%混入(場所により偏りがある。部分的に22との層界に顕著に認められる)。酸化鉄斑紋・マンガン斑紋沈着。近世作土。
22	第4a層	2.5Y5/1黄灰色シルト。酸化鉄・マンガン斑紋沈着。酸化鉄斑紋により、斑状ににぶい黄褐色を呈する。南へ行くほどグライ化が強まる。
24	第4b層	5Y6/1灰色微砂～シルト。酸化鉄・マンガン斑紋沈着。
36	土坑053上層	5Y6/1.5灰色微砂(～シルト)。全体的に粗粒砂微量混入。マンガン斑紋沈着。
37	土坑053中層	2.5Y6/1黄灰色(粗～)中～細粒砂(～シルト)。酸化鉄斑紋(管状)沈着やや顕著。マンガン斑紋(径1～2mm粒状)沈着やや顕著。
38	土坑053下層	2.5Y6/1黄灰色(中～)細～シルト。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
50	流路046	2.5Y6/1黄灰色(粗～)中～細粒砂(～シルト)。酸化鉄斑紋沈着。
61	流路046	上:5Y5/1.5灰オリーブ色粗粒砂。下:5Y7/1.5灰白色中～細粒砂。平行ラミナが確認される。
62	流路046	7.5Y6.5/1灰白色細粒砂～微砂。平行ラミナ。底部に酸化鉄斑紋集積顕著。
63	流路046	10Y6/1灰色微砂。平行ラミナ。
64	流路046	2.5Y4/1黄灰色シルトと10Y6/1灰色微砂の互層(8:2)。
65	流路046	10Y6/1灰色微砂。
110	第5d層	2.5Y4/1黄灰色シルト。10Y6/1灰色微砂ブロック(切れ切れのラミナのようにも見える)3～5%、2.5Y3/1黒褐色シルト～粘土ブロック(不定形)5～7%混入。作土の可能性あり。
111	第5d層	5Y5/1灰色(微砂～)シルト。上半10YR5/6黄褐色に変色。酸化鉄斑紋(7.5YR4/6褐色管状)沈着。粗砂ところどころに混じる。作土の可能性あり。
116	第5e層	5Y6/2灰オリーブ色微砂～シルト。
119	第6a層	2.5Y3/1黒褐色シルト～粘土(全体的に粗～細粒砂40%混入)。水田作土。
122	第6b層	2.5Y4/1黄灰色粗～中粒砂とシルトの混合土(8:2)。
127	第7層	10Y6.5/1.5オリーブ灰色粗～中粒砂と10Y5/1.5灰色シルトの互層(7:3)。
130	第8a層	7.5GY4.5/1暗緑灰色シルト～粘土。炭化物ラミナ及び粒状に3～5%混入。上半部はN4/0灰色で暗色化を示す。平行ラミナ。
131	第8b層	10Y3/1オリーブ黒色粘土。腐植微量混入。ラミナ不明瞭。
132	第9層	10Y2.5/1オリーブ黒色粘土。全体的に中～細粒砂1～5%混入。場所により偏りがある。腐植微量混入。
133	第10a層	7.5GY5.5/1緑灰色シルト～粘土。中～細粒砂全体的に2～3%混入。
135	第10b層	7.5Y4/1灰色粗粒砂。2.5GY5.5/1オリーブ灰色粘土30～40%混入。
136	第10c層	2.5GY5.5/1オリーブ灰色シルト～粘土。
139	第11a層	N3.5/0灰色粘土。全体的に極粗～粗粒砂微量混入。全体的に炭化物細片1～2%混入。
141	第11b層	N5/0灰色シルト～粘土。
165	第12a層	N3.5/0灰色粘土。全体的に極粗～粗粒砂微量混入。全体的に炭化物細片1～2%混入。



第 30 図　Ｂ調査区北壁断面図 (1/40・1/20)

る（第 46 図－１～４、図版 36－１・３・５～ 11)。なお、14 世紀の瓦器椀１片が出土しているが、混入と思われる。

第５層　ａ～ｅに分かれる。第 5a 層（灰色微砂～シルト）上面の標高は T.P.+4.82 ～ 4.55m、層厚 10 ～ 40cm をはかる（第 28・29 図 -39 ～ 48)。層中より、土師器３、須恵器（５世紀後半の坏）１片が出土している（図版 34-11)。上面で土坑 037・038、溝 029・030・032・036 を検出している（第 39 図、図版 8a・b)。第 5b 層（黄灰色微砂～シルト）上面の標高は T.P.+4.82 ～ 4.52m、層厚７～ 36cm をはかる（第 28・29 図 -49)。層中より土師器７、須恵器（５世紀）９片が出土している（第 35 図６・８、図版 34－９・13・14)。第 5b 層下面で流路 043・044・046・052 を検出している（第 34 図)。第 5c 層（灰白色粗～中粒砂～細粒砂）上面の標高は、北半部で T.P.+4.49m、南半部で T.P.+4.0 ～ 4.49m、層厚 10 ～ 46cm をはかる（第 28・29 図 -101 ～ 109)。層中より弥生土器５、土師器 137 片が出土している（第 35 図４・５、図版 33－１・４・６・７)。上面で溝 039 を検出している（第 34 図、図版 7-c)。B01 区以南は予定掘削面に達していたため未調査である。第 5d 層（にぶい黄色微砂～シルト）上面の標高は、北半部で T.P.+4.05 ～ 4.42m、南半部で T.P.+4.0 ～ 4.2m、層厚５～ 20cm をはかる（第 28 ～ 30 図 -110 ～ 115)。第 5e 層（黒褐色シルトと 5Y6/1 灰色粗粒砂の混合土）上面の標高は、北半部で T.P.+4.07 ～ 4.16m、南半部で T.P.+3.98 ～ 4.12m、層厚２～ 18cm をはかる（第 28 ～ 30 図 -116 ～ 118)。耕作土の可能性が考えられる。

第６層　ａ～ｃに分かれる。第 6a 層（黒褐色シルト～粘土）上面の標高は、北半部で T.P.+3.96 ～

4.33m、南半部でT.P.+4.0～4.10m、層厚６～18cmをはかる（第28～30図-119～121）。上面で畦畔040～042、高まり049、下面で溝047を検出している（第34図、図版7b）。第6b層（緑灰色シルト～粘土）上面の標高は、北半部でT.P.+4.14～3.88m、南半部でT.P.+3.86～3.98m、層厚10～20cmをはかる（第28～30図-122～125）。第6c層（青灰色粘土）上面の標高はT.P.+3.88m、層厚10cmをはかる（第29図-126）。なお、第6a層の形成時期は、Ａ調査区で出土した布留形甕（第13図）から古墳時代前期前半と考えられる。

第７層（オリーブ灰色粗～中粒砂と灰色シルトの互層）上面の標高は、北半部でT.P.+3.92～4.10m、南半部でT.P.+3.78m、層厚10～20cmをはかる。南側に向かって傾斜する（第28～30図-127～129）。Ａ調査区より20～30cmほど標高が低い。B07区以南は予定掘削面に達していたため未調査で、B08区以北については、高まり051の部分では未確認である。B03区の深掘り部分（マンホール設置T.P.+3.8m）で、弥生時代後期～古墳時代初頭の底部片（第35図２、図版32-６）が出土している。

第８層　ａ・ｂに分かれる。第8a層（暗緑灰色シルト～粘土。炭化物ラミナ）上面の標高は、北半部でT.P.+3.98～4.08m、層厚10～20mをはかる（第28・29図-130）。第8b層（オリーブ黒色粘土。腐植微量混入）上面の標高は、北半部でT.P.+3.78～3.88m、層厚7～10cmをはかる（第28・30図-131）。層中より弥生土器壺１片、木製品２点が出土している（図版7-a）。１点は板状の加工材で、もう１点（図版39-8）は１辺を柄状に加工したもので、長さ24.5cm、幅12cm、厚さ1.5cmをはかる。

第９層（オリーブ黒色粘土）上面の標高は、北半部でT.P.+3.82～3.70m、層厚６～８cmをはかる（第28・30図-132）。

第10層　ａ～ｄに分かれる。第10a層（緑灰色シルト～粘土）上面の標高はT.P.+3.65～3.76m、層厚５～22cmをはかる（第28・30図-133・134）。第10b層（灰色粗粒砂）上面の標高はT.P.+3.52～3.68m、層厚４～12cmをはかる（第28・30図-135）。第10c層（オリーブ灰色シルト～粘土）上面の標高はT.P.+3.5～3.78m、層厚５～18cmをはかる（第28・30図-136・137）。第10d層（緑灰色粘土）上面の標高はT.P.+3.4～3.55m、層厚４～20cmをはかる（第28図-138）。自然堆積土である。第10層中より弥生土器１片が出土している。

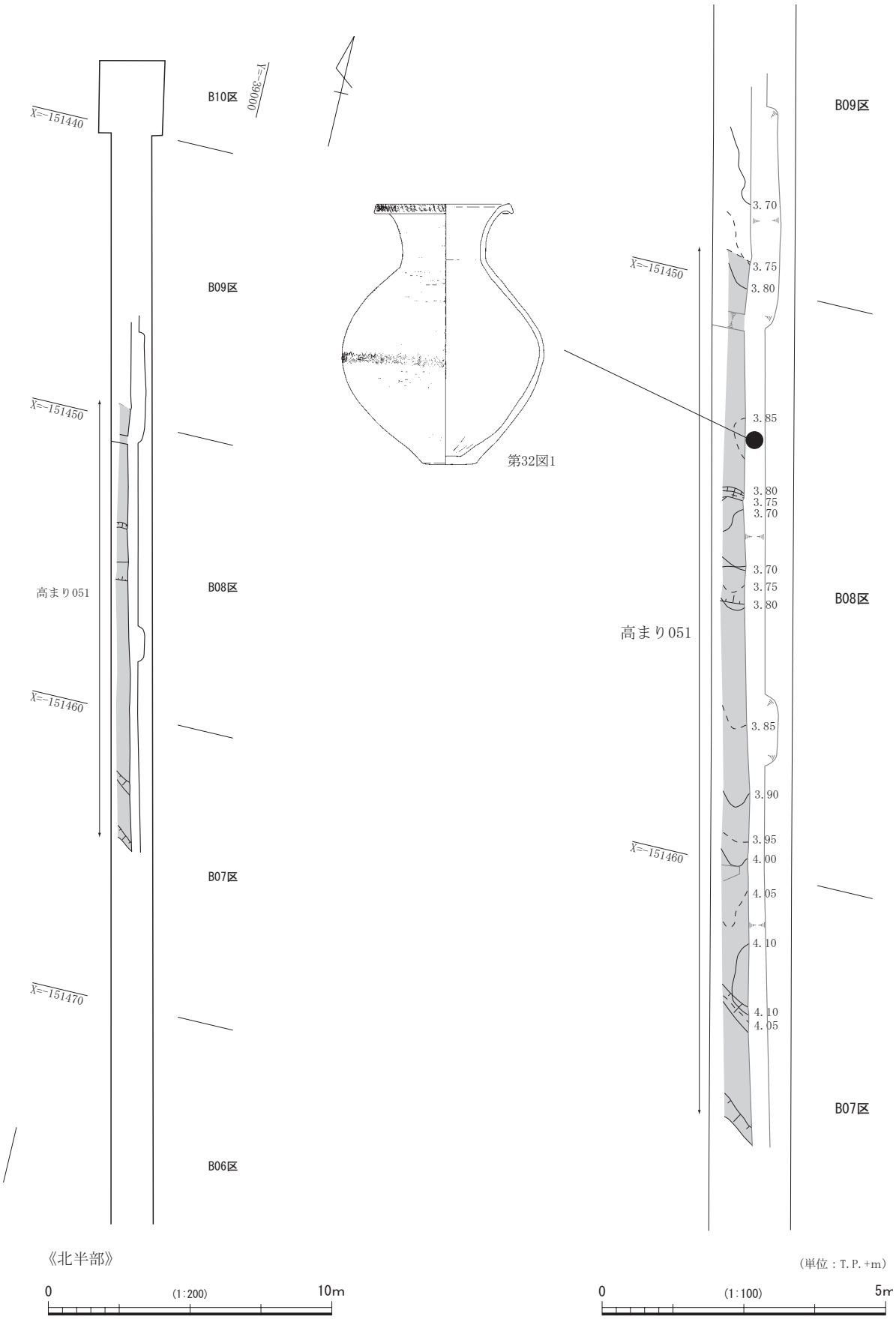
第11層　ａ・ｂに分かれる。B09区以南は予定掘削面に達していたため未調査である。第11a層（オリーブ黒色粘土）上面の標高はT.P.+3.32～3.60m、層厚４～14cmをはかる（第28・30図-139・140）。第11b層（灰色シルト～粘土）上面の標高はT.P.+3.41～3.47m、層厚７～10cmをはかる（第28・30図-141）。第11a層下～上面で高まり051を検出している（第31図、図版６）。

第12a層（灰色粘土。全体的に極粗～粗粒砂微量混入）上面の標高はT.P.+3.33～3.38m、層厚８～20cmをはかる（第28・30図-165）。B09区以南は予定掘削面に達していたため未調査である。

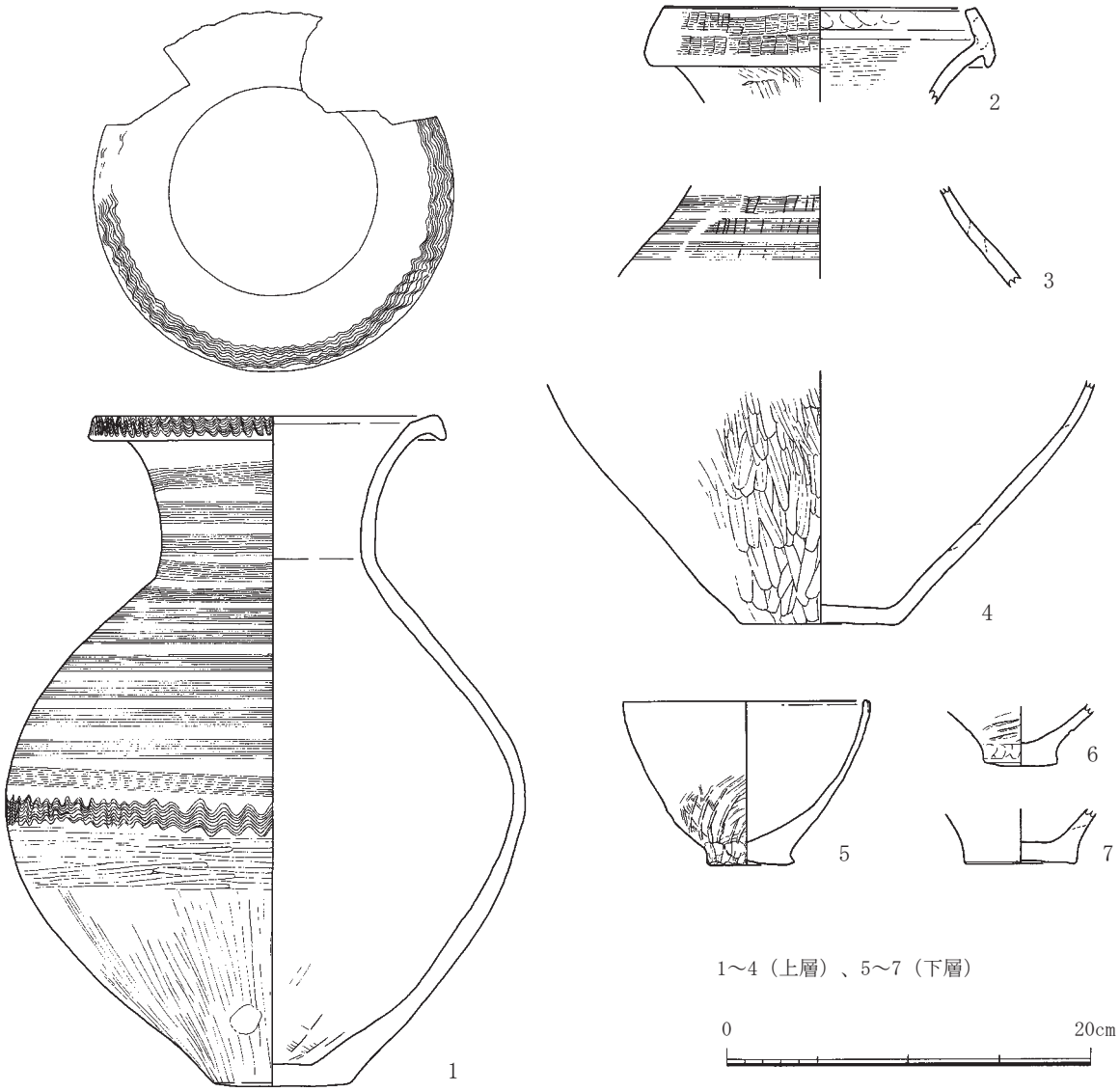
第２項　検出された遺構と遺物

（１）第11層下～上面（弥生時代中期中頃～後期）

調査区の北半部で、高まり051を検出している（第31図、図版６）。高まり051の最上面の標高はT.P.+4.1mである（第28図-143～164）。



第 31 図　Ｂ調査区第 11 層下面遺構平面図 (1/200)・高まり 051 等高線図 (1/100)



第 32 図　Ｂ調査区第 11 層下面高まり 051 出土土器 (1/4)

高まり 051

調査区北半部、B07 ～ 09 区で検出した。南側は流路 052・044 によって切られている（第 28 図）。現状で南北 16m、東西 1.4m 以上、高さ約 77cm をはかる（第 31 図）。高まり 051 は上下２層に分けられ、出土遺物から、上層（第 28 図 -143 ～ 146）は弥生時代後期、下層は弥生時代中期中頃に比定でき、下層（第 28 図 -147 ～ 164）の形成は供献土器（第 32 図－１）から判断して、方形周溝墓マウンド及びマウンドの流失土によるものと考えられる。

＜出土遺物＞（第 32 図－１～７、図版 31・32）

１～４は下層、５～７は上層から出土した。１は広口壺で、口径 19.1cm、器高 36.7cm をはかる。口縁端部外面および口縁部内面上位に櫛描波状文各１帯、頸部外面から体部中位にかけて櫛描直線文 12 帯、最下端に櫛描波状文１帯を巡らしている。色調は 5YR7/4 にぶい橙色を呈する。口縁部は打ち欠き、底部に穿孔を施している。調整は体部中位は横ヘラミガキ、下半から底部外面は縦方向のヘラミガキ調

整を施す。第 28 図 -158 から横位の状態（T.P.+3.774m）で出土した（第 31 図、図版 6-c）。２は複合口縁壺で、口径 17cm をはかり、口縁部外面に櫛描廉状文２帯を巡らしている。内外面ハケメ調整で、胎土は生駒西麓産である。第 28 図 -149 から出土した（T.P.+3.66m）。３は壺の体部片で、外面に櫛描廉状文 3 帯以上を巡らし、内面の調整は指ナデ後にハケメ？調整を施している。胎土は生駒西麓産である。第 28 図 -147 から出土した。４は壺の体部片で、底径 9.9cm をはかり、外面は縦方向の幅広のヘラミガキ調整を施している。第 28 図 -152 から出土した。５・６は弥生時代後期の鉢で、第 28 図 -146 から出土した。５は口径 13.5cm、器高 9cm、底径 4.85cm をはかる。外面はタタキメ後に一部ハケメ調整を施す。６は底部片で、底径 3.95cm をはかり、調整は５に同じ。７は甕の底部片で、底径 6.0cm をはかり、調整については摩耗のため不明である。第 28 図 -144 から出土した。

（２）第 6a 層上面～第 6a 層下面（古墳時代初頭～前期）

第 6a 層上面で畦畔 040 ～ 042、高まり 049、第 6a 層下面で溝 047 を検出した（第 34 図、図版 7b）。第 6a 層は流路 043・044 を境に段を形成し、上面の標高は、北半部で T.P.+4.0 ～ 4.33m、南半部で T.P.+4.0 ～ 4.06m をはかる（第 28 図）。

畦畔 040・041

調査区中央部、B04 区で検出した北西 - 南東方向の畦畔である。畦畔 040 は幅 1.0m、高さ 3.3cm、畦畔 041 は幅 0.6m、高さ 1.7cm をはかる。

畦畔 042

畦畔 041 の南側で検出した大畦畔で、南側は近現代の旧流路によって削平を受けている。幅 1.4m 以上、高さ 13.7cm をはかる。

高まり 049

調査区北半部、B07 ～ 08 区で検出した。当初は流路 044 に伴う北側の堤と考えていたが、第 6a 層上面での大畦畔の可能性も考えられる（第 28 図 -120）。

溝 047

調査区北半部、B08 区で検出した。幅 2.0m、深さ 24cm をはかる。埋土は 10Y4.5/1 灰色シルト～粘土で、酸化鉄斑紋（管状）沈着（第 28 図 -142）。

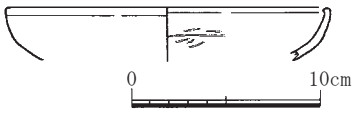
（３）第 5b 層下面～第 5c 層上面（古墳時代前期～中期）

第 5b 層下面で流路 043・044・046・052、第 5c 層上面から溝 039 を検出した（第 34 図、図版 7c）。第 5c 層上面の標高 4.47m をはかる。

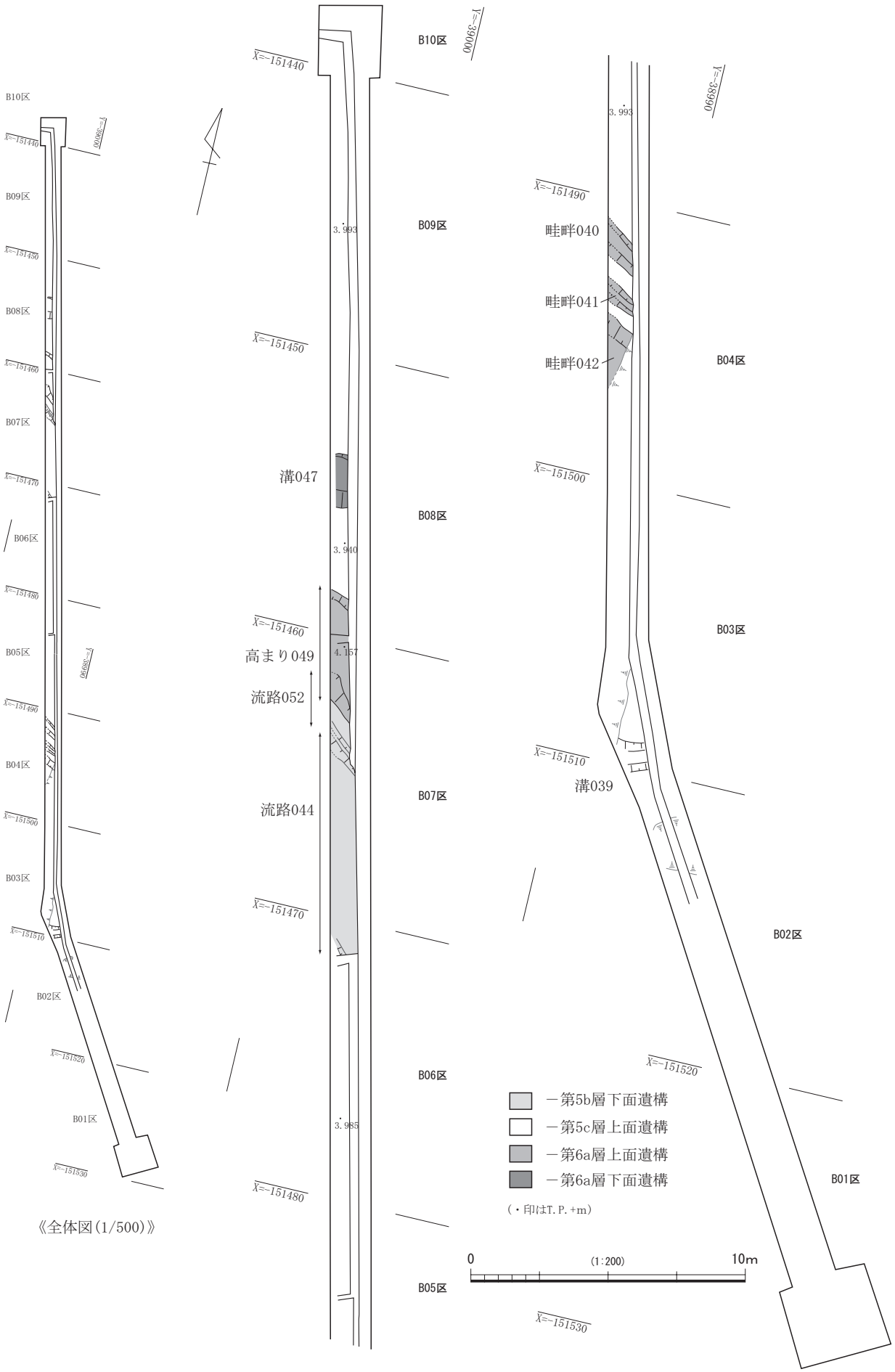
なお、流路 043・044・046・052 については流路として判明する以前は、出土遺物の取り上げは第 5c 層として扱っていた。KM00-5・6 の「5B 層」、1985 年度の「第 5 層」に対応する。

流路 043

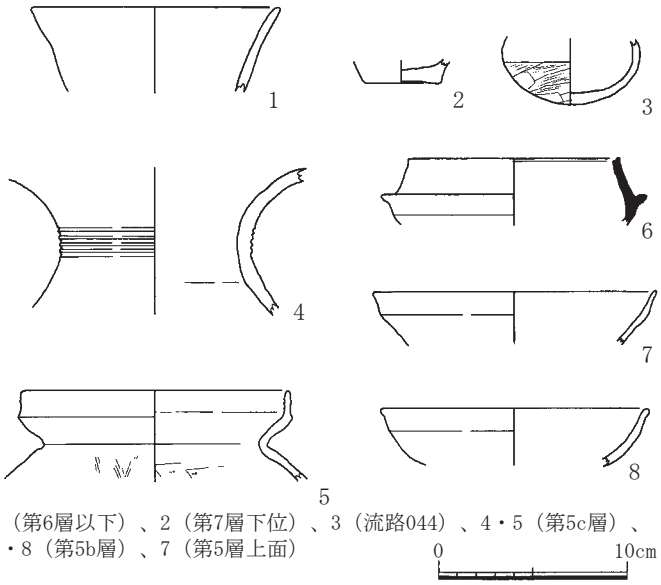
B06 ～ 07 区で検出した。幅 6.0m 以上、深さ 56cm をはかる北西 - 南東方向の流路で、流路 044 を切る（第 28 図 -67 ～ 77）。埋土か



第 33 図　B 調査区第 5b 層下面流路 043 出土土器 (1/4)



第 34 図　Ｂ調査区第 5b 層下面～第 6a 層下面遺構平面図 (1/200)



1（第6層以下）、2（第7層下位）、3（流路044）、4・5（第5c層）、6・8（第5b層）、7（第5層上面）

第 35 図　Ｂ調査区流路 044、包含層出土土器 (1/4)

ら土師器３片が出土している。

＜出土遺物＞（第 33 図、図版 34-8）

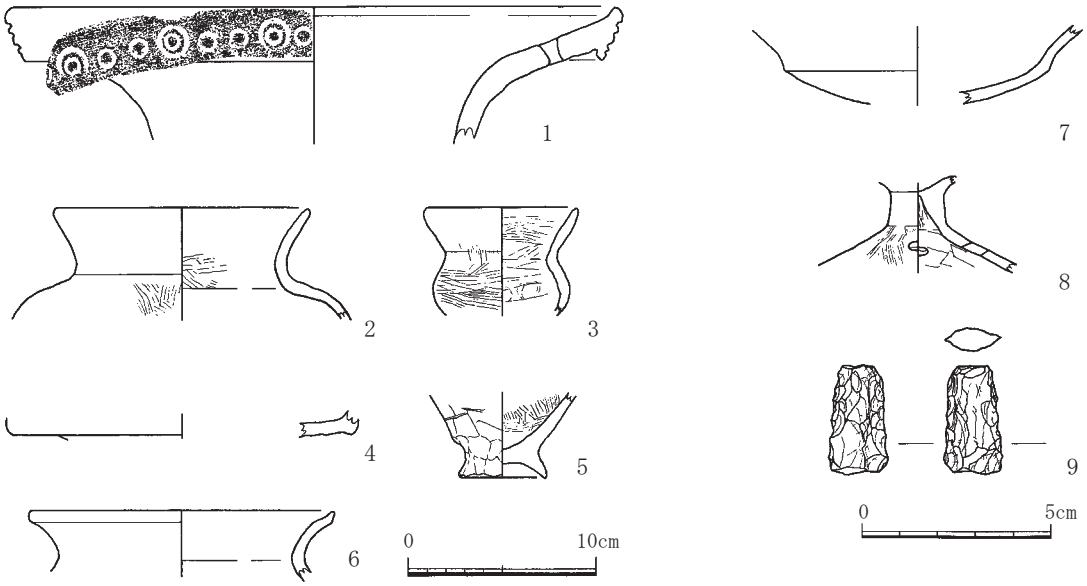
土師器坏で、口径 17cm をはかり、口縁端部は内側に肥厚する。体部内面はミガキを施している。鋼矢板際で出土したため、上層からの混入品と考えられる。

流路 044

B06 ～ 07 区で検出した（第 34 図）。幅 8.0m 以上、深さ 71cm 以上をはかる北西－南東方向の流路で、流路 043 に切られ、第 5c 層を切る（第 28・29 図 -78 ～ 93）。埋土中より土師器 135、弥生土器２、石槍１、サヌカイト１片が出土している。

＜出土遺物＞（第 36 図－１～９、第 35 図－３、図版 33・34）

１・７は弥生土器、２～６・８、第 35 図３は土師器、９は石槍である。１は口径 32cm をはかる器台で、口縁端部外面に竹管文によるスタンプ「二重１＋一重２」を１単位として巡らしている。胎土は生駒西麓産である。２は口径 13.4cm をはかる壺形土器である。第 36 図３、第 35 図３は小型丸底壺で、第 36 図３は口径 8cm をはかる。口縁部内面は不定方向のハケメ、外面はヨコナデ、体部外面は横方向のハケメ、内面はケズリ後にナデ調整を施している。第 35 図３は底部片である。４は二重口縁壺の口縁部片である。５は鉢で底径 4.5cm をはかる。内面はハケメ、外面はケズリ後にナデ調整を施している。６は甕で口径 15cm をはかる。口縁部端部を上方につまみあげている。７は高坏の坏部片である。８、図版 34- ６は椀形高坏の脚部片で、８は裾部外面はハケメ、内面はヘラケズリ調整を施している。円形透孔を二方向に穿つ。９は石槍片で、残存長 2.8cm、最大幅 1.45cm をはかる。



第 36 図　Ｂ調査区第 5b 層下面流路 044 出土土器 (1/4)・石器 (1/2)

流路 046・052

流路 046 は B07 区の以北で検出した（第 34 図）。流路 043 を切る（第 28・30 図 -50 ～ 59・61 ～ 66）。流路 052 は、流路 044 に切られ、北肩部分のみ残存する（第 28 図 -94 ～ 100）。

溝 039

調査区南半部、B02 ～ 03 区、第 5c 層上面で検出した東西方向の溝で、幅 1.10m、深さ 30cm をはかる。（第 34 図）。埋土は 5Y5/1 灰色（黄灰色がかる）シルト（第 29 図 -60）で、土師器３片が出土している。

（４）第４層下面および第 5a 層上面（古代～中世）

第４層下面から土坑 028・031・053、溝 033、035、小溝 034、第 5a 層上面から土坑 037・038、溝 029・030・032・036 を検出した（第 39 図、図版８）。第 5a 層上面の標高 T.P.+4.58 ～ 4.84m である。

土坑 028

調査区南半部、B02 区で検出した（第 39 図）。平面プランは隅丸長方形で、西側及び東側の一部は調査区外に伸びる。規模は南北 2.1m、東西 1.5m 以上、深さ 111cm をはかり、井戸の可能性も考えられる。埋土は上下２層に分けられる（第 29 図 -31･32）。上層から土師質土器 18 片、須恵器７片（６世紀以降）が出土している。

＜出土遺物＞（第 37 図－１、図版 35- ５～７）

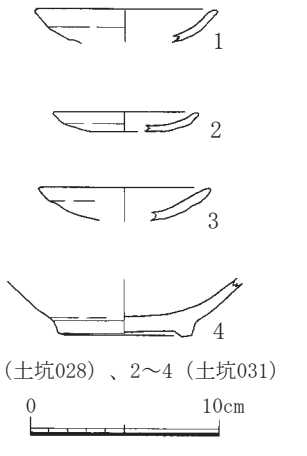
１（図版 11-7）は 12 世紀の土師質小皿で、口径 9.4cm をはかる。図版 11- ６は須恵器体部片、図版 11-5 は６世紀の須恵器坏身片である。

土坑 031

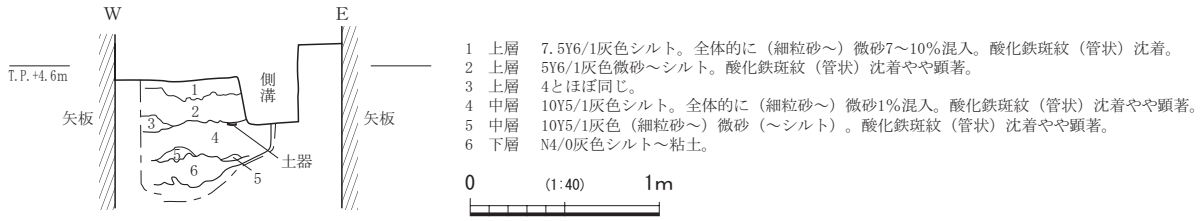
調査区の南半部、B01 区で検出した（第 39 図）。平面プランは隅丸方形で、西側は調査区外に伸びる。規模は 1.35 × 0.7m 以上、深さ 58cm をはかる（第 38 図）。埋土は大きく３つに分けられ、上層は第４層系で、中層から土師質小皿９片、黒色土器Ｂ類椀１片、下層（T.P.+4.12m）から白磁碗底部が出土した（図版 8-d）。

＜出土遺物＞（第 37 図－２～４、図版 35）

２・３は土師質小皿で、２は口径 7.4cm、器高１cm をはかる。３は口径 8.8cm をはかり、口縁部をやや肥厚させている。４は 12 世紀中～後半の閩南沿岸窯白磁碗で、底径７cm をはかる。

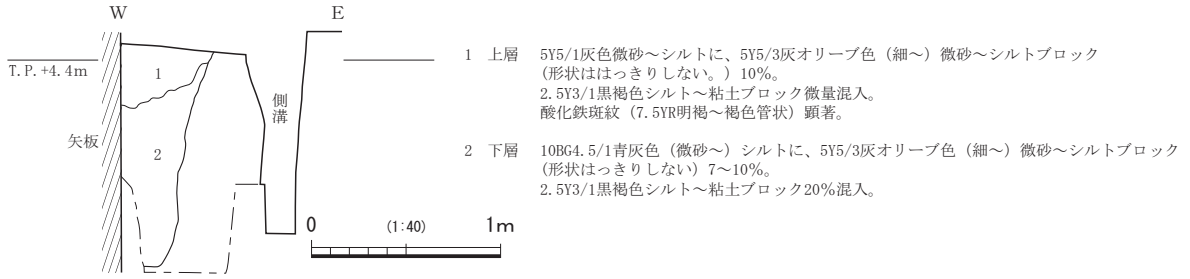


第 37 図　Ｂ調査区
土坑 028･031 出土土器 (1/4)



第 38 図　Ｂ調査区第４層下面土坑 031 断面図 (1/40)

第 39 図　Ｂ調査区第４層下面～第 5a 層上面平面図 (1/200)



第 40 図　Ｂ調査区第 5a 層上面土坑 038 断面図 (1/40)

土坑 053

調査区の北端、B09 区、第 4b 層下面で検出した。流路 046 を切る（第 30 図 -36 ～ 38)。

土坑 037

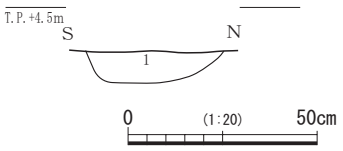
調査区中央部の南寄り、B05 区で検出した。東側は調査区外に伸びる。東西 1.5m 以上、南北 0.7m、深さ 78cm をはかる（第 28 図 -28 ～ 30)。

土坑 038

調査区北半部、B07 ～ 08 区で検出した。西側は調査区外に伸びる。東西 0.5m 以上、南北 0.8m、深さ 118cm をはかる。埋土は上下 2 層に分けられる（第 40 図)。

溝 029

調査区南半部、B02 区で検出した東西方向の溝で、幅 0.26 ～ 0.46m、深さ 18cm をはかる（第 29 図 -33、第 41 図)。



1 5Y5.5/1灰色(微砂～)シルト。酸化鉄斑紋沈着。

第 41 図　Ｂ調査区第 5a 層上面溝 029 断面図 (1/20)

溝 030・032

調査区南半部、B01 区で検出した東西方向の溝で、溝 030 は幅 0.48m、深さ 9 cm をはかり、埋土は 5Y5.5/1 灰色（微砂～）シルト（第 29 図 -34)。溝 032 は幅 0.63m、深さ 10cm をはかり、埋土は 5Y5.5/1 灰色（微砂～）シルト（第 29 図 -35)。

溝 033・小溝 034

調査区中央部の南寄り、B04 ～ 05 区で検出した。東側は近現代の流路(第 29 図－１)によって切られる。溝 033 は幅 2.5m、深さ 9 cm をはかり、埋土は 5Y6/1 ～ 5/1 灰色シルト (全体的に粗粒砂を少量含む)。小溝 034 は幅 0.2 ～ 0.25m、深さ 7 cm をはかり、埋土は 5Y6/1 ～ 5/1 灰色シルト (全体的に細粒砂を少量含む) で、酸化鉄斑紋沈着により、にぶい黄褐色を呈する。

溝 035

調査区北半部、B05 ～ 06 区で検出した東西方向の溝で、幅 2.5m、深さ 11cm をはかる。埋土は上下２層に分かれ、上層は第 4a 層 (第 28 図 -22) で、2.5Y5/1 黄灰色シルト。下層は 2.5Y5.5/1 黄灰色 (微砂～) シルトで、下半部に 10Y6.5/1 灰白色微砂 50%混入(第 28 図 -27)。埋土から土師器１片が出土している。

溝 036

B08 区で検出した東西方向の溝で、幅 2.2 ～ 2.4m、深さ 19cm をはかる。埋土は 10Y5/1 灰色微砂～シルト（第 28 図 -26)。層中より土師器１片が出土している。

（５）第３層下面～第４層上面（近世～中世）

第３層下面で溝 008・013・015・020・021・023・024、小溝 014・016 ～ 018、第４層上面で小溝 009 ～ 012・027、溝 019・022・025・026 を検出した（第 42 図、図版 8-e）。検出面の標高は T.P.+4.70 ～ 4.90m で、溝及び小溝はいずれも耕作に関連する遺構と考えられる。

溝 008

B02 区で検出した東西方向の溝で、幅 0.7 ～ 0.88m、深さ 10cm をはかる。埋土は第３層系で、7.5Y5.5/1 灰色微砂（～シルト）に、（中～）細粒砂が全体的に７～ 10%混入。

溝 013・015

B09 区で検出した東西方向の溝で、溝 013 は幅 1.25m、深さ 13cm をはかる。溝 015 は幅 1.15 ～ 1.5m、深さ６cm をはかる。埋土は第３層系で、7.5Y6/1 灰色　微砂～シルトに、7.5Y7/1 灰白色細粒砂７～ 20%混入。

溝 019

B08 ～ 09 区で検出した東西方向の溝で、幅 3.9m、深さ 21cm をはかる。第３層上面の溝 002 に切られる。埋土は 5Y5.5/1 灰色微砂～シルトに、細粒砂５～７％、粗粒砂微量混入（第 28 図 -16）。

溝 020

B08 区で検出した東西方向の溝で幅 6.2m、深さ 13cm をはかる。埋土は２つに分かれ、上層は第３層系で、5Y6/1 灰色（細粒砂～）微砂。下層は第４層系で、2.5Y5/1 黄灰色微砂～シルトに全体的に粗～中粒砂５％前後混入（第 28 図 -17）。埋土から陶磁器２、瓦器椀３、白磁１、唐津焼１片が出土している。

＜出土遺物＞（図版 35-9・10・12）

９は白磁、10 は 13 世紀の瓦器椀、12 は 16 世紀末～ 17 世紀前半の唐津焼藁灰釉壺または徳利で、内面に同心円文タタキメが残る。外面の色調は 10GY7/1 明緑灰色、内面は 5Y7/1 灰白色を呈する。

溝 021

B07 区で検出した東西方向の溝で、幅 1.0m、深さ 10cm をはかる。埋土は第３層系で、5Y6/1 灰色（細粒砂～）微砂。

溝 022

B07 区で検出した東西方向の溝で、幅 0.5m、深さ 11cm をはかる。第３層上面の溝 003 に切られる。埋土は 5Y6/1 灰色細粒砂～微砂（～シルト）（第 28 図 -18）で、瓦１片が出土している。

溝 023

B07 区で検出した東西方向の溝で、幅 0.74m、深さ 14cm をはかる。埋土は第３層系で、7.5Y5.5/1 灰色微砂～シルトに、中～細粒砂が全体的に７～ 10%混入。

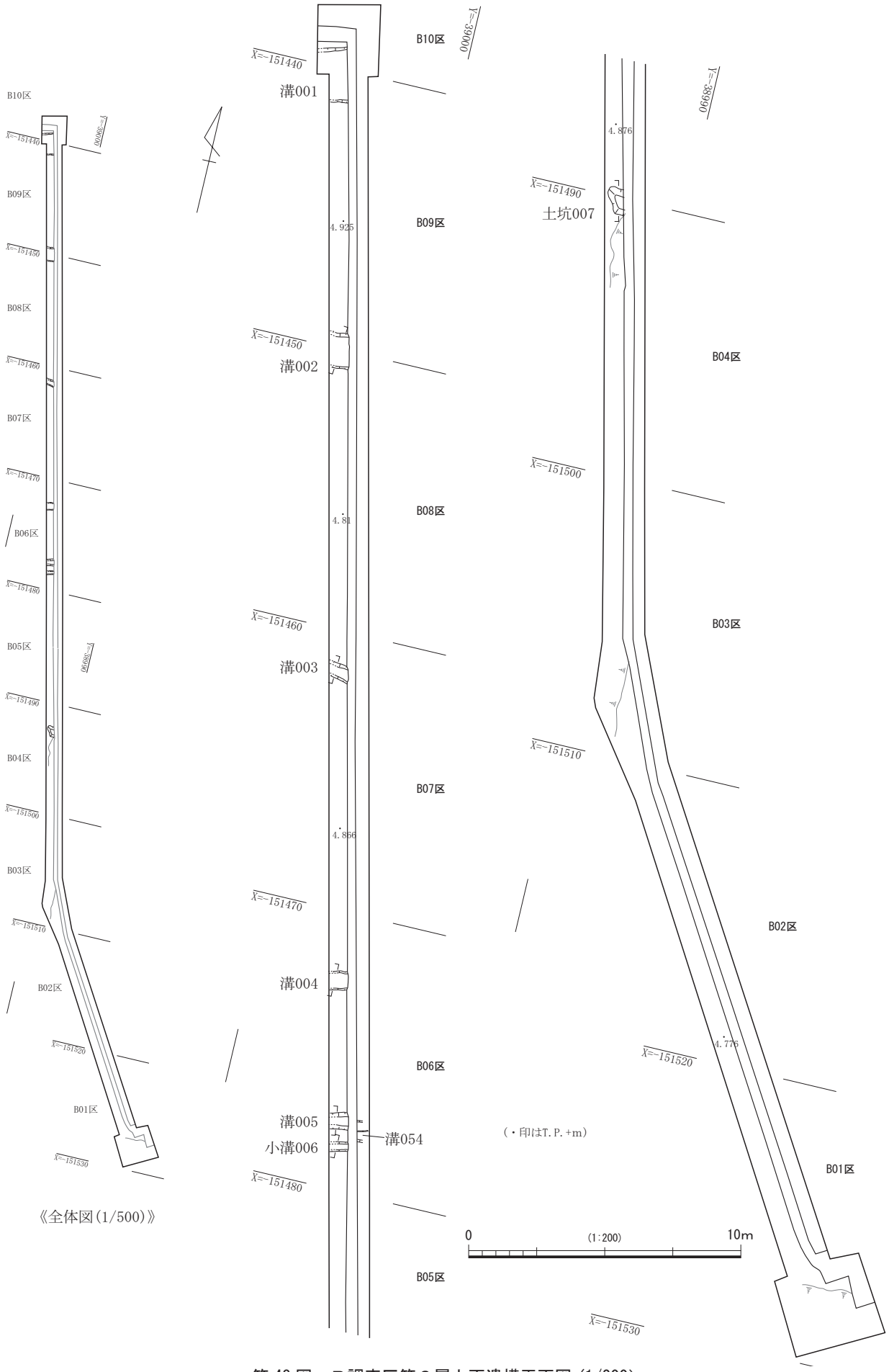
溝 024

B06 ～ 07 区で検出した東西方向の溝で、幅 7.4m、深さ 20cm をはかる。埋土は第３層系で、7.5Y5.5/1 灰色微砂～シルトに、中～細粒砂が全体的に７～ 10%混入。埋土から白磁１、須恵器１片が出土している。図版 35-15 は 12 ～ 13 世紀の景徳鎮窯青白磁香炉片である。

溝 025

B05 ～ 06 区で検出した東西方向の溝で、幅３m、深さ 12cm をはかる。第３層上面の溝 005 に切られる。

第 42 図　Ｂ調査区第３層下面～第４層上面遺構平面図 (1/200)



第 43 図　Ｂ調査区第３層上面遺構平面図 (1/200)

埋土は 5Y5/1 灰色微砂～シルトで、粗粒砂微量混入（第 28 図 -19)。

溝 026

B05 区で検出した北東－南西方向の溝で､幅 1.4m､深さ 19cm をはかる（第 42 図)。溝 005 に切られる。埋土は 5Y5/1 灰色微砂～シルトに、粗粒砂微量混入（第 28 図 -20)。

小溝 009 ～ 012・014・016 ～ 018

いずれも東西方向の小溝である（第 42 図)。小溝 009 は B10 区、小溝 010 ～ 012・014・016 ～ 018 は B09 区、小溝 009 ～ 012 は幅 0.1 ～ 0.15m、深さ 1.2 ～ 2.2cm をはかる。小溝 014・016 ～ 018 は幅 0.19 ～ 0.4m、深さ４～６cm をはかる。埋土は第３層系で、7.5Y6/1 灰色微砂～シルトに、7.5Y7/1 灰白色細粒砂７～ 20%混入。小溝 016 から土師質土器１片が出土している。

小溝 027

中央部、B05 区で検出した東西方向の溝で、幅 0.22 ～ 0.26m、深さ 15cm をはかる（第 42 図)。埋土は 2.5Y5/1 黄灰色（細粒砂～）微砂～シルト（第 29 図 -21)。

（６）第３層上面（近世）

土坑 007､溝 001 ～ 005･054､小溝 006 を検出した(第 43 図)。検出面の標高は T.P.+4.84 ～ 5.01 ｍで、溝、小溝はいずれも耕作に関連する遺構と考えられる。

土坑 007

B04･05 区で検出した。東西 0.6m 以上、南北 0.9m、深さ 15.7cm をはかり、東側は旧流路に切られる。埋土は 10YR5.5/4 にぶい黄橙色中粒砂に、10Y6.5/1 灰色シルトブロックが 20%混入（第 44 図)。

溝 001

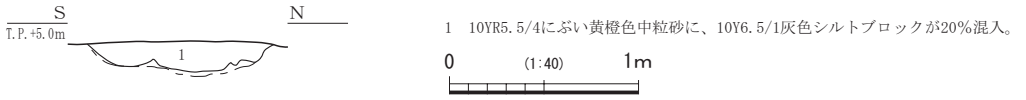
B09・10 区で検出した。東西方向の溝で、幅 2.0m、深さ 12cm をはかる。埋土は第２層系で、7.5Y5.5/1 ～ 6/1 灰色細粒砂～シルト（第 28 図－５)。埋土から瓦質土器擂鉢１（図版 35-13)、土師質土器２片、須恵器１片が出土している。

溝 002

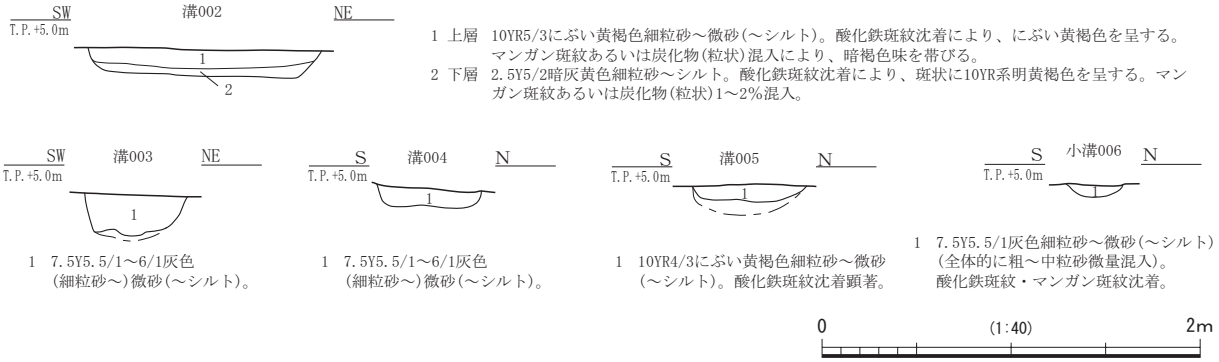
B08・09 区で検出した。東西方向の溝で、幅 1.26m、深さ 22cm をはかり、溝 019 を切る。埋土は２つに分けられ（第 28 図－６・７、第 45 図)、上層は 10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂～微砂（～シルト)、下層は 2.5Y5/2 暗灰黄色細粒砂～シルトで、マンガン斑紋あるいは炭化物？（粒状）１～２％混入。

溝 003

B07 区で検出した。東西方向の溝で、幅 0.53m、深さ 23cm をはかる。埋土は第２層系で、7.5Y5.5/1 ～ 6/1 灰色（細粒砂～）微砂（～シルト）である（第 28 図－８、第 45 図)。土師質小皿３片が出土している。図版 35-８は土師質土器小皿である。



第 44 図　Ｂ調査区第３層上面土坑 007 断面図 (1/40)



第 45 図　Ｂ調査区第３層上面溝 002 ～ 006 断面図 (1/40)

溝 004

B06 区で検出した（第 43 図)。東西方向の溝で、幅 0.7m、深さ 11cm をはかる（第 45 図)。埋土は第２層系で、7.5Y5.5/1 ～ 6/1 灰色（細粒砂～）微砂（～シルト）である（第 28 図－９)。

溝 005

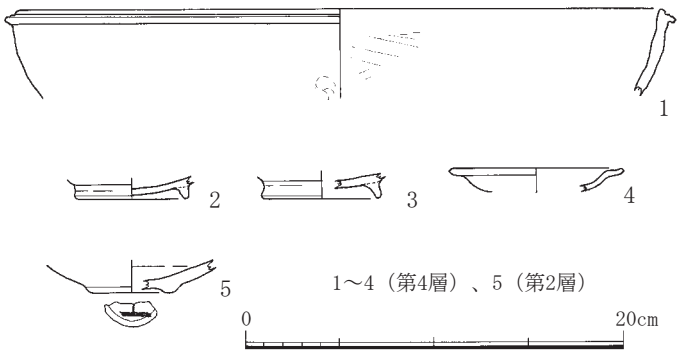
B06 区で検出した（第 43 図)。東西方向の溝で、幅 0.52 ～ 0.62m、深さ 18cm をはかる（第 45 図)。溝 054 及び第 4 層上面の溝 025 を切る。埋土は 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂～微砂（～シルト）である（第 28 図 -10)。

溝 054

B06 区で検出した（第 43 図)。東西方向の溝で､幅 0.37m､深さ 11cm をはかる。溝 005 に切られる（第 44 図)。埋土は 2.5Y5.5/1 黄灰色微砂～シルト (全体的に中～細粒砂２～３％混入) である（第 28 図 -11)。

小溝 006（第 43 図）

B06 区で検出した。東西方向の溝で、幅 0.31m、深さ２cm をはかる（第 45 図)。埋土は 7.5Y5.5/1 灰色細粒砂～微砂（～シルト）で、全体的に粗～中粒砂微量混入。土師質土器１片が出土している。



第 46 図　Ｂ調査区包含層出土土器 (1/4)

第３節　Ｃ調査区

Ｃ調査区は、Ａ調査区の南端に隣接する幅 2.4m、長さ 18.5m の南北方向の調査区である（第２図）。調査にあたっては世界測地系による 10m 区画の地区割りを設定し（南から C01 区、C02 区、C03 区）、遺物の取り上げ、遺構の位置表示に使用している。調査区の中央部は久宝寺緑地造成前に攪乱を受け、第 10 層（T.P.+3.47m）まで破壊されていた。調査は工事掘削深度の関係で、南側は T.P.+2.708m、北側は T.P.+3.467m まででとどめている。なお、南端の一部分（推進立坑の始点箇所）については T.P.+2.0m まで調査を実施している。

第１項　基本層序

基本層序は先に調査を実施しているＡ調査区に準じて実施し、第０層から第 18b 層の層序を確認している（第 47 ～ 49 図）。平面的な調査は第 16a 層上面まで実施し、南側では第 18b 層を確認している。

第０層　久宝寺緑地造成時の盛土で、上面の標高は T.P.+7.10 ～ 7.01m、層厚 1.52 ～ 1.59m をはかる（第 47 ～ 49 図－１）。

第１層　久宝寺緑地造成前の旧表土、近現代の耕作土で、上面の標高は T.P.+5.57 ～ 5.45m、層厚５～ 11cm をはかる（第 47 ～ 49 図－２・３）。南側にやや傾斜している。層中より土師質土器１片が出土している。

第２層　近世の耕作土で、ａ～ｃに分層される。第 2a 層（オリーブ灰色細粒砂～シルト）上面の標高は T.P.+5.47 ～ 5.36m、層厚８～ 16cm をはかる（第 47 ～ 49 図－４）。第 2b 層（緑灰色微砂～シルト）上面の標高は T.P.+5.35 ～ 5.28m、層厚５～ 14cm をはかる（第 47 ～ 48 図－５・６）。第 2c 層（灰色微砂～シルト）は C01 区でのみ確認され、土層断面の検討から第 3a 層上面の畦畔となる可能性も考えられた（第 48 図－７）。なお、調査時は第 2a 層を第 2-1 層、第 2b 層を第 2-2 層、第 2c 層を第 2-3 層と呼称していた。層中より染付１、陶磁器１、磁器１、土師質８、瓦２、土師器３、須恵器１片が出土している。

第３層（緑灰色細～微砂～シルト）　上面の標高は T.P.+5.17 ～ 5.38m、層厚４～ 22cm をはかる。酸化鉄斑紋沈着により、黄灰から灰オリーブ色を帯びる（第 47 ～ 48 図－９・10）。調査時は第３層を第 3-1 層と呼称していた。Ａ調査区の「第 3a 層」に対応する。上面で小溝 001、溝 003、下面で溝 006 ～ 008･010 を検出している（第 65 図）。層中より染付１、漳州窯青花碗または皿（16 世紀末～ 17 世紀前半）１、陶磁器１、瓦器３、土師質土器 40、龍泉窯青磁碗（13 世紀）１、東播系練鉢２、瓦１、土師器坏１、須恵器７片が出土している（図版 39- ４～６）。図版 39- ４は土師器坏の底部片、図版 39- ５は 13 世紀の東播系練鉢の口縁部片、図版 39- ６は須恵器壺の口縁部片である。

第４層　ａ・ｂに分かれる。調査時は第 4a 層を第 4-1 層、第 4b 層を第 4-2 層と呼称していた。第 4a 層（灰色微砂～シルト）上面の標高は T.P.+5.12 ～ 5.24m、層厚４～ 10cm をはかる（第 48 図 -16）。第 4b 層よりシルト質を帯びる。上面で小溝 002、溝 004、030 を検出している（第 61 図、図版 10f）。第 4b 層（緑

灰色微砂～シルトと灰白色粗～細粒砂のブロック状混合土）上面の標高はT.P.+5.22～5.05m、層厚５～13cmをはかる（第47・48図-21・22）。上面で小溝005・011、溝009・021・029を検出している（第61図、図版10f）。層中より瓦器３、土師質土器15、土師器１、須恵器２片が出土している。

第５層　a～cに分かれる。調査時は第5a層を第5-A層、第5b層を第5-B層、第5c層を第5-C層と呼称していた。第5a層（灰色粗～中粒砂、黄灰色微砂～シルト）上面の標高はT.P.+5.10～5.01m、層厚14～32cmをはかる（第47～49図-37～51）。部分的に平行ラミナが入る。上面で土坑012・027・032、溝013・018・019・023、026、小溝014～017・020・022・024・025・028・033を検出している（第59図、図版10d）。第5b層（10Y7.5/1灰白色極粗～粗～中粒砂）上面の標高はT.P.+4.88～4.71m、層厚22～38cmをはかる（第47～49図-52～56）。氾濫堆積土で、層中より土師器58片が出土している。第5c層（灰色極粗～粗～中粒砂）上面の標高はT.P.+4.64～4.31m、層厚10～40cmをはかる（第46～48図-57～65）。氾濫堆積土で、層中より土師器210、須恵器１、韓式系（軟質）土器１、弥生土器２、サヌカイト４片が出土している。

第６層　a・b・b’・cに分かれる。第6a層（黒色粘土）上面の標高はT.P.+4.13～4.22m、層厚４～８cmをはかる（第47～49図-66・67）。水田耕作土で、炭酸ノジュールが入る。上面で畦畔034を検出している（第57図、図版10e）。KM00-5・6の「6Ai‘層」、1985年度の「第６層」に対応する。第6b層（黒色粘土）上面の標高はT.P.+4.18～4.11m、層厚３～８cmをはかる（第47～49図-68）。第6b’層（黒褐色粘土）上面の標高はT.P.+4.16～4.12m、層厚５～14cmをはかる（第47～49図-69）。腐植細片、炭酸ノジュールが入り、有機物多い。北半部では確認できない。第6c層（暗緑灰色シルト～粘土）上面の標高はT.P.+4.05～4.01m、層厚６～８cmをはかる（第47～49図-70）。第6b層と比較して腐植細片はほとんど認められないことから、第6c層は第6a層・第6b層の基盤層と考えられる。

第７層（灰オリーブ色粗粒砂～微砂）　上面の標高は、北半部でT.P.+4.10～3.96m、層厚２～14cm、南半部でT.P.+4.01～3.92m、層厚１～６cmをはかる（第47・48図-71・72）。流水堆積層で、南端では殆ど確認できない。Ｂ調査区では、弥生時代後期～古墳時代初頭の底部片（第35図２）が出土している。

第８層（オリーブ黒色シルト～粘土と、細砂～微砂との混合土）　上面の標高は、北半部でT.P.+4.06～3.88m、層厚２～14cm、南半部でT.P.+3.98～3.89m、層厚３～12cmをはかる（第47～49図-73・74）。腐植片１～２％が全体的に混入し、水田作土と考えられるが、上面で足跡を検出しているものの、畦畔については他の調査区同様に確認できない。

第９層　B02区でa～cに分かれる。第9a層（緑灰色微砂～シルト）上面の標高はT.P.+3.89～3.84m、層厚２～10cmをはかる（第48図-75）。第9b層（緑灰色細粒砂～微砂及び緑灰色シルト）上面の標高は、北半部でT.P.+3.4～3.86m、層厚２～10cm、南半部でT.P.+3.82～3.79m、層厚２～５cmをはかる（第47・48図-76・77）。第9c層（オリーブ黒色シルト～粘土と灰色粗～中粒砂の混合土）上面の標高は、南半部でT.P.+3.90～3.76m、層厚４～18cmをはかる（第48図-78）。全体的に腐植片１～２％混入し、水田作土層の可能性が考えられる。

第10層　水成層で、a～dに分かれる。KM00-5・6の「7B層」、A調査区の「第10層」に対応する

と考えられる。第 10a 層（灰白色極粗～細粒砂）上面の標高は T.P.+3.67 ～ 4.01m、層厚 15 ～ 50cm をはかる（第 47 ～ 49 図 -83 ～ 94）。流路 035 の氾濫堆積土と考えられる。第 10b 層（灰色微砂～シルト～粘土）上面の標高は T.P.+3.56 ～ 3.34m、層厚５～ 15cm をはかる（第 47・48 図 -100 ～ 108）。上面で流路 035・036 を検出している（第 56 図、図版 10-a ～ c）。第 10c 層（緑灰シルト～粘土）上面の標高は T.P.+3.31 ～ 3.38m、層厚４～５cm をはかる（第 47・48 図 -109）。第 10d 層（緑灰色シルト～粘土と腐植土の互層）上面の標高は T.P.+3.28 ～ 3.15m、層厚８～ 15cm をはかる（第 47 ～ 49 図 -111・112）。層中より桃核１点が出土している。

第 11 層（灰～灰オリーブ色極粗～中粒砂、南端部では緑灰シルト～粘土）　流水堆積層で、上面の標高は T.P.+3.42 ～ 3.02m、層厚 10 ～ 36cm をはかる。流路 037 の氾濫堆積土と考えられる（第 47 ～ 49 図 -111・112）。

第 12 層　ａ・ｂに分かれる。第 12a 層（黒褐色シルト～粘土）上面の標高は T.P.+3.08 ～ 3.23m、層厚２～ 10cm をはかる（第 47・48 図 -120）。KM00-5・6 の「8ai 層」に対応すると考えられる。弥生時代中期中頃～後半に相当する。上面で流路 037、堤 040、高まり 045 を検出している（第 55 図、図版 9-e）。第 12b 層（暗緑灰色シルト～粘土）上面の標高は、北半部で T.P.+2.95 ～ 3.10m、南半部で T.P.+3.08 ～ 3.24m、層厚６～ 15cm をはかる（第 47・48 図 -121）。南半部で堤 040 を形成する。Ａ調査区の「第 12c 層」に対応する。

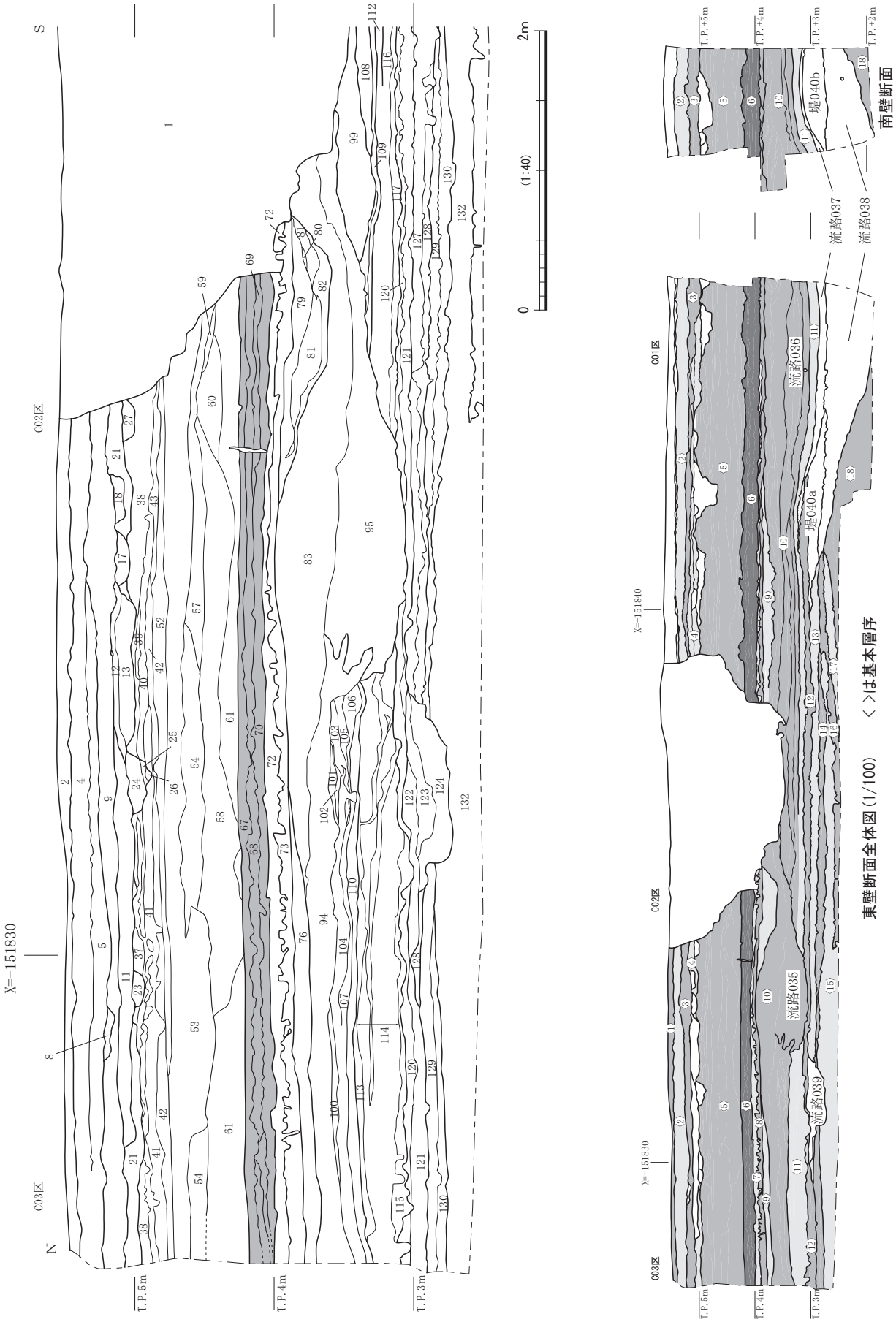
第 13 層　ａ・ｂに分かれ、いずれも平行ラミナが入る。第 13a 層（灰オリーブ色粗～中粒砂）上面の標高は T.P.+3.01 ～ 3.05m、層厚５～ 20cm をはかる（第 47・48 図 -127）。KM00-5・6 の「8aii 層」に対応すると考えられる。北端部では未確認である。上面で流路 038、溝 039 を検出している（第 52 図）。第 13b 層（灰色粘土）上面の標高は T.P.+2.97 ～ 2.90m、層厚５～ 12cm をはかる（第 47・48 図 -128）。

第 14 層　ａ～ｃに分かれる。C02 区以北に堆積し、土壌化している。第 14a 層（黒色シルト～粘土）上面の標高は T.P.+2.91 ～ 2.87m、層厚４～ 10cm をはかる（第 47・48 図 -129）。上面で足跡を検出している。KM00-5・6 の「8aiii 層」に対応すると考えられる。第 14b 層（オリーブ黒色中～細粒砂と粘土の混合土）上面の標高は T.P.2.90 ～ 2.85m、層厚５～ 12cm をはかる（第 47 図 -130）。第 14c 層（オリーブ灰色粘土）上面の標高は T.P.+2.78 ～ 2.80m、層厚 8cm をはかり、C02 区でのみ確認している（第 48 図 -131）。

第 15 層（灰色粗～中粒砂）　流水堆積層で、上面の標高は T.P.+2.76 ～ 2.87m、層厚５～ 30cm 以上をはかる（第 47・48 図 -132）。南側にやや傾斜し、C02 区以北で確認している（第 51 図）。KM00-5・6 の「8b 層」に対応すると考えられる。

第 16 層　ａ・ｂに分かれる。北側にやや傾斜し、C02 区以北に堆積する。土壌層と考えられる。第 16a 層はオリーブ灰色粘土で、上部 10 ㎜ほどオリーブ黒色を呈する。上面の標高は T.P.+2.56 ～ 2.88m、層厚６～ 20cm をはかる（第 48 図 -142）。上面で土坑 041・042、落込 043、流路 044 を検出している（第 50 図）。第 16b 層（オリーブ黒色シルト～粘土）上面の標高は T.P.+2.49 ～ 2.64m、層厚４～６cm をはかる（第 48 図 -143）。

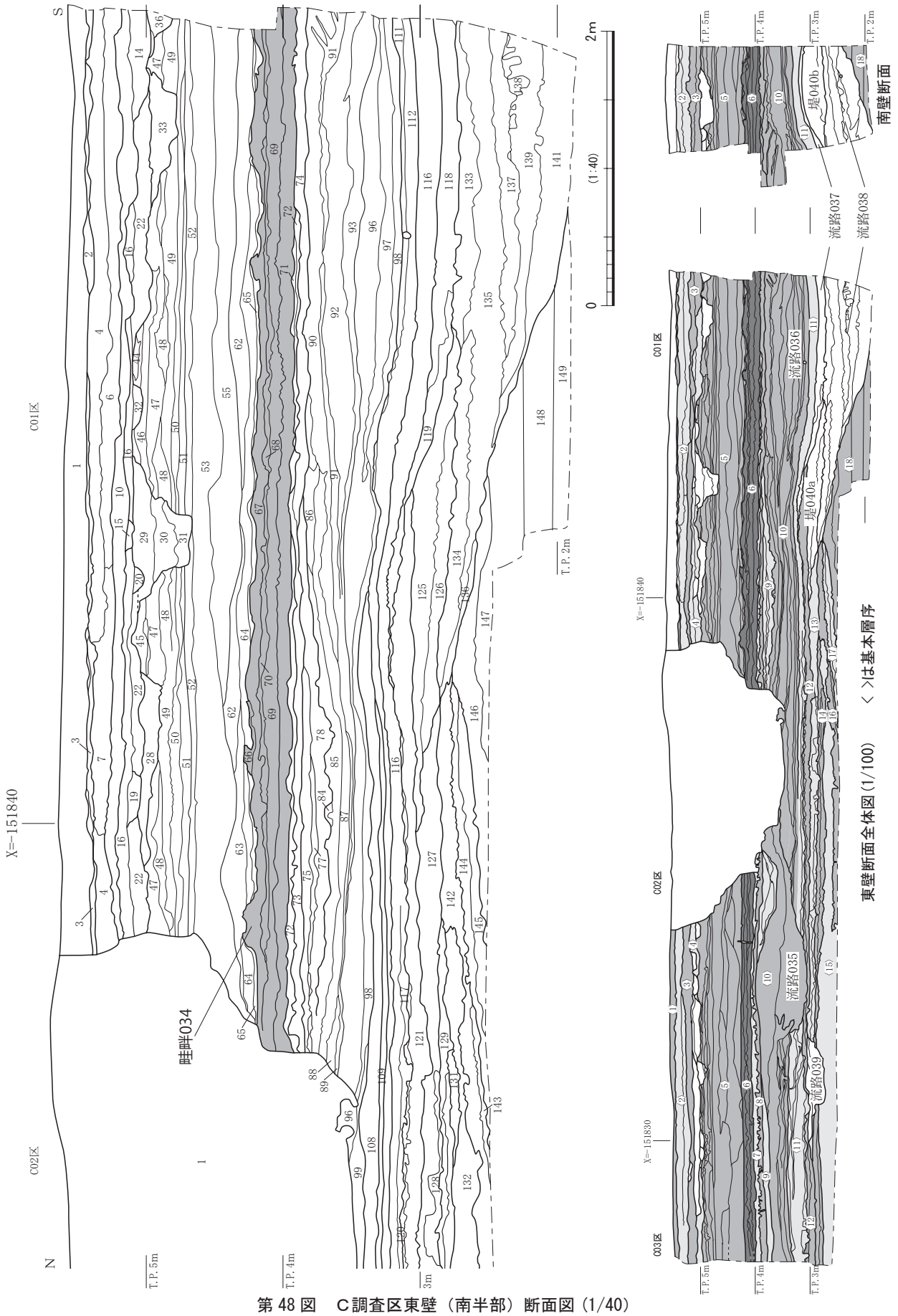
第 17 層　ａ・ｂに分かれる。北側に傾斜している。土壌層と考えられる。北半部は予定掘削面に達していたため未調査である。第 17a 層（オリーブ黒色中～細粒砂）上面の標高は T.P.+2.49 ～ 2.78m、



第 47 図　C調査区東壁（北半部）断面図 (1/40)

C調査区 東壁(北半部)断面図注記

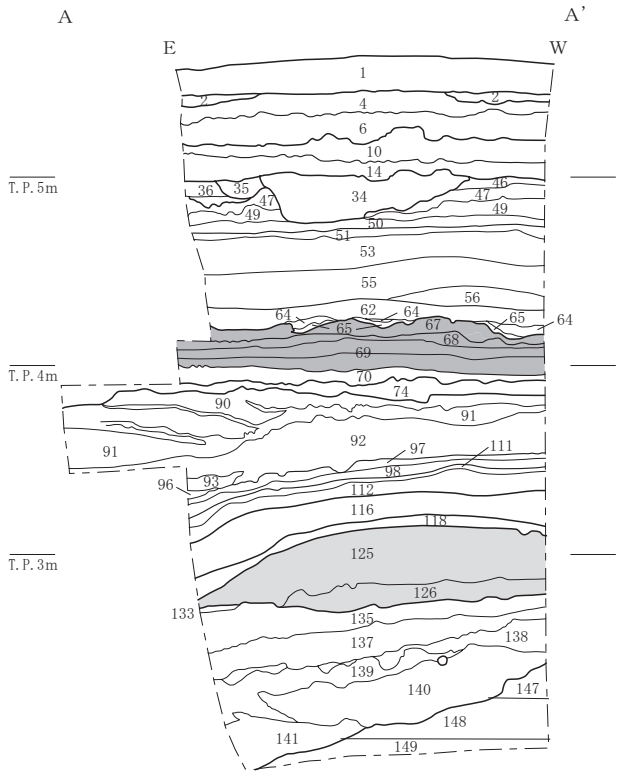
1	第0層	盛土、撹乱。
2	第1a層	10BG4.5/1青灰色微砂～シルト。全体的に粗～中粒砂微量混入。旧耕土。
4	第2a層	5GY5.5/1オリーブ灰色(細粒砂～)微砂～シルト。全体的に径3～10mmの細礫～粗粒砂10～15%混入。北端は細礫の混入が漸減。北半は10BG5/1青灰色に変色。近世作土。
5	第2b層	7.5GY5/1緑灰色(細～)微砂～シルト。極粗～粗粒砂全体的に5～7%混入。
8	鋤溝	7.5GY5/1緑灰色(細～)微砂～シルト。粗～中粒砂全体的に3～5%混入。
9	第3a層	10GY5/1緑灰色(細～)微砂～シルト。極粗～粗粒砂全体的に3～5%混入。酸化により黄灰から灰オリーブ色を帯びる。酸化鉄斑紋沈着。
11	溝007	5GY5.5/1オリーブ灰色(細～)微砂～シルト。極粗～粗粒砂全体的に1～2%混入。
12	溝010上層	10GY5.5/1緑灰色(細～)微砂～シルト。全体的に極粗～粗粒砂1～2%混入。10Y7/1.5灰白色微砂3～5%。
13	溝010下層	10GY5.5/1緑灰色(細～)微砂～シルト。全体的に極粗～粗粒砂1～2%混入。10YR6/6明黄褐色に変色。
17	溝021	10Y6/1灰色微砂～シルト。全体的に粗～中粒砂が25%混入。
18	溝029	10GY5.5/1緑灰色(細～)微砂～シルト。微砂主体。酸化鉄沈着により10YR6/6明黄褐色を帯びる。
21	第4b層	10GY5.5/1緑灰色微砂～シルトと、10Y8/1～7/1灰白色粗～細粒砂のブロック状混合土(7：3)。
23	小溝024	21と同じ。
24	溝023埋土1	10GY5.5/1緑灰色(細～)微砂～シルト。微砂主体。酸化鉄斑紋沈着により10YR6/6明黄褐色を帯びる。
25	溝023埋土2	38ブロック。
26	溝023埋土3	40ブロック。
27	小溝033	7.5Y5/1灰色微砂～シルト(粗砂少量混)と7.5Y6/2灰オリーブ微砂の混合土。
37	第5a層	24と同じ。
38	第5a層	10Y5.5/1灰色(径5mm礫～極粗粒砂～)粗～中粒砂。部分的に40ブロック混入。淘汰不良。ラミナ不明瞭。
39	第5a層	10Y7.5/1灰白色微砂と、2.5Y6/1黄灰色シルトの互層(8：2)。平行ラミナ。
40	第5a層	2.5Y6/1黄灰色微砂(～シルト)と10Y7.5/1灰白色微砂の互層(7：3)。平行ラミナ。酸化鉄斑紋(粒状)沈着やや顕著。
41	第5a層	10Y7.5/1灰白色粗～中粒砂(～細粒砂～微砂)。ラミナ不明瞭。
42	第5a層	10Y7.5/1灰白色細粒砂～微砂と、2.5Y6/1黄灰色微砂～シルト(特に底部に顕著)～互層(7：3)。平行ラミナ。酸化鉄斑紋(粒状)沈着やや顕著。
43	第5a層	7.5Y6/1.5灰オリーブ色極粗～粗粒砂。底部、部分的に10Y5/1灰色シルト。淘汰不良。
52	第5b層	10Y7.5/1灰白色(極粗～)粗～中粒砂。
53	第5b層	10Y7.5/1灰白色(径20mm～10mm礫～)極粗粒砂(～粗～中粒砂)。2.5GY5/1オリーブ灰色シルト～粘土ブロック1～2%混入。淘汰不良。南半では部分的に平行ラミナあり。
54	第5b層	10Y7.5/1灰白色(径10mm礫)～極粗～中粒砂。斜交ラミナ。
57	第5c層	10Y6.5/1灰色(極粗～)粗～中粒砂。平行ラミナ。
58	第5c層	10Y6.5/1灰色極粗～粗～中粒砂。斜交ラミナ。2.5Y2/1黒色シルト～粘土ブロック1～2%混入。
59	第5c層	61とほぼ同じ。ラミナの方向違い。
60	第5c層	10Y6.5/1灰色粗～中～細粒砂(～微砂)。平行ラミナ。
61	第5c層	10Y6/1灰色細粒砂～微砂。平行ラミナ。腐植ラミナ5～7%。
67	第6a層	2.5Y2/1黒色粘土。腐植細片(径2～3mm以下)全体的に1%混入。水田作土。上面に畦畔。炭酸ノジュール。
68	第6b層	2.5Y2/1黒色粘土。腐植細片(径3～5mm以下)全体的に10～15%混入。5GY4/1暗オリーブ灰色粘土ブロック(径2mm以下の小斑状)7～10%混入。炭酸ノジュール。有機物(ペースト状の腐植)多い。
69	第6b'層	2.5Y3/1黒褐色粘土。腐植細片全体的に5～7%混入。5GY4/1粘土ブロック(径5mm以下)小斑状35～40%混入。炭酸ノジュール。有機物多い。
70	第6c層	10GY4/1暗緑灰色シルト～粘土に7.5Y5/2灰オリーブ色細～微砂(薄いレンズ状)7～10%混入。炭化物細粒状微量混入。炭酸ノジュール。
72	第7層	7.5Y5/1.5灰オリーブ色 (粗～)細粒砂(～微砂)。場所により、10Y3.5/1オリーブ黒色シルト～粘土と(細砂～)微砂との小斑状混合土(9:1)混入。
73	第8層	10Y3.5/1オリーブ黒色シルト～粘土と、(細砂～)微砂との小斑状混合土(9：1)。
76	第9b層	10GY5/1緑灰色シルト。腐植平行ラミナ。
79	第9層相当	5GY5/1オリーブ灰色シルト～粘土。炭化物粒状微量混入。
80	第9層相当	10Y5.5/1灰色粗～中粒砂。
81	第9層相当	10Y5.5/1灰色(極粗～)粗～中粒砂。炭化物粒状1%混入。南肩口2.5GY5/1オリーブ灰色微砂～シルト。
82	第9層相当	2.5GY4/1暗オリーブ灰色微砂～シルト。自然木片混入。有機物層系。
83	第10a層	5Y7/2灰白色(径10mm礫～)極粗～細粒砂。上方粗粒化。斜交ラミナ。
94	第10a層	95とほぼ同じ。
95	流路035	5Y4/1灰色シルト(～粘土)［有機物層］と7.5Y7/1～6/1灰色(粗～)細粒砂～微砂の互層(5：5)。粗粒砂は底部に顕著。腐植細片5～7%。平行ラミナ。流芯部腐植平行ラミナ。
99	流路036	7.5Y7/1～6/1灰色細粒砂～微砂。平行ラミナ。
100	第10b層	10Y4.5/1灰色微砂～シルト(～粘土)。平行ラミナ。
101	第10b層	7.5Y7/1～6/1灰色細粒砂～微砂と5Y4/1灰色シルト～粘土の互層(9：1)。
102	第10b層	5Y4/1灰色シルト～粘土。
103	第10b層	101とほぼ同じ。
104	第10b層	107とほぼ同じ。
105	第10b層	2.5Y6/1～6/2黄灰色粗～中粒砂。
106	第10b層	5Y4/1灰色シルト～粘土と7.5Y7/1～6/1灰色細粒砂～微砂の互層(6：4　厚さ10mmずつ)。
107	第10b層	上半：10Y4.5/1灰色シルト。　下半：7.5GY5.5/1緑灰色シルト。いずれにも腐植細片1～2%。平行ラミナ。
108	第10b層	2.5Y4/1黄灰色粘土と2.5Y6/1黄灰色粘土の互層(9：1)。腐植細片ラミナ5～7%混入。有機物層。
109	第10c層	10GY5/1緑灰シルト～粘土。
110	第10c・d層	5Y3.25/1オリーブ黒色シルト～粘土。腐植細片(ラミナ状)5～10%混入。平行ラミナ。
112	第10d層	10GY4.5/1緑灰色シルト～粘土と腐植ペースト状(暗褐色)の互層(8：2)。
113	第11層	7.5Y4.5/1灰色微砂～シルト。腐植細片1%。平行ラミナ。
114	第11層	5Y6.5/1～6.5/2灰～灰オリーブ色極粗～中粒砂と7.5Y4/1灰色微砂～シルトの互層(8：2)。
115	第11層	5Y4/1灰色シルト。全体的に細粒砂微量混入。腐植片少量混入。平行ラミナ。荷重による変形。
116	第11層	10GY5/1緑灰シルト～粘土。腐植(ラミナ状)3～5%混入。
117	第11層相当	2.5Y4/1黄灰色シルトと7.5Y6.5/1灰色微砂の互層(7：4)。平行ラミナ。
120	第12a層	2.5Y3/1黒褐色シルト～粘土。全体的に粗～中粒砂5～7%混入。
121	第12b層	10GY4/1暗緑灰色シルト～粘土。全体的に粗～中粒砂30～40%混入。南端部、堤040a上層を構成する。淘汰不良。
122	溝039上層	10GY4/1暗緑灰色シルト～粘土。全体的に粗～中粒砂30～40%混入。
123	溝039中層	5Y4/1灰色粗～中粒砂とシルト～粘土の混合土(7：3)。
124	溝039下層	5Y3.5/1オリーブ黒色粘土。肩口を中心に粗～中粒砂10～15%混入。
127	第13a層	7.5Y6/2灰オリーブ色粗～中粒砂。平行ラミナ。10Y4/1灰色シルト～粘土(径10mmの斑状)20～30%混入。
128	第13b層	7.5Y4/1灰色粘土。中～細粒砂。
129	第14a層	2.5Y2/1黒色シルト～粘土。全体的に中～細粒砂15～20%混入。土壌層。
130	第14b層	7.5Y3.5/1オリーブ黒色中～細粒砂と粘土の混合土(6：4)。土壌層。
132	第15層	10Y5/1灰色粗～中粒砂。



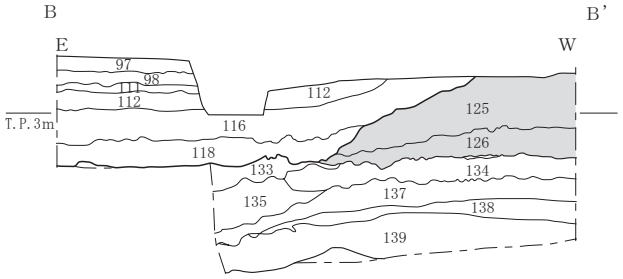
第 48 図　C調査区東壁（南半部）断面図（1/40）
東壁・南壁断面全体図（1/100）

Ｃ調査区 東壁(南半部)断面図注記

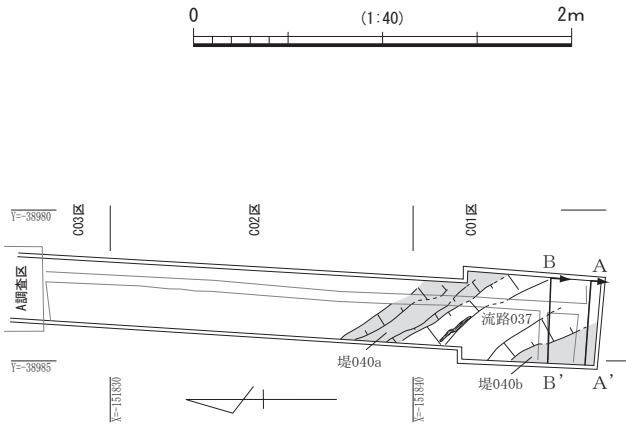
1	第0層	盛土、撹乱。
2	第1a層	10BG4.5/1青灰色微砂～シルト。全体的に粗～中粒砂微量混入。旧耕土。
3	第1b層	10Y7/1.5灰白色(細～)微砂～シルト。粗粒砂全体的に1～2%混入。旧耕土床土。
4	第2a層	5GY5.5/1オリーブ灰色(細粒砂～)微砂～シルト。全体的に径3～10mmの細礫～粗粒砂10～15%混入。北端は細礫の混入が漸減。北半は10BG5/1青灰色に変色。近世作土。
6	第2b層	10Y6.5/1灰色微砂(～シルト)。粗～中粒砂全体的に20～30%混入。径5mm礫～極粗粒砂1%混入。酸化鉄沈着顕著で10YR6/6明黄褐色に変色。南端は環元。
7	第2c層	10Y6.5/1灰色微砂～シルト。粗～中粒砂全体的に30%混入。酸化鉄沈着顕著で、10YR6/6明黄褐色に変色。マンガン斑紋(径2～3mm粒状)沈着。
10	第3a層	10Y5.5/1灰色微砂～シルト。10Y7/1.5灰白色細粒砂～微砂ブロック(径10～30mm)3～5%混入。マンガン斑紋(粒状)沈着。
14	溝004	10Y5/1灰色微砂～シルト。細粒砂～微砂全体的に30%混入。
15	溝030	10と同じ。
16	第4a層	10Y6.5/1灰色微砂～シルト。極粗～粗粒砂全体的に5～7%混入。酸化鉄斑紋(管状)沈着やや顕著。浅黄色がかる。マンガン斑紋(粒状)沈着やや顕著。
19	溝009	10Y6/1.5灰色微砂～シルト。極粗～粗粒砂2～3%。マンガン斑紋(粒状)沈着。
20	小溝011	19と同じ。
22	第4b層	10Y6.5/1灰色細粒砂～微砂(～シルト)。粗～中粒砂全体的に10～15%混入。全体的に砂主体。酸化により、灰オリーブがかる。酸化鉄斑紋沈着。
28	溝019	30と同じ。
29	溝018埋土1	22とほぼ同じ。
30	溝018埋土2	10Y6/1灰色微砂～シルトと10Y7/1灰白色極粗～中粒砂のブロック状混合土(9:1)。酸化鉄斑紋(管状)沈着。
31	溝018埋土3	10Y7/1灰白色極粗～中粒砂と10Y6/1灰色微砂～シルトのブロック状混合土(8:2)。酸化鉄斑紋沈着。
32	小溝017	19と同じ。
33	溝013	10Y6.5/1灰色微砂～シルトと10Y6.5/1灰色中～細粒砂(～微砂)の小斑ブロック混合土(5:5)。酸化鉄斑紋(管状)沈着。酸化により2.5Y7/2灰黄色がかる。
36	土坑032	10Y6.5/1灰色微砂～シルトと10Y6.5/1灰色中～細粒砂(～微砂)の小斑ブロック混合土(5:5)。酸化鉄斑紋(管状)沈着。酸化により2.5Y7/2灰黄色がかる。
44	第5a層	10Y6/1灰色極粗粒砂。
45	第5a層	10Y7/1灰白色細粒砂～微砂(～シルト)。
46	第5a層	10Y7/1灰白色粗～中(～細粒砂)。平行ラミナ。
47	第5a層	49とほぼ同じ。
48	第5a層	46とほぼ同じ。
49	第5a層	10Y6/1灰色シルトと10Y7/1灰白色微砂～互層(5:5)。平行ラミナ。酸化によりやや黄灰がかる。
50	第5a層	49とほぼ同じ。
51	第5a層	10Y5/1灰色シルトと10Y7/1灰白色微砂の互層(9:1)。平行ラミナ。
52	第5b層	10Y7.5/1灰白色(極粗～)粗～中粒砂。
53	第5b層	10Y7.5/1灰白色(径20mm～10mm礫～)極粗粒砂(～粗～中粒砂)。2.5GY5/1オリーブ灰色シルト～粘土ブロック1～2%混入。淘汰不良。南半では部分的に平行ラミナあり。
55	第5b層	7.5Y6/1灰色(径5mm礫～)粗～中粒砂(～細粒砂)。5Y3/1オリーブ黒色シルト～粘土ブロック(径20mm前後)1%以下混入。酸化して7.5Y6/2灰オリーブ色を帯びる。
62	第5c層	10Y7/1灰白色粗～中(～細粒砂)。
63	第5c層	10Y5.5/1灰色細粒砂(～微砂)。
64	第5c層	10Y5.5/1灰色(細～)微砂と5Y4/1灰色微砂～シルトの互層(7:3)。上部に腐植混入。平行ラミナ。
65	第5c層	5Y3/1オリーブ黒色シルト～粘土。
66	第6a層	67とほぼ同じ。
67	第6a層	2.5Y2/1黒色粘土。腐植細片(径2～3mm以下)全体的に1%混入。水田作土。上面に畦畔。炭酸ノジュール。
68	第6b層	2.5Y2/1黒色粘土。腐植細片(径3～5mm以下)全体的に10～15%混入。5GY4/1暗オリーブ灰色粘土ブロック(径2mm以下の小斑状)7～10%混入。炭酸ノジュール。有機物(ペースト状の腐植)多い。
69	第6b'層	2.5Y3/1黒褐色粘土。腐植細片全体的に5～7%混入。5GY4/1粘土ブロック(径5mm以下)小斑状35～40%混入。炭酸ノジュール。有機物多い。
70	第6c層	10GY4/1暗緑灰色シルト～粘土に7.5Y5/2灰オリーブ色細～微砂(薄いレンズ状)7～10%混入。炭化物細粒状微量混入。炭酸ノジュール。
71	第7層	10Y4/1灰色微砂～シルト。
72	第7層	7.5Y5/1.5灰オリーブ色(粗～)細粒砂(～微砂)。場所により、10Y3.5/1オリーブ黒色シルト～粘土と(細砂～)微砂との小斑状混合土(9:1)混入。
74	第8層	5Y3.5/1オリーブ黒色シルト～粘土と10Y6/1～5/1灰色粗～中粒砂の混合土(7:3)。全体的に腐植片1～2%混入。
75	第9a層	10GY4.5/1緑灰色(微砂～)シルト。炭酸ノジュール(径5mm)。
77	第9b層	10GY4.5/1緑灰色細粒砂～微砂。
78	第9c層	74とほぼ同じ。
79	第9層相当	5GY5/1オリーブ灰色シルト～粘土。炭化物粒状微量混入。
84	第10a層	10Y5.5/1灰色粗～中(～細粒砂)。
85	第10a層	10Y3.5/1オリーブ黒色粘土。10Y6.5/1灰色粘土3～5%。炭化物と腐植細片7～10%。平行ラミナ。
86	第10a層	7.5Y5/1.5灰オリーブ色粗～中粒砂(～細粒砂)。
87	第10a層	2.5GY4.5/1オリーブ灰色シルト～粘土。平行ラミナ不明瞭。
88	第10a層	10Y6/1～5/1灰色粗(～中～細粒砂)と2.5GY4.5/1オリーブ灰色シルト～粘土の互層(8:2)。平行ラミナ。
89	第10a層	2.5GY4.5/1オリーブ灰色シルト～粘土と微砂の互層(9:1)。腐植細片30～40%混入。平行ラミナ。
90	第10a層	10Y6.5/2オリーブ色中粒砂と10GY5/1緑灰色微砂(～シルト)の互層(6:4)。腐植片5mm以下1%混入。
91	第10a層	10GY6/1緑灰色微砂(～シルト)と5GY5/1オリーブ灰色シルトの互層(7:3)。腐植細片(ラミナ状)1%混入。
92	第10a層	5Y4/1灰色シルト(～粘土)［有機物層］と7.5Y7/1～6/1灰色(粗～)細粒砂～微砂の互層(5:5)。粗粒砂は底部に顕著。腐植細片5～7%。平行ラミナ。
93	第10a層	2.5GY6/1オリーブ灰色細粒砂～微砂と10Y4/1灰色シルトの互層(7:3)。南端部に腐植片(長径20mm以下)5%混入。平行ラミナ。
94	第10a層	95とほぼ同じ。
95	流路035	5Y4/1灰色シルト(～粘土)［有機物層］と7.5Y7/1～6/1灰色(粗～)細粒砂～微砂の互層(5:5)。粗粒砂は底部に顕著。腐植細片5～7%。平行ラミナ。流芯部腐植平行ラミナ。
96	流路036	95に相当。
97	流路036	2.5GY4/1暗オリーブ灰色微砂～シルトと腐植細片(ラミナ状。黒褐色)との互層(8:2)。平行ラミナ。
98	流路036	10Y4/1灰色シルト～粘土。腐植細片(長径10mm以下。薄い)1～2%混入。平行ラミナ。
99	流路036	7.5Y7/1～6/1灰色細粒砂～微砂。平行ラミナ。
108	第10b層	2.5Y4/1黄灰色粘土と2.5Y6/1黄灰色粘土の互層(9:1)。腐植細片ラミナ5～7%混入。有機物層。
109	第10c層	10GY5/1緑灰シルト～粘土。
111	第10d層	2.5GY6/1オリーブ灰色(微砂～)シルト。腐植細片(長径10mm以下薄い)1%。混入。平行ラミナ。
112	第10d層	10GY4.5/1緑灰色シルト～粘土と腐植ペースト状(暗褐色)の互層(8:2)。
116	第11層	10GY5/1緑灰シルト～粘土。腐植(ラミナ状)3～5%混入。
117	第11層相当	2.5Y4/1黄灰色シルトと7.5Y6.5/1灰色微砂の互層(7:4)。平行ラミナ。
118	流路037	10GY4.5/1緑灰色シルト～粘土と腐植(ペースト状)の互層(9:1)。腐植片2～3%混入。炭酸ノジュール顕著。平行ラミナ。
119	流路037	10GY4.5/1緑灰色シルト～粘土と腐植(ペースト状)の互層(7:3)。平行ラミナ。
120	第12a層	2.5Y3/1黒褐色シルト～粘土。全体的に粗～中粒砂5～7%混入。
121	第12b層	10GY4/1暗緑灰色シルト～粘土。全体的に粗～中粒砂30～40%混入。南端部、堤040a上層を構成する。淘汰不良。
125	堤040a下層	7.5GY4/1暗緑灰色粘土。全体的に粗～中粒砂30～40%混入。淘汰不良。
126	堤040a下層	7.5GY4/1暗緑灰色粘土。全体的に粗～中粒砂5～7%混入。淘汰不良。
127	第13a層	7.5Y6/2灰オリーブ色粗～中粒砂。平行ラミナ。10Y4/1灰色シルト～粘土(径10mmの斑状)20～30%混入。
128	第13b層	7.5Y4/1灰色粘土。中～細粒砂。
129	第14a層	2.5Y2/1黒色シルト～粘土。全体的に中～細粒砂15～20%混入。土壌層。
131	第14c層	2.5GY6/1オリーブ灰色粘土。全体的に粗～中粒砂ブロック状に10～15%混入。
132	第15層	10Y5/1灰色粗～中粒砂。
133	流路038	10Y6/1～6/2灰～オリーブ灰色(極粗～)粗～中粒砂に、10Y4/1灰色粗～細粒砂混シルトブロック(不定形。径30mm前後)10～15%混入。炭酸ノジュール顕著。
134	流路038	10Y4/1灰色粘土。腐植片(ラミナ状)1～2%。平行ラミナ。
135	流路038	5Y3.5/1オリーブ黒色粘土。全体的に粗～中粒砂7～10%。淘汰不良。ラミナ不明。炭酸ノジュール顕著。
136	流路038	127と同じ。
137	流路038	5Y3.5/1オリーブ黒色粘土と粗～中粒砂の混合土(6:4)。
138	流路038	2.5Y6/2灰黄色粗～中粒砂。5Y3.5/1オリーブ黒色中～細粒砂混シルト～粘土が30%混入。ラミナ。
139	流路038	5Y3.5/1オリーブ黒色粘土と10Y7/1～6/1灰白～灰色粗～中粒砂とのブロック状混合土(7:3)。
141	流路038	10Y7/1～6/1灰白～灰色粗～中粒砂(シルト微量混入)と、5Y3.5/1オリーブ黒色中～細粒砂混シルト～粘土ブロック(ラミナ状)及び、10BG5/1青灰色シルト～粘土ブロック(塊状径30mm前後)との互層(7:3)。
142	第16a層	2.5GY6/1オリーブ灰色粘土。上部10mmほど10Y3.5/1オリーブ黒色を呈する。土壌化か。
143	第16b層	5Y3/1オリーブ黒色シルト～粘土。土壌層。
144	第17a層	5Y3/1オリーブ黒色中～細粒砂(シルト微量混)。土壌層。
145	第17b層	10Y4/1灰色細粒砂～微砂(シルト微量混)。土壌層。
146	第18a層	2.5GY5.5/1オリーブ灰色細粒砂～微砂。2.5Y3.5/1黒褐色粘土(植生痕。幅3～5cm・厚さ5mm)全体的に3～5%混入。腐植片少量混入。平行ラミナ。
147	第18b層上	7.5Y6/1～6/2灰～オリーブ灰色粗～中(～細粒砂)。平行ラミナ。2.5Y3.5/1黒褐色粘土(幅3～5cm・厚さ5mm)の植生痕、腐植片3～5%混入。
148	第18b層中	10GY6/1緑灰色中～細粒砂。平行ラミナ。
149	第18b層下	10GY6/1緑灰色粗～中粒砂。平行ラミナ。



南壁断面



流路037東西断面



1　第0層　盛土、撹乱。
2　第1a層　10BG4.5/1青灰色微砂～シルト。全体に粗～中粒砂微量混入。旧耕土。
4　第2a層　5GY5.5/1オリーブ灰色(細粒砂～)微砂～シルト。全体に径3～10㎜の細礫～粗粒砂10～15%混入。北端は細礫の混入が漸減。北半は10BG5/1青灰色に変色。近世作土。
6　第2b層　10Y6.5/1灰色微砂(～シルト)。粗～中粒砂全体に20～30%混入。径5㎜礫～極粗粒砂1%混入。酸化鉄沈着顕著で10YR6/6明黄褐色に変色。南端は環元。
10　第3a層　10Y5.5/1灰色微砂～シルト。10Y7/1.5灰白色細粒砂～微砂ブロック(径10～30㎜)3～5%混入。マンガン斑紋(粒状)沈着。
14　溝004　10Y5/1灰色微砂～シルト。細粒砂～微砂全体に30%混入。
34　土坑012　33とほぼ同じ。
35　小溝014　10Y6.5/1灰色微砂～シルトと10Y6.5/1灰色中～細粒砂(～微砂)の小斑ブロック混合土(5:5)。酸化鉄斑紋(管状)沈着。酸化により2.5Y7/2灰黄色がかる。
36　土坑032　10Y6.5/1灰色微砂～シルトと10Y6.5/1灰色中～細粒砂(～微砂)の小斑ブロック混合土(5:5)。酸化鉄斑紋(管状)沈着。酸化により2.5Y7/2灰黄色がかる。
46　第5a層　10Y7/1灰白色粗～中(～細粒砂)。平行ラミナ。
47　第5a層　49とほぼ同じ。
49　第5a層　10Y6/1灰色シルトと10Y7/1灰白色微砂～互層(5:5)。平行ラミナ。酸化によりやや黄灰がかる。
50　第5a層　49とほぼ同じ。
51　第5a層　10Y5/1灰色シルトと10Y7/1灰白色微砂の互層(9:1)。平行ラミナ。
53　第5b層　10Y7.5/1灰白色(径20㎜～10㎜礫～)極粗粒砂(～粗～中粒砂)。2.5GY5/1オリーブ灰色シルト～粘土ブロック1～2%混入。淘汰不良。南半では部分的に平行ラミナあり。
55　第5b層　7.5Y6/1灰色(径5㎜礫～)粗～中粒砂(～細粒砂)。5Y3/1オリーブ黒色シルト～粘土ブロック(径20㎜前後)1%以下混入。酸化して7.5Y6/2灰オリーブ色を帯びる。
56　第5b層　7.5Y6/1灰色(径5㎜礫～)粗～中粒砂(～細粒砂)。5Y3/1オリーブ黒色シルト～粘土ブロック(径20～30㎜)7～10%混入。
62　第5c層　10Y7/1灰白色粗～中(～細粒砂)。
64　第5c層　10Y5.5/1灰色(細～)微砂と5Y4/1灰色微砂～シルトの互層(7:3)。上部に腐植混入。平行ラミナ。
65　第5c層　5Y3/1オリーブ黒色シルト～粘土。
67　第6a層　2.5Y2/1黒色粘土。腐植細片(径2～3㎜以下)全体に1%混入。水田作土。上面に畦畔。炭酸ノジュール。
68　第6b層　2.5Y2/1黒色粘土。腐植細片(径3～5㎜以下)全体に10～15%混入。5GY4/1暗オリーブ灰色粘土ブロック(径2㎜以下の小斑状)7～10%混入。炭酸ノジュール。有機物(ペースト状の腐植)多い。
69　第6b'層　2.5Y3/1黒褐色粘土。腐植細片全体に5～7%混入。5GY4/1粘土ブロック(径5㎜以下)小斑状35～40%混入。炭酸ノジュール。有機物多い。
70　第6c層　10GY4/1暗緑灰色シルト～粘土に7.5Y5/2灰オリーブ色細粒砂～微砂(薄いレンズ状)7～10%混入。炭化物(細粒状)微量混入。炭酸ノジュール。
74　第8層　5Y3.5/1オリーブ黒色シルト～粘土と10Y6/1～5/1灰色粗～中粒砂の混合土(7:3)。全体に腐植片1～2%混入。
90　第10a層　10Y6.5/2オリーブ色中粒砂と10GY5/1緑灰色微砂(～シルト)の互層(6:4)。腐植片5㎜以下1%混入。
91　第10a層　10GY6/1緑灰色微砂(～シルト)と5GY5/1オリーブ灰色シルトの互層(7:3)。腐植細片(ラミナ状)1%混入。
92　第10a層　5Y4/1灰色シルト(～粘土)と7.5Y7/1～6/1灰色(粗～)細粒砂～微砂の互層(5:5)。粗粒砂は底部に顕著。腐植細片5～7%。平行ラミナ。
93　第10a層　2.5GY6/1オリーブ灰色細粒砂～微砂と10Y4/1灰色シルトの互層(7:3)。南端部に腐植片(長径20㎜以下)5%混入。平行ラミナ。
96　流路036　95に相当。
97　流路036　2.5GY4/1暗オリーブ灰色微砂～シルトと腐植細片(黒褐色)との互層(8:2)。平行ラミナ。
98　流路036　10Y4/1灰色シルト～粘土。腐植細片(長径10㎜以下)1～2%混入。平行ラミナ。
111　第10d層　2.5GY6/1オリーブ灰色(微砂～)シルト。腐植細片(長径10㎜以下)1%混入。平行ラミナ。
112　第10d層　10GY4.5/1緑灰色シルト～粘土と腐植ペースト状(暗褐色)の互層(8:2)。
116　第11層　10GY5/1緑灰シルト～粘土。腐植(ラミナ状)3～5%混入。
118　流路037　10GY4.5/1緑灰色シルト～粘土と腐植(ペースト状)の互層(9:1)。腐植片2～3%混入。炭酸ノジュール顕著。平行ラミナ。
125　堤040b下層　7.5GY4/1暗緑灰色粘土。全体に粗～中粒砂30～40%混入。淘汰不良。
126　堤040b下層　7.5GY4/1暗緑灰色粘土。全体に粗～中粒砂5～7%混入。淘汰不良。
133　流路038　10Y6/1～6/2灰～オリーブ灰色(極粗～)粗～中粒砂に、10Y4/1灰色粗～細粒砂混シルトブロック(不定形。径30㎜前後)10～15%混入。炭酸ノジュール顕著。
134　流路038　10Y4/1灰色粘土。腐植片(ラミナ状)1～2%。平行ラミナ。
135　流路038　5Y3.5/1オリーブ黒色粘土。全体に粗～中粒砂7～10%。淘汰不良。炭酸ノジュール顕著。
137　流路038　5Y3.5/1オリーブ黒色粘土と粗～中粒砂の混合土(6:4)。
138　流路038　2.5Y6/2灰黄色粗～中粒砂。5Y3.5/1オリーブ黒色中～細粒砂混シルト～粘土が30%混入。ラミナ。
139　流路038　5Y3.5/1オリーブ黒色粘土と10Y7/1～6/1灰白～灰色粗～中粒砂とのブロック状混合土(7:3)。
140　流路038　7.5Y6/1灰オリーブ色中～細粒砂と5Y3.5/1オリーブ黒色中～細粒砂混シルト～粘土ブロック及び10BG5/1青灰色シルト～粘土ブロック(塊状。径30㎜)との互層(7:3)。荷重による変形。
141　流路038　10Y7/1～6/1灰白～灰色粗～中粒砂(シルト微量混入)と、5Y3.5/1オリーブ黒色中～細粒砂混シルト～粘土ブロック(ラミナ状)及び10BG5/1青灰色シルト～粘土ブロック(塊状径30㎜前後)との互層(7:3)。
147　第18b層上　7.5Y6/1～6/2灰～オリーブ灰色粗～中(～細粒砂)。2.5Y3.5/1黒褐色粘土(幅3～5cm・厚さ5㎜)の植生痕、腐植片3～5%混入。平行ラミナ。
148　第18b層中　10GY6/1緑灰色中～細粒砂。平行ラミナ。
149　第18b層下　10GY6/1緑灰色粗～中粒砂。平行ラミナ。

第 49 図　C調査区南壁断面図・流路 037 断面図 (1/40)

層厚６～10cmをはかる（第48図-144）。第17b層（灰色細粒砂～微砂）上面の標高はT.P.+2.52～2.72m、層厚８～10cmをはかる（第48図-145）。

第18層　KM00-5・6の「8B層」に対応すると考えられる。ａ・ｂに分かれ、平行ラミナが入る。第18a層（オリーブ灰色細粒砂～微砂）上面の標高はT.P.+2.52～2.78m、層厚６～10cmをはかる（第48図-146）。北側へ傾斜している。第18b層は上・中・下に分けられる。上層（第47・48図-147）上面の標高はT.P.+2.5～2.6m、層厚24cmをはかる。中層（緑灰色中～細粒砂）上面の標高はT.P.+2.26m、層厚23cmをはかる（第48・49図-148）。下層（緑灰色粗～中粒砂）上面の標高はT.P.+2.05m、層厚15cm以上をはかる（第48・49図-149）。

第２項　検出された遺構と遺物

（１）第16a層上面（弥生時代前期～中期）

土坑041、042、落込043、流路044を検出している（第50図、図版9b）。埋土は基本層序の第15層である（第46図-132）。

土坑041

調査区中央のやや南寄り、C02区で検出した。南北1.0m、東西0.4m以上、深さ8.2cmをはかる。

土坑042

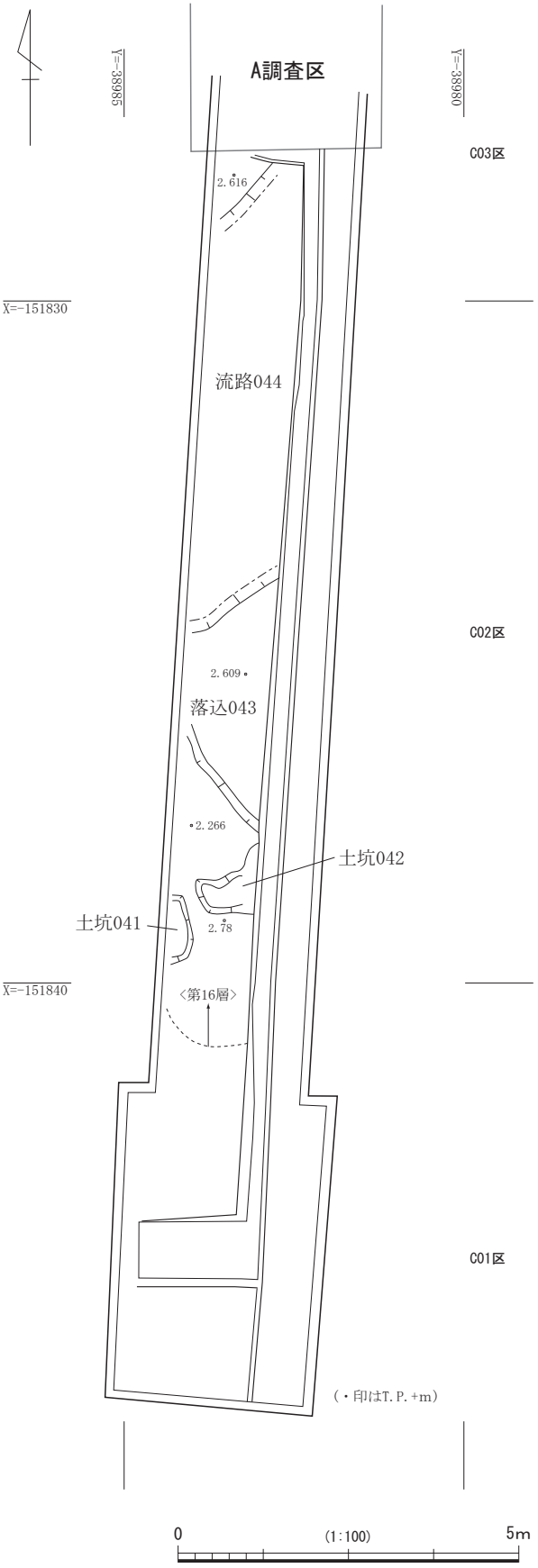
調査区中央のやや南寄り、C02区で検出した。南北0.5m～1.1m、東西0.86m以上、深さ5.5cmをはかる。

落込043

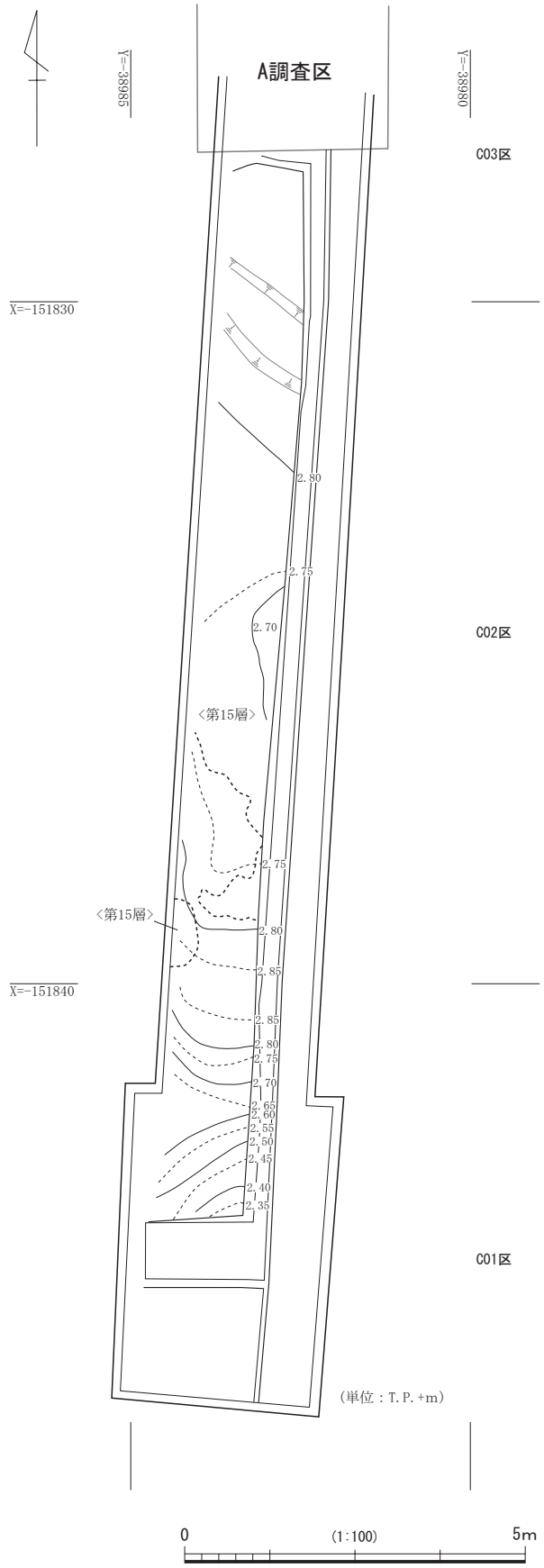
調査区中央、C02区で検出した。長さ2.0m以上、深さ15cmをはかる。

流路044

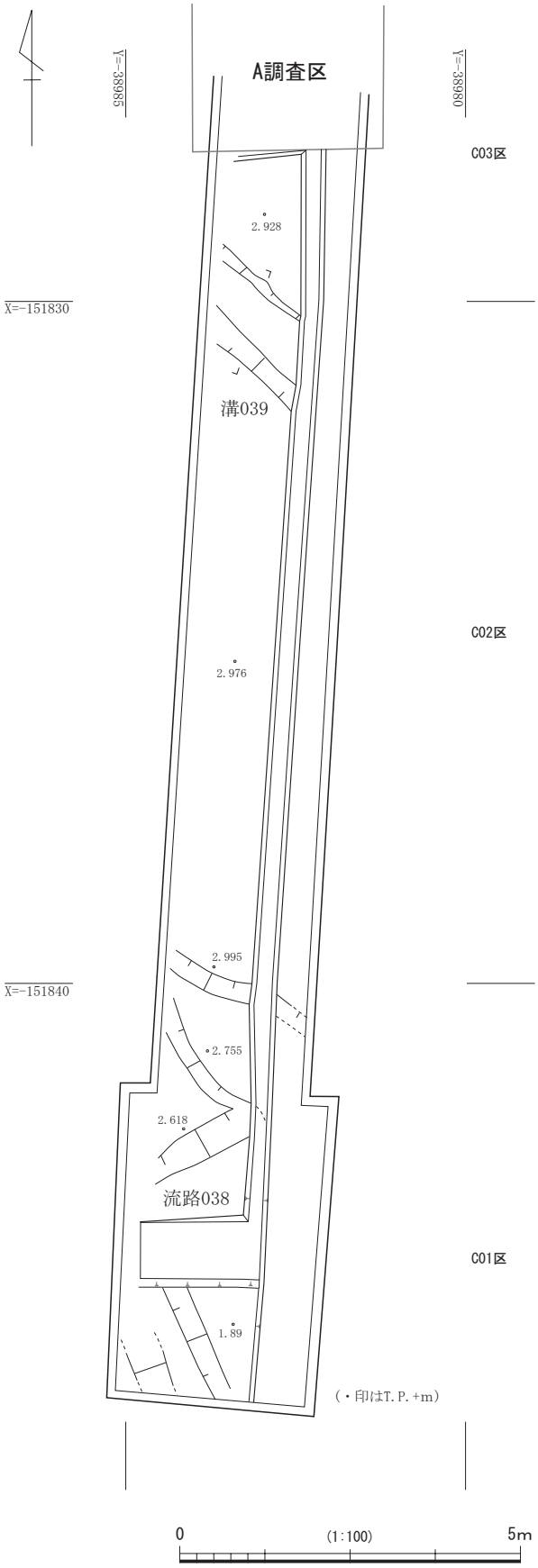
調査区の北半部、C02・03区で検出している。北東－南西方向に走行する幅約4.0mをはかる流路である。予定掘削深度に達していたため、深さは不明であるが、現状で20cmを確認している。



第50図　Ｃ調査区第16a層上面遺構平面図（1/100）



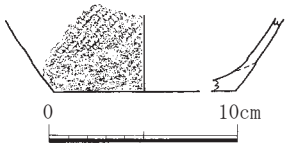
第 51 図　Ｃ調査区第 15 層上面等高線図 (1/100)



第 52 図　Ｃ調査区第 13a 層上面遺構平面図 (1/100)

（２）第 14a 層上面（弥生時代中期）

上面で足跡を検出している。



第 53 図　Ｃ調査区第 13a 層上面
流路 038 出土土器 (1/4)

（３）第 13a 層上面（弥生時代中期）

流路 038、溝 039 を検出している（第 52 図、図版 9c・ｄ）。

流路 038

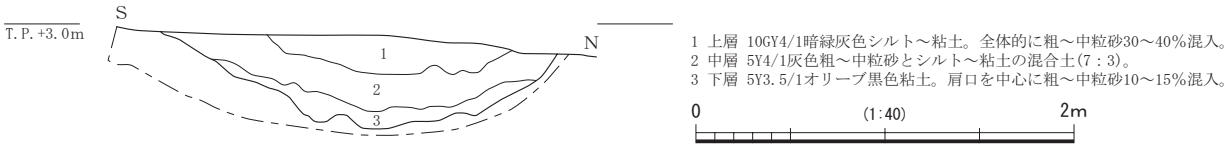
調査区の南半部、C01 区で検出している。北西－南東方向に走行する幅 4.5m 以上、深さ 113.8cm をはかる流路である（第 49 図 -133 ～ 141、図版 9a)。埋土から縄文土器、木製品が出土している。

＜出土遺物＞（第 53 図、図版 37-1、40- １・３）

第 53 図は縄文時代後期（北白川上層式）の縁帯文土器鉢で、外面に縄文を施文している。胎土に 0.5mm 大の砂粒を多く含む。トレンチ掘削中に出土した（T.P.+2.04m）ため、第 18 層に帰属する可能性もある。図版 40- １は杭で、検出面の標高は T.P.+2.445m である。杭の一方の端は、南側の調査範囲外に伸びており、現存長は 101cm で、径４cm をはかる。図版 40- ３は小型の杭で、残存長 7.9cm、径 1.9cm をはかる。

溝 039

調査区の北端、C02 ～ 03 区で検出している。幅 0.92m、深さ 26cm をはかり、北西－南東方向に走行する（第 46 図 -122 ～ 124、第 54 図)。



第 54 図　Ｃ調査区第 13a 層上面溝 039 断面図 (1/40)

（４）第 12a 層上面（弥生時代中期中頃～後半）

流路 037、堤 040、高まり 045 を検出している（第 55 図、図版 9-e)。

流路 037

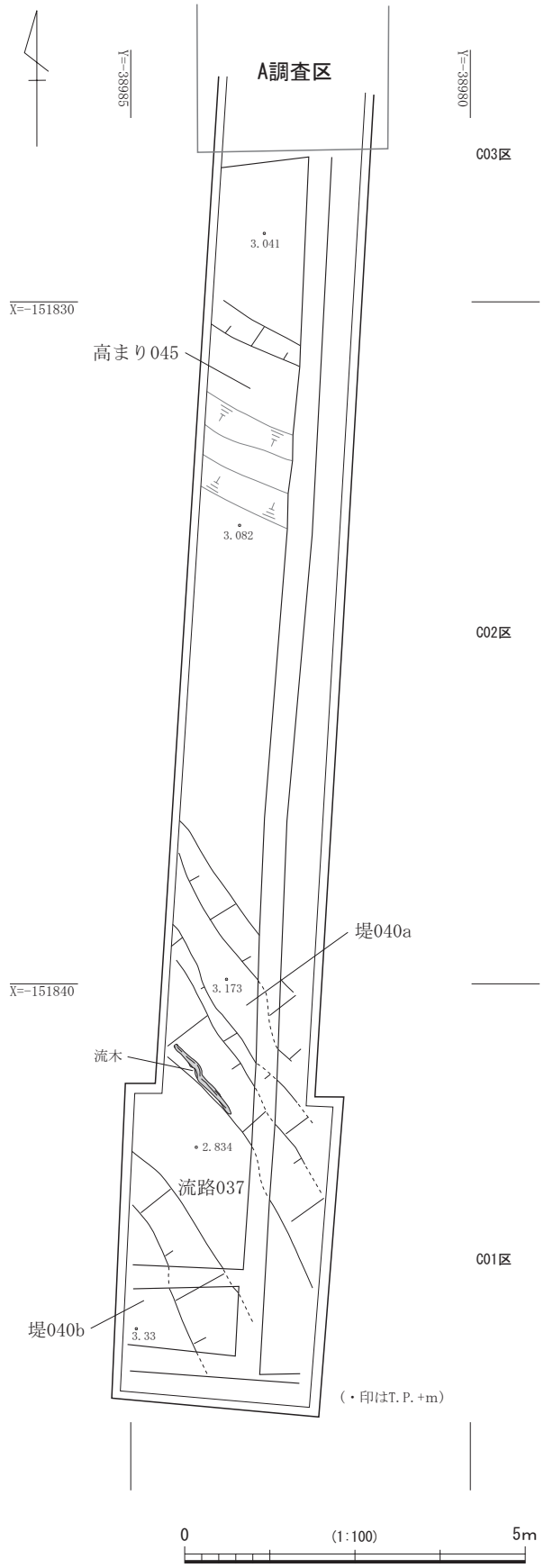
調査区の南端、C01 区で検出した。北西－南東方向に走行する流路で、幅 2.88m、深さ 54cm をはかる（第 48・49 図 -118・119)。北肩の下位（T.P.+3.068m）で自然木が出土している。

堤 040

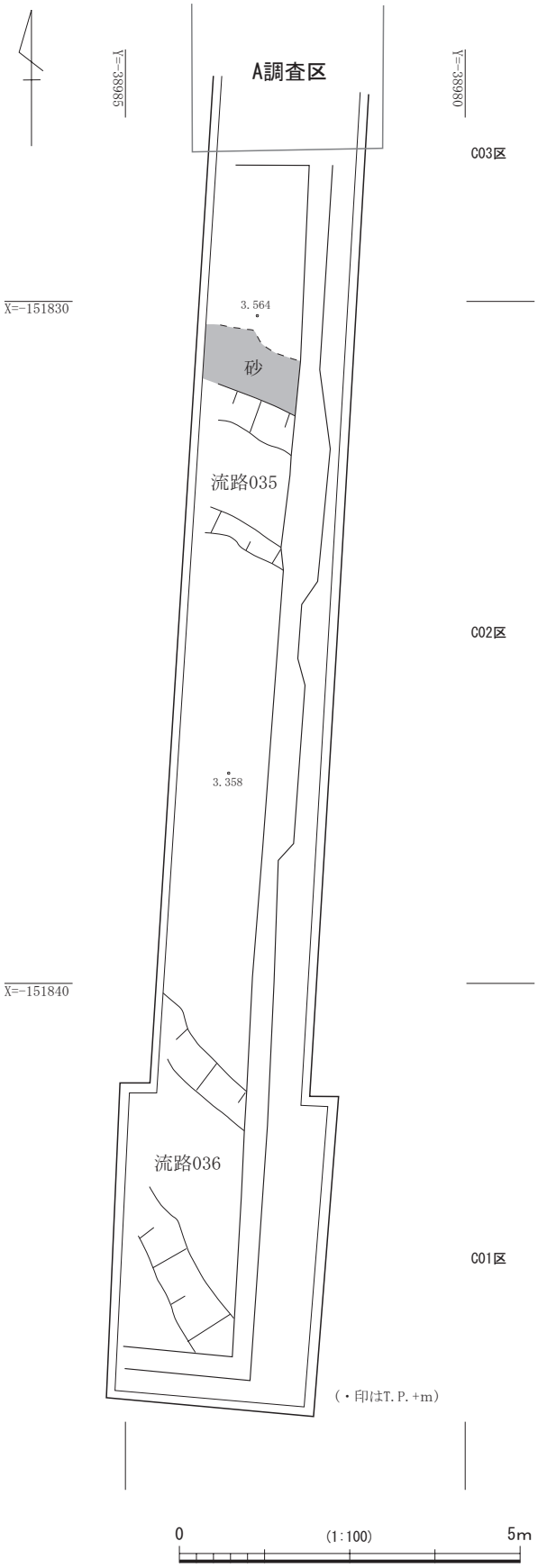
調査区の南半部、C01 ～ 02 区で検出した。流路 037 に伴う堤で、流路 038 の埋没後に、積み上げて築いている（第 48・49 図 -125・126)。基底部での幅 2.25m、高さ 46cm をはかる。上下２層に分かれ、上層は基本層序の第 12b 層で、下層は２つに分けられ、上位は 7.5GY4/1 暗緑灰色粘土で、全体的に粗～中粒砂 30 ～ 40%混入。下位は 7.5GY4/1 暗緑灰色粘土で、全体的に粗～中粒砂５～７%混入。

高まり 045

調査区の北半部、C02 区で検出した西北西－東南東に走向する高まりで、畦畔の可能性も考えられる。



第 55 図　Ｃ調査区第 12a 層上面遺構平面図 (1/100)



第 56 図　Ｃ調査区第 10b 層上面遺構平面図 (1/100)

（５）第 10b 層上面（弥生時代中期後半）

検出面の標高は T.P.+3.56 ～ 3.34m をはかり、上面で流路 035・036 を検出している（第 56 図、図版 10a ～ c）。

流路 035

調査区の北半部、C02 区で検出した（第 56 図）。幅 2.05m、深さ 48.7cm をはかり、流路 036 を切る（第 47･48 図 -95）。下層から縄文土器、木製品、桃核 1 点が出土している。

＜出土遺物＞（図版 37- ２、図版 40- ２）

図版 37- ２は縄文時代後期（北白川上層式）の縁帯文土器鉢で、口縁端部を肥厚させ、外面に縄文を施文している。色調は暗灰黄色 2.5Y5/2 で、胎土に 0.5mm 大の砂粒を多く含む。図版 40- ２は用途不明の木製品で、長さ 21.9cm、幅 1.5cm、厚さ 0.55cm をはかり、両端を斜めに加工する。右側面は二次的に破損している。

流路 036

調査区の南半部、C01 区、流路 037 の窪みに堆積したもので、幅 2.7 ～ 3.0m、深さ 21.9cm をはかり、流路 035 に切られる（第 46 ～ 48 図 -96 ～ 99）。

（６）第８層上面（弥生時代後期）

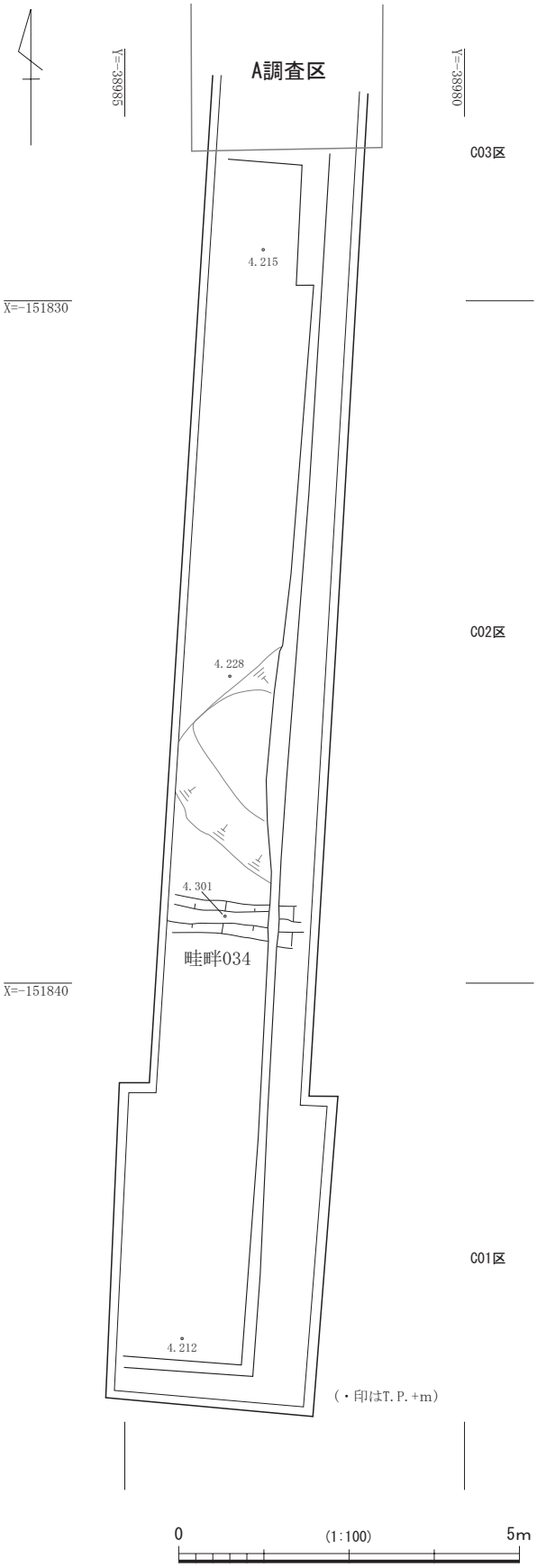
足跡を検出している。検出面の標高は T.P.+4.06 ～ 3.88m をはかる。

（７）第 6a 層上面（古墳時代前期）

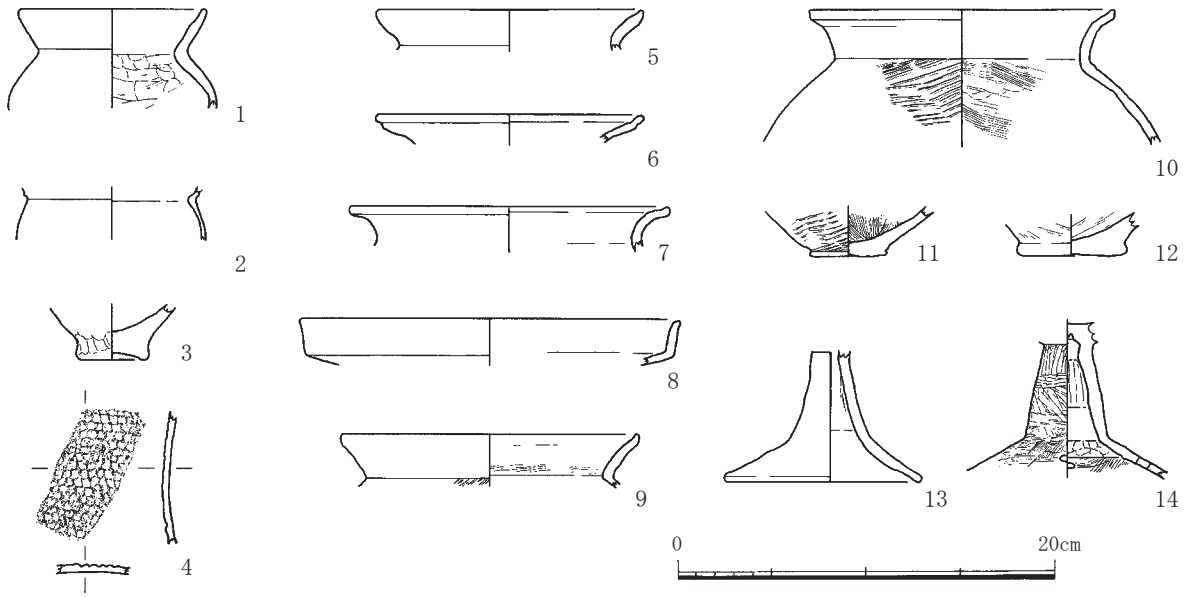
畦畔 034、足跡を検出している（第 57 図、図版 10-e）。検出面の標高は T.P.+4.21 ～ 4.22m をはかり、ほぼ水平に堆積している。

畦畔 034

調査区の南半部、C02 区で検出した。幅 0.48 ～ 0.54m、高さ 12.6cm をはかる（第 48 図）。



第 57 図　Ｃ調査区第 6a 層上面遺構平面図 (1/100)



第 58 図　Ｃ調査区第５層出土土器 (1/4)

（８）第５層（古墳時代前期～中期）

第５層は古墳時代前期から古墳時代中期にかけて形成された氾濫堆積層である。1985 年度の「第５層」、KM00-5・6 の「5B 層」に対応する。検出面の標高は T.P.+5.10 ～ 5.01m である。

＜第 5 層出土遺物＞（第 58 図、図版 37・38）

第 5c 層から１～ 10・12 ～ 14、図版 37- ６、図版 38- ７・８、第 5b 層から 13 が出土した。１～３・５・６・８～ 12・14、図版 37- ６は土師器で、13 及び図版 38- ７は弥生土器で、４・７は韓式系土器で、図版 38- ８は須恵器である。１は小型壺で、口径 9.8cm をはかる。体部内面はヘラケズリ調整を施している。２は小型鉢の体部片である。３は鉢形土器の底部片で、底径 3.6cm をはかる。５～ 12、図版 38- ７は甕形土器で、７は韓式系（軟質）土器で、口径 16.8cm をはかり、口縁部内外面は回転ナデ調整を施している。８は受け口状口縁で、口径 20cm をはかる。９は庄内形甕で、口径 15.6cm をはかり、口縁部内面はハケメ、体部外面はタタキメ、内面はヘラケスリ調整を施している。10 ～ 12 は弥生形甕で、10 は口径 16cm をはかる。体部外面はタタキメ、内面は指ナデ後にハケメ調整で、胎土は生駒西麓産である。11・12 は底部片で、外面はタタキメ、内面はハケメ調整を施し、11 は底径 4.05cm、12 は底径 5.8cm をはかる。図版 37- ６は布留形甕の口縁部である。図版 38- ７は弥生時代前期の甕で、口縁端部に刻み目を巡らしている。13・14 は高坏で、13 は底径 10.3cm をはかり、脚部下位に透孔を三ヶ所に穿つ。14 は高坏の脚部で、脚柱部外面はヘラケズリ後にハケメ、裾部外面はハケメ、内面は指ナデ後にハケメ調整を施している。円形透孔を四方向に穿つ。4 は韓式系土器甕？の体部片で、外面は斜格子タタキメ調整である。図版 38- ８は須恵器甕または壺の体部片である。

（９）第５層上面（奈良～平安時代）

土坑 012・027・032、溝 013・018・019・023・026、小溝 014 ～ 017・020・022・024・025・028・033 を検出した（第 59 図、図版 10-d)。検出面の標高は T.P.+5.10 ～ 5.01m をはかる。

土坑 012

調査区の南端、C01 区で検出した。南肩は調査範囲外に伸びる。南北 1.2m ×東西 0.9m 以上、深さ 24cm をはかり、東側で溝 014 を切る（第 49 図 -34）。

土坑 027

調査区の北半、C02・03 区で検出した。西側は調査範囲外に伸び、径 1.5m 以上× 0.4m 以上、深さ 7.5cm をはかり、小溝 024 を切る。

土坑 032

調査区の南端、C01 区で検出した。西側の一部を溝 014 に切られ、径 0.6m 以上× 1.0m 以上、深さ 18cm をはかる（第 47・48 図 -36）。

溝 013

調査区の南端、C01 区で検出した東西方向の溝で、耕作に伴う排水用の溝と考えられる。幅 0.83 ～ 0.94m、深さ 14.5cm をはかり、溝 014 を切る（第 48 図 -33）。

溝 018

調査区の南半部、C01 区で検出した東西方向の溝で、耕作に伴う排水用の溝と考えられる。幅 1.24m、深さ 41cm をはかり、溝 014 に切られる。埋土は３つに分かれる（第 48 図 -29 ～ 31）。

溝 019

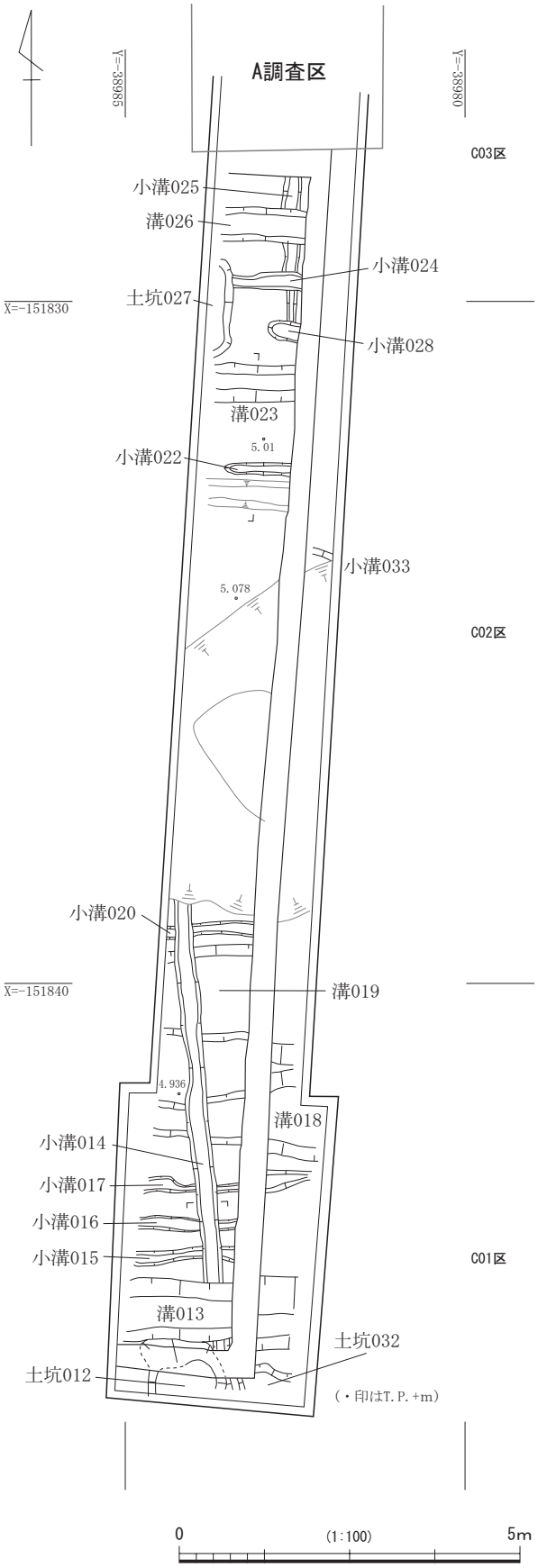
調査区の南半部、C01・02 区で検出した東西方向の溝で、幅 1.59m、深さ 7.1cm をはかり、溝 014 に切られる（第 47 図 -28）。耕作に伴う排水用の溝と考えられる。

小溝 014

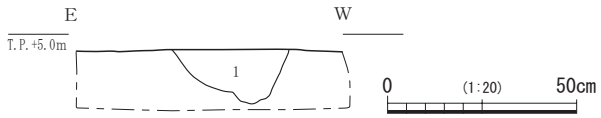
調査区の南半部で検出した南北方向の小溝である（第 60 図）。幅 0.31m、深さ 14cm をはかり、溝 013 に切られ、土坑 032、小溝 015 ～ 020 を切る（第 49 図 -35）。層中より古代の須恵器坏ＡまたはＢの口縁部１片が出土している。

小溝 015 ～ 017

調査区の南半部、C01 区で検出した。幅 0.15



第 59 図　Ｃ調査区第５層上面遺構平面図 (1/100)



1　10Y6.5/1灰色微砂～シルトと10Y6.5/1灰色中～細粒砂（～微砂）の小斑状ブロック混合土（5：5）。酸化鉄斑紋(管状)沈着。

第 60 図　第５層上面小溝 014 断面図 (1/20)

～ 0.19m、深さ８～ 10cm をはかる東西方向の小溝で、小溝 014 に切られる（第 48 図 -32)。

小溝 020

調査区の南半部、C02 区で検出した。幅 0.2m、深さ約４cm をはかる東西方向の小溝で、小溝 014 に切られる。埋土は 10Y6/1.5 灰色微砂～シルトに、極粗～粗粒砂２～３％混入する。

溝 023

調査区の北半部、C02 区で検出した。幅 0.6m、深さ 17cm をはかる（第 59 図)。埋土は３層に分かれる（第 46 図 -24 ～ 26)。埋土から 11 世紀の土師質小皿（図版 39- １）が出土している。

溝 026

調査区の北半部、C03 区で検出した。幅 0.5m、深さ５cm をはかる（第 59 図)。埋土は基本層序の第 4b 層である。

小溝 022・024・025・028

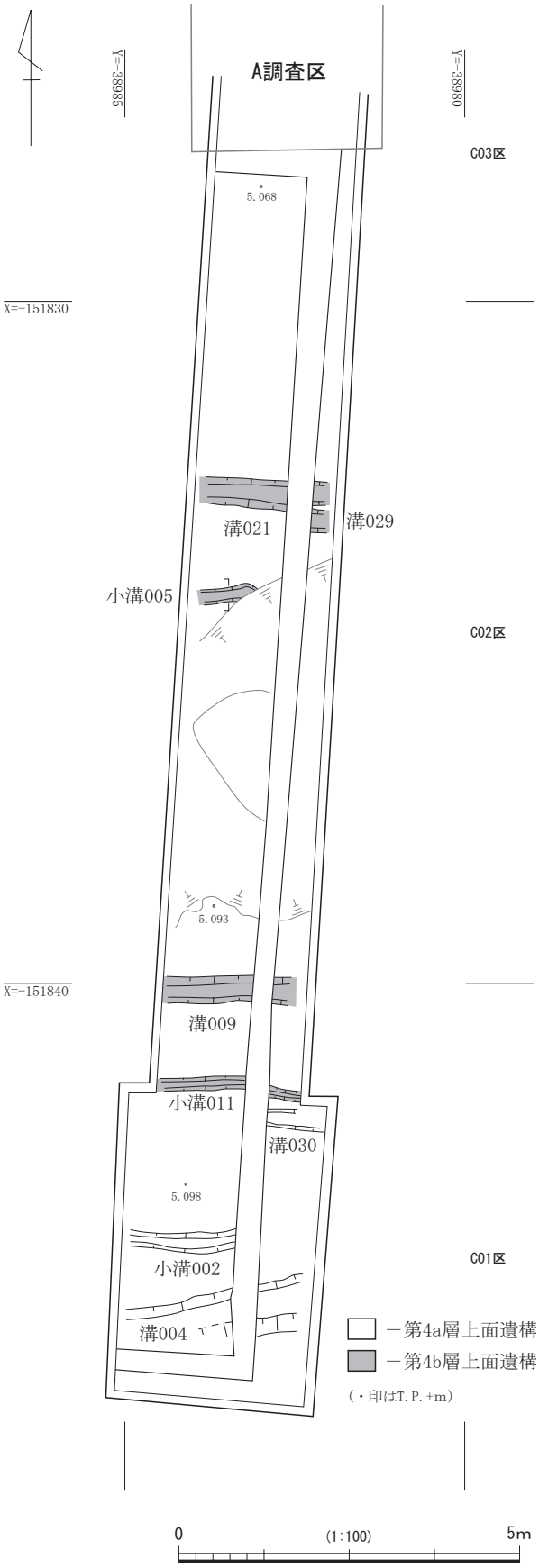
調査区の北半部、C02・03 区で検出した。幅 0.2 ～ 0.3m、深さ５～９cm をはかる東西、南北方向の小溝で(第 59 図)、埋土は基本層序の第 4b 層である。

小溝 033

調査区の北半部、C02 区で検出した。幅 0.32m、深さ 10cm をはかる（第 59 図)。埋土は 7.5Y5/1 灰色微砂～シルト（粗砂少量混）と 7.5Y6/2 灰オリーブ微砂の混合土（第 47 図 -27)。

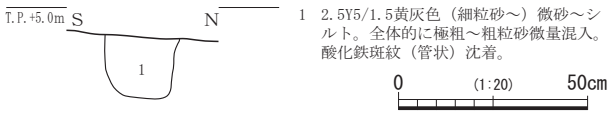
(10) 第４層上面（中世）

第４層は上下に分けられ、上層を第 4a 層、下層を第 4b 層と呼称した。第 4a 層上面で、小溝 002、溝 004・030、第 4b 層上面で小溝 005・011、



第 61 図　C調査区第４層上面遺構平面図 (1/100)

溝 009・021・029 を検出した（第 61 図、図版 10f）。いずれも耕作に関連する溝と考えられる。検出面の標高は T.P.+5.06 ～ 5.12m をはかる。



第 62 図　Ｃ調査区第 4b 層上面小溝 005 断面図 (1/20)

小溝 002

調査区の南半部、C01 区で検出した。幅 0.28m、深さ７cm をはかる。埋土は第３層系で、10Y5.5/1 灰色微砂～シルトに、10Y7/1.5 灰白色細粒砂～微砂ブロック（径 10 ～ 30 ㎜）３～５％混入。

溝 004

南側が調査範囲外で幅 2.0m 以上、深さ 35cm をはかる。西南西－東北東方向の落込み状遺構である。埋土は大きく２つに分けられる（第 48・49 図 -14）。埋土から土師質土器６、須恵器２片が出土している。図版 39-3 は６世紀前半の須恵器坏蓋で、下層から出土したもので、混入品と思われる。

第 63 図　Ｃ調査区第 4b 層上面溝 009 出土土器 (1/4)

小溝 005

調査区の北半部、C02 区で検出した（第 61 図）。幅 0.2m、深さ 16cm をはかる（第 62 図）。

溝 009

調査区の南半部、C01 区で検出した。東西方向の溝で、幅 0.41m、深さ９cm をはかる。埋土は基本層序の第 4a 層（第 48 図 -19）で、土師質 12、土師器１片が出土している。第 63 図は土師器皿で、口径 14.8cm をはかる（図版 39- ２）。

小溝 011

調査区の南半部、C01 区で検出した。東西方向の小溝で、幅 0.21m、深さ９cm をはかり、第５層上面で検出した溝 018 を切る（第 48 図 -20）。

溝 021

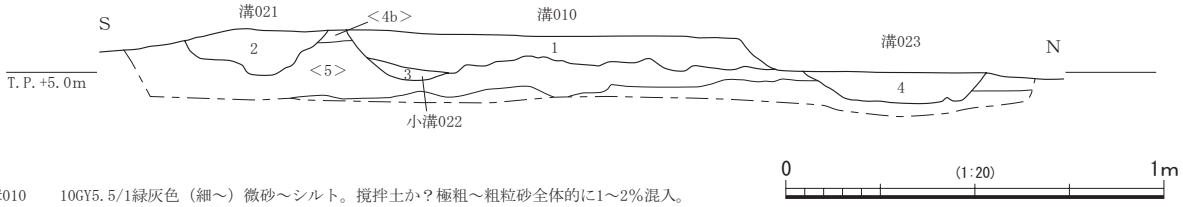
調査区の北半部、C02 区で検出した。幅 0.37m、深さ 13cm をはかる（第 47 図 -17、第 64 図）。

溝 029

調査区の北半部、C02 区で検出した。幅 0.34m、深さ９cm をはかる（第 47 図 -18）。

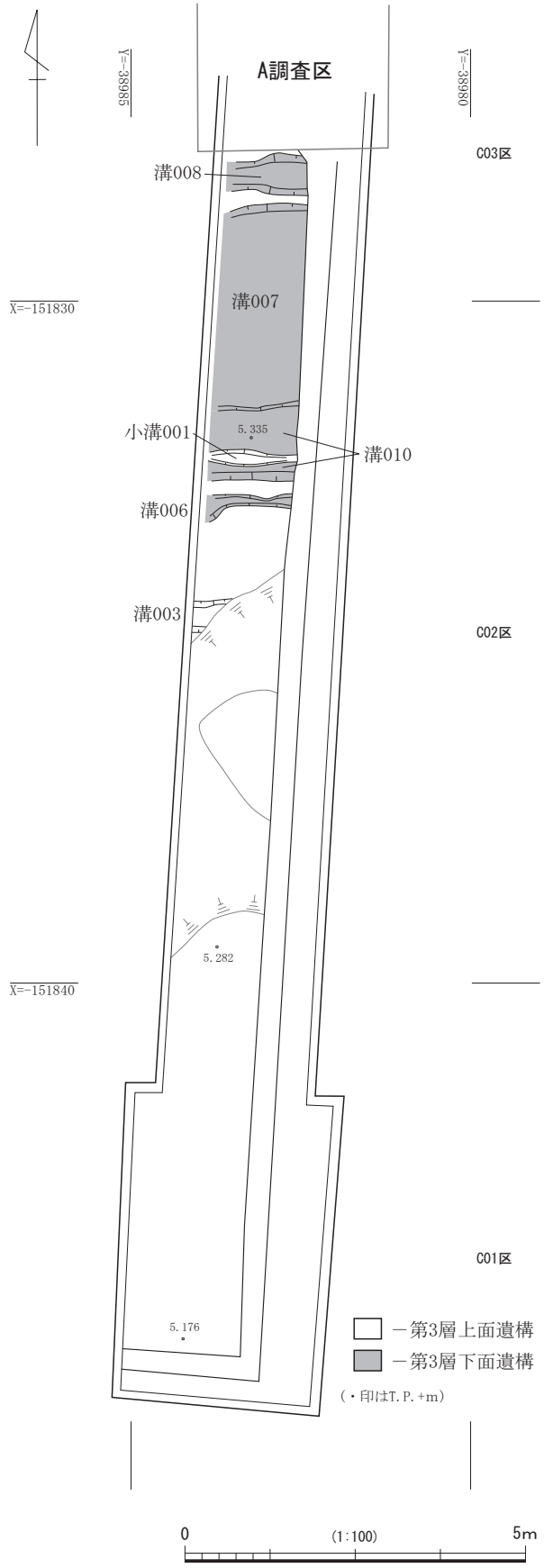
溝 030

調査区の南半部、C01 区で検出した。幅 0.23m、深さ６cm をはかる（第 48 図 -15）。



1　溝010　10GY5.5/1緑灰色（細～）微砂～シルト。撹拌土か？極粗～粗粒砂全体的に1～2%混入。10YR6/6明黄褐色に変色。
2　溝021　10Y6/1灰色微砂～シルト。全体的に粗～中粒砂が25%混入。
3　小溝022　10GY5.5/1緑灰色（細～）微砂～シルト。極粗～粗粒砂全体的に1～2%混入。10YR6/6明黄褐色に変色。
4　溝023　10GY5.5/1緑灰色（細～）微砂～シルト。微砂主体。酸化鉄斑紋沈着により10YR6/6明黄褐色を帯びる。

第 64 図　Ｃ調査区第３層下面～第５層上面溝 010・021・023・小溝 022 断面図 (1/20)



第 65 図　第３層上面～第３層下面遺構平面図 (1/100)

(11) 第３層上面及び第３層下面（近世）

第３層上面で、小溝 001、溝 003、第３層下面で溝 006 ～ 008・010 を検出した（第 65 図）。いずれも耕作に関連する溝と考えられる。検出面の標高は T.P.+5.2 ～ 5.37m をはかる。

小溝 001

調査区の北半部、C02 区で検出した。東西方向の小溝で、幅 0.2 ～ 0.3m、深さ５cm をはかる。埋土は灰黄色土である。

溝 003

調査区の北半部、C02 区で検出した。東西方向の溝で、幅 0.4m、深さ５cm をはかる。埋土は黄灰色粘質土である。

溝 006

C02 区で検出した。東西方向の小溝で、幅 0.2m、深さ３cm をはかる。埋土は第３層系で、10GY5/1 緑灰色（細～）微砂～シルトに、極粗～粗粒砂を全体的に３～５％混入する。

溝 007

調査区南半部、C02 ～ 03 区で検出した。東西方向の落込み状遺構で、幅約 3.0m、深さ 12.2 ～ 16.2cm をはかり、溝 010 を切る。（第 47 図 -11）。埋土から 16 世紀末～ 17 世紀前半の唐津焼灰釉丸皿１、17 世紀中～後半の信楽焼擂鉢１、土師質土器 17、須恵器５片が出土している。

溝 008

調査区南半部、C02 区で検出した。東西方向の溝で、幅 0.4 ～ 0.6m、深さ 10.6cm をはかる。10GY5/1 緑灰色（細～）微砂～シルトで、極粗～粗粒砂全体的に３～５％混入。

溝 010

調査区南半部、C02 区で検出した。東西方向の溝で、北側は溝 007 に切られ、幅 1.14m 以上、深さ 14cm をはかる（第 64 図、第 47 図 -12・13）。

第４節　Ｄ調査区

Ｄ調査区は、Ｂ調査区の東側に位置する（第２図）。上端の幅約 3.1m、上端の長さ約 50m の南北方向の調査区である。調査は世界測地系による 10m 区画の地区割りを設定し（南から E01 区、・・・E05 区）、遺物の取り上げ、遺構の位置表示に使用している。調査は工事掘削深度の関係で、北側は T.P.+4.571m、南側は T.P.+4.68m までで（第５層上面）とどめている。なお、南端の一部分（マンホール設置部分）については T.P.4.0m まで実施している。

第１項　基本層序

基本層序は隣接し、先に調査を行っているＢ調査区に準じて実施している。Ｄ調査区では、第０層から第６層の層序を確認している（第 66･67 図）。平面的な調査は第６層上面まで実施している。ただし、第６層上面の調査は、南端の一部分（マンホール設置部分）である。

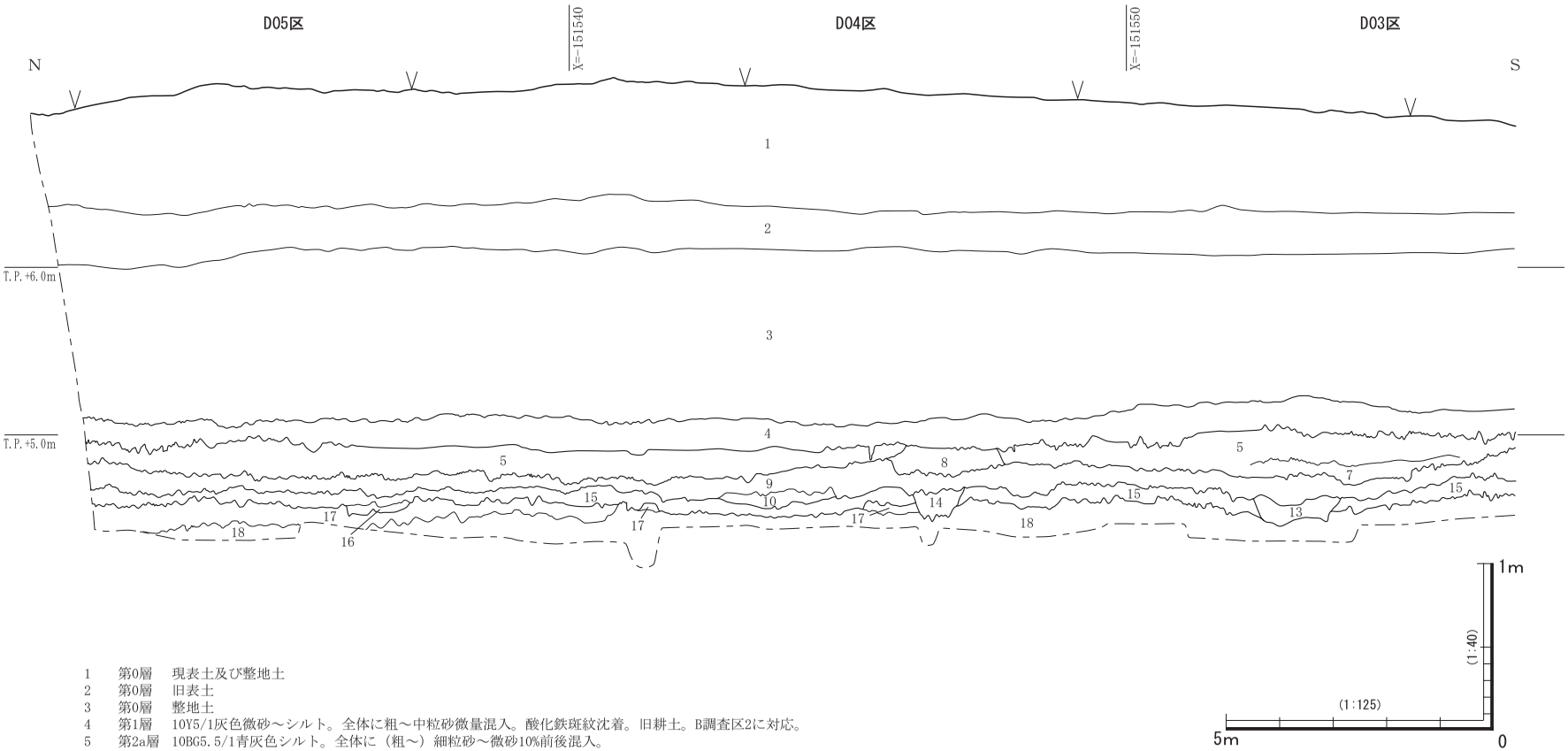
第０層　現表土及び久宝寺緑地造成時の盛土で、上面の標高は T.P.+7.12 ～ 6.42m、層厚 1.24 ～ 2.03m をはかり、南側へ行くほど標高が低くなる（第 66・67 図－１～３）。

第１層（灰色微砂～シルト）　久宝寺緑地造成前の旧表土、近現代の耕作土で、上面の標高は T.P.+5.08 ～ 5.17m、層厚 15 ～ 20cm をはかる（第 66・67 図－４）。北側へわずかに傾斜している。

第２層　ａ・ｂに分かれる。調査時は第 2a 層を第２層上、第 2b 層を第２層下と呼称していた。第 2a 層（青灰色シルト）上面の標高は T.P.+4.90 ～ 5.08m、層厚 10 ～ 20cm をはかる（第 66･67 図－５）。第 2b 層は D02 区（畦畔 001）以南でのみ確認されることから、第３層上面で検出された畦畔 001 の作土の可能性が考えられた。上面の標高は T.P.+4.87 ～ 4.93m、層厚７～ 13cm をはかる（第 66・67 図 -6)。上面で溝 003 を検出している。第 2b 層はＡ調査区の「第 3a 層」（第３・４図 -17・18）に対応する可能性も考えられる。層中より瓦器椀３、土師質土器８、染付３、磁器１、16 世紀末～ 17 世紀前半の景徳鎮窯白磁坏１、備前焼甕１、17 世紀前半の備前焼擂鉢、14 世紀の常滑焼甕、唐津焼椀１、瓦３、土人形１片が出土している（図版 41－１・４・６・７）。

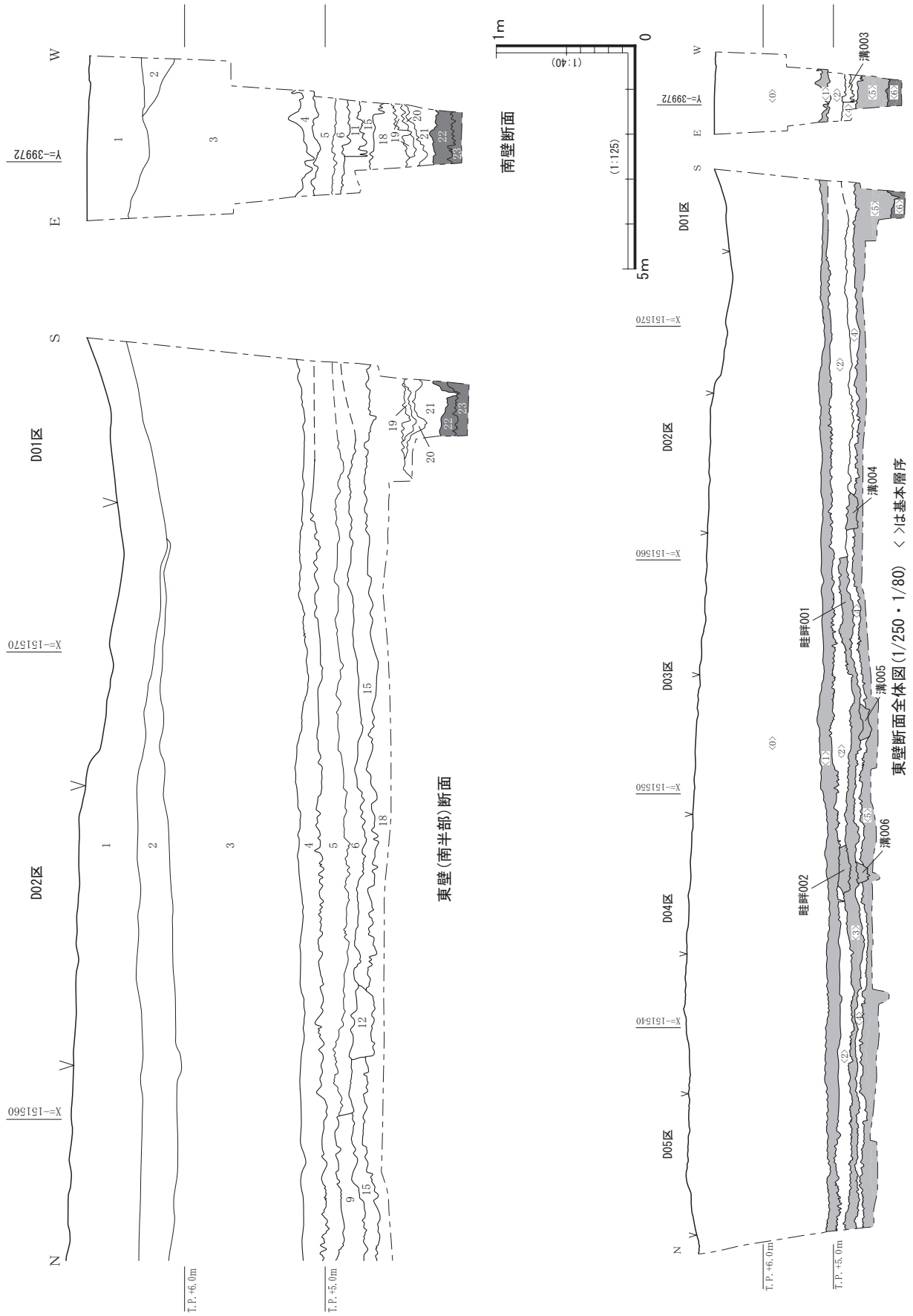
第３層　ａ・ｂに分かれる。調査時は第 3a 層を第３層上、第 3b 層を第３層下と呼称していた。第 3a 層（青灰色シルト）上面の標高は T.P.+4.70 ～ 4.90m、層厚５～ 20cm をはかる（第 66・67 図－９）。中央でわずかに窪む。第 3a 層は D03 区以北でのみ確認され、上面で畦畔 001・002 を検出している（第 71 図、図版 11-d)。第 3b 層（青灰色シルト）は D04 区でのみ確認され、上面の標高は T.P.+4.65 ～ 4.70m、層厚約 10cm をはかる（第 66・67 図 -10)。層中より染付 1、瓦器椀１、土師質土器３、瓦１、陶磁器１、龍泉窯青磁瓶（15 世紀）１、須恵器１片が出土している。

第４層　ａ・ｂに分かれる。調査時は第 4a 層を第４層上、第 4b 層を第４層下と呼称していた。第 4a 層（青灰色シルト）上面の標高は T.P.+4.63 ～ 4.80m、層厚５～ 13cm をはかる（第 66・67 図 -15)。上面で溝 003 ～ 006 を検出している（第 70 図、図版 11-a)。第 4b 層（灰色シルト）上面の標高は T.P.+4.58 ～ 4.62m、層厚約６cm をはかり、D05 区でのみ確認される（第 66 図 -16)。層中より瓦器椀４、



第66図　D調査区東壁（北半部）断面図（1/125・1/40）

1　第0層　現表土及び整地土
2　第0層　旧表土
3　第0層　整地土
4　第1層　10Y5/1灰色微砂～シルト。全体に粗～中粒砂微量混入。酸化鉄斑紋沈着。旧耕土。B調査区2に対応。
5　第2a層　10BG5.5/1青灰色シルト。全体に（粗～）細粒砂～微砂10%前後混入。
6　第2b層　5BG5.5/1青灰色シルト。全体に（粗～）細粒砂～微砂3～7%混入。暗オリーブ色から緑灰色を帯びる。
7　第2層　10BG6/1青灰色シルト。全体に粗～中粒砂2～3%混入。
8　畦畔002 10YR6/2オリーブ灰色シルト。
9　第3a層　10BG6/1青灰色シルト。全体に（粗～）細粒砂～微砂3～7%混入。5Y5.5/4オリーブ黄色シルト（径1mm前後の小斑状）ブロック少量混入。酸化により暗オリーブ色を帯びる。B調査区15に対応。
10　第3b層　10BG6/1青灰色シルト。全体に中～細粒砂1～2%。5Y5.5/4オリーブ黄色微砂～シルトブロックが微量混入。
11　溝003　10YR6/4にぶい黄橙中～細粒砂（～シルト）。酸化鉄斑紋沈着。
12　溝004　10BG6/1青灰色細シルト。全体に中～細粒砂微量混入。第4層とほぼ同じであるが、軟弱で締りがない。オリーブ黄色ブロックの混入比も少ない。
13　溝005　10BG6/1青灰色細シルト。全体に中～細粒砂微量混入。第4層とほぼ同じであるが、軟弱で締りがない。オリーブ黄色ブロックの混入比も少ない。
14　溝006　10BG6/1青灰色細シルト。全体に中～細粒砂微量混入。第4層とほぼ同じであるが、軟弱で締りがない。オリーブ黄色ブロックの混入比も少ない。
15　第4a層　10BG6/1青灰色シルト。全体に中～細粒砂微量混入。5Y5.5/4オリーブ黄色微砂～シルト（径20～10mmの小斑状）10～15%混入。B調査区23に対応。
16　第4b層　17とほぼ同じ。
17　第5a層　5Y5.5/4オリーブ黄色シルト。酸化鉄斑紋沈着やや顕著。B調査区45に対応。
18　第5b層　5Y5/3灰オリーブ色微砂～シルト。砂質やや強い。酸化鉄斑紋沈着顕著。B調査区47に対応。
19　第5b層　2.5Y5/1黄灰色微砂～シルト。幅10mmの乾痕あるいは植生痕と思しき灰白色の貫入が顕著に見られる。B調査区49に対応。
20　第5b層　10Y6.5/1灰白色微砂と2.5Y5/1黄灰色シルトの互層(7:3)。酸化鉄斑紋（管状）沈着。平行ラミナが明瞭に認められる。B調査区88に対応。
21　第5c層　5Y6/1灰色径2～3mm礫（～粗～細粒砂）。B調査区101に対応。
22　第6a層　5Y3.5/1オリーブ黒色シルト～粘土（全体的に粗粒砂微量混入）。B調査区121に対応。
23　第6b層　10BG5/1青灰色粘土。炭化物（ペースト状）ラミナ状に数条5～7%程度混入。2.5Y7/1灰白色粘土小斑状に30～40%混入（ブロックではなく、植生痕と思われる）。B調査区125に対応。



第 67 図　Ｄ調査区東壁（南半部）・南壁断面図（1/125・1/40）
東壁断面全体図（1/250・1/80）

土師質土器5、閩南沿海窯系白磁碗（12世紀前半）1、信楽焼甕（16世紀）１、瓦１、須恵器１片が出土している（図版41-２）。

第５層　ａ～ｃに分かれる。調査時は第5a層を第５層上、第5b層を第５層下と呼称していた。第5a層（オリーブ黄色シルト）上面の標高はT.P.+4.57～4.68m、層厚10～14cmをはかり、D04区以北でのみ確認される（第66図-17）。上面で、遺構は確認されなかった。層中より土師器（坏Ａ）１片が出土している。第5b層（灰オリーブ色微砂～シルト）上面の標高はT.P.+4.45～4.70m、層厚22～26cmをはかる（第66・67図-18～20）。北側へわずかに傾斜している。第5c層（灰色粗～細粒砂）上面の標高はT.P.+4.45m、層厚15～30cmをはかる（第67図-21）。第5c層は南側の深掘部分の調査で確認している。

第６層　ａ・ｂに分かれる。いずれも南側のマンホール設置部分（１ｍ四方）で確認している。第6a層（オリーブ黒色シルト～粘土）上面の標高はT.P.+4.13～4.22m、層厚５～15cmをはかる（第67図-22）。水田耕作土で、上面で畦畔007を検出している（第69図）。KM00-5・6の「6Ai’層」、1985年度の「第６層」に対応する。第6b層（青灰色粘土）上面の標高はT.P.+4.08～4.12m、層厚10cm以上をはかる（第67図-23）。

第２項　検出された遺構と遺物

（１）第6a層上面（古墳時代前期）

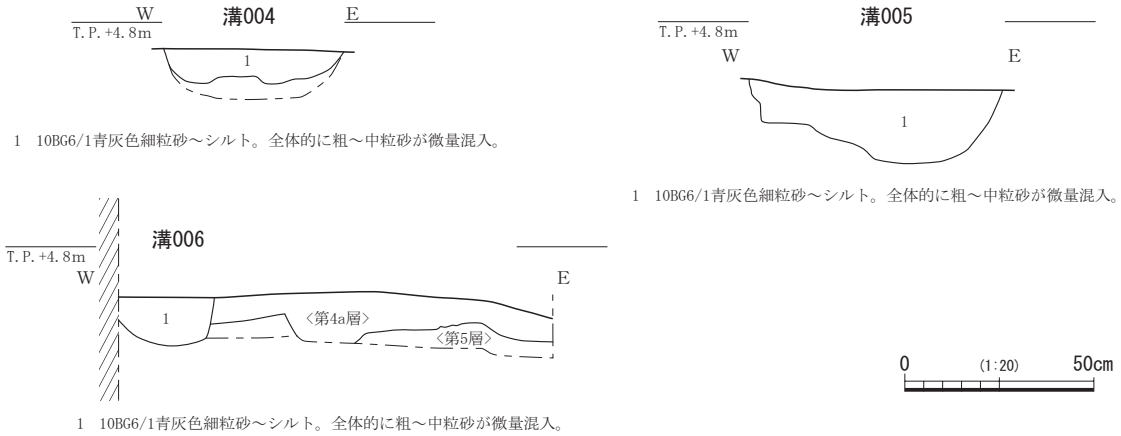
検出面の標高はT.P.+4.13～4.22mで、上面で畦畔007を検出した（第69図）。

畦畔007

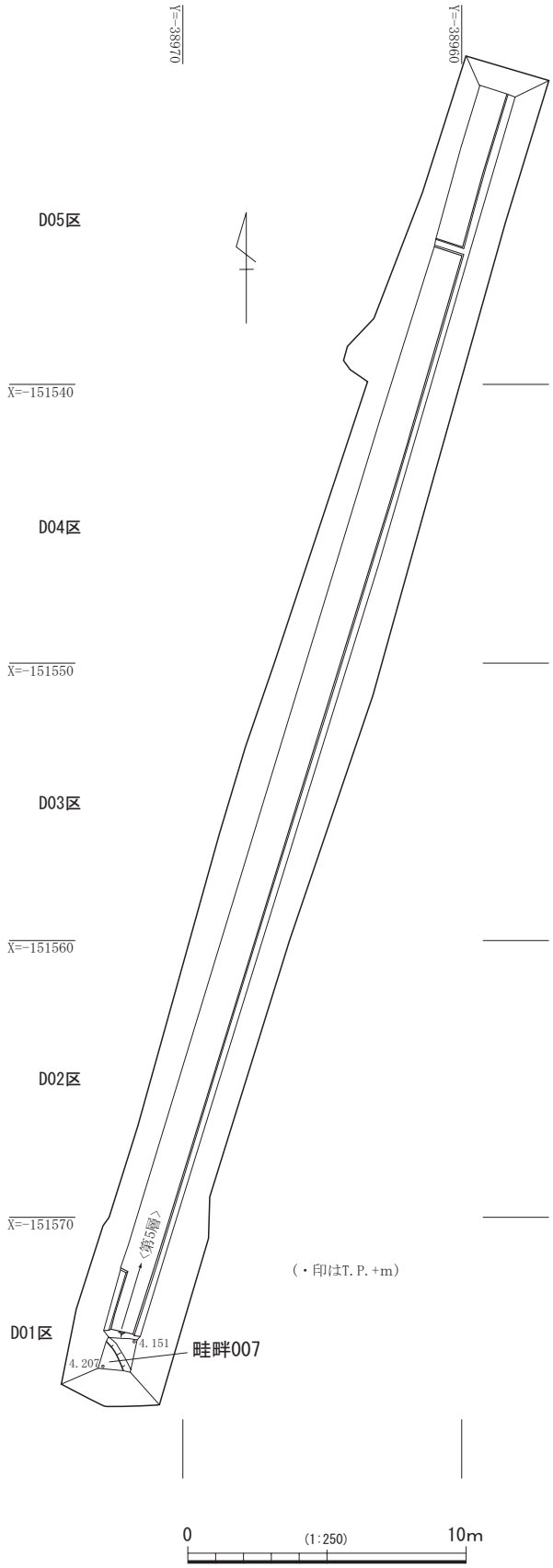
調査区南端部、D01区で検出した北西－南東方向の畦畔である。下端幅1.0m以上、高さ約20cmをはかる。埋土は基本層序の第6a層である（第67図-22）。

（２）第４層上面（平安時代）

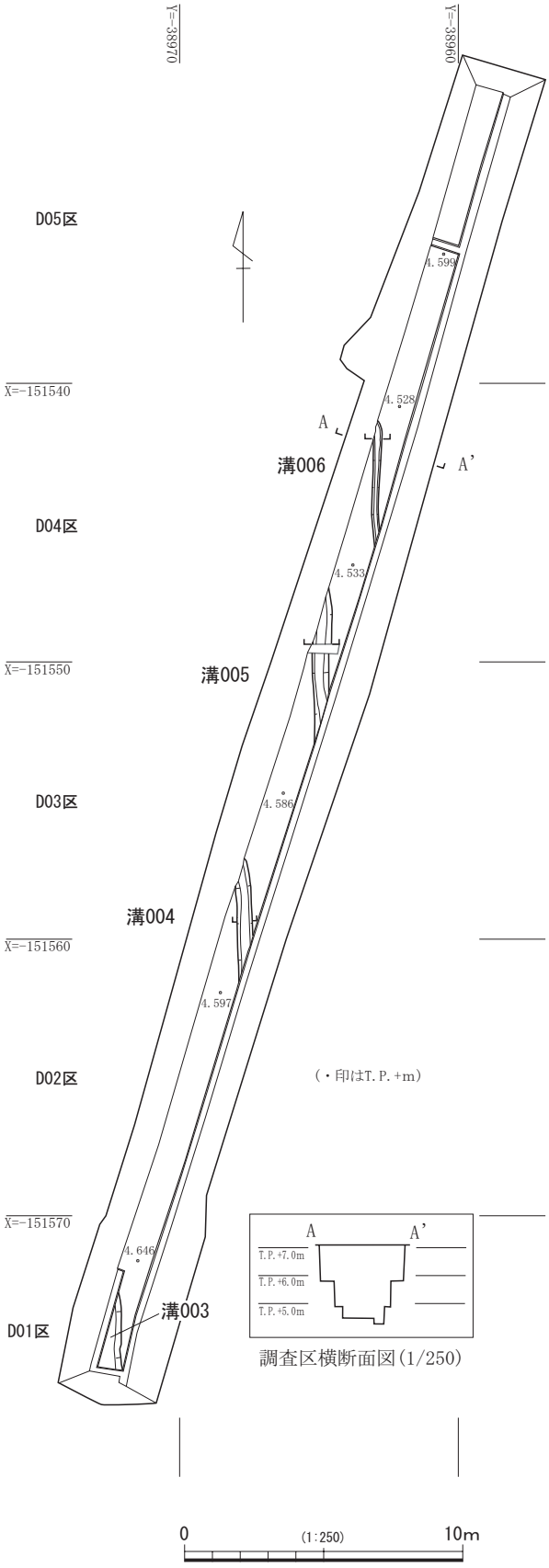
検出面の標高はT.P.+4.63～4.80mで、上面で南北方向に走る溝003～006を検出している（第70図、図版11-a）。いずれも耕作に関連する溝と考えられる。



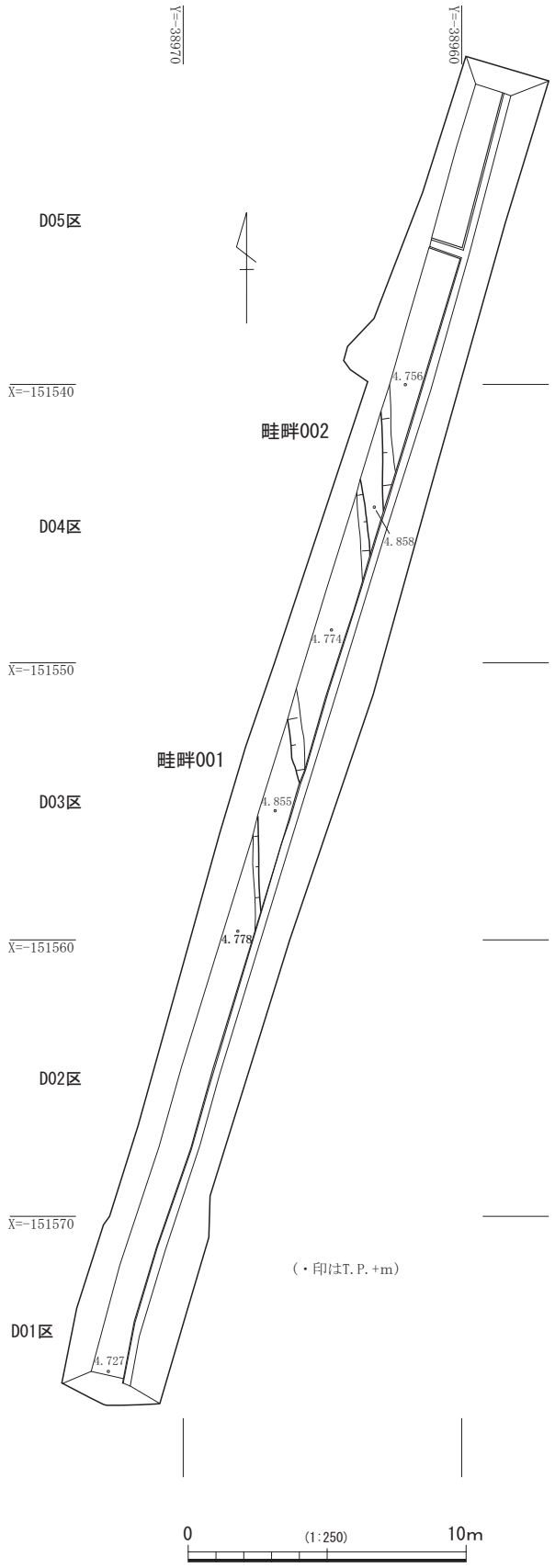
第68図　Ｄ調査区第４層上面遺構断面図（1/20）



第 69 図　Ｄ調査区第 6a 層上面遺構平面図 (1/250)



第 70 図　Ｄ調査区第４層上面遺構平面図・
調査区横断面図 (1/250)



第 71 図　Ｄ調査区第３層上面遺構平面図（1/250）

溝 003

調査区南端部、D01 区で検出した（第 70 図）。幅 1.0m、深さ 10.3cm をはかる（第 67 図 -11）。

溝 004

調査区のほぼ中央部、D02 ～ 03 区で検出した（第 70 図）。幅 0.55m、深さ 16cm をはかる（第 67 図 -12、第 68 図）。埋土から 12 世紀後半の瓦器椀２片が出土している（図版 41- ６）。

溝 005

調査区北半部のやや南寄り、D03 ～ 04 区で検出した（第 70 図）。幅 0.6 ～ 0.7m、深さ 19cm をはかる（第 68 図、図版 11-c）。埋土から瓦器椀１片が出土している。

溝 006

調査区北半部、D04 区で検出した（第 70 図）。幅 0.25 ～ 0.32m、深さ 21cm をはかる（第 66 図 -14、第 68 図、図版 11-b）。埋土から 16 世紀末 ～ 17 世紀前半の景徳鎮窯白磁端反皿の底部片（図版 41-3）が出土した。

（３）第３層上面（中世～近世）

上面の標高は T.P.+4.70 ～ 4.90m をはかる。上面で畦畔 001・002 を検出している（第 71 図、図版 11-d）。

畦畔 001

調査区のほぼ中央部、D03 区で検出した南北方向の畦畔である。下端幅約２m、高さ約 12cm をはかる。埋土は基本層序の第 3a 層とほとんど同じで、区別することができなかった。

畦畔 002

調査区北半部、D04 区で検出した南北方向の畦畔である。下端幅 1.5m、高さ 11.1cm をはかる（第 66 図 -8）。

第５節　Ｅ調査区

Ｅ調査区は、Ａ調査区の北端に接する（第２図）。上端の幅 4.28 ～ 4.8m、上端の長さ 21.58m をはかる東西方向の調査区である。調査区中央部は近現代の水路によって T.P.+4.85m まで浸食されていた。調査は世界測地系による 10m 区画の地区割りを設定し（東から E01 区、E02 区）、遺物の取り上げ、遺構の位置表示に使用している。調査は工事掘削深度の関係で、西側は T.P.+3.756m、東側は T.P.+3.895m まででとどめている。なお、東端の一部分（マンホール設置部分）については、設置深度 T.P.+3.7m まで調査を実施している。

第１項　基本層序

基本層序は隣接し、先に調査を実施したＡ調査区に準じているが、調査の結果、本調査区の西端の第９層、流路 015 については、層序の対応関係を明確におさえることができなかった。Ｅ調査区では、第０層から第９層の層序を確認している（第 72 図）。平面的な調査は第９層上面まで実施している。

第０層　表土及び久宝寺緑地造成時の盛土で、上面の標高は西側で T.P.+6.741m、東側で T.P.+6.56m、層厚 1.22 ～ 1.51m をはかる（第 72 図）。

第１層　久宝寺緑地造成前の旧表土で、近現代の耕作土で、上面の標高は T.P.+5.41 ～ 5.55m、層厚約 10cm をはかる（第 72 図－１）。上面で、東西方向の水路を検出している（第 79 図）。この水路は久宝寺緑地造成前の旧水路で、幅約 1.7m、深さ約 60cm をはかる。両肩には護岸のための杭、横木を設けていたが、北肩の大半については久宝寺緑地造成後の水路の設置によって破壊されていた。

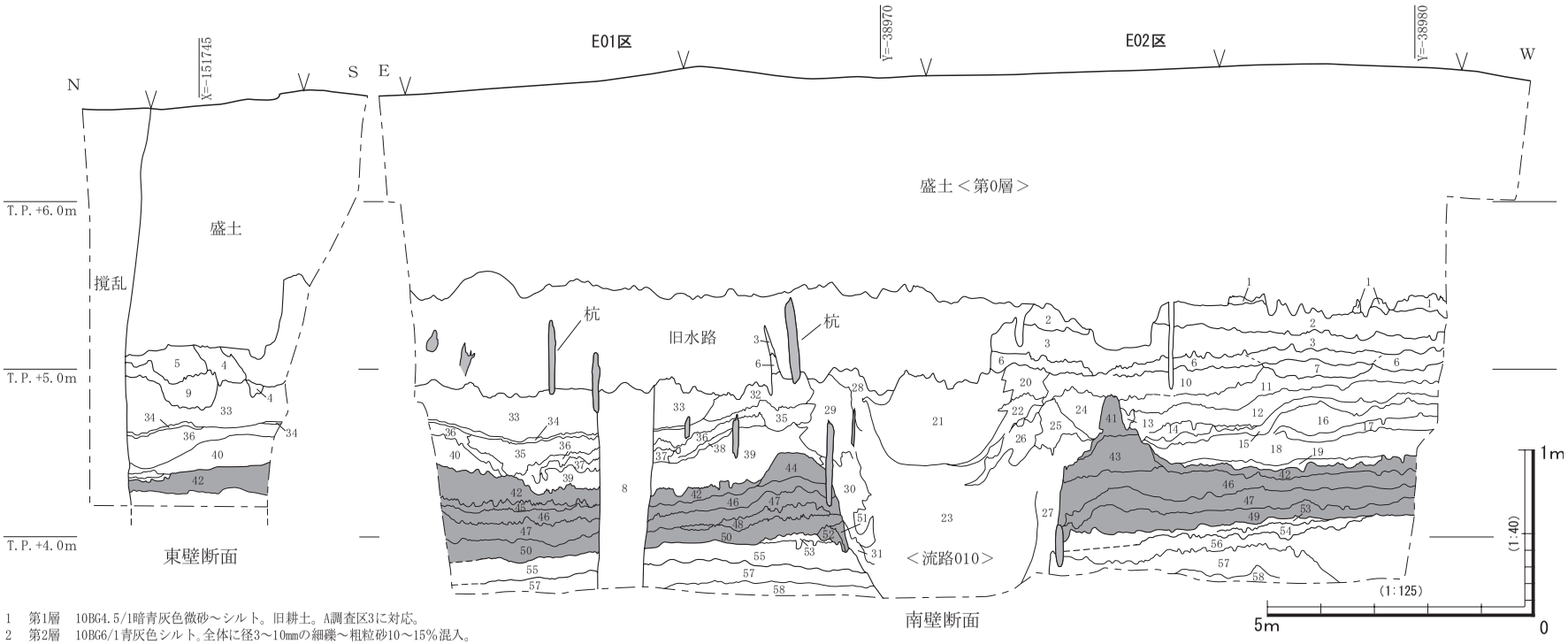
第２層（青灰色シルト）　近世の耕作土で、上面の標高は T.P.+5.31 ～ 5.41m、層厚 10 ～ 18cm をはかる（第 72 図－２）。層中より須恵器１片が出土している。上面で溝 001 を検出している（第 79 図）。

第３層（青灰色微砂～シルト）　中世～近世の耕作土で、上面の標高は西側で T.P.+5.21m、東側で T.P.+5.26m、層厚６～ 21cm をはかる（第 72 図－３）。層中より瓦質土器２片が出土している。

第４層（緑灰色微砂～シルト粘土）　古代～中世の耕作土で、上面の標高は西側で T.P.+5.12m、東側で T.P.+5.06m、層厚８～ 10cm をはかる（第 72 図－６）。上面で溝 004・006 を検出している（第 77 図、図版 13-h)。層中より信楽焼壺（16 世紀）１、土師質土器１、土師器１、須恵器１片が出土している。

第５層　古墳時代前期から後期にかけての流路 010 に由来する氾濫堆積土で、上面の標高は西側で T.P.+5.04m、東側で T.P.+4.96m、層厚 56 ～ 62cm をはかる（第 72 図 -10 ～ 40)。A 調査区の「流路 091（第３図 -139 ～ 148)」に対応する。上面で土坑 007・009・014、溝 008 を検出している（第 75 図、図版 13-d)。層中より須恵器５、土師器１、不明土製品１が出土している（図版 41-11・13)。

第６層　ａ・ａ’～ｃに分かれる。調査時は第 6a 層を第 6a 層上、第 6a’層を第 6a 層下と呼称していた。第 6a 層（灰色シルト～粘土。腐植細片少量混入。第 6a’層より泥土化）上面の標高は T.P.+4.28 ～ 4.48m、層厚５～ 21cm をはかる（第 72 図 -42)。上面で堤 016、流路 010（新）を検出している。水田耕作土で、KM00-5・6 の「6Ai’層」、1985 年度の「第６層」に対応する。第 6a’層（緑灰色粘土～シ



第72図　E調査区南壁・東壁断面図(1/125・1/40)

1　第1層　10BG4.5/1暗青灰色微砂～シルト。旧耕土。A調査区3に対応。
2　第2層　10BG6/1青灰色シルト。全体に径3～10mmの細礫～粗粒砂10～15%混入。A調査区4に対応。
3　第3層　10BG6/1青灰色微砂～シルト。全体に径3mmの細礫が2～3%、灰白色粗粒砂混入。酸化鉄斑紋沈着。近世作土。A調査区17に対応。
4　溝001　10GY5/1緑灰色シルトと7.5Y7/1.5灰白色中～細粒砂との小斑状ブロック混合土で、炭化物粒状微量混入。
5　溝004　7.5Y7/1灰白色微砂～シルト。北肩は第4a層ブロック(径30mm)10～15%混入。酸化により褐灰色を帯びる。酸化鉄斑紋(管状)沈着顕著。
6　第4層　10GY6.5/1緑灰色微砂～シルト粘土。全体に粗～中粒砂1～2%混入。酸化により黄褐色を帯びる。酸化鉄斑紋(管状)沈着。A調査区45に対応。
7　溝006　10GY6/1緑灰色微砂～シルトと10Y7.5/1灰白色微砂との斑状ブロック混合土(7:3)。
8　土坑014　10GY6.5/1明緑灰色シルトと10Y7/1灰白色粗～中粒砂と5Y5/1灰色微砂混じりシルトとのブロック混合土。
9　溝008　10GY6/1緑灰色微砂～シルトと10Y7.5/1灰白色微砂との斑状ブロック混合土(7:3)。
10　第5層　2.5Y6/2灰黄色微砂～シルト。平行ラミナ確認される。A調査区の流路091。
11　第5層　10BG5/1緑灰色(微砂～)シルト。A調査区の流路091。A調査区139に対応。
12　第5層　7.5GY5.5/1緑灰色(微砂～)シルトとN7/0灰白色微砂。A調査区の流路091。A調査区139に対応。
13　第5層　N7/0灰白色微砂～シルト。酸化鉄斑紋沈着顕著。A調査区の流路091。
14　第5層　N7/0灰白色中(～細粒砂)。酸化鉄斑紋沈着顕著。A調査区の流路091。
15　第5層　7.5Y5/1灰色微砂～シルト。A調査区の流路091。A調査区141に対応。
16　第5層　10Y6/1灰色細粒砂～微砂。A調査区の流路091。A調査区144に対応。
17　第5層　10Y5/1灰(微砂～)シルト。A調査区の流路091。A調査区145に対応。
18　第5層　10Y5/1灰色微砂。ペースト状腐植ラミナ混じり。平行ラミナ明瞭。上部10Y7/1灰白色細粒砂。A調査区の流路091。A調査区146に対応。
19　第5層　5Y6/1～6/2灰～灰オリーブ色(径20mm礫～)径5～10mm礫～粗粒砂。平行ラミナ明瞭。A調査区の流路091。A調査区147に対応。
20　第5層　10BG6/1青灰色微砂～シルトの互層。酸化鉄斑紋沈着。
21　第5層　10Y7/1灰白色系4mm礫～粗粒砂と10Y6/1灰色中～細粒砂との互層。
22　第5層　10GY5.5/1緑灰色微砂と～2.5Y4/1黄灰色シルト(腐植混じり)との互層(6:4)。ラミナ明瞭。酸化鉄斑紋沈着。
23　第5層　10Y7/1灰白色径10mm礫～粗粒砂。ラミナ明瞭。
24　第5層　5Y6/1灰色粘土～シルト。酸化鉄斑紋・マンガン斑紋沈着顕著。
25　第5層　19とほぼ同じ。酸化鉄斑紋斑紋(管状)沈着顕著。
26　第5層　19とほぼ同じ。
27　第5層　19とほぼ同じ。
28　第5層　10GY5.5/1緑灰色微砂と～2.5Y4/1黄灰色シルト(腐植混じり)との互層(6:4)。ラミナ明瞭。酸化鉄斑紋沈着。
29　第5層　22とほぼ同じ。
30　第5層　23とほぼ同じ。
31　第5層　10Y4/1灰色シルト～粘土。全体に腐植細片微量混入。
32　第5層　5GY6/1オリーブ灰色微砂～シルトと7.5Y7.5/1灰白色微砂との互層(9:1)。
33　第5層　10GY6.5/1明緑灰色シルトと微砂の互層(9:1)。酸化鉄斑紋沈着やや顕著。
34　第5層　N7.5/0灰白色微砂～シルト。29中のラミナ。
35　第5層　19とほぼ同じ。
36　第5層　7.5GY6/1緑灰色シルトと7.5Y7/1灰白色微砂の互層(9:1)。
37　第5層　10Y7/1～7/2灰白色粗～中粒砂と10Y5.5/1灰色シルトの互層(8:2)。
38　第5層　10BG7/1明灰色微砂。
39　第5層　5Y5.5/1灰色微砂混じりシルト(腐植微細片含む)。
40　第5層　5Y6.5/1～6/1灰色極粗～細粒砂の互層。平行ラミナ明瞭。
41　堤016　10Y5/1灰色シルト～粘土。酸化鉄・マンガン斑顕著。
42　第6a層　10Y灰色シルト～粘土。腐植細片少量混入。A調査区158に対応。
43　堤012　7.5Y4/1灰色粘土に10Y6/1灰色粘土～シルトをブロック。
44　堤011　7.5Y4/1灰色粘土に10Y6/1灰色粘土～シルトをブロック。
45　第6a'層相当　第6a'層よりカーボン粒多い。
46　第6a'層　7.5GY5/1緑灰色粘土～シルトに7.5Y6/2灰オリーブ細砂～シルトをブロック。A調査区159に対応。
47　第6b層　10Y2.5/1オリーブ黒色シルト～粘土と10GY4/1暗緑灰色シルト～粘土との径5～10mmの小斑状混合土(5:5～3:7)。腐植細片混入。第6a'層より粘性強い。A調査区161に対応。
48　第6b層相当　10Y4/1灰色細粒砂～微砂。腐植細片微量混入。
49　第6c層　10GY4/1暗緑灰色シルト～粘土。腐植細片混入。ラミナ不明。A調査区163に対応。
50　第6c層　10GY5/1緑灰色(細粒砂～)シルト～粘土。平行ラミナ。腐植細片微量混入。炭酸ノジュール。A調査区163に対応。
51　第6c層相当　10Y4/1灰色細粒砂と10GY5/1緑灰色シルトの互層(7:3)。
52　第6c層相当　50とほぼ同じ。
53　第7層　7.5Y5/1.5灰オリーブ色(粗～)細粒砂(～微砂)。A調査区174に対応。
54　第8層　10GY4/1暗緑灰色(微砂～)シルト～粘土と7.5Y5/1灰色中～細粒砂との小斑状混合土(8:2)。
55　第8層？　7.5GY5/1緑灰色シルト～粘土とN4/0灰色シルト～粘土の混合土。全体に粗～中粒砂少量混入。腐植細片微量混入。
56　第9a層～流路015　10Y6/1～5/1灰色中～細粒砂と10GY4/1暗緑灰色微砂との互層(6:4)。西端で流路015と繋がる。A調査区178・181に対応。
57　第9b層　10GY6/1緑灰色シルト～粘土。全体に粗～中粒砂微量混入。
58　第9c層　10Y4/1灰色シルト～粘土。A調査区203・204に対応。

ルトに灰オリーブ細砂～シルトをブロック）上面の標高は西側でT.P.+4.04m、東側でT.P.+4.30m、層厚８～16cmをはかる（第72図-45・46）。上面で堤011・012、流路010（古）、畦畔013を検出している（第74図、図版12-c、図版13-a～c）。第6b層（オリーブ黒色シルト～粘土と暗緑灰色シルト～粘土）上面の標高はT.P.+4.21～4.31m、層厚８～14cmをはかる（第72図-47・48）。第6c層（暗緑灰色シルト～粘土）上面の標高はT.P.+4.14～4.23m、層厚８～20cmをはかる（第72図-49～52）。なお、Ａ調査区では、第6a層中から古墳時代前期前半の布留形甕（第13図１）が出土している（図版3-d）。

第７層（灰オリーブ色粗～中～細粒砂～微砂）　流水堆積層で、上面の標高はT.P.+3.98～4.1mで、東端で収斂し、層厚約４cmをはかる（第81図-53）。層中より土師器２片（庄内形甕、鉢）が出土している（図版41-8・9）。

第８層（暗緑灰色微砂～シルト～粘土）　上面の標高はT.P.+4.10～3.85mで、東側および南側へ傾斜する。層厚は５～18cmをはかる（第72図-54・55）。上面で足跡を検出している（図版12-b）。

第９層　ａ～ｃに分かれる。第9a層（灰色中～細粒砂と微砂との互層）上面の標高はT.P.+4.0～4.12m、層厚10～35cm以上をはかる（第72図-56）。西半部のみで検出され、西端で流路015の埋土となる。Ａ調査区の「第9a～9b層（第3図-178・181）」に対応すると考えられる。第9b層（暗緑灰色シルト～粘土）上面の標高はT.P.+3.96～3.72mで、東側へ傾斜し、層厚14～18cmをはかる（第72図-57）。上面で流路015を検出している（第73図、図版12-a）。第9c層（灰色シルト～粘土で、有機物を含む）上面の標高はT.P.+3.83～3.72mで、東側へ傾斜し、層厚10cm以上をはかる（第72図-58）。Ａ調査区の「第9c層（第３図-203・204）」に対応すると考えられる。

第２項　検出された遺構と遺物

（１）第9b層上面（弥生時代後期）

検出面の標高はT.P.+3.96～3.72mで、上面で流路015を検出した（第73図、図版12a）。

流路015

調査区の西端、E02区で検出した。幅1.8m以上、深さ35cm以上をはかる南東－北西方向の流路である（第72図-56）。埋土から弥生時代後期の甕形土器（図版41-10）が出土している。

（２）第６層上面（古墳時代前期）

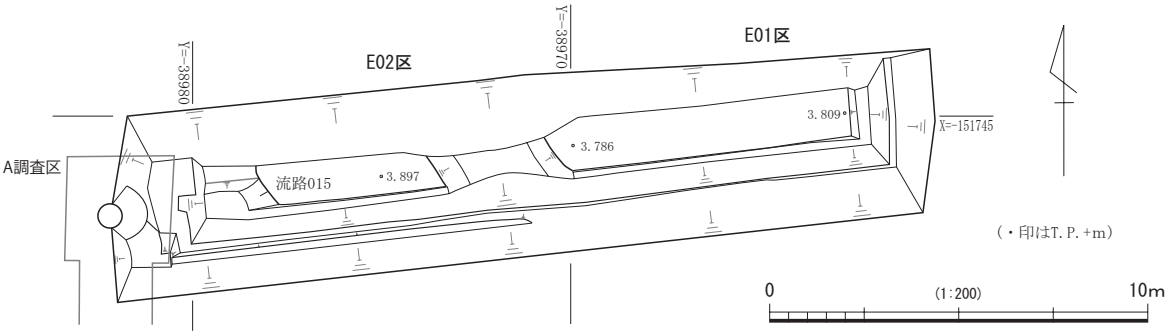
検出面の標高はT.P.+4.28～4.48mをはかる。下位の第6a’層上面で流路010（古）、堤011・012、畦畔013、上位の第6a層上面で流路010（新）、堤016を検出している（第74図、図版13-a～c）。

流路010

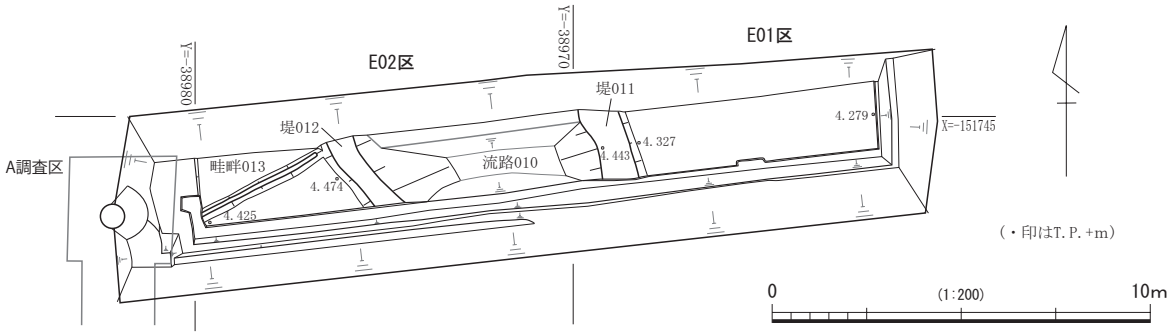
調査区のほぼ中央、E02区で検出した。南東から北西へ走向する大溝で、幅約5.0m、深さ100cm以上をはかる。東側に堤011、西側に新旧の堤012・016を設けている。埋土は基本層序の第5層（第72図-10～40）で、層中より土師器９片が出土している。

堤011

流路010の東側、E01区で検出した（図版13-c）。下端幅1.45m、高さ19cmをはかる（第72図-44）。



第 73 図　Ｅ調査区第９層上面遺構平面図 (1/200)



第 74 図　Ｅ調査区第 6a' 層上面遺構平面図 (1/200)

堤 012

流路 010 の西側、E02 区で検出した（図版 13-b)。下端幅 1.83m、高さ約 20cm をはかる（第 72 図 -43)。土層断面の検討から、流路 010 の氾濫後に、堤をかさ上げし、堤 016 を築造していることが明らかとなる。直上から土師器１片が出土している。

堤 016

溝 010 の西側、E02 区で検出した。下端幅約 1.4m、高さ約 25cm をはかる（第 72 図 -41)。流路 010 の氾濫後に、堤 012 にかさ上げして形成している。

畦畔 013

調査区西端、E02 区で検出した。検出面の標高は T.P.+4.457m で、下端幅 0.4m、高さ約４cm をはかる。

（３）第５層上面（古代）

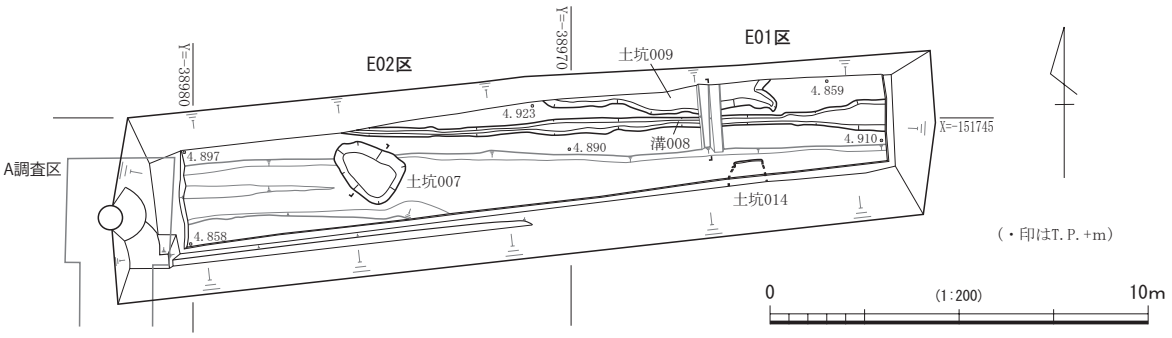
上面の標高は西側で T.P.+5.04m、東側で T.P.+4.96m をはかる。上面で土坑 007・009・014、溝 008 を検出している（第 75 図、図版 5-d)。

土坑 007

調査区の西半部、ほぼ中央、E02 区で検出した。平面プランは不定形を呈し、径 1.2 × 1.8m、深さ 9 cm をはかる（第 76 図)。

土坑 009

調査区の西半部、E02 区、北寄りで検出した溝状遺構である。東西６m 前後、南北 0.65m 以上、深さ



第 75 図　Ｅ調査区第５層上面遺構平面図 (1/200)

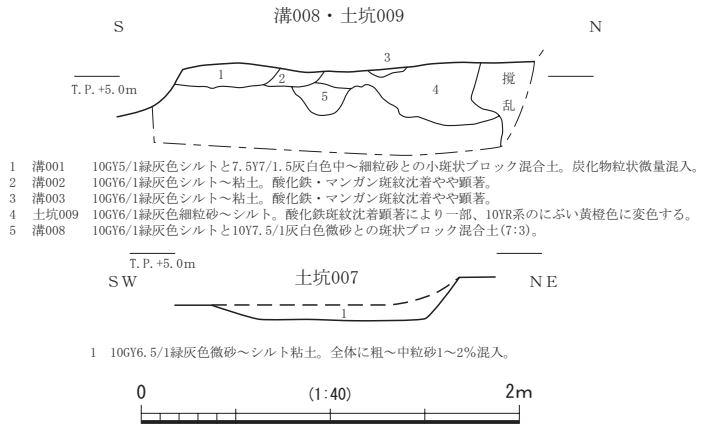
33cm をはかり、溝 002･003 に切られる（第 76 図）。最上層より、17 世紀中～後半の丹波焼擂鉢１片（図版 41-15）が出土しているが、上位にある溝 002・003 に帰属するものと考えられる。

土坑 014

調査区の東半部、E01 区、南壁際で検出した。幅約 1.0m、深さ 130cm 以上をはかる。埋土は 10GY6.5/1 明緑灰色シルトと 10Y7/1 灰色微砂混じりシルトのブロック混合土で、人為的に埋め戻されている（第 72 図－８）。

溝 008

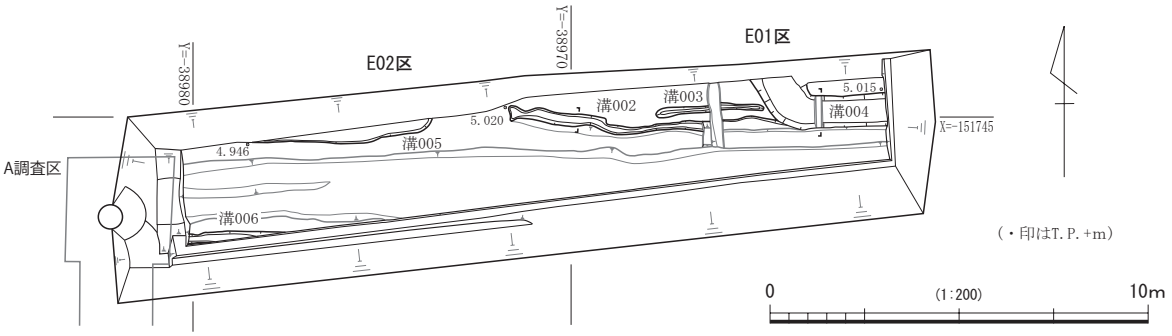
調査区を東西に走向する溝で、幅 0.2 ～ 0.82m､深さ 15cm をはかる（第 76 図）。溝 001・002 に切られる。埋土は第４層系で、土師器坏Ａの口縁部（図版 41-12）が出土している。



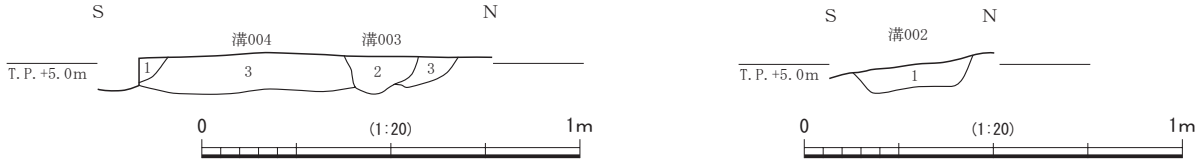
第 76 図　Ｅ調査区第５層上面遺構断面図 (1/40)

（４）第４層上面～第３層下面（中世）

第４層上面で溝 004・006、第３層下面で溝 002・003・005 を検出した（第 77 図、図版 13h）。



第 77 図　Ｅ調査区第４層上面～第３層下面遺構平面図 (1/200)



1　溝001　10GY5/1緑灰色シルトと7.5Y7/1.5灰白色中～細粒砂との小斑状ブロック混合土。炭化物粒状微量混入。
2　溝003　10GY6/1緑灰色シルト～粘土。酸化鉄・マンガン斑紋沈着やや顕著。
3　溝004　7.5Y7/1灰白色微砂～シルト。酸化鉄斑紋(管状)沈着顕著。

1　溝002　10GY6/1緑灰色シルト～粘土。酸化鉄・マンガン斑紋沈着やや顕著。

第 78 図　Ｅ調査区第４層上面～第３層下面遺構断面図 (1/20)

溝 004

東端部、E01 区、第 4 層上面で検出した（第 77 図）。幅 0.47m、深さ 10cm をはかる（第 78 図）。溝 001 ～ 003 に切られる（第 72 図－５）。埋土から瓦器椀１片が出土している。

溝 006

西端、E02 区で検出した（第 77 図）。幅 0.23m、深さ 6.5cm をはかる（第 72 図－７）。Ａ調査区の「溝 042」と同一の溝（第３図 -26）と考えられる。

溝 002

東半部、E01 区、第 3 層下面で検出した（第 77 図）。幅 0.12 ～ 0.34m、深さ 10cm をはかる（第 78 図）。溝 001 に切られ、溝 004 を切る。

溝 003

東半部、E01 区、第３層下面で検出した（第 77 図）。幅 0.14 ～ 0.26m、深さ 10cm をはかる（第 78 図）。溝 004、土坑 009 を切る。

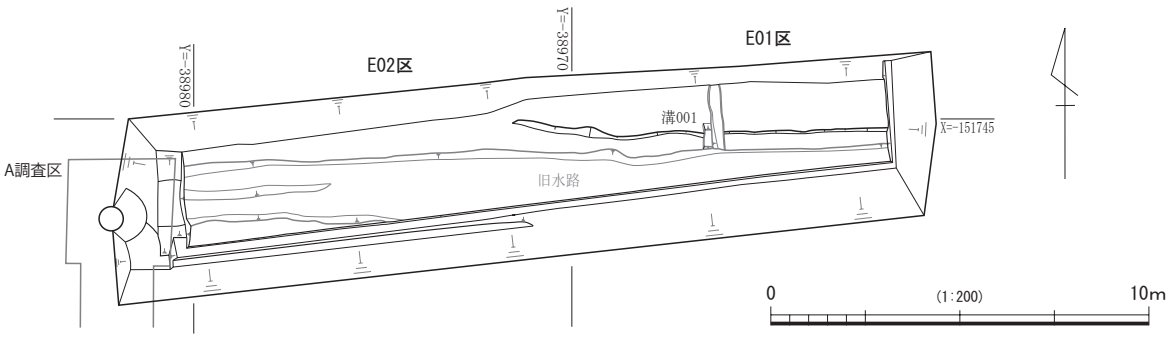
溝 005

西半部、E02 区、第３層下面で検出した（第 77 図）。幅 0.40m 以上、深さ約 10cm をはかる。埋土は第２層系で、10GY6/1 緑灰色シルト～粘土に、マンガン斑紋沈着顕著。

（５）第２層上面（近世）

溝 001

南半部は近現代の旧水路に切られ、溝 002・004 を切る（第 79 図）。幅 1.05m 以上、深さ約 31cm をはかる。



第 79 図　Ｅ調査区第２層上面遺構平面図 (1/200)

第６節　Ｆ調査区

Ｆ調査区は、Ｅ調査区の東に接し（第２図）、上端の幅 5.5m、長さ 13.5m の調査区である。調査は、工事による掘削深度により、東側が T.P.+4.0m、西側が T.P.+3.9m、東端のマンホール設置部分は T.P.+3.8m まで行った。詳細は後述のとおりであるが、調査区の東半部では、Ｂ調査区で確認された弥生時代の高まり（高まり 051）と同様の高まりが確認されたため、土層の堆積状況を確認するためにサブトレンチを設定し、T.P.+3.2m まで調査した。なお本調査区は、既存のボックスカルバートの掘方により、北半分が T.P.+4.0m 付近まで掘削されていた。

第１項　基本層序

基本層序は本調査区に西接するＥ調査区と対応するように把握した。久宝寺緑地造成前の旧表土であるＥ調査区第１～２層に対応する層は、本調査区では旧水路や近世以降の遺構により削平されており、平面的には調査区の西端に部分的にしか認められず、南壁では認められなかった。またＥ調査区で検出された溝 008 が本調査区にも延びており（本調査区の溝 039）、南壁には溝 008 の埋土が断面で現れている。このため本調査区内には第４層（古代～中世の耕作土）は存在するものの、南壁断面では第４層が示されていない。各層の概要は以下のとおりである（第 80 図、図版 14-a）。

第０層　久宝寺緑地造成時の盛土である。上面の標高は西端、東端ともに T.P.+6.6m をはかる。

第３層　近世に属すると考えられる耕作土で、上面の標高は概ね T.P.+5.2m をはかる。

第５層　古墳時代前期以降に堆積したと考えられる氾濫堆積土で、上面の標高は溝 039 によって掘削を受けているが T.P.+4.7 ～ 4.9m をはかる。上半は砂質シルト～粘質シルト、下半は細～粗粒砂で、ともに平行ラミナが認められる。遺物は少ないものの、層中から布留式期の小型丸底壺が出土した（第 89 図－３、図版 16-a）。

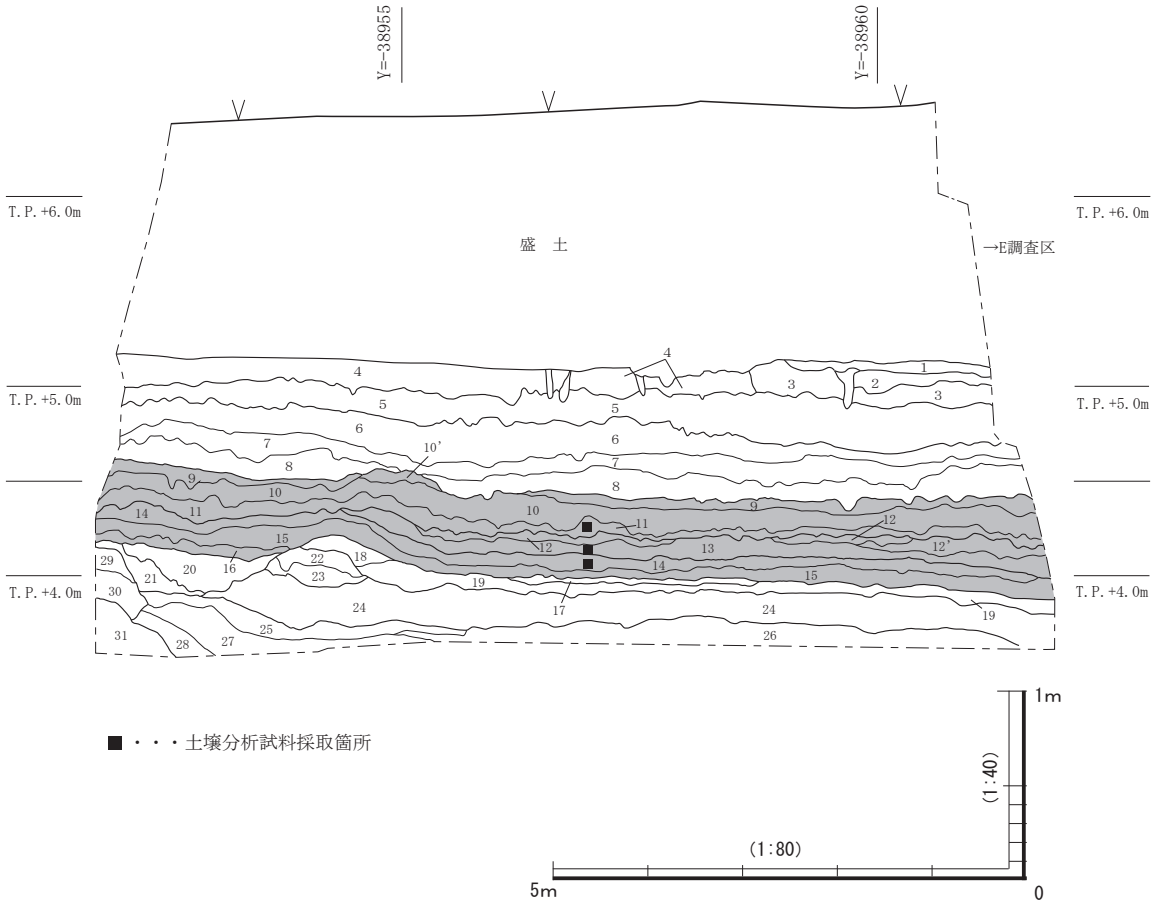
第６層　古墳時代前期に属する堆積層で３層に細別できる。6a-1 層は灰色の砂混じり粘質シルトで偽礫を含む。最上部にはシルト～砂質シルトが堆積し、その標高は調査区西端で T.P.+4.4m、東端で T.P.+4.6m をはかる。Ｅ調査区における 6a 層に対応し、KM00-5・6 の「6Ai’層」、1985 年度の「第６層」に対応する。最上部を除去した面で畦畔 040、落ち込み 041 を検出している。6a-2 層は暗灰色の偽礫を含む粘質シルト～粘土で、有機物、炭酸ノジュールを含む。上面の標高は西端で T.P.+4.3m、東端で T.P.+4.5m をはかる。上面で畦畔 042、043、落ち込み 044 を検出している。Ｅ調査区の 6a 層に対応する。6b 層は暗灰色～暗青灰色の粘質シルトで有機物を含む。上面の標高は西端で T.P.+4.1m、東端で T.P.+4.3m をはかる。上面では遺構は検出されていない。Ｅ調査区の 6b 層に対応する。6a 層中で検出された２層の水田耕作土の母材になるものと考えられる。6c 層は暗青灰色の粘質シルト～粘土で炭化物をわずかに含む。上面の標高は西端で T.P.+4.0m、東端で T.P.+4.2m をはかる。

第７層　暗青灰粘質シルト主体の土層で層厚は５cm 程度である。上面の標高は T.P.+3.9m を測る。

第８層　暗青灰色の粘質シルトで平行ラミナが認められる氾濫堆積土である。調査区東端では認めら

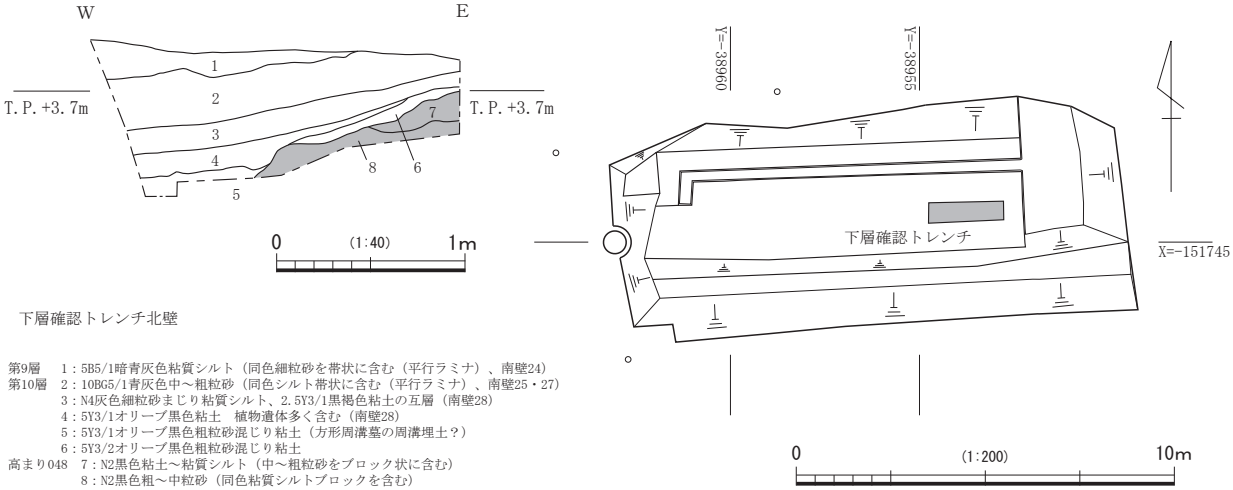
れない。上面の標高は西端でT.P.+3.9mをはかる。

第９層　上半部は青灰色の粘質シルト～シルトで有機物を含む氾濫堆積物である。上面の標高は、調査区西端でT.P.+3.8mをはかるが、東端には認められなかった。調査区中央からやや東よりにおいて本



溝埋土　１：2.5Y4/1黄灰色シルト（E区水路埋土）
溝埋土　２：2.5Y6/3にぶい黄色中～粗粒砂、5Y5/1灰色細粒砂の混合土（E区水路埋土）
溝埋土　３：7.5Y5/2灰オリーブ色細粒砂（5Y5/1灰色砂質シルトブロックを含む・E区溝004埋土）
溝埋土　５：2.5Y5/4黄褐色シルト（鉄斑多く含む、調査区西側1/3）、10GY5/1緑灰色シルト（鉄斑多く含む、調査区東側2/3・溝039埋土）
第４層　４：10BG5/1青灰色粘質シルト（5GY6/1オリーブ灰色シルトブロック、7.5Y3/2灰オリーブ色細粒砂ブロックを含む）
第５層　６：10YG6/1灰色シルト～粘質シルト（鉄斑多く含む）
７：5BG4/1暗青灰色粘質シルト（同色細粒砂ブロックを含む）
８：5Y5/2灰オリーブ中～粗粒砂（調査区西側1/3は2.5Y5/3黄褐色中～粗粒砂、中位に5BG4/1暗青灰色シルトを帯状に含む）
第6a層　９：N5灰色シルト～砂質シルト（5PB4/1暗青灰色シルトブロックを含む）
10：N4灰色粘質シルト（N5灰色粘質シルトブロックを含む、下半に細～中粒砂を帯状に含む）
10’：10Y4/1灰色粘質シルト
11：N3暗灰色粘質シルト、（N4灰色粘質シルトブロック、植物遺存体を含む）
第6b層　12：5B4/1暗青灰色粘土（N4灰色、N3暗灰色ブロック含む）
12’：N4灰色粘土（N3暗灰色粘質シルト、5B4/1暗青灰色粘質シルトブロック、植物遺存体、炭化物を含む）
13：N3暗灰色粘質シルト（10BG4/1暗青灰色、5B4/1暗青灰色粘質シルトブロック、炭化物を含む）
第6c層　14：10BG4/1暗青灰色粘土（10BG5/1青灰色粘土ブロック、炭化物を含む）
15：10BG5/1青灰色粘土（炭化物わずかに含む）
16：N4灰色中～粗粒砂混じり粘質シルト
第７層　17：5B4/1暗青灰色中粒砂混じり粘土
第８層　18：10G4/1暗緑灰色中粒砂混じり粘質シルト
19：5B4/1暗青灰色粘質シルト
第９層　21：5BG5/1青灰色細～中粒砂（N4灰色シルトブロック含む）
22：10GY4/1暗緑灰色砂混じり粘質シルト
23：5G5/1緑灰色砂混じり粘質シルト
24：5B5/1青灰色粘質シルト（植物遺存体、下半に同色中～粗粒砂を含む）
第10層　25：5B6/1青灰色細～中粒砂、シルトの互層
26：10BG5/1青灰色中～粗粒砂（同色シルトを帯状に含む）
27：5BG6/1青灰色中～粗粒砂（N6灰色シルトを帯状に含む）
28：上位：N4灰色粗粒砂混じり粘質シルト、中位：2.5Y3/1黒褐色粘土（植物遺存体多く含む）、
下位：5Y3/1オリーブ黒色粘土（植物遺存体多く含む）
溝046　20：5B4/1暗青灰色粘土（中粒砂ブロック含む）
高まり048　29：5B4/1暗青灰色粗粒砂混じり粘土（5G4/1暗緑灰色粘土ブロック含む）
30：N3暗灰色粗粒砂混じり粘質シルト
31：N3暗灰色粘質シルトブロック、同色中～粗粒砂ブロックの混合土

第80図　Ｆ調査区南壁断面図（1/80・1/40）



第 81 図　Ｆ調査区下層確認箇所および北壁土層断面（1/200・1/40）

層の構成層による高まり（第 80 図 -18）がみられ、その高まりを肩にするように溝 046 が、またそれよりやや西側で溝 045 が検出された。Ｅ調査区の 9b 層に対応する。下半部は青灰色の中～粗粒砂で平行ラミナが認められる氾濫堆積土である。本層より下位はサブトレンチで確認している（第 81 図）。上面の標高は T.P.+3.8m をはかる。Ｅ調査区では、調査深度によりこれに対応する層は未確認であるが、Ａ調査区では本層に対応する第 9c ～ 10a 層はシルト～細粒砂となっているため、本層は自然流路の堆積層である可能性がある。

第 10 層　上半部は灰色の細粒砂混じり粘質シルトと黒褐色粘土の互層で、下半部はオリーブ黒色粘土で有機物を含む。ともにサブトレンチで確認した水性層である。それぞれＡ調査区の第 10b、10c 層に対応すると考えられる。

第２項　検出された遺構と遺物

（１）下層確認トレンチ（弥生時代中期～後期？）

高まり 048

調査区の東端は、その東側にある遊水池の造営およびボックスカルバートの設置時に大きく掘削を受けており、遺構面は部分的に残存するのみであった。しかしながら東端の最下部には、粘質シルトと細～粗粒砂のブロック混合土からなる高まりが存在したことが、南壁土層断面において確認できた。この状況は、Ｂ調査区で検出された高まり 051 における堆積土の状況と類似したため、高まり 048 として遺構として取扱い、さらに下層確認トレンチを設けて状況を把握した（第 81 図）。

高まり 048 は、最頂部で T.P.+4.2m をはかり、調査区外に向けてさらに高くなっていくと考えられる。高まりの構成土は、暗灰色の粘質シルトブロックと中～粗粒砂ブロックの混合土で、下層確認トレンチ内では暗灰色から黒～オリーブ黒色である。自然に堆積したというよりは人為的に盛り上げた土、もしくはそれが崩落した土と考えられる。高まりが形成されているベース面については、激しい湧水のため確認できなかった。下層確認トレンチではこの高まりに接するように、植物遺存体を多く含むオリーブ黒色粘土が堆積しており（第 81 図－４）、一時期滞水状態であったことがわかる。

Ｂ調査区高まり 051 は上下２層に分けられ、上層がオリーブ黒色のシルト～粘土で弥生時代後期に属し、下層が灰黄色～緑灰色のシルト～粘土で弥生時代中期に属する（本章第３節）。高まり 048 の構成層からは所属時期を示す遺物は検出されていないが、本調査区とＥ調査区の第 9b 層（弥生時代後期）より下位に位置することから、ここでは弥生時代中～後期の遺構と捉えておく。

（２）第９層上面（弥生時代後期）

溝 045

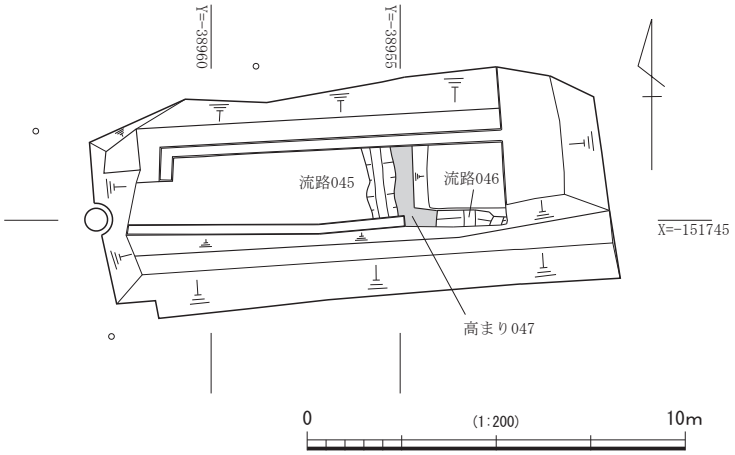
調査区の中央やや東よりで検出された南北方向の溝で、幅 0.44m、深さ８cmをはかる。埋土は暗灰色の粘質シルトで、遺物は検出されなかった（第 82 図、図版 14-b・c）。

溝 046

調査区の東端で検出された南北方向の溝である。調査区の東に位置する遊水池の掘方により、わずか延長 0.5m 程度の検出であった。幅 1.5m、深さ 20cm をはかる。埋土は暗青灰色の砂混じり粘土で遺物は検出されなかった（第 82 図、図版 14-b・c）。

高まり 047

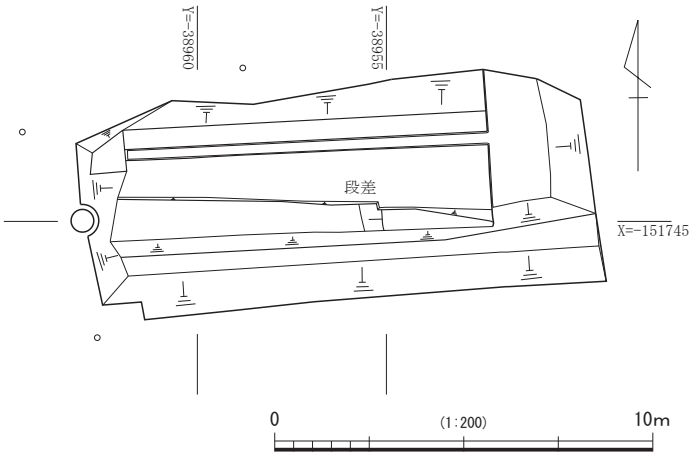
溝 046 の西肩部分は、第 9b 層をベースとして緑灰～暗緑灰色の粘質シルトが上下２層堆積している（第 80 図 -22・23）。この２層は粘質シルト中に細～中粒砂をブロック状に含む人為的な堆積の可能性が考えられ、溝に伴う小規模な堤状を呈していたと考えられたため、遺構として把握した。遺物は検出されなかった（第 82 図、図版 14-b・c）。



第 82 図　Ｆ調査区　第９層上面　遺構平面図（1/200）

（３）第 6a-2 層上面（古墳時代前期）

第６層は高まり 048 の影響もあり、調査区東端で T.P.+4.6m を測るが、西端では T.P.+4.4m となりさらにＥ調査区に向かって低くなっていく。前節でも述べたが６層は 6a ～ 6c の３層に細別され、このうち 6a 層中で２面の水田面を検出している。なお、6b 層、6c 層上面では遺構は検出されていないものの、6b 層上面では高まり 048 の影響による



第 83 図　Ｆ調査区　第 6b 層上面　遺構平面図（1/200）

傾斜変換点が段差として把握された（第 83 図）。次章で述べるとおり、花粉分析および植物珪酸体分析の結果によれば、6a ～ 6c 層中では稲作が行われたことが分析的に指摘されている（第３章）。

第 6a-2 層は、暗灰色の偽礫を含む粘質シルト～粘土で 6b 層を母材とする水田耕作土である。上面で畦畔を検出した（第 84 図）。Ｅ調査区における第 6a’層上面に対応する遺構面である（第 84 図、図版 15-a・b）。

畦畔 042

調査区の東端でわずかに検出できた南北方向の畦畔で、構成土は灰色粘質シルトブロックを含む暗灰色砂質シルトで、上端幅約 50cm、高さ約３cm を測る（第 84 図、図版 15-b）。

畦畔 043

畦畔 042 から西に２ｍほどの所で検出した南北方向の畦畔で、構成土は畦畔 043 と同様である。上端幅約 50cm、高さ約３cm を測る（第 84 図、図版 15-b）。畦畔 043 から西側は 10cm 程度の段差となり、遺構面は西へむかって緩やかに低くなっている。土層断面の観察からは、次に述べる落ち込み 044 と畦畔 043 の中間あたりでもう１つの南北方向の畦畔が存在したと考えられる。調査区の西端では、さらに西側に落ちる段差が認められた。高さは約５cm を測る。畦畔 043 と同様に本来は段差部分には畦畔があったものと考えられる。

（４）第 6a-1 層上面（古墳時代前期）

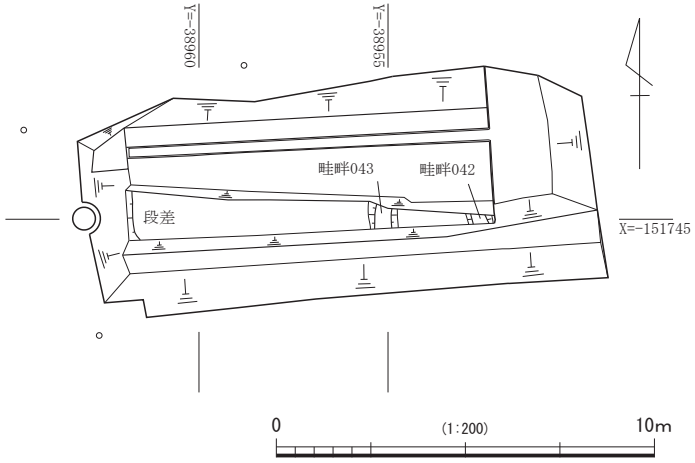
第 6a-1 層は暗青灰色シルトの偽礫を含む灰色シルト～粘質シルトで、6b 層、6a-2 層を母材とする水田耕作土である。上面で畦畔、落ち込みを検出した（第 85 図、図版 15-c）。

畦畔 040

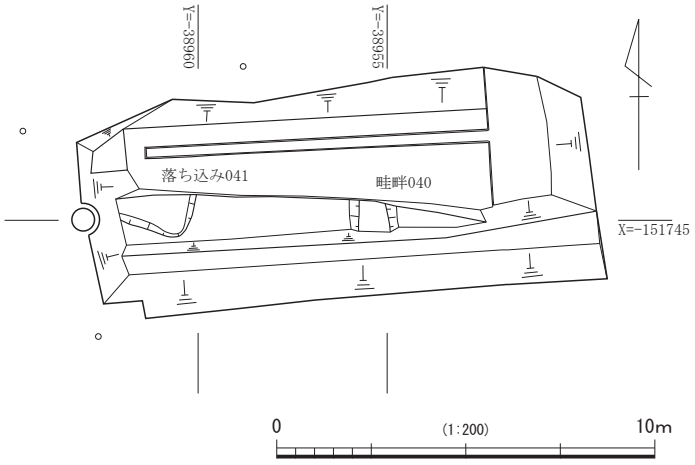
調査区の東側で検出された南北方向の畦畔で、第 6a-2 層で検出された畦畔 043 の直上に位置する。構成土はやや暗い灰色粘質シルトブロックを含む灰色粘質シルトで、上端約 70cm、高さ８cm を測る（第 85 図、図版 15-c）。

落ち込み 041

調査区の西端で検出された深さ約５cm の浅い落ち込みである。埋土は 6a-2 層で遺物は出土していない。本来は肩部に畦畔があったと考えら

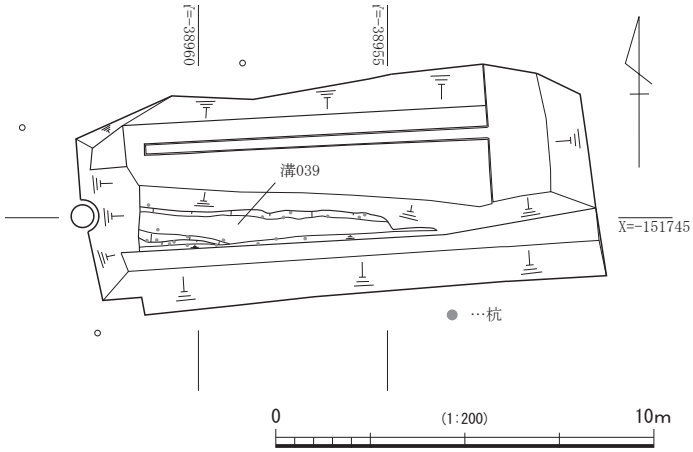


第 84 図　Ｆ調査区　第 6a-2 層上面　遺構平面図（1/200）

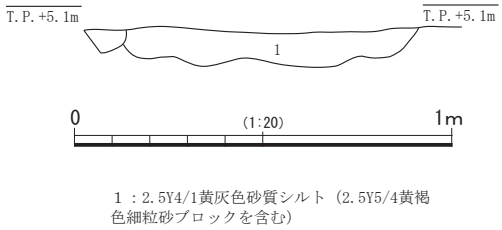


第 85 図　Ｆ調査区　第 6a-1 層上面　遺構平面図（1/200）

れる水田区画の一部であろう。



第 86 図　Ｆ調査区第５層上面　遺構平面図（1/200）



第 87 図　Ｆ調査区溝 039　断面図（1/20）

（５）第５層上面（中世以降）

溝 039

調査区を東西に流れる溝で、幅約 80cm、深さ約 10cm を測る。埋土は黄灰色砂質シルトである（第 86 図、図版 16-b）。

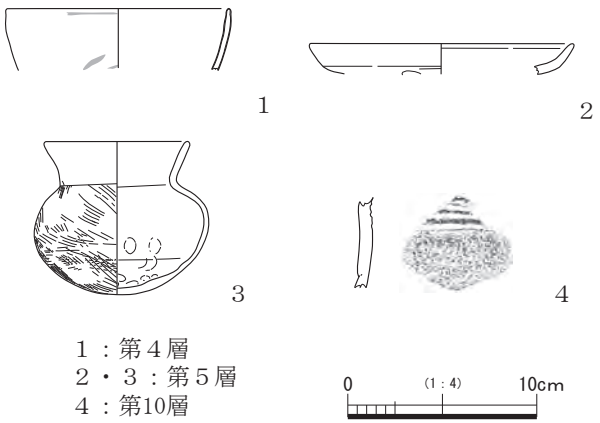
＜出土遺物＞（第 87 図、図版 42）

１は近世に属する波佐見焼染付碗である。２は陶器甕の体部破片である。３は須恵質の蛸壺の脚部とみられる。その他に柄杓の底板と思われる板状木製品が出土している（図版 16-d）。

第 88 図　Ｆ調査区溝 039
出土土器（1/4）

（６）各層出土遺物（第 89 図、図版 42）

１は第４層出土の波佐見焼染付碗で 17 ～ 18 世紀頃に属する。２は第５層から出土した土師器皿である。口縁部に１段ナデを施す。13 世紀頃に属すると考えられる。３は第５層から出土した、土師器の小型丸底壺である。口縁部内外面ともにナデ、体部外面は粗いハケメ、内面はナデで調整され、部分的にユビオサエが認められる。布留式中段階に属する（西村 2008）。４は第 10 層から出土した弥生土器で、第Ｉ様式に属する鉢の口縁部直下の破片と考えられる。３条の沈線がみとめられる。



第 89 図　Ｆ調査区　各層出土土器（1/4）

第７節　Ｇ調査区

Ｇ調査区はＦ調査区の北東約 100m に位置する。通称「心寺池」の北東にあたる。幅２m、延長約 70m の調査区で、南端は T.P.+4.956m、北端は T.P.+4.353m、また４箇所のマンホール設置箇所は T.P.+4.811m、T.P.+4.394m、T.P.+4.486m、T.P.+3.5m まで調査を実施した。調査面積は約 140 ㎡である。なお本調査区は２カ所で屈曲する形状を呈しているため、折れ点で便宜的に G-1 ～ G-3 区に分割して調査を行った。

第１項　基本層序

基本層序は、Ａ～Ｆ調査区と対応するように把握した。他の調査区よりも調査深度が浅いこともあり、第０～５層までは全面で確認しているが、第６層以下は調査区北西端（G-3 区）のマンホール設置箇所で確認している。各層の概要は以下のとおりである（第 90・91 図）。

第０層　久宝寺緑地造成時の盛土である。

第１層　公園造成前の旧耕土である。上面の標高は、概ね T.P.+5.7m 付近をはかる。

第２層　近世～現代にかけての耕作土と考えられる土層である。G-1 区から G-2 区の南側 1/3 部分までは認められるが、それより北側では認められない。上面の標高は概ね T.P.+5.5m 付近をはかる。

第３層　近世に属すると考えられる耕作土である。上面で溝や畦畔等の遺構を検出している。G-1 区では上下２層の分層が可能であるが、G-2 区～ G-3 区にかけて検出した第４層堆積後に形成された里道状の高まり部分では、１層のみの堆積となる。上面の標高は概ね T.P.+5.3 ～ 5.5m をはかる。

第４層　中世～近世に属すると考えられる耕作土である。上面で溝、土坑等の遺構を検出している。上面の標高は概ね T.P.+5.3m 付近をはかる。

第５層　古墳時代前期以降に堆積したと考えられる氾濫堆積土で、上面で溝、土坑等の遺構を検出している。上面の標高は概ね T.P.+5.2 ～ 5.3m をはかる。

第６層　G-3 区で部分的に確認したのみであるが、他の調査区においても確認されている古墳時代前期の堆積層で、３層に細別できる。6a 層は灰色系の粘質シルトで偽礫を含む。その標高は T.P.+4.6m をはかる。Ｆ調査区の 6a 層に対応する。確認箇所が狭いこともあり畦畔等の遺構は検出されていないが、Ｆ調査区同様に水田耕作土の可能性が考えられる（図版 17-a）。6b 層は暗青灰色の粘質シルト主体で偽礫を含む。上面の標高は T.P.+4.5m、をはかる。遺構は検出されていない。Ｆ調査区の 6b 層に対応する。6c 層は青灰色のシルト～砂質シルトで炭化物をわずかに含む。上面の標高は西端で T.P.+4.4m をはかる。

第７層　上半部は暗青灰色の砂混じり粘土で氾濫堆積物である。上面の標高は西端で T.P.+4.2m を測る。下半部はオリーブ黒色系の粘質シルトである。

第２項　検出された遺構と遺物

（１）第５層上面（中世）（図版 18・19）

第５層上面では多数の土坑や溝が検出された。これらは第４層中における耕作などによって残された遺構と考えられ、その時期は第４層出土土器より概ね中世に属すると考えられる。第５層を形成する砂礫層は、G-2 区から G-3 区にかけて周辺より盛り上がっていたようであり、第４層堆積時にはこの盛り上がりの部分をカットした上で、周辺より一段高い平坦面を形成していたことが分かった。

土坑 004

G-1 区で検出された土坑で溝 003 に切られている。幅 0.4m、深さ６cm を測る。埋土は灰色砂質シルトである。遺物は出土していない（第 92・94 図、図版 20-a）。

土坑 006

G-1 区の東壁際で検出された、幅 1.9m、深さ９cm の浅い土坑である。埋土は暗青灰色の砂混じり粘質シルトで、遺物は出土していない（第 92・94 図、図版 20-a・b）。

土坑 007

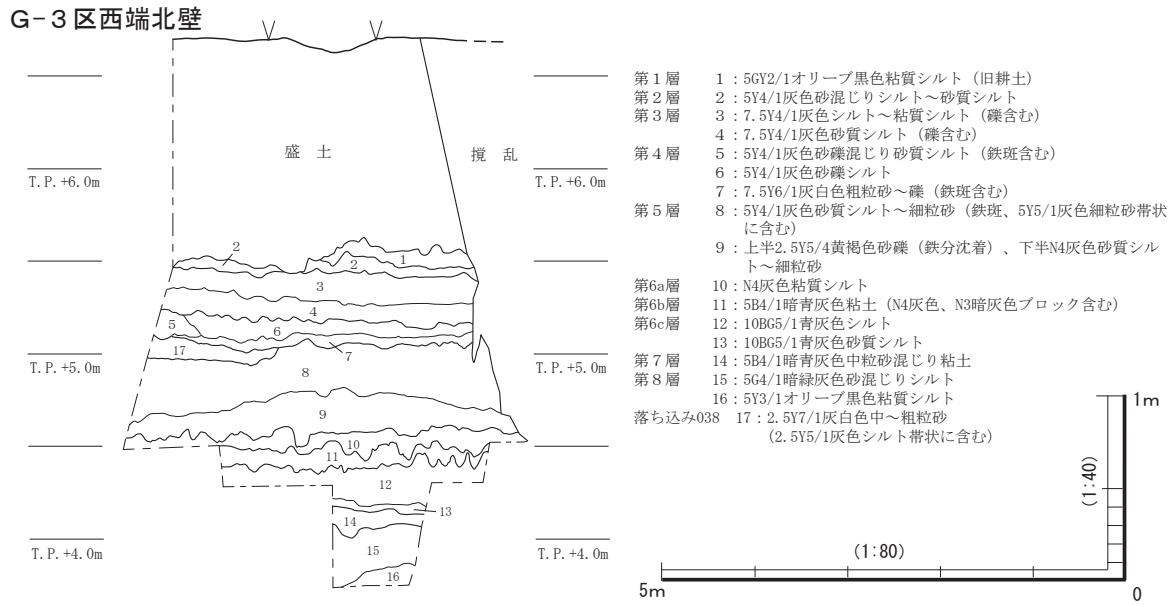
G-1 区の東壁際、土坑 006 と土坑 008 の間で検出された、幅 1.5m、深さ 53cm を測る土坑である。埋土は３層にわかれており、上層は暗緑灰色砂質シルト、中層は灰色シルト～砂質シルト、下層は灰色細粒砂に暗灰色の粘質シルトブロックが混じる。土坑の掘方は第６層まで及んでいた。遺物は出土していない（第 92・94 図、図版 20-a・c）。

土坑 008

G-1 区の東壁際で検出された、幅 1.4m、深さ 23cm を測る土坑である。埋土は緑灰色の砂質シルトである。遺物は出土していない（第 92・94 図、図版 20-a・d）。

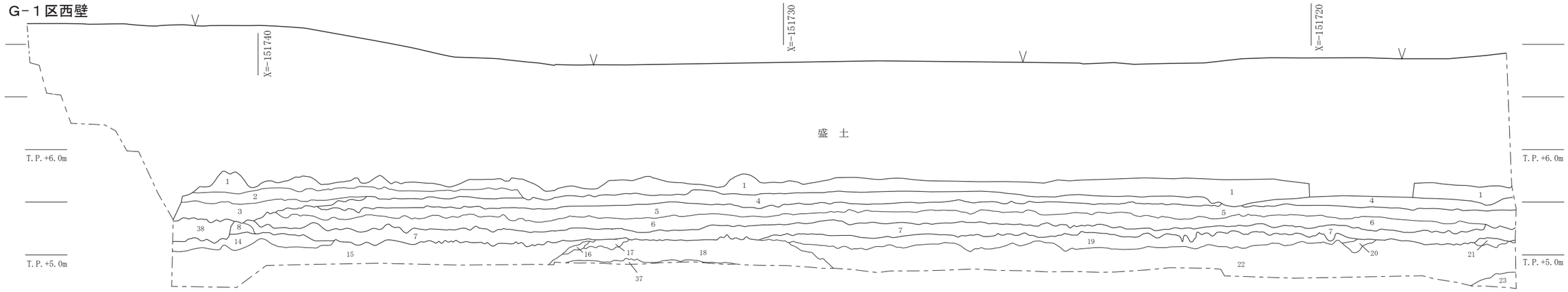
土坑 011

G-1 区の北側部分で検出された大型の土坑で、長さ５m、深さ 40cm を測る。埋土はオリーブ灰～灰色の細～粗粒砂で礫が混じり、第４層の暗緑灰色の砂質シルトブロックを多く含む。埋土中には斜行ラミナが認められる（第 92・94 図、図版 20-e）。遺物は弥生土器甕の底部が出土している（第 96 図－

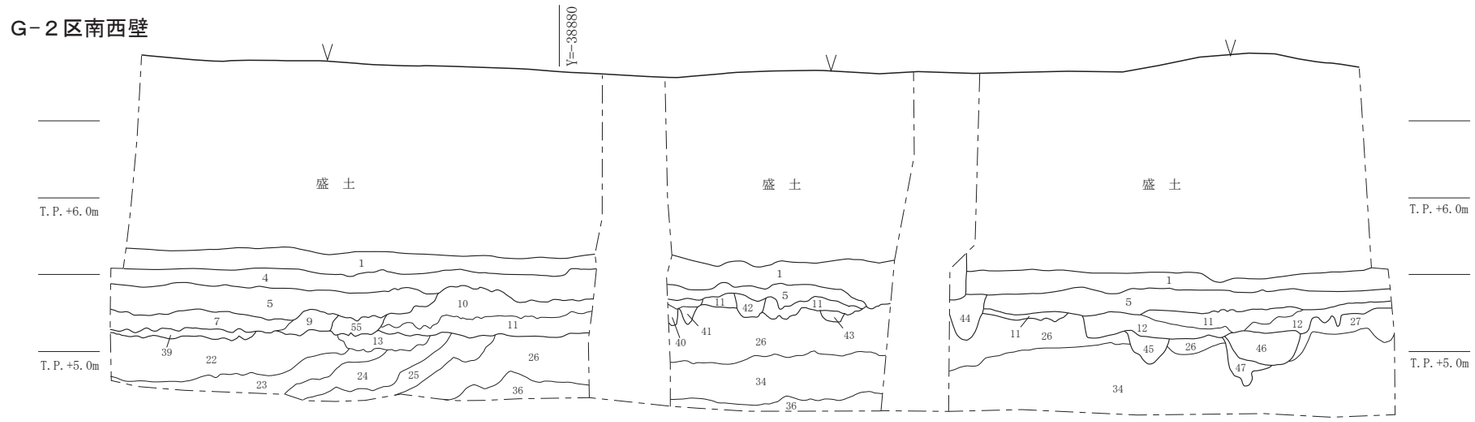


第 90 図　G調査区土層断面図・１（1/80・1/40）

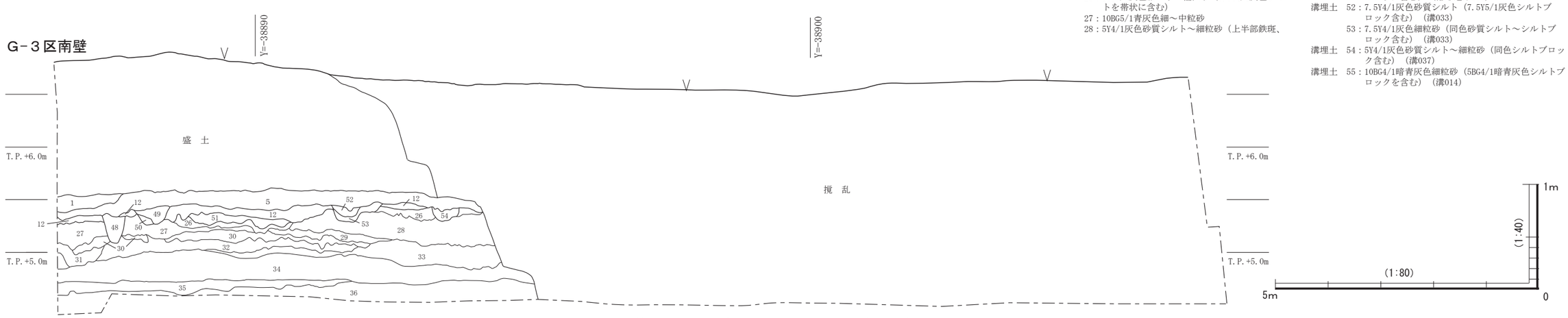
Ｇ－１区西壁



Ｇ－２区南西壁

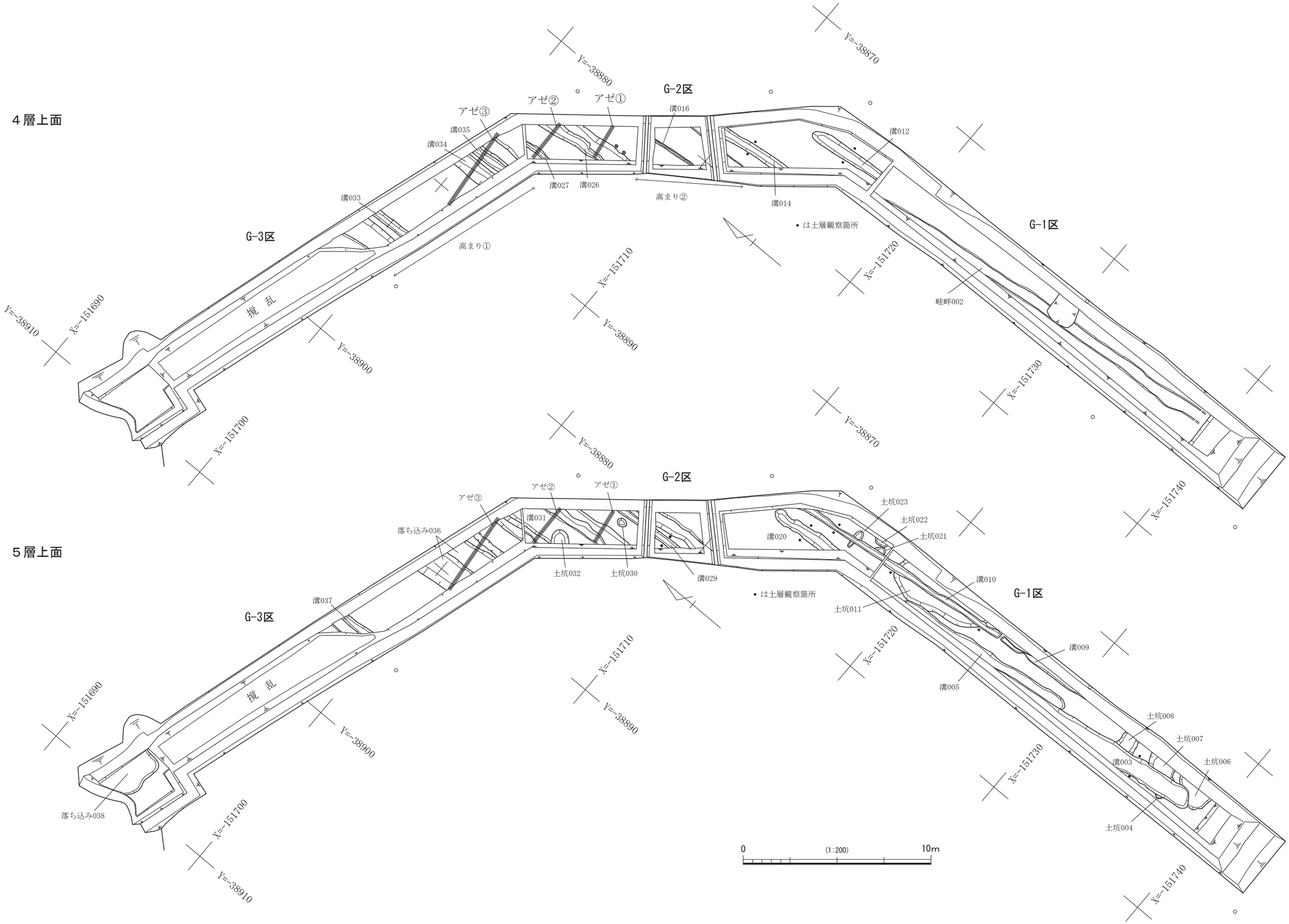


Ｇ－３区南壁

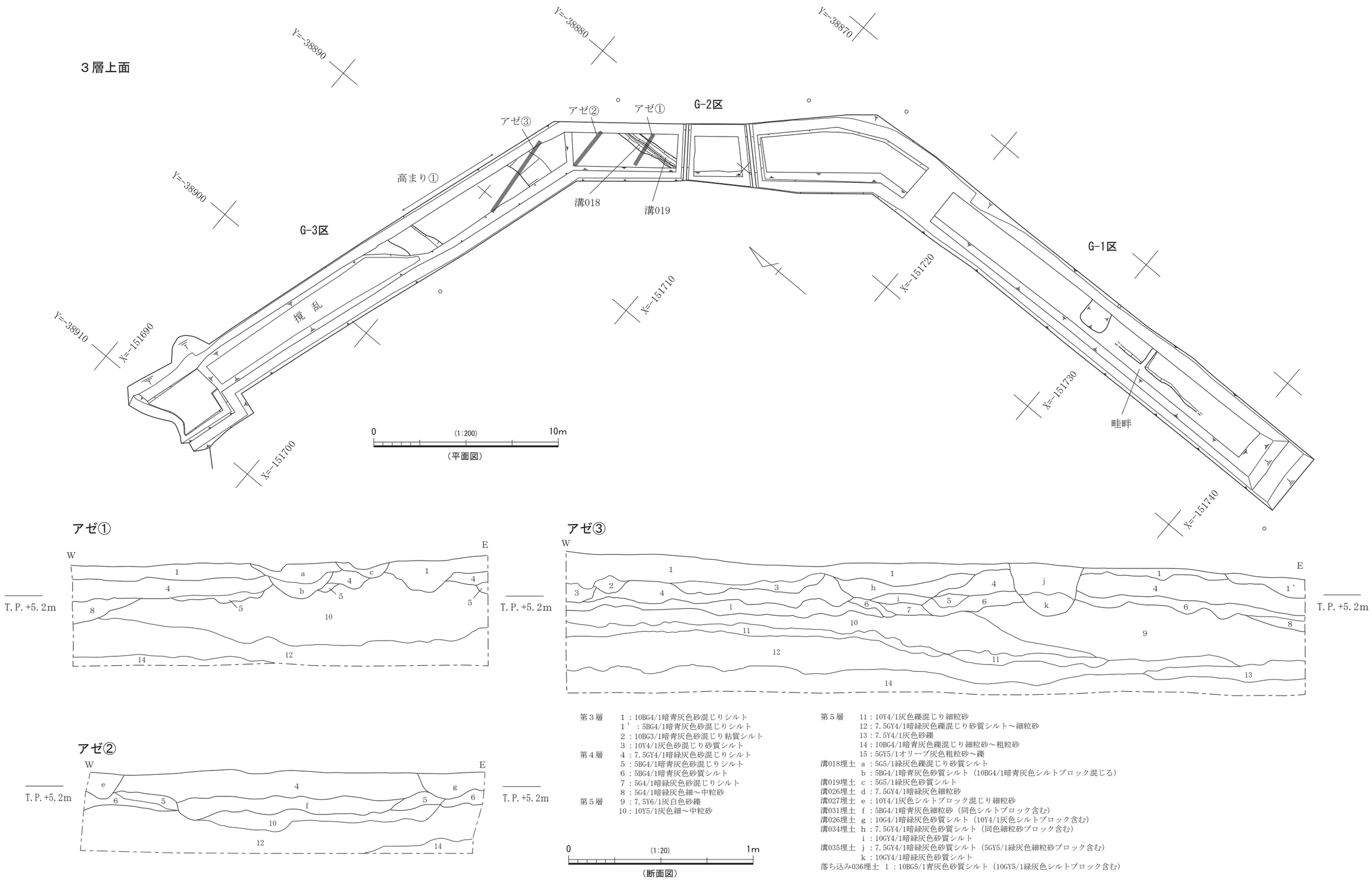


第１層　１：5GY2/1オリーブ黒色粘質シルト（旧耕土）
　　２：10BG3/1暗青灰色砂混じり粘質シルト
　　３：5BG3/1暗青灰色砂混じり粘質シルト
第２層　４：10BG4/1暗青灰色砂混じりシルト
第３層　５：10G4/1暗緑灰色砂混じりシルト
　　６：5BG4/1暗青灰色砂質シルト
第４層　７：5G4/1暗緑灰色砂混じりシルト（10G4/1暗緑灰色細粒砂ブロックを含む）
　　８：5BG5/1青灰色砂混じり砂質シルト
　　９：10BG4/1暗青灰色細粒砂（5BG4/1暗青灰色シルトブロックを含む）
　　10：10BG4/1暗青灰色砂混じりシルト（礫多量に含む）
　　11：5B5/1青灰色細粒砂（10BG4/1暗青灰色シルトブロックを含む）
　　12：7.5GY4/1暗緑灰色砂質シルト～細粒砂
第５層　13：7.5GY4/1暗緑灰色細粒砂（2.5GY4/1暗オリーブ灰色シルトブロックを含む）
　　14：2.5GY5/1オリーブ灰色細粒砂
　　15：5GY5/1オリーブ灰色粗粒砂～礫
　　16：5GY4/1暗オリーブ灰色粘質シルト
　　17：5G4/1暗緑灰色砂混じり粘質シルト
　　18：2.5GY3/1暗オリーブ灰色粘質シルト
　　19：10Y5/1灰色細粒砂（10Y4/1灰色シルト帯状に含む、10GY4/1暗緑灰色砂質シルトフロックを含む）
　　20：5GY4/1暗緑灰色細粒砂（2.5Y4/1暗オリーブ灰色シルトブロックを含む）
　　21：7.5GY4/1暗緑灰色砂混じり砂質シルト
　　22：7.5GY6/1灰色細～中粒砂
　　23：10Y6/1灰色細～中粒砂
　　24：5GY5/1オリーブ灰色細～中粒砂
　　25：10BG5/1青灰色細粒砂
　　26：10Y5/1灰色細～中～粗粒砂（7.5Y4/1灰色シルトを帯状に含む）
　　27：10BG5/1青灰色細～中粒砂
　　28：5Y4/1灰色砂質シルト～細粒砂（上半部鉄斑、下半部にマンガン斑がみられる）
　　29：7.5Y4/1灰色シルト
　　30：5GY4/1暗緑灰粗～中粒砂
　　31：5BG4/1暗青灰色細粒砂（同色シルト帯状に含む）
　　32：10Y4/1灰色細～中粒砂
　　33：7.5Y5/1灰色細～中粒砂
　　34：7.5Y5/2灰オリーブ色細～中粒砂（7.5Y4/1灰色シルト～砂質シルト帯状に含む）
　　35：2.5GY6/1オリーブ灰色粗粒砂（下半は7.5Y4/1灰色シルト～砂質シルト）
　　36：2.5GY5/1オリーブ灰色砂礫
　　37：2.GY4/1暗オリーブ灰色砂質シルト（5GY5/1オリーブ灰色細粒砂ブロック含む）
溝埋土　38：5GY3/1暗青灰色砂混じり砂質シルト（溝001）
溝埋土　39：10GY4/1暗緑灰色細～中粒砂（溝020）
溝埋土　40：5G5/1緑灰色砂質シルト
溝埋土　41：5G5/1緑灰色砂質シルト
溝埋土　42：7.5Y4/1灰色砂質シルト～細粒砂（溝016）
溝埋土　43：7.5GY4/1暗緑灰色砂質シルト～細粒砂（溝029）
溝埋土　44：7.5GY4/1暗緑灰色細粒砂（同色砂質シルトブロック含む）（溝018）
溝埋土　45：5BG4/1暗青灰色細粒砂（同色シルトブロック含む）（溝026）
溝埋土　46：7.5GY4/1暗緑灰色細粒砂（土坑032）
溝埋土　47：5BG4/1暗青灰色細粒砂（同色シルトブロック含む）（溝031）
溝埋土　48：7.5GY4/1暗緑灰色砂質シルト（5GY5/1緑灰色細粒砂ブロック含む）（溝035）
溝埋土　49：7.5GY4/1暗緑灰色砂質シルト（同色細粒砂ブロック含む）（溝034）
　　50：10GY4/1暗緑灰色砂質シルト（溝034）
溝埋土　51：10BG5/1青灰色砂質シルト（10GY5/1緑灰色シルトブロック含む）（落ち込み036）
溝埋土　52：7.5Y4/1灰色砂質シルト（7.5Y5/1灰色シルトブロック含む）（溝033）
　　53：7.5Y4/1灰色細粒砂（同色砂質シルト～シルトブロック含む）（溝033）
溝埋土　54：5Y4/1灰色砂質シルト～細粒砂（同色シルトブロック含む）（溝037）
溝埋土　55：10BG4/1暗青灰色細粒砂（5BG4/1暗青灰色シルトブロックを含む）（溝014）

第 91 図　Ｇ調査区土層断面図・２（1/80・1/40）



第 92 図　Ｇ調査区第４層上面・第５層上面遺構平面図（1/200）



第 93 図　Ｇ調査区第３層上面・アゼ①～③断面図（1/200・1/20）

１)。外面タタキメ調整で、内面はヘラケズリ調整が認められる。

土坑 021・022・023

G-1 区～ G-2 区にかけて検出された。021 は幅 0.6m、深さ５cm、022 は幅 0.5m、深さ５cm、023 は幅 0.4m、深さ５cm を測る。いずれも埋土は暗緑灰色の砂質シルトである（第 92・94 図)。遺物は 023 から瓦器碗の口縁部片が出土している（図版 42-13）が、その他からは出土していない。

土坑 030

G-2 区で検出された土坑で径 0.45m、深さ 30cm を測る。埋土は灰色砂質シルトである。遺物は出土していない（第 92・94 図、図版 21-e・f)。

土坑 032

G-2 区において後述する溝 031 内で検出された土坑で、幅 1.05m、深さ 15cm を測る。埋土は灰色の砂混じり粘質シルトである。遺物は出土していない（第 92・94 図、図版 21-e・g)。

溝 003

G-1 区で検出した溝で断面形状が逆台形を呈する、幅約 1m、深さ約 20cm の溝である。埋土は灰色砂質シルトである。遺物は出土していない（第 92・94 図、図版 20-a・f)。

溝 005

G-1 区で検出された溝で、溝 003 と方向を同じくし同溝に切られている。深さ５cm を測る。埋土は灰色の砂質シルトである。遺物は出土していない（第 92 図、図版 20-g)。

溝 009・010

G-1 区から G-2 区にかけて検出された溝で、幅 0.2 ～ 0.3m、深さ３～５cm を測る浅く細長い溝である。耕作に伴う溝と考えられる。埋土は灰色砂質シルトに暗緑灰色の砂質シルト～細粒砂ブロックが混じる。遺物は出土していない。溝 009 と溝 010 は途中で途切れているものの、本来は一連のものである（第 92・94 図、図版 21-a・c・d)。

溝 020

G-2 区で検出した溝で、溝 005 の北方向への延長上に位置する。幅 0.6m、深さ３cm を測る。埋土は灰色砂質シルトに暗緑灰色砂質シルトブロックが混じるもので、遺物は出土していない（第 92・94 図、図版 21-a・b)。

溝 029

G-2 区で検出した溝で、幅 0.4m、深さ５cm を測る。埋土は灰色細粒砂に暗緑灰色シルトブロックが混じるもので、遺物は出土していない（第 92・94 図、図版 21-e)。

溝 031

G-2 区から G-3 区にかけて検出された溝で、幅 1.3m、深さ 50cm を測る。埋土は暗青灰色細～粗粒砂である。遺物は出土していない（第 92 図、図版 21-e)。

溝 037

G-3 区で検出された溝で、撹乱によって切られている。幅 0.4m、深さ 20cm を測る。埋土は黄灰色の砂質シルト～シルトで遺物は出土していない（第 92 図、図版 22-a)。

落ち込み 036

G-3 区で検出された溝状の落ち込みである。東側が２段になっている。埋土は暗緑灰色砂質シルトと灰色シルトブロックの混合土である。遺物は出土していない（第 92 図、図版 19-c）。

落ち込み 038

G-3 区西端部分で検出された不整形の落ち込みで、深さ 10cm を測る。埋土は灰白色の砂礫を主体とし灰色シルトが帯状に含まれる。遺物は出土していない（第 92 図、図版 22-b）。

（２）第４層上面（中世～近世）（図版 22・23）

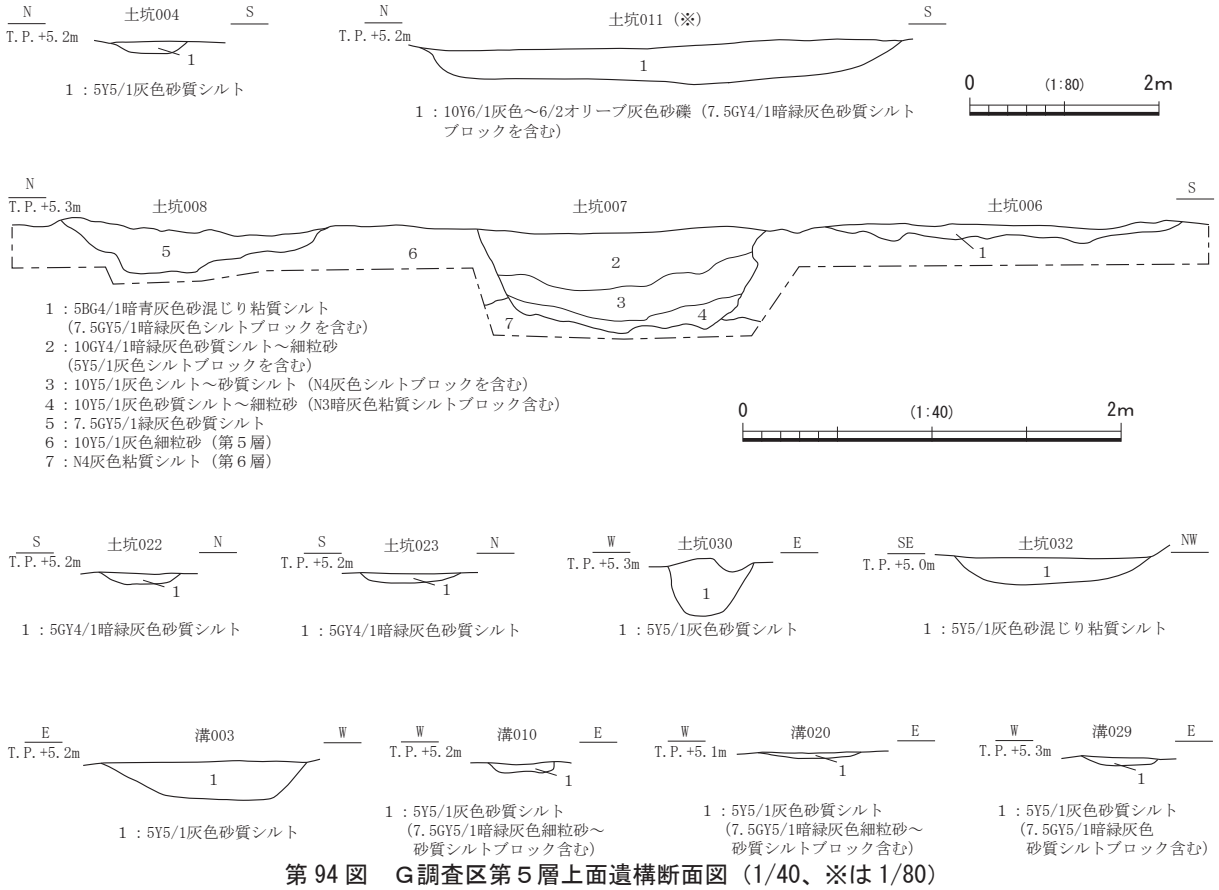
第４層上面は、G-2 区から G-3 区にかけて第５層の盛り上がりをカットした上で平坦面を作り遺構面が形成されていた。平坦面は２カ所認められ、西側を高まり①、西側を高まり②としている（第 92 図）。高まり①と②の間は凹地となっている。高まり①の上面は、幅５ｍにわたって溝等の遺構が認められない部分があり、坪境の里道の可能性が考えられる。

溝 001

G-1 区の南端部分で検出した東西方向の溝である。北の肩部分から溝底にかけて検出しており幅、長さは不明であるが、深さは 30cm を測る。埋土は暗青灰色砂混じり砂質シルトである（第 92 図、図版 22-c）。埋土から近世に属する染付碗の口縁部破片が出土している（図版 42-9）。

溝 012

G-1 区から G-2 区にかけて検出された溝で、幅 0.6m、深さ８cmを測る。埋土は灰色砂質シルトに青灰色シルトブロックが混じるもので、遺物は出土していない（第 92・95 図、図版 23-a）。



第 94 図　Ｇ調査区第５層上面遺構断面図（1/40、※は 1/80）

溝 014

G-2 区の高まり②の東側で検出された溝で、幅 0.6m、深さ 10cm を測る。埋土は灰色砂質シルトで遺物は出土していない（第 92・95 図、図版 23-b）。

溝 016

G-2 区の高まり②上で検出した溝で、幅 0.3m、深さ 10cm を測る。埋土は暗緑灰色粘質シルトで灰色シルトのブロックが混じる。遺物は出土していない（第 92 図、図版 24-c）。

溝 026

G-2 区の高まり①と②の間で検出した溝で、幅１ｍ、深さ 10cm を測る。埋土は灰色細粒砂に同色の粘質シルトブロックが混じる。遺物は出土していない（第 92 図、図版 22-e）。

溝 027

G-2 区の高まり①と②の間で検出した溝で、幅 0.4m、深さ 10cm を測る。埋土は灰色細粒砂に同色の粘質シルトブロックが混じる。遺物は出土していない（第 92 図、図版 22-e）。

溝 033

G-3 区の高まり①の西端で検出した溝で、幅 0.46m、深さ 10cm を測る。埋土は暗灰黄色粘質シルトで、遺物は出土していない（第 92 図、図版 23-d・f）。

溝 034

G-3 区の高まり①上で検出された溝である。幅１ｍ、深さ 10cm を測る。埋土は暗青灰色砂混じり粘質シルトである（第 92 図、図版 23-c・e）。溝内から中世に属するとみられる陶器碗の破片が 1 点出土している（図版 42-14）。

溝 035

G-3 区の高まり①上で検出された溝で、溝 034 の東に位置する。幅 0.75m、深さ 25 ㎝を測る。埋土は溝 034 と同様である（第 92 図、図版 23-c・e）。溝内から須恵器甕の体部破片が出土している（第 96 図－２、図版 42）。体部外面は平行タタキメ、内面は同心円タタキメを施している。

畦畔 002

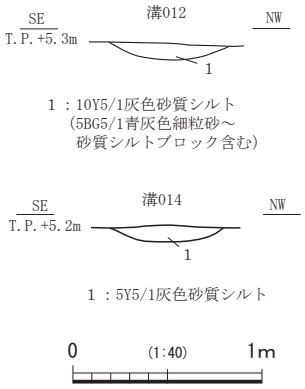
G-1 区で検出した南北方向の畦畔で、幅 0.5m、高さ３㎝のわずかな高まりである。

（３）第３層上面（近世）（図版 24）

第３層上面における遺構は希薄であり、G-1 区では中央部でわずかに確認できた畦畔のほかには遺構はない。なお、第４層上面で認めれた高まり①は、第３層上面でも認められた（第 93 図、図版 24-b）。

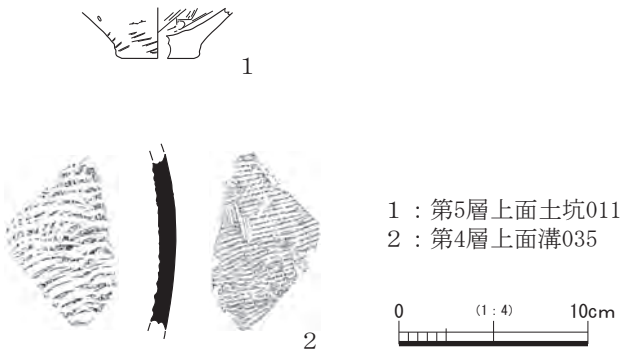
溝 018・019

G-2 区で検出された溝で、掘方が近接している。両溝とも幅 0.4m、深さ 10cm を測る。埋土はいずれも緑灰色砂質シルトで灰色シルトブロックを含む（第 93 図、図版 24-c）。遺物は、溝 018 から近世の磁器碗の歯偏（図版 42-10）、磨滅が著しい須恵器坏身の破片（同図版 11）が出土している。また溝 019 からは瓦質土器の破片が出土してい



第 95 図　Ｇ調査区
溝 012・014 断面図（1/40）

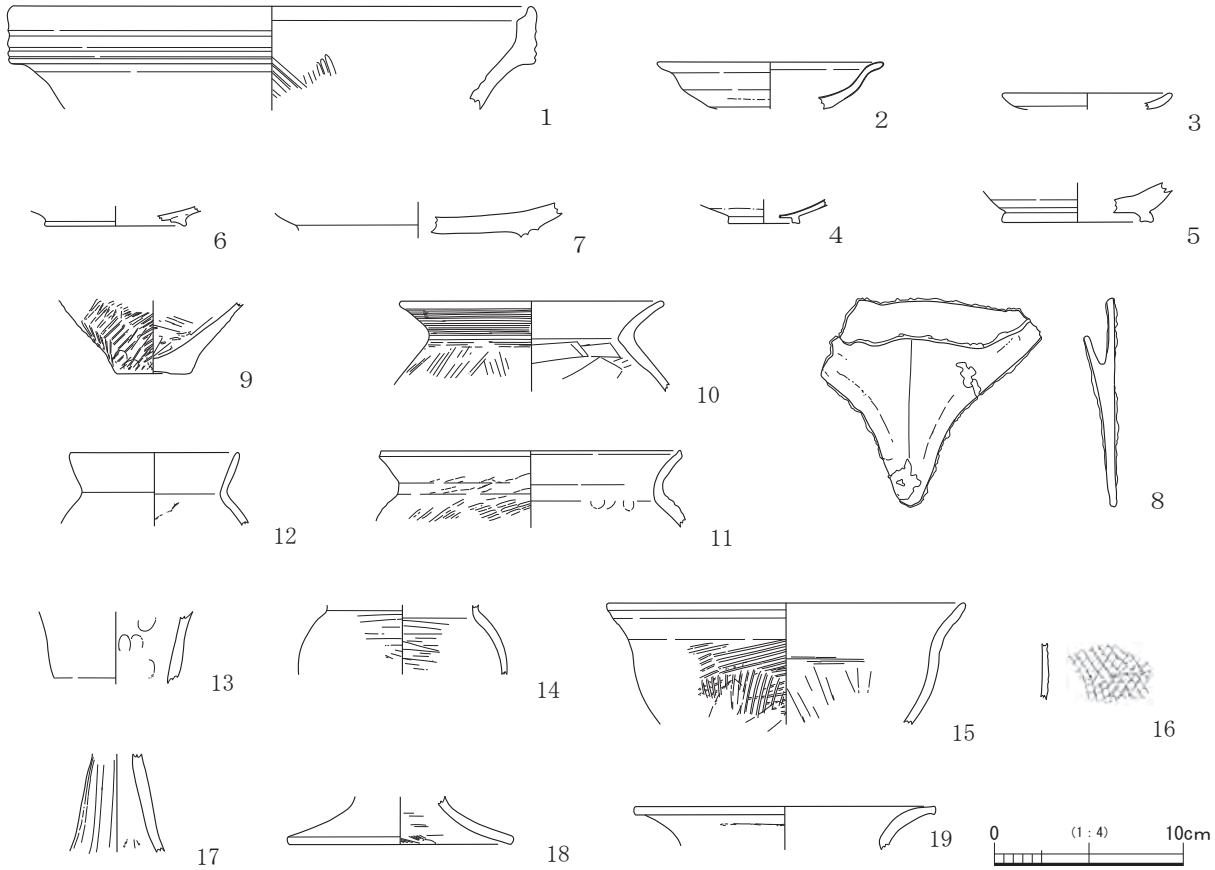
る（同図版 12)。



第 96 図　Ｇ調査区　遺構出土土器 (1/4)

（４）各層出土遺物（第 97 図、図版 43）

Ｇ調査区の各層から出土した遺物は細片が多く、図示し得るものは多くない。第１層ないしは第２層からは、染付碗の破片が複数出土している（図版 43- １～２・７)。また第２層からは流れ込みと考えられるが、サヌカイトの剝片も出土している（同図版 17)。この他、備前焼の擂鉢もみられる（第 97 図－１)。第３層からも近世の染付碗の破片が出土しているほか（同図版３)、黄瀬戸皿（第 97 図－２)、土師器皿（同図－３)、その他、鉄製品として犂先もみられる（同図－８)。第４層からは遺物は少ないものの、瓦器椀の底部（同図－６）および口縁部（同図版 13)、第５層からはＶ様式系甕の底部（同図－９)、布留系甕の口縁部（同図 -10)、Ｖ様式系の甕口縁部（同図 -11)、小型壺（同図 -13 ～ 15)、体部にタタキメを施す鉢（同図 -16)、高坏脚部（同図 -17・18）がみられる。また格子タタキメがみられる韓式系軟質土器片（同図 -16）もみられる。なお本調査区からも第５層中から古墳時代中～後期の須恵器片が出土している（同図版 18・19)。須恵器を除けば、第５層出土の土器は弥生後期後半～布留式段階までの時期幅をもつ。



第 97 図　Ｇ調査区各層出土土器等 (1/4)
(1:1 ～ 2 層、2 ～ 5・8：3 層、6：4 層、7：3 ～ 5 層、9 ～ 19：5 層)

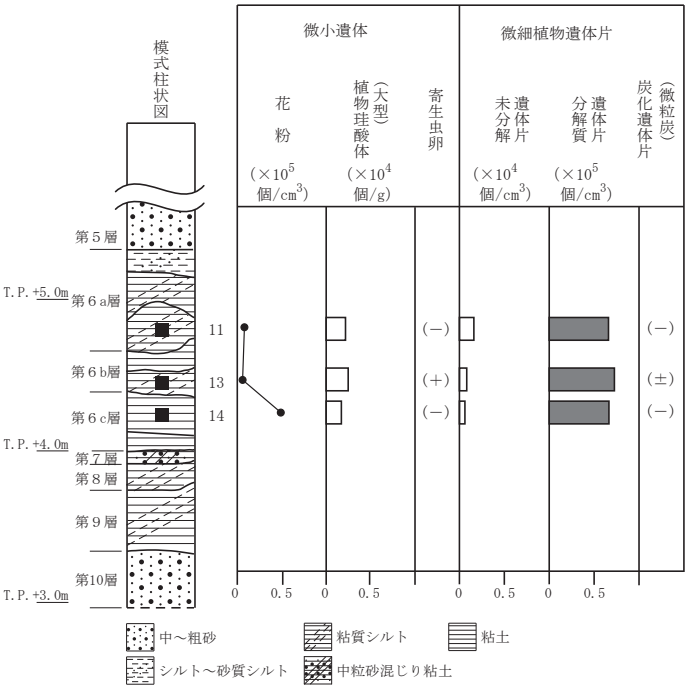
第３章　花粉分析・植物珪酸体分析

第１節　試料および分析原理

第１項　試料

久宝寺遺跡は、縄文時代晩期から近世にかけての大規模な複合遺跡で、今回実施されたＦ調査区は、久宝寺緑地内における雨水排水管の敷設工事に伴い実施されたものである。Ｅ調査区と同様に古墳時代前期に属する水田畦畔が検出され、古墳時代前期には、周辺で広く水田耕作が行われていたことが明らかになっている。

本章では、Ｆ調査区南壁で採取された第６層の土壌試料を対象に花粉分析、植物珪酸体分析を行い、農耕、土地利用、周辺の植生および堆積環境について検討する。



第 98 図　久宝寺遺跡Ｆ調査区南壁における遺体出現頻度

試料は、Ｆ調査区南壁の第 6a 層（試料 11）、第 6b 層（試料 13）、第 6c 層（試料 14）から採取された計３点である。このうち、第 6a 層（試料 11）、第 6b 層（試料 13）上面では古墳時代前期に属する水田畦畔が検出されたことから耕作土層と考えられ、第 6c 層（試料 14）では、遺構は検出されていない。試料採取箇所を分析結果の模式柱状図に示す（第 98 図）

・第６a 層：暗灰色粘質シルト（植物遺体を含む）
・第６b 層：暗灰色粘質シルト（炭化物含む）
・第６c 層：暗青灰色粘土（炭化物含む）

第２項　分析原理

（１）花粉分析

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。しかし花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

（２）植物珪酸体分析

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（Si02）が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山 2000）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山 1984）。

第３項　分析方法

（１）花粉分析（寄生虫卵分析含む）

花粉の分離抽出は、中村（1967）の方法をもとに、以下の手順で行った。

１）試料から１cm3 を採量

２）0.5％リン酸三ナトリウム（12 水）溶液を加え 15 分間湯煎

３）水洗処理の後、0.25mm の篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去

４）25％フッ化水素酸溶液を加えて 30 分放置

５）水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸９：濃硫酸１のエルドマン氏液を加え１分間湯煎）を施す

６）再び氷酢酸を加えて水洗処理

７）沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作製

８）検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって 300 ～ 1000 倍で行った。花粉の分類は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示した。同定分類には所有の現生花粉標本、島倉（1973）、中村（1980）を参照して行った。イネ属については、中村（1974，1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。また、寄生虫卵の計数、花粉プレパラート中に出現する微細植物遺体片の分類計数を第１表に加えた。

（２）植物珪酸体分析

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法（藤原 1976）を用いて、次の手順で行った。

１）試料を 105℃で 24 時間乾燥（絶乾）

２）試料約１g に対し直径約 40 μ m のガラスビーズを約 0.02g 添加（0.1mg の精度で秤量）

３）電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理

４）超音波水中照射（300W・42KHz・10 分間）による分散

５）沈底法による 20 μ m 以下の微粒子除去

６）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成

７）検鏡・計数

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として

行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。試料１ｇあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料１ｇ中の植物珪酸体個数を求めた。また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0 と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重）をかけて、単位面積で層厚１cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる（杉山 2000）。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

第４項　結果

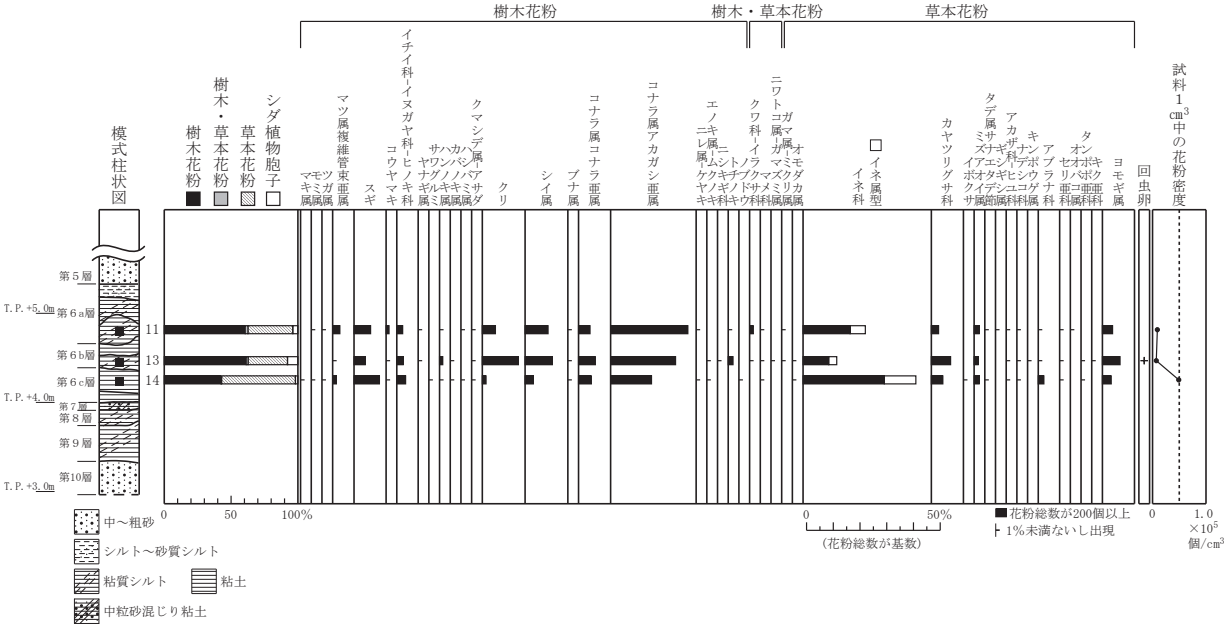
（１）花粉分析（寄生虫卵分析含む）

分類群

出現した分類群は、樹木花粉 23、樹木花粉と草本花粉を含むもの３、草本花粉 18、シダ植物胞子３形態の計 47 である。これらの学名と和名および粒数を第１表に示し、花粉数が 200 個以上計数できた試料は、周辺の植生を復原するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを第 99 図に示した[註)]。また、寄生虫卵についても検鏡した結果、１分

第１表　久宝寺遺跡Ｆ調査区南壁における花粉分析結果

分類群		第6a層	第6b層	第6c層
学名	和名	11	13	14
Arboreal pollen	樹木花粉			
Podocarpus	マキ属			1
Abies	モミ属	2		1
Tsuga	ツガ属	2		1
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属	10	2	7
Cryptomeria japonica	スギ	23	14	46
Sciadopitys verticillata	コウヤマキ	4	1	4
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	8	8	16
Salix	ヤナギ属	1	1	
Pterocarya rhoifolia	サワグルミ			1
Alnus	ハンノキ属	1	4	1
Betula	カバノキ属		1	1
Corylus	ハシバミ属	2		3
Carpinus-Ostrya japonica	クマシデ属-アサダ	3	1	2
Castanea crenata	クリ	18	45	7
Castanopsis	シイ属	32	34	15
Fagus	ブナ属	1	1	1
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	コナラ属コナラ亜属	16	21	23
Quercus subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	107	81	74
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属-ケヤキ	1		2
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属-ムクノキ		1	2
Celastraceae	ニシキギ科		1	
Aesculus turbinata	トチノキ	2	6	
Ampelopsis brevipedunculata	ノブドウ			1
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉			
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	5	3	
Leguminosae	マメ科	3	1	2
Sambucus-Viburnum	ニワトコ属-ガマズミ属		1	
Nonarboreal pollen	草本花粉			
Typha-Sparganium	ガマ属-ミクリ属	1	2	
Sagittaria	オモダカ属		3	4
Gramineae	イネ科	65	32	147
Oryza type	イネ属型	21	10	57
Cyperaceae	カヤツリグサ科	10	24	21
Aneilema keisak	イボクサ			1
Monochoria	ミズアオイ属	7	5	9
Polygonum sect. *Persicaria*	タデ属サナエタデ節	1		1
Rumex	ギシギシ属	1		
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	3	1	2
Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	1	1
Ranunculus	キンポウゲ属		1	
Cruciferae	アブラナ科	2	1	10
Apioideae	セリ亜科	2	3	2
Plantago	オオバコ属	1		
Lactucoideae	タンポポ亜科		1	1
Asteroideae	キク亜科		1	
Artemisia	ヨモギ属	14	22	16
Fern spore	シダ植物胞子			
Monolate type spore	単条溝胞子	9	16	5
Celatopteris	ミズワラビ			1
Trilate type spore	三条溝胞子	6	12	3
Arboreal pollen	樹木花粉	233	222	209
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	8	5	2
Nonarboreal pollen	草本花粉	129	107	272
Total pollen	花粉総数	370	334	483
Pollen frequencies of 1cm^3	試料1cm^{3}中の花粉密度	0.9 ×10^4	0.7 ×10^4	4.9 ×10^4
Unknown pollen	未同定花粉	5	8	7
Fern spore	シダ植物胞子	15	28	9
Helminth eggs	寄生虫卵			
Ascaris(lumbricoides)	回虫卵		1	
Total	計	0	1	0
Helminth eggs frequencies of 1cm^3	試料1cm^{3}中の寄生虫卵密度		1.1 ×10	
Stone cell	石細胞	(−)	(−)	(−)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(−)	(−)	(−)
Charcoal・woods fragments	微細炭化物・微細木片	(+)	(+)	(+)
微細植物遺体(Charcoal・woods fragments)	(×10^3)			
未分解遺体片		0.3	0.2	0.1
分解質遺体片		13.0	14.3	13.2
炭化遺体片(微粒炭)		(−)	(±)	(−)



第 99 図　久宝寺遺跡Ｆ調査区南壁における花粉ダイアグラム

類群が検出された。以下に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕

マキ属、モミ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、ヤナギ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属－アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキ、エノキ属－ムクノキ、ニシキギ科、トチノキ、ノブドウ

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科－イラクサ科、マメ科、ニワトコ属－ガマズミ属

〔草本花粉〕

ガマ属－ミクリ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、イボクサ、ミズアオイ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、アカザ科－ヒユ科、ナデシコ科、キンポウゲ属、アブラナ科、セリ亜科、オオバコ属、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、ミズワラビ、三条溝胞子

〔寄生虫卵〕

回虫卵　以下に寄生虫卵の特徴を示す。

回虫卵 Ascarislumbricoidesegg

比較的大きな虫卵で、およそ 80 × 60 μｍあり、楕円形で外側に蛋白膜を有し、胆汁色素で黄褐色ないし褐色を呈する。糞便とともに外界に出た受精卵は、18 日で感染幼虫包蔵卵になり経口摂取により感染する。回虫は、世界に広く分布し、現在でも温暖・湿潤な熱帯地方の農村地帯に多くみられる。

花粉群集の特徴

下位より花粉構成と花粉組成の変化の特徴を記載する（第 99 図）。

第 6c 層:暗青灰色粘土(炭化物含む)

樹木花粉より草本花粉の占める割合が高く、55%を占める。草本花粉では、イネ属型を含むイネ科が優占し、ミズアオイ属、オモダカ属、ミズワラビが伴われる。他にカヤツリグサ科、ヨモギ属、アブラナ科が出現する。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属、スギが比較的多く、コナラ属コナラ亜属、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、シイ属などが出現する。

第 6b 層：暗灰色粘質シルト（炭化物含む）

樹木花粉が 60%以上を占めるようになり、コナラ属アカガシ亜属、クリ、シイ属が増加する。草本花粉では、イネ属型を含むイネ科が減少し、カヤツリグサ科、ヨモギ属がやや増加する。回虫卵がわずかに出現する。

第 6a 層：暗灰色粘質シルト（植物遺体を含む）

樹木花粉と草本花粉の比率は第 6b 層と変わらないが、樹木花粉では、クリ、シイ属が減少し、コナラ属アカガシ亜属が増加する。草本花粉では、イネ属型を含むイネ科が増加する。

（２）植物珪酸体

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第２表および第 100 図に示した[註)]。

〔イネ科〕

イネ、ヨシ属、キビ族型、ススキ属型(おもにススキ属)、ウシクサ族Ａ（チガヤ属など）

〔イネ科－タケ亜科〕

第２表　久宝寺遺跡Ｆ調査区南壁における植物珪酸体分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

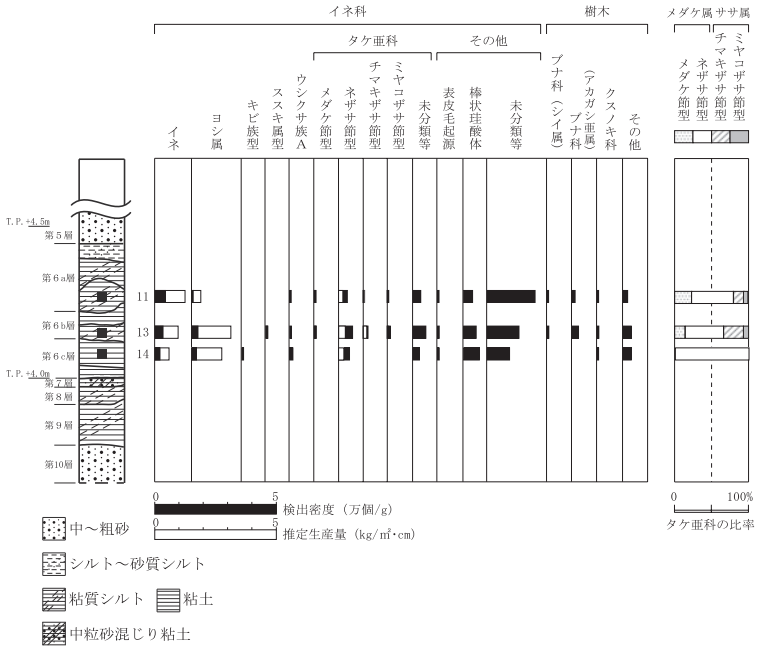
分類群	学名	地点・試料 6a層 11	6b層 13	6c層 14
イネ科	Gramineae			
イネ	*Oryza sativa*	43	33	20
ヨシ属	*Phragmites*	6	26	20
キビ族型	Paniceae type			7
ススキ属型	*Miscanthus* type		7	
ウシクサ族Ａ	Andropogoneae A type	6	7	13
タケ亜科	Bambusoideae			
メダケ節型	*Pleioblastus* sect. Nipponocalamus	6	7	
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. Nezasa	37	59	46
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.	6	20	
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi	6	13	
未分類等	Others	31	52	26
その他のイネ科	Others			
表皮毛起源	Husk hair origin	6	7	7
棒状珪酸体	Rod-shaped	37	52	65
未分類等	Others	197	131	92
樹木起源	Arboreal			
ブナ科(シイ属)	*Castanopsis*	6	7	
ブナ科(アカガシ亜属)	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	12	26	
クスノキ科	*Lauraceae*	6	7	7
その他	Others	18	33	33
植物珪酸体総数	Total	425	484	334

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/㎡・cm）：試料の仮比重を1.0と仮定して算出

イネ	*Oryza sativa*	1.27	0.96	0.58
ヨシ属	*Phragmites*	0.39	1.65	1.24
ススキ属型	*Miscanthus* type		0.08	
メダケ節型	*Pleioblastus* sect. Nipponocalamus	0.07	0.08	
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. Nezasa	0.18	0.28	0.22
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.	0.05	0.15	
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi	0.02	0.04	

タケ亜科の比率（%）

メダケ節型	*Pleioblastus* sect. Nipponocalamus	23	14	
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. Nezasa	57	52	100
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.	15	27	
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi	6	7	
メダケ率	Medake ratio	79	66	100



第 100 図　久宝寺遺跡Ｆ調査区南壁における植物珪酸体分析結果

メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、未分類等

〔イネ科－その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

〔樹木〕

ブナ科（シイ属）、ブナ科（アカガシ亜属）、クスノキ科、その他

第２節　考　察

第１項　花粉分析

（１）水田跡の検討

第 6a 層（試料 11）、第 6b 層（試料 13）、第 6c 層（試料 14）のいずれの試料からもイネ属型が出現し、ミズアオイ属を中心にオモダカ属、ミズワラビ、カヤツリグサ科などの水田雑草が伴われる。ミズアオイ属やオモダカ属は花粉生産量が少なく散布性の低い虫媒花であり、第 6a 層（試料 11）、第 6b 層（試料 13）、第 6c 層（試料 14）は水田の分布が推定される。下部の第 6c 層（試料 14）はイネ属型を含むイネ科が優占し、周辺で広く水田を中心とする人為環境が分布していたと推定される。第 6b 層（試料 13）、第 6a 層（試料 11）になると、クリ、照葉樹のシイ属とコナラ属アカガシ亜属が多くなり樹木花粉の割合が増加する。これは、遷移の速い二次林種であると考えられ、クリとシイ属とコナラ属アカガシ亜属の照葉二次林が拡大し、水田を含む人為環境が縮小する。

以上から、第 6a 層（試料 11）、第 6b 層（試料 13）、第 6c 層（試料 14）の時期とも、本地点ないし近隣での水田の分布が示唆されるが、水田を含む人為環境は下部の第 6c 層（試料 14）の時期が最も広く、第 6b 層（試料 13）から第 6a 層（試料 11）の時期には二次林がやや拡大し人為環境がやや縮小する。

（２）植生と環境

第 99 図に各植物遺体の出現密度を示したが、微細植物分解質遺体片が各層準ともやや多いため、土壌生成を受けて生成された堆積物であるととみなされる。未分解遺体片が検出され、乾燥した分解作用はあまり受けていない。寄生虫卵が第 6b 層（試料 13）からわずかに検出されるが、集落域などからの直接的な汚染はなく、生活域はやや遠い可能性が示唆される。各層準ともイネ属型を含むイネ科が多く、ミズアオイ属、カヤツリグサ科、オモダカ属、ミズワラビなどは、水生植物ないし水田雑草である。これらの草本が繁茂する湿潤な堆積環境が推定され、低湿な水田が分布し、周囲のやや乾燥したところにはヨモギ属、アブラナ科などの草本が生育していたと考えられる。

第 6c 層（試料 14）でやや多く出現するアブラナ科にはナタネなど栽培植物が多く含まれ、これらの畑作の可能性も示唆される。

近隣の森林植生としては、下部の第 6c 層（試料 14）では、周辺にコナラ属アカガシ亜属の照葉樹林が分布する。第 6b 層（試料 13）では、遷移の速い二次林種であると考えられるクリや、照葉樹のシイ

属、コナラ属アカガシ亜属がやや増加し、二次林がやや拡大したとみなされ、人為環境が縮小する。第6a 層（試料 11）になると、コナラ属アカガシ亜属が多い照葉二次林へと遷移する。

第２項　植物珪酸体分析

（１）稲作跡の検討

稲作跡（水田跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（プラント・オパール）が試料１g あたり 5,000 個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している（杉山，2000）。なお、密度が 3,000 個 /g 程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を 3,000 個 /g として検討を行った。

Ｆ調査区南壁では、第 6a 層（試料 11）、第 6b 層（試料 13）、第 6c 層（試料 14）について分析を行った。その結果、すべての試料からイネが検出された。このうち、第 6a 層（試料 11）と第 6b 層（試料 13）では、密度が 4,300 個 /g および 3,300 個 /g と比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

第 6c 層（試料 14）では、密度が 2,000 個 /g と比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

（２）　イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジュズダマ属型（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがあるが、これらの分類群はいずれの試料からも検出されなかった。

イネ科栽培植物の中には検討が不十分なものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畑作物は分析の対象外となっている。

（３）　植生と環境

上記以外の分類群の検出状況と、そこから推定される植生・環境について検討を行った。下位の第6c 層では、ヨシ属、キビ族型、ウシクサ族Ａ、ネザサ節型、および樹木（照葉樹）のクスノキ科などが検出されたが、いずれも少量である。第 6b 層から第 6a 層にかけては、メダケ節型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型、および樹木（照葉樹）のブナ科（シイ属）、ブナ科（アカガシ亜属）も出現しているが、いずれも少量である。おもな分類群の推定生産量によると、第 6c 層から第 6b 層にかけてはヨシ属、第6a 層ではイネが優勢となっている。

以上の結果から、各層準の堆積当時はおおむねヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、そこを利用して調査地点もしくはその周辺で水田稲作が行われていたと考えられる。また、周辺の比較的乾燥したところにはメダケ属（おもにネザサ節）などの竹笹類やウシクサ族などが生育し、遺跡

周辺にはシイ属、カシ類、クスノキ科などの照葉樹が分布していたと推定される。

第７節　まとめ

花粉分析および植物珪酸体分析の結果、微細植物遺体の検出から、古墳時代前期に属する水田畦畔が検出された第 6a 層と第 6b 層は、イネ属型ないしイネが比較的多量に検出され、これらの層で稲作が行われていたことが分析的に検証された。また、第 6c 層でも稲作が行われていた可能性が認められた。

各層準ともヨシ属と、カヤツリグサ科、ミズアオイ属などの水生植物が生育する湿潤な環境であったとみなされ、そこを利用して調査地点もしくはその周辺で水田稲作が行われていたと考えられる。周辺の森林は遷移を示し、第 6a 層と第 6b 層にかけて二次林が拡大し、地域的には人為環境の縮小が推定される。

註） 紙幅の都合で同定された分類群の顕微鏡写真は割愛した。

【参考文献（本章に関するもの）**】**

金原正明　1993 「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本』第 10 巻　古代資料研究の方法　角川書店　pp. 248-262.

金原正明・金原正子　2013 「植生と農耕における土壌層分析の実証的研究」『日本文化財科学会第 30 回大会研究発表会要旨集』pp. 112-113.

島倉巳三郎　1973 「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録第５集』p. 60

杉山真二　1999 「植物珪酸体分析からみた九州南部の照葉樹林発達史」『第四紀研究』38(2) pp. 109-123.

杉山真二　2000 「植物珪酸体（プラント・オパール）」『考古学と植物学』同成社　pp. 189-213

杉山真二・藤原宏志　1986 「機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定－古環境推定の基礎資料として－」『考古学と自然科学』19　pp. 69-84

藤原宏志　1976 「プラント･オパール分析法の基礎的研究 (1) －数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法－」『考古学と自然科学』9　pp. 15-29.

藤原宏志・杉山真二　1984 「プラント・オパール分析法の基礎的研究 (5) －プラント・オパール分析による水田址の探査－」『考古学と自然科学』17　pp. 73-85.

中村純　1967 『花粉分析』古今書院　pp. 82-102

中村純　1974「イネ科花粉について、とくにイネ（Oryza sativa）を中心として」『第四紀研究』13　pp. 187-193

中村純　1977「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』第 10 号　pp. 21-30

中村純　1980「日本産花粉の標徴」『大阪自然史博物館収蔵目録』第 13 集　p. 91

第４章　総　括

第１節　調査成果について

今回の発掘調査は、久宝寺緑地の北西部を南北にわたってトレンチを入れた形となっており、当該箇所における遺跡の様相が明らかとなった。以下時期ごとにその内容をまとめておく。

中世から近世　各調査区において遺構面が確認された。基本的には第３層ないしは第４層上面が当該期の遺構面となっており、Ｃ調査区第４層上面、Ｅ調査区第４層上面～第３層下面、Ｇ調査区第５層上面は中世の遺構面として把握可能であるが、その他の調査区では中世～近世の時期幅をもつ。土坑、溝、畦畔、井戸等の遺構の存在から、調査地周辺は耕作地であった。溝や畦畔の方向は、東西ないしは南北方向であり、条里の地割に影響されたものと考えられる。

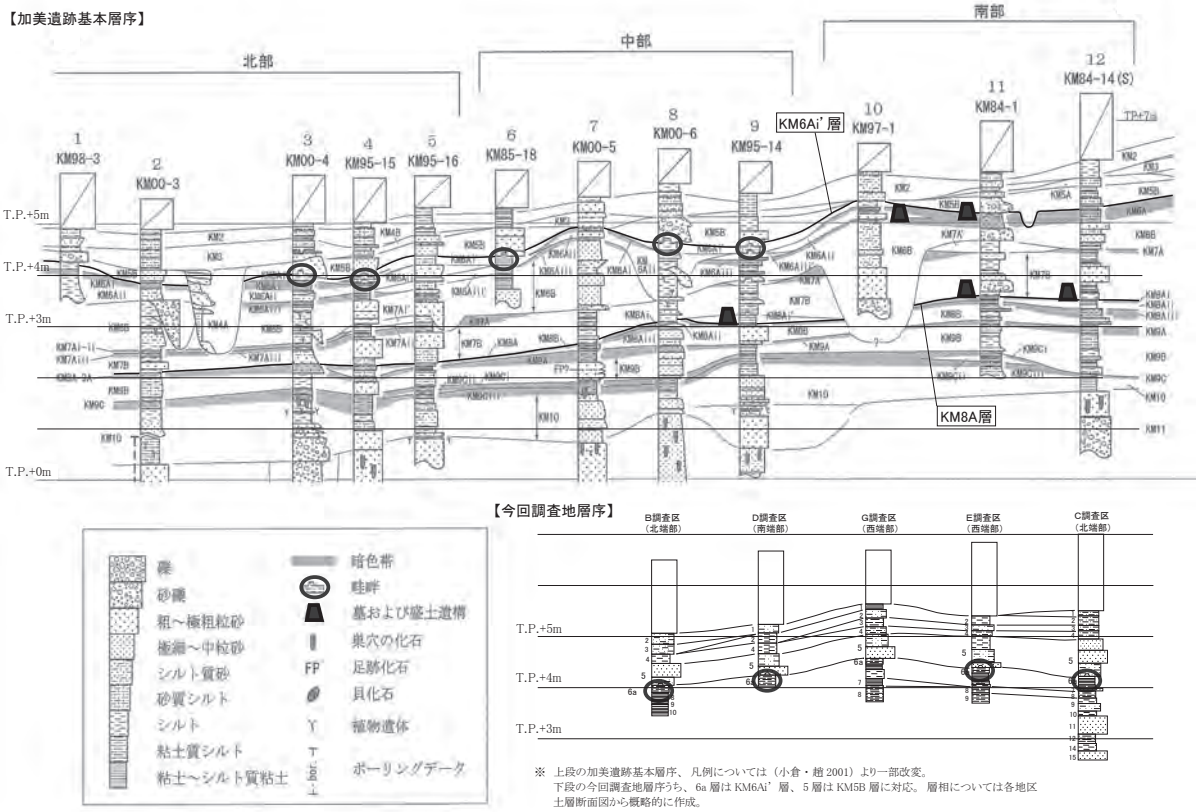
古代　Ａ調査区第５層上面は奈良時代の遺構面で、井戸、土坑、溝を検出している。後段で触れる第５層の堆積後の上面利用が、奈良時代まで遡ることを示す。この他の古代の遺構面は、Ｃ調査区第５層上面、Ｄ調査区第４層上面、Ｅ調査区第５層上面である。これらにおける溝等の方向も基本的に東西ないしは南北方向である。正方位を意識した土地利用を行っていたと考えられる。

古墳時代　第５層の氾濫堆積層は、すべての調査区で確認されおり、Ａ・Ｂ・Ｇ調査区において古墳時代中期の須恵器が出土したことから、古墳時代前期～中期にかけて堆積したことが明らかとなった。Ａ調査区溝 057・058、Ｂ調査区流路 044、Ｅ調査区流路 010 などは第５層を埋土としており、その供給源の１つと考えられる。またその方向は南東－北西方向であり、旧長瀬川や旧平野川などの旧大和川の分流路間において、その氾濫の影響を受けていると考えられる。

本遺跡に西接する加美遺跡において検討された基本層序によると、今回の調査地周辺でも第５層に対応する「KM5B 層」が認められ（第 101･102 図、小倉・趙 2001）、調査地周辺に広く分布していることが分かる。なお、第６層上面の古墳時代前期の水田耕作域については、後節で述べることとする。

弥生時代中期～後期　Ａ調査区で溝や畦畔が確認されており、Ａ調査区付近が水田耕作域であったことがうかがえる。またＣ調査区でも堤や畦畔と考えられる高まり、Ｅ調査区において弥生時代後期の流路が確認されている。なお当該時期の遺構面であるＢ調査区

第 101 図　加美遺跡基本層序把握地点と今回調査地
（小倉・趙 2001 より一部改変）



第 102 図　加美遺跡基本層序と今回調査地層序（小倉・趙 2001 より一部改変）

第 11 層上下面における高まり 048 については、方形周溝墓のマウンドないしマウンドの流出土である可能性が考えられるが（第２章第３節）、これについても後節で述べることにする。

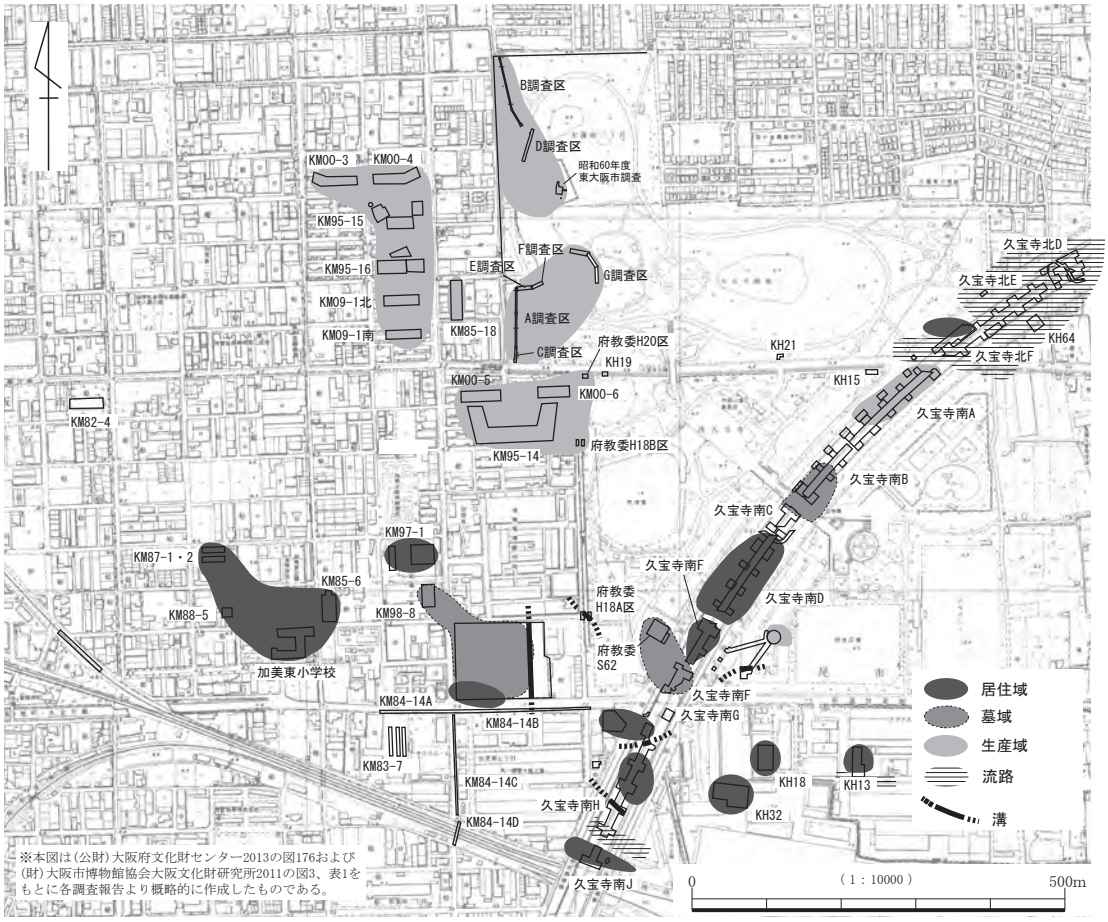
弥生時代前期～中期　Ｃ調査区で土坑、落ち込み、流路が確認されている。

以上、今回の発掘調査では弥生時代前期から近世にかけての遺構面を確認することができた。各時期ともに河川による堆積作用の影響を受けながら、基本的には水田や畑を中心とする耕作地として土地利用されてきたことが分かった。

第２節　古墳時代前期の水田耕作域について

今回の発掘調査で確認された第６層のうち特に 6a 層上面では、古墳時代前期に属する水田畦畔や溝等が検出されており、調査区一帯で広く水田耕作が行われていることが分かった。本層は加美遺跡基本層序の「6ai' 層」（小倉・趙 2001）に対応し、加美遺跡においても水田畦畔が検出されているほか、久宝寺緑地内における本府教育委員会による既往の調査地点（平成 18 年度Ｂ地点）等でも確認されている（第 103 図）。6a 層の標高はＥ・Ｆ調査区およびＧ調査区西端では T. P. +4. 3 ～ 4. 5m、Ａ調査区で T. P. +4. 2 ～ 4. 4m、ＣおよびＤ調査区では T. P. +4. 1 ～ 4. 2m、Ｂ調査区では T. P. +3. 9 ～ 4. 3m を測り、概ね北西方向に緩やかに傾斜する地形を呈している。加美遺跡で確認されている水田耕作域を含め、調査地周辺では当該期の水田域が広範に分布していたとみてよいであろう。

なおＦ調査区では、6a 層、6b 層、6c 層について、植物珪酸体分析および花粉分析を行った（第３章参照）。



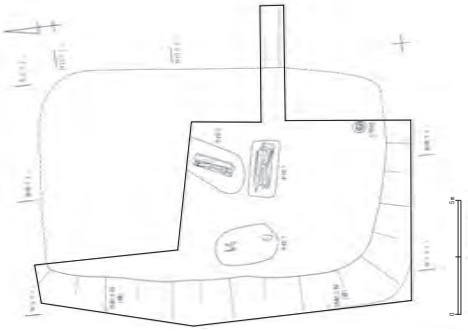
第 103 図　調査地周辺における古墳時代前期の様相

その結果、6a 層、6b 層で稲作が行われていたことが分析的に検証され、また 6c 層でも稲作の可能性が指摘されている。第７層については分析していないが、6c 層の堆積時以降、周辺が耕作地化したことがうかがえる。また花粉分析結果によると、6a 層、6b 層の状況から、周辺において二次林が拡大している様相がみられるという。耕作地化したすべての水田で同時的に耕作を行っていたわけではなさそうである。これらの水田耕作域に対応する居住域としては、近隣の KM00-5 次調査区の西半部が最も近いが、近畿自動車道の建設に伴う発掘調査地点や加美遺跡の中南部等で検出されている複数の居住域が考えられる（第 103 図）。

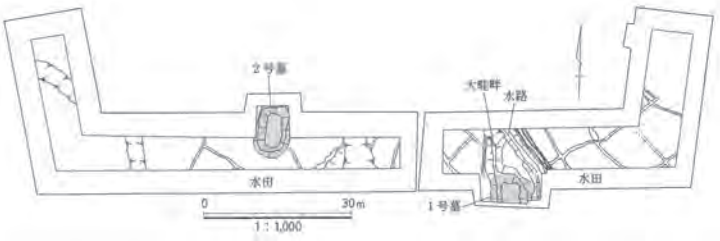
第３節　弥生時代中期の方形周溝墓について

Ｂ調査区では第 11 層中から方形周溝墓のマウンドないしはその流出土と考えられる高まりを検出している（高まり 051）。出土土器から高まり下層については弥生時代中期中葉に比定でき、調査区に近接して方形周溝墓が存在していた可能性が高い。Ａ・Ｄ調査区間にある、「1985 年度」調査区では、当該期の方形周溝墓が検出されている（第２・104 図、（財）東大阪市文化財協会 1986）。その基底面は T.P.+3.5m を測る。Ｂ調査区の高まり 051 については基底面の標高は明確ではないがそれほど大きな隔たりはないと考えられる。またＦ調査区で検出した高まり 048 についても基底面は T.P.+3.5m 付近で、遺物は伴わなかったものの、堆積状況の類似性から高まり 051 と同様の遺構と考えられる（第２章第６

節参照)。これらの高まりを方形周溝墓と関連する遺構と仮定すると、今回の調査の状況からは、複数の方形周溝墓が近接するように連続するのではなく、方形周溝墓の間が空閑地となっているような景観が復元できると考えられる。なお詳細な検討が必要であるが、Ａ調査区では弥生時代中期～後期の畦畔、足跡等が検出されており、この方形周溝墓の間にある空閑地（微低地）が、築造後に水田耕作域となっていることも十分に考えられる。加美遺跡における既往の調査では、弥生時代中期中葉に築造された方形周溝墓の周囲が、中期後葉には水田化されている事例があり（第 105 図・KM95-14（大庭 2001)）、今回の調査地周辺においても、これと同様のことが言えるものと考えられる。そしてこの加美遺跡の方形周溝墓が南北方向に延びる細長い微高地上に立地している（大庭 2001）のと同様に、今回検出したＢ調査区高まり 051、Ｆ調査区高まり 048、そして「1985 年度」調査区方形周溝墓は、それぞれが細長い微高地上に立地している可能性も十分に考えられる。Ｂ調査区高まり 051 の南側は第５層埋土の流路 044 により削平されているが、これより以南については、第６層のレベルが 0.5m 近く低くなっており（第 28 図)、示唆的である。今後の調査事例の増加を待ち、方形周溝墓の立地についてさらなる検討が必要である。



第 104 図　1985 年度調査区出土方形周溝墓
（（財）東大阪市文化財協会 1986 より）



第 105 図　加美遺跡 KM95-14 次調査区（大庭 2001 より）

【引用・参考文献（第３章以外のもの)**】**

大阪府立近つ飛鳥博物館　2006 『陶邑の須恵器－年代のものさし』 平成 17 年度冬季企画展

大阪府教育委員会　2007 『加美・久宝寺遺跡発掘調査概要　久宝寺緑地内における橋梁整備工事及び便所新築工事に伴う調査』

大庭重信　2001 「加美遺跡方形周溝墓の葬送過程の復原」『財団法人大阪市文化財協会研究紀要』第 4 号

大庭重信　2014 「河内平野南部の弥生時代集落景観と土地利用」『日本考古学』第 38 号

小倉徹也・趙哲済　2001 「大阪市加美遺跡の基本層序」『財団法人大阪市文化財協会研究紀要』第 4 号

公益財団法人大阪府文化財センター　2013 『久宝寺遺跡２　高速自動車国道近畿自動車道天理吹田線八尾パーキングエリア新設事業に伴う発掘調査報告書』（公財）大阪府文化財センター調査報告書第 239 集

古代の土器研究会編　1993『古代の土器 2　都城の土器集成 II』

財団法人愛知県埋蔵文化財センター　1997『西上免遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 73 集

財団法人大阪市博物館協会　大阪文化財研究所　2011 『加美遺跡発掘調査報告Ⅲ　平野区加美東三丁目における発掘調査報告書』

財団法人大阪市文化財協会　2003 『加美遺跡発掘調査報告 II　市営加美神明東・加美細田住宅建設工事に伴う発掘調査報告書』

財団法人大阪府文化財センター　2007 『久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅶ』 大阪府文化財センター調査報告第 156 集

財団法人東大阪市文化財協会　1986 『久宝寺遺跡発掘調査報告－久宝寺緑地公園内雨水貯溜池築造工事に伴う発掘調査－』

財団法人八尾市文化財調査研究会　2006 『久宝寺遺跡』（財）八尾市文化財調査研究会報告 89

財団法人八尾市文化財調査研究会　2012 『久宝寺遺跡　第 77 次調査－寝屋川流域下水道竜華水みらいセンター防火水槽外築造工事（H22-1）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』（財）八尾市文化財調査研究会報告 140

田中清美　1986 「加美遺跡発掘調査の成果」『古代を考える 43　加美遺跡の検討』 古代を考える会

西村　歩　2008「中河内地域の古式土師器編年と諸問題」『シンポジウム「邪馬台国時代の摂津・河内・和泉と大和』資料集ふたかみ邪馬台国シンポジウム８　香芝市教育委員会

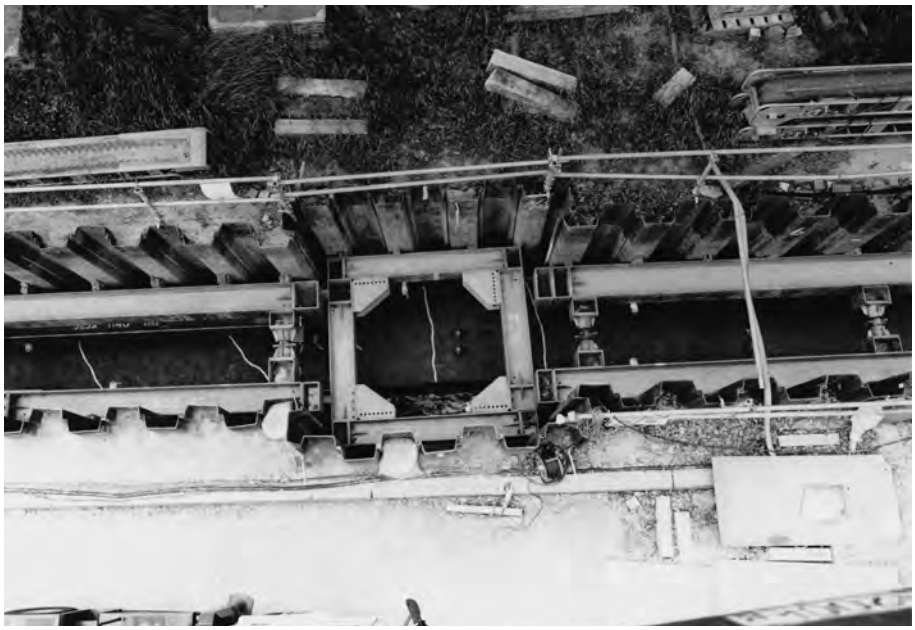
原田昌則　2003「中・南河内地域における弥生時代後期後半～古墳時代初頭前半（庄内式古相）の土器の細分試案について」『久宝寺遺跡第 29 次発掘調査報告書』財団法人八尾市文化財調査研究会報告 74　（財）八尾市文化財調査研究会

図　　版

図版一　久宝寺遺跡Ａ調査区　弥生時代中期　遺構

a. 南半部　第 12c 層上面
（北から）

b. 中央部　第 10b 層上面
（東から）



c. 中央部　第 9b 層上面
（東から）

図版二　久宝寺遺跡Ａ調査区　弥生時代終末～古墳時代前期　遺構

a. 南半部　第７層上面　流路 079（北から）

b. 第７層上面（南から）

c. 第 6b 層上面（南から）

a. 北半部　第 6a 層上面（南から）

b. 第 6a 層中　布留形甕出土状況（西から）

c. 第 6a 層中　布留形甕出土状況（西から）

d. 第 6a 層中　布留形甕出土状況 近景（西から）

図版四　久宝寺遺跡Ａ調査区　奈良時代　遺構

a. 南半部　第５層上面（南から）

b. 南半部　第５層上面（北から）　小溝群

c. 第５層上面　土坑 056（東から）

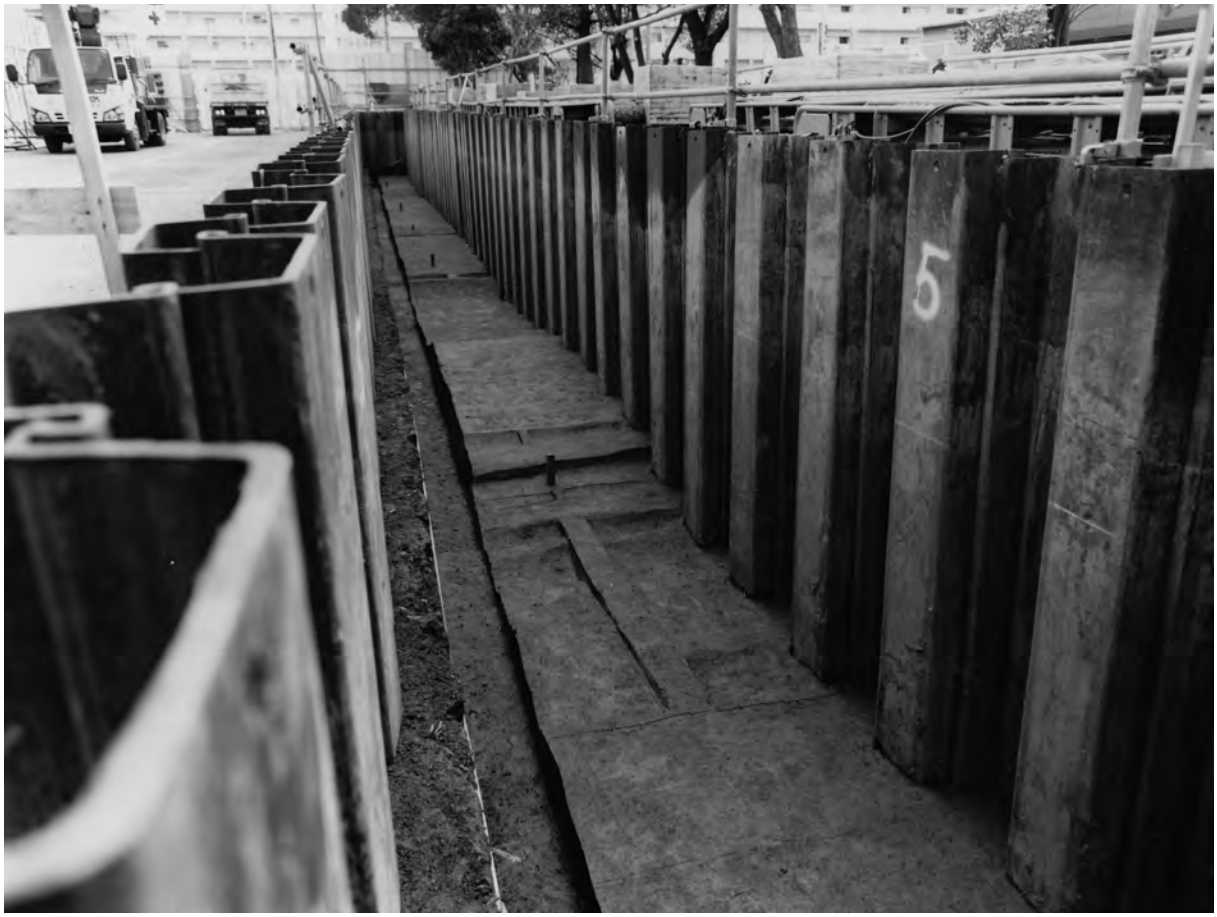
d. 第５層上面　井戸 024 断面（南から）　　下段に曲げ物を据えている

図版五　久宝寺遺跡Ａ調査区　古代～近世　遺構

a. 南半部　第４層上面（南から）

b. 南半部　第４層上面（東から）

c. 中央部　第４層上面（東から）



d. 南半部　第３層上面（北から）

図版六　久宝寺遺跡Ｂ調査区　弥生時代中期　遺構

a. 第 11 層下面　高まり 051（南から）

b. 第 11 層下面　高まり 051（南から）

c. 高まり 051　弥生土器壺 出土状況（西から）　口縁部を打ち欠く

図版七　久宝寺遺跡Ｂ調査区　弥生時代後期～古墳時代前期　遺構

a. 北端部　第８層下位
木製品出土状況（南から）

b. 第6a 層上面
高まり 049（南から）

c. 第5c 層上面
溝 039（北東から）

図版八　久宝寺遺跡C調査区　奈良時代～中世　遺構

a. 第5a層上面 土坑037（西から）

b. 第5a層上面　土坑038（南東から）

c. 第4層下面　土坑028（北東から）

d. 第4層下面　土坑031　白磁碗出土状況（南東から）

e. 北半部　第4層上面（南から）

図版九　久宝寺遺跡C調査区　弥生時代前期～中期後半　遺構

a. 南側断面（北から）　水糸はT.P.2.4m

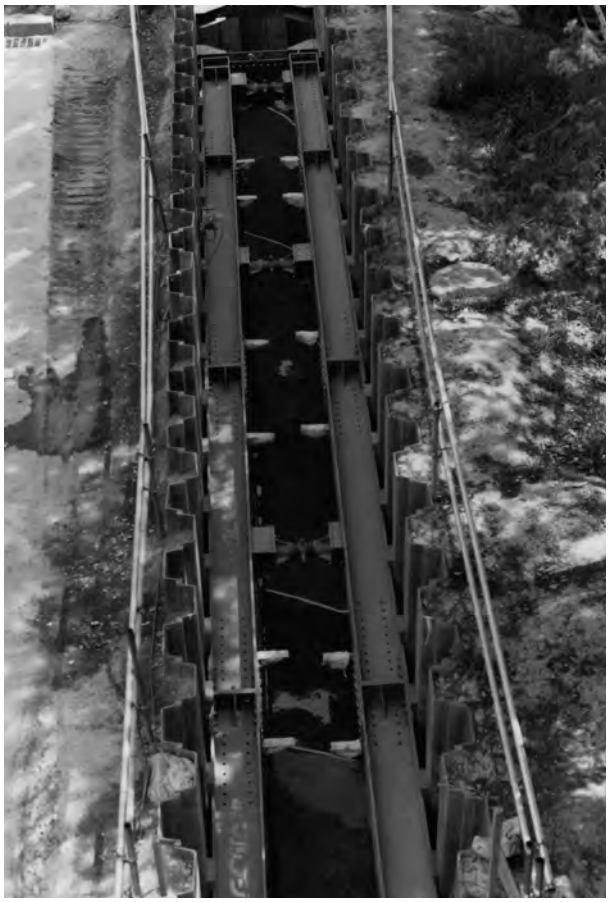
b. 第16a層上面（南から）

c. 南半部　第13a層上面　流路038（北から）

d. 北半部　第13a層上面 溝039（南から）

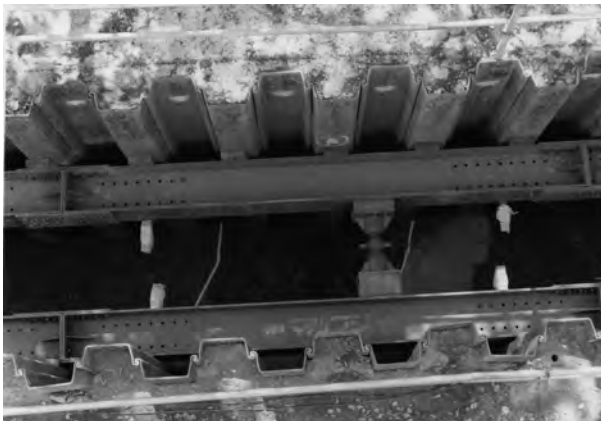
e. 南半部　第12a層上面 流路037（北から）

図版一〇　久宝寺遺跡C調査区　弥生時代中期後半～中世　遺構



a. 第10b層上面（北から）

b. 第10b層上面　流路036（東から）



c. 第10b層上面　流路035（東から）

d. 第5層上面（北から）

e. 第6a層上面　畦畔034（南から）

f. 第4層上面（北から）

a. 第４層上面（北東から）

b. 第４層上面　溝 006（南から）

c. 第４層上面　溝 005（南から）

d. 第３層上面（北東から）

図版一二　久宝寺遺跡E調査区　弥生時代後期～古墳時代前期　遺構

a. 第9b層上面（西から）

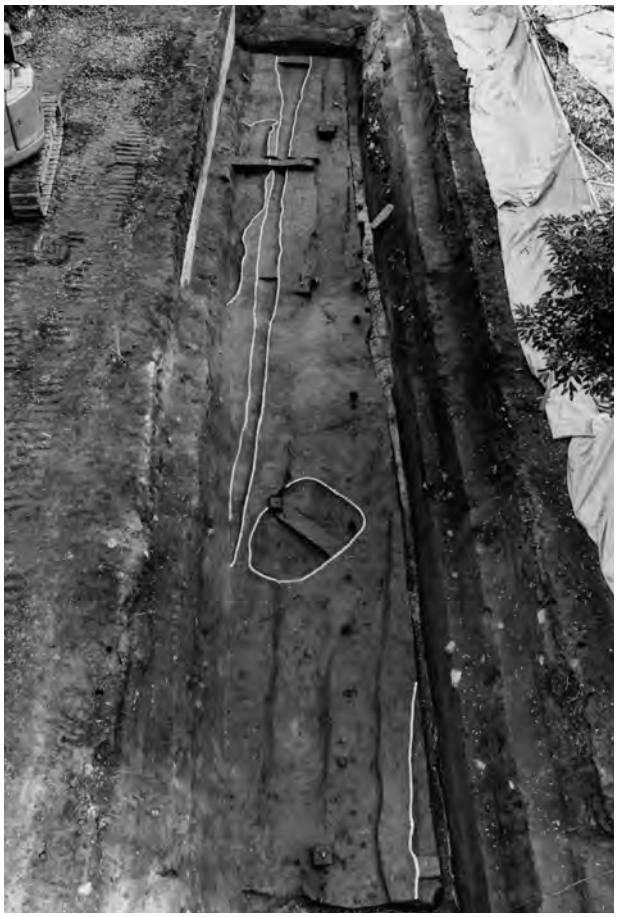
b. 第8層上面（西から）

c. 第6a’層上面　流路010　断面（北から）

a. 第6a’層上面（西から）

b. 堤012（南から）

c. 堤011（南から）



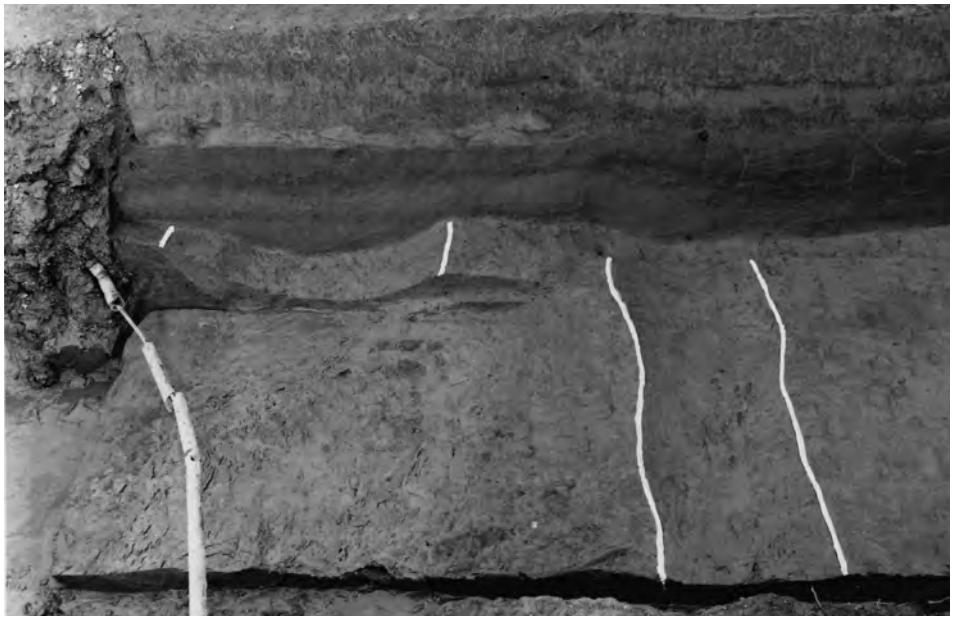
d. 第5層上面（西から）

h. 第4層上面（西から）

図版一四　久宝寺遺跡F調査区　古墳時代前期　遺構

a．東壁断面
（北西から）

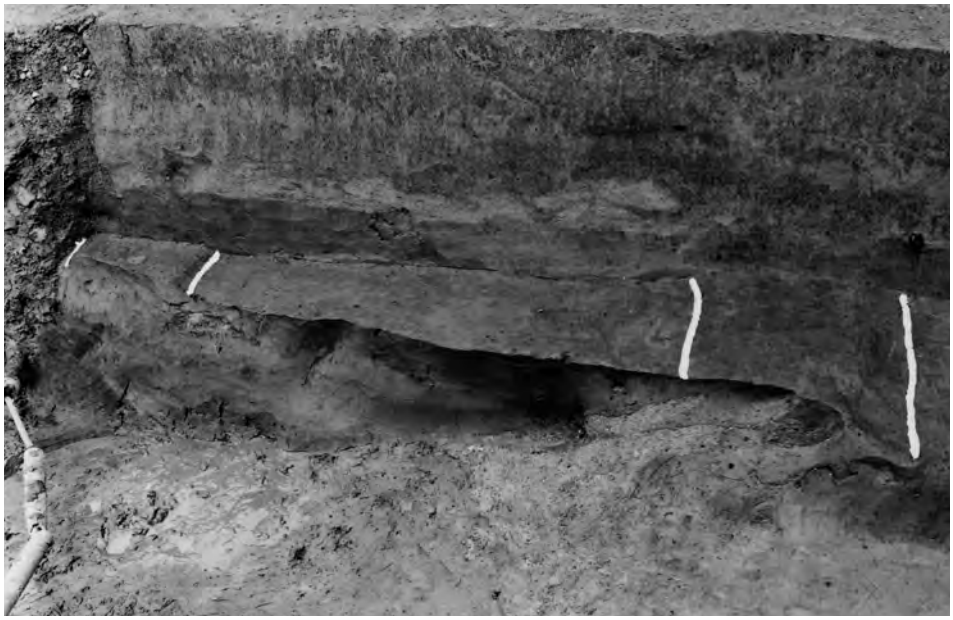
b．第７層上面
（北西から）



c．第７層上面
溝045（右）・溝046
（北西から）

図版一五　久宝寺遺跡Ｆ調査区　古墳時代前期　遺構

a．第6b層上面
（北西から）



b．第6b層上面
畦042（左）・畦043
（北西から）

c．第6a層上面
（北西から）

図版一六　久宝寺遺跡F調査区　古墳時代前期・近世　遺構

a. 第５層遺物出土状況
（北西から）

b. 第３層上面
（北西から）

c. 第３層上面　溝 039　断面（北東から）

d. 第３層上面　溝 039　木製品出土状況

図版一七　久宝寺遺跡Ｇ調査区　古墳時代前期以前　遺構面等

a．第6層上面(北から)

b．G-3区完堀状況
(南から)

c．G-3区西端北壁断面
(南から)

図版一八　久宝寺遺跡G調査区　中世　遺構

a. G-1 区第 5 層上面遺構検出状況（南東から）

b. G-2・3 区第 5 層上面遺構検出状況（北から）

c. 第 5 層上面（西から）

a. G-1 区第 5 層上面（南東から）

b. G-2 区第 5 層上面（西から）

c. G-3 区東半第 5 層上面（北西から）

d. G-3 区西半第 5 層上面（北西から）

図版二〇　久宝寺遺跡G調査区　中世　遺構

a. G-1 区土坑 004・006・007・008・溝 003（北から）

b. G-1 区土坑 006 断面（南から）

c. G-1 区土坑 007 断面（西から）

d. G-1 区土坑 008 断面（南から）

e. G-1 区土坑 011（西から）

f. G-1 区溝 003 断面（東から）

g. G-1 区溝 005 断面（西から）

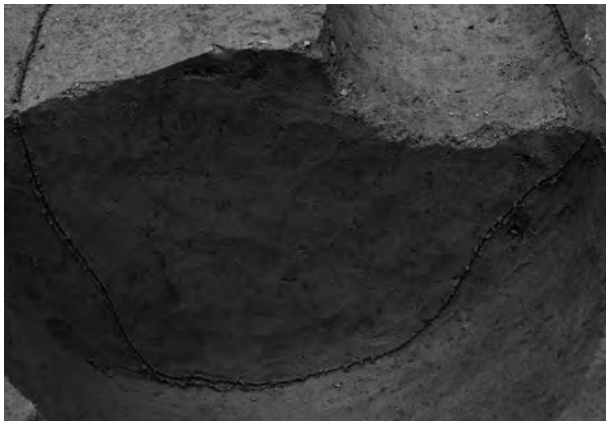
a. G-1・2 区溝 010（左）・溝 020（北から）

b. G-2 区溝 020 断面（南から）

c. G-1 区溝 010 断面（東から）

d. G-2 区溝 010 断面（西から）

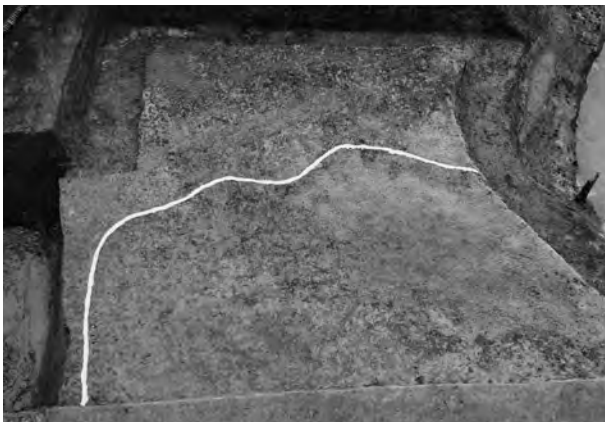
e. G-2 区土坑 030・溝 029・溝 031（北から）


f. G-2 区土坑 030 断面（南から）

g. G-2 区土坑 032 断面（北から）

図版二二　久宝寺遺跡G調査区　中世～近世　遺構

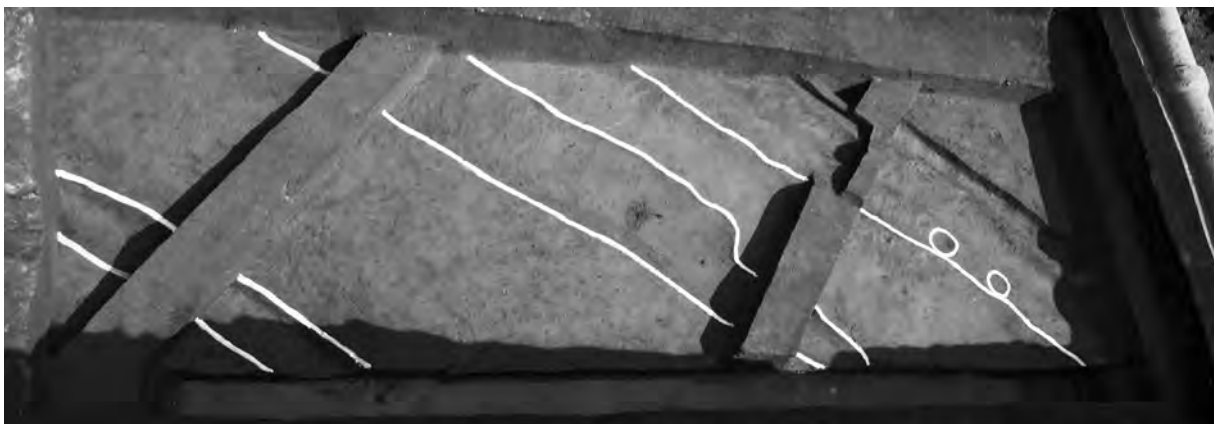
a. G-3 区溝 037（南から）



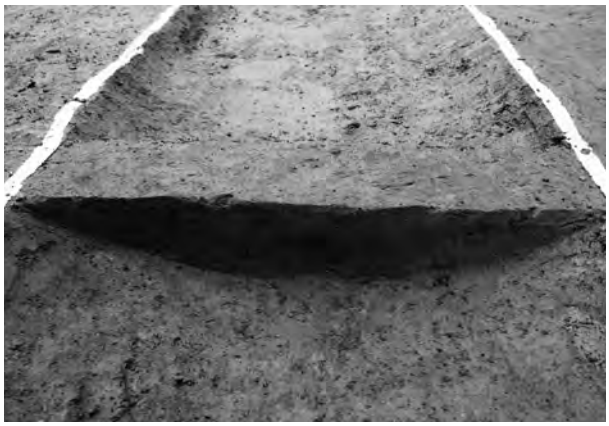
b. G-3 区落ち込み 038（北から）

c. G-1 区第 4 層上面（東から）

d. G-2 区東半第 4 層上面（西から）



e. G-2 区西半第 4 層上面（南から）



a. G-2 区溝 012 断面（北から）

b. G-2 区溝 014 断面（北から）

c. G-3 区東半第 4 層上面（東から）

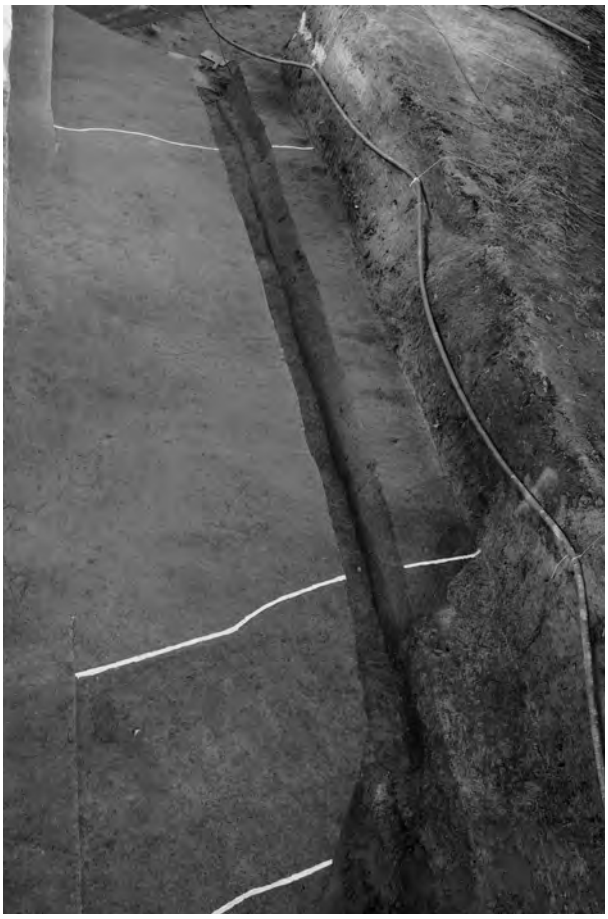
d. G-3 区東半第 4 層上面（西から）

e. G-3 区溝 034（左）・溝 034 断面（北から）

f. G-3 区溝 033 断面（南から）

図版二四　久宝寺遺跡G調査区　近世　遺構等

a. G-1 区第 3 層上面（東から）



b. G-3 区東半第 3 層上面（西から）

c. G-2 区第 3 層上面溝 016（南から）

d. G-2 区アゼ①（南から）

e. G-2 区アゼ②（南から）

図版二五　久宝寺遺跡Ａ調査区　縄文時代～古墳時代前期　遺物　土器

1（*14-1*）

2（*15-1*）

3（*14-2*）

4（*14-14*）

5（*14-16*）

7（*15-5*）

6（*14-18*）

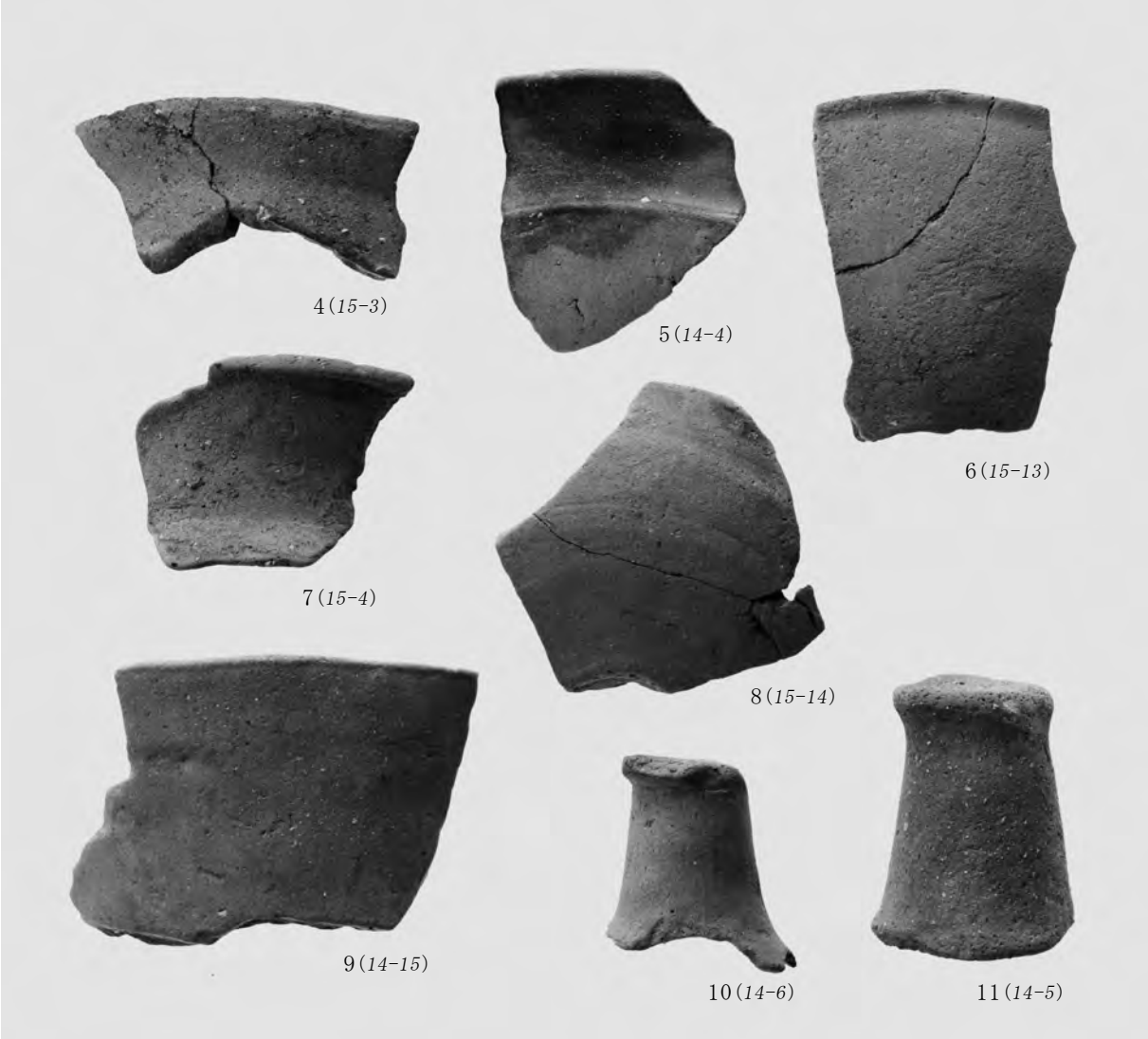
8（*15-12*）

第５層（1・3～6）、流路 058（2・8）、流路 063（7）

1・2　縄文土器、3・6　弥生土器、4・5・7・8　土師器

図版二六　久宝寺遺跡A調査区　縄文～古墳時代前期　遺物　土器

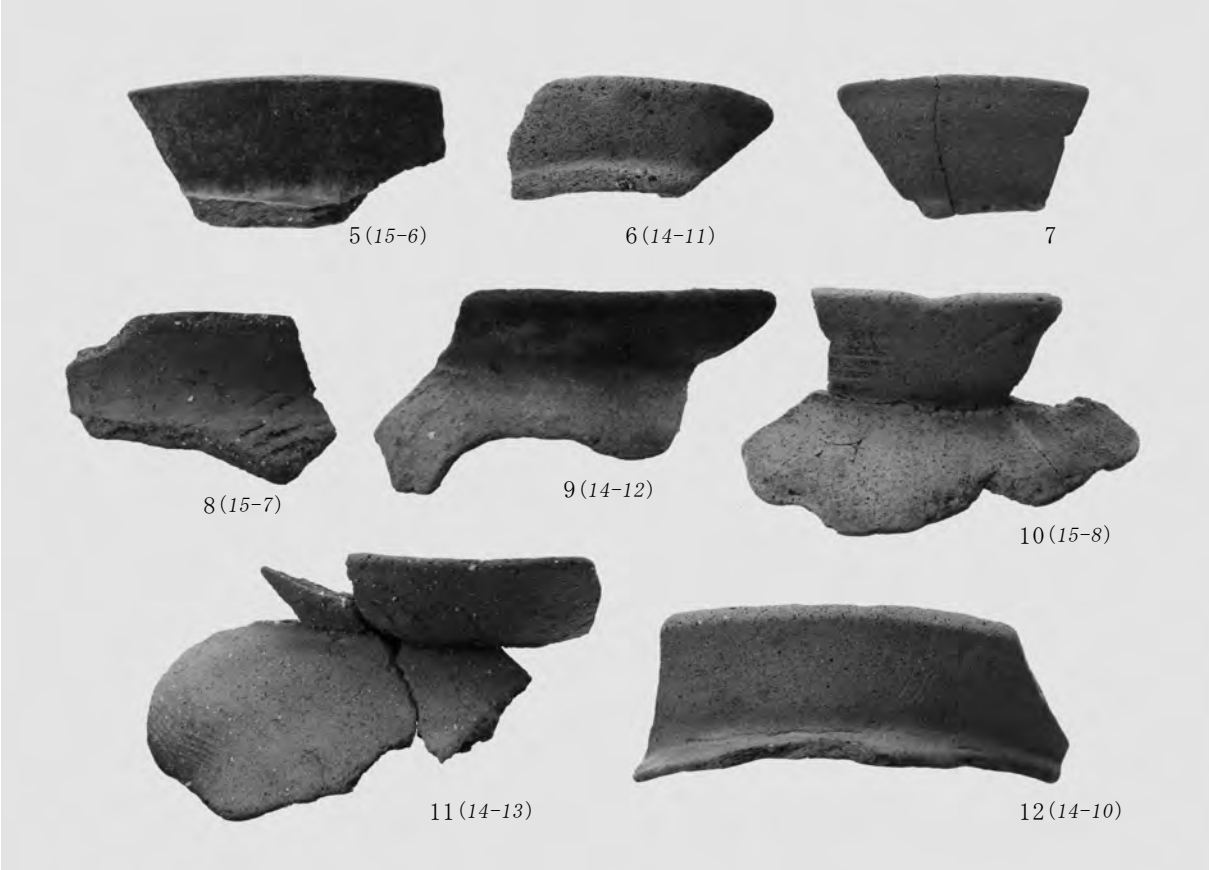
第５層（3）、流路 058（1・2）



第５層（8～11）、流路 058（4・6）、流路 057（5・7）　　約 1/2

第 6a 層（1）　土師器

第 5 層（2）、流路 058（3・4）　土師器



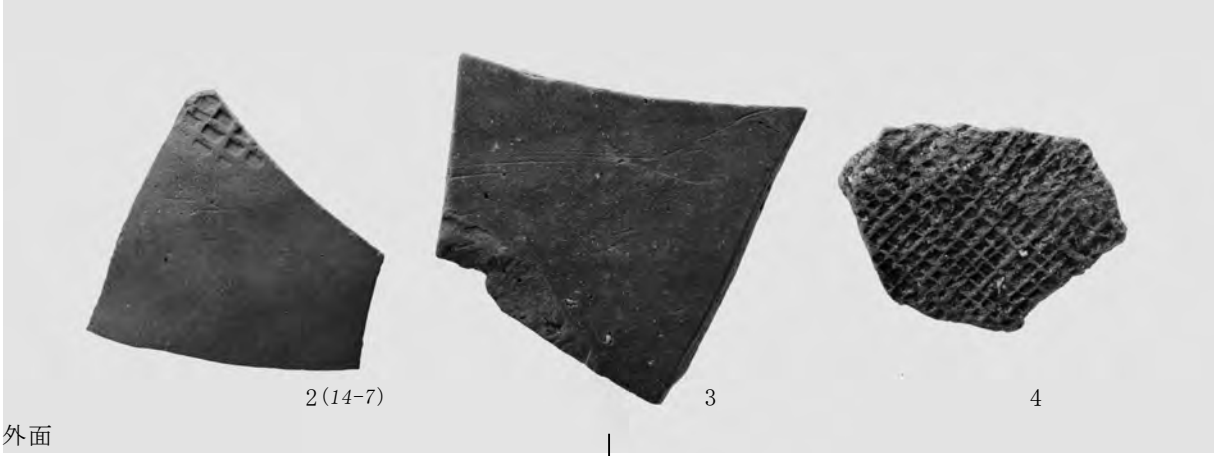
流路 060（5）、第 5 層（6・7・9・11・12）、流路 058（8・10）
土師器

図版二八　久宝寺遺跡Ａ調査区　古墳時代中期　遺物　土器

内面　1（*15-15*）

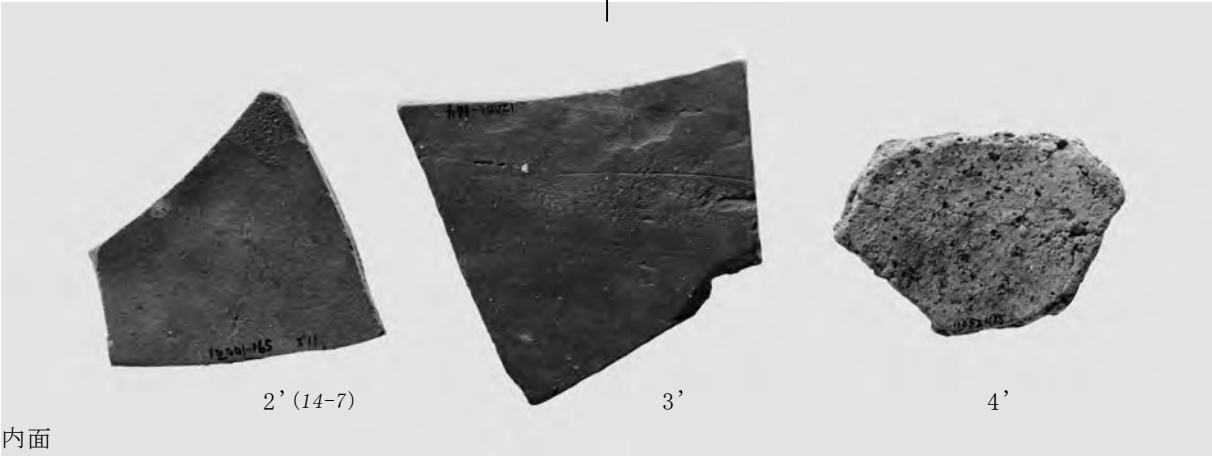
上面　1’（*15-15*）

流路 058（1）　初期須恵器大鉢 or 盤　約 1/1



2（*14-7*）　3　4

外面

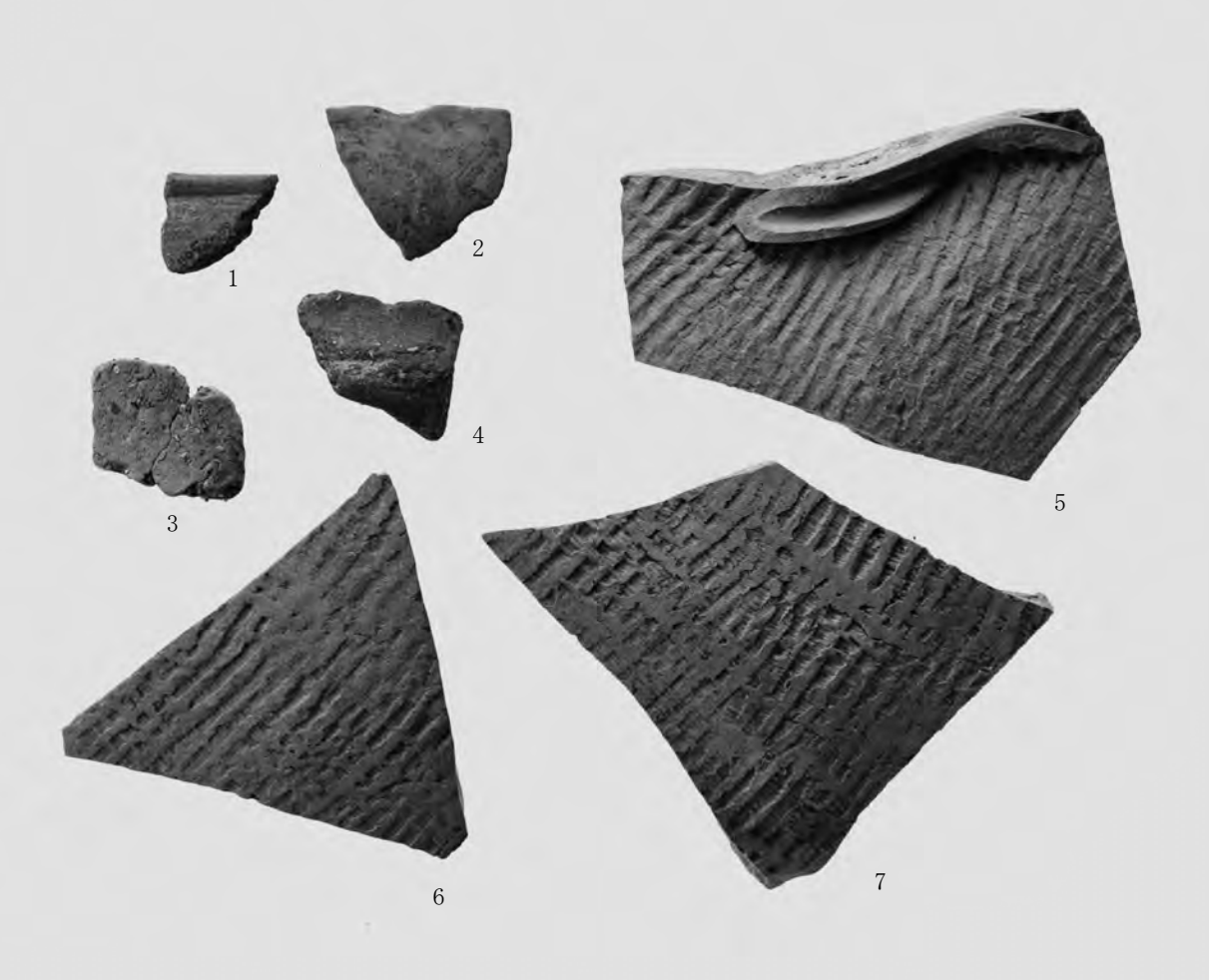


2’（*14-7*）　3’　4’

内面

第 5 層（2 ～ 4）　約 2/3

2・3　初期須恵器、4　韓式系軟質土器

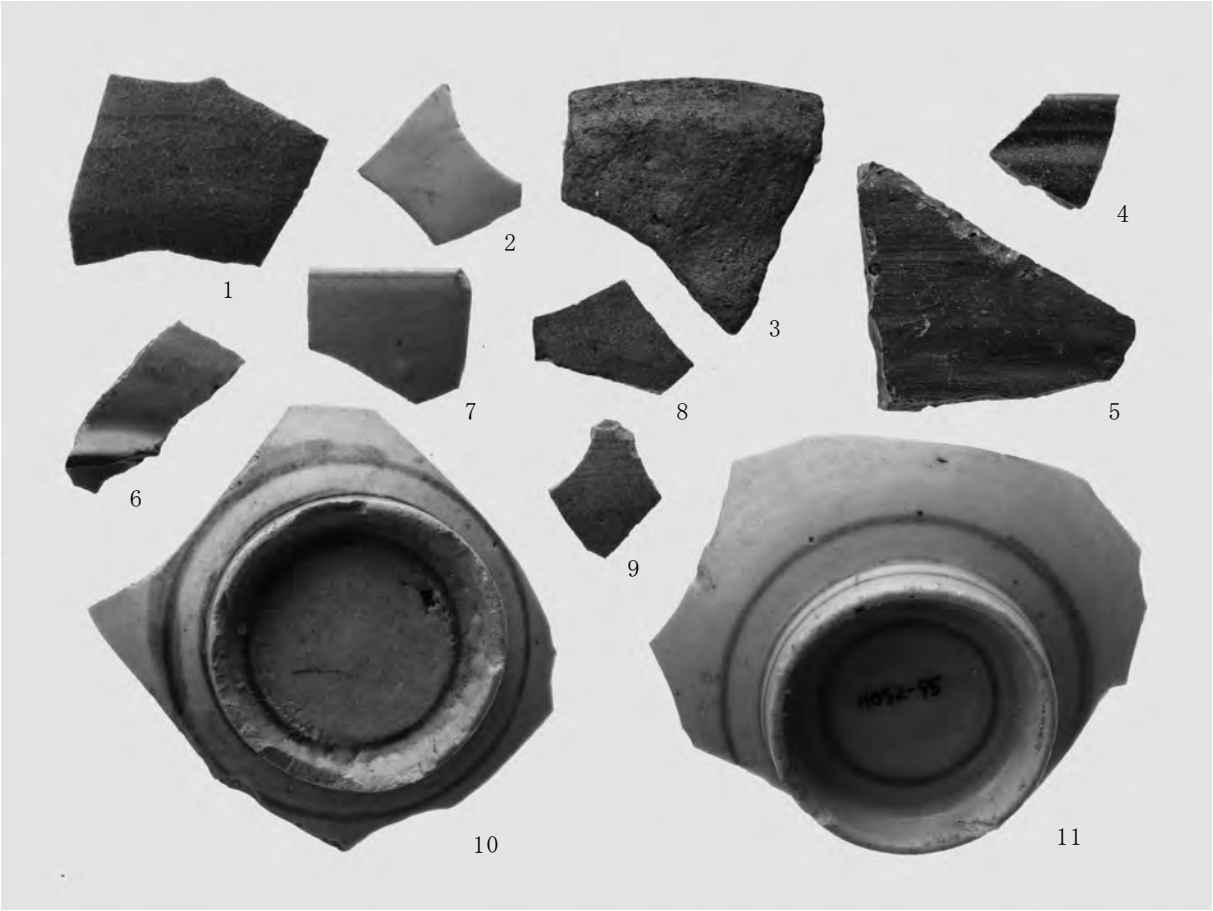


井戸 024（1 ～ 7）　1・2　土師器坏、3　製塩土器、4　土師器羽釜、5 ～ 7　須恵器大甕　約 2/3

土坑 056（8 ～ 11）　約 2/3
8・10・11　土師器坏、9　土師器甕 or 羽釜

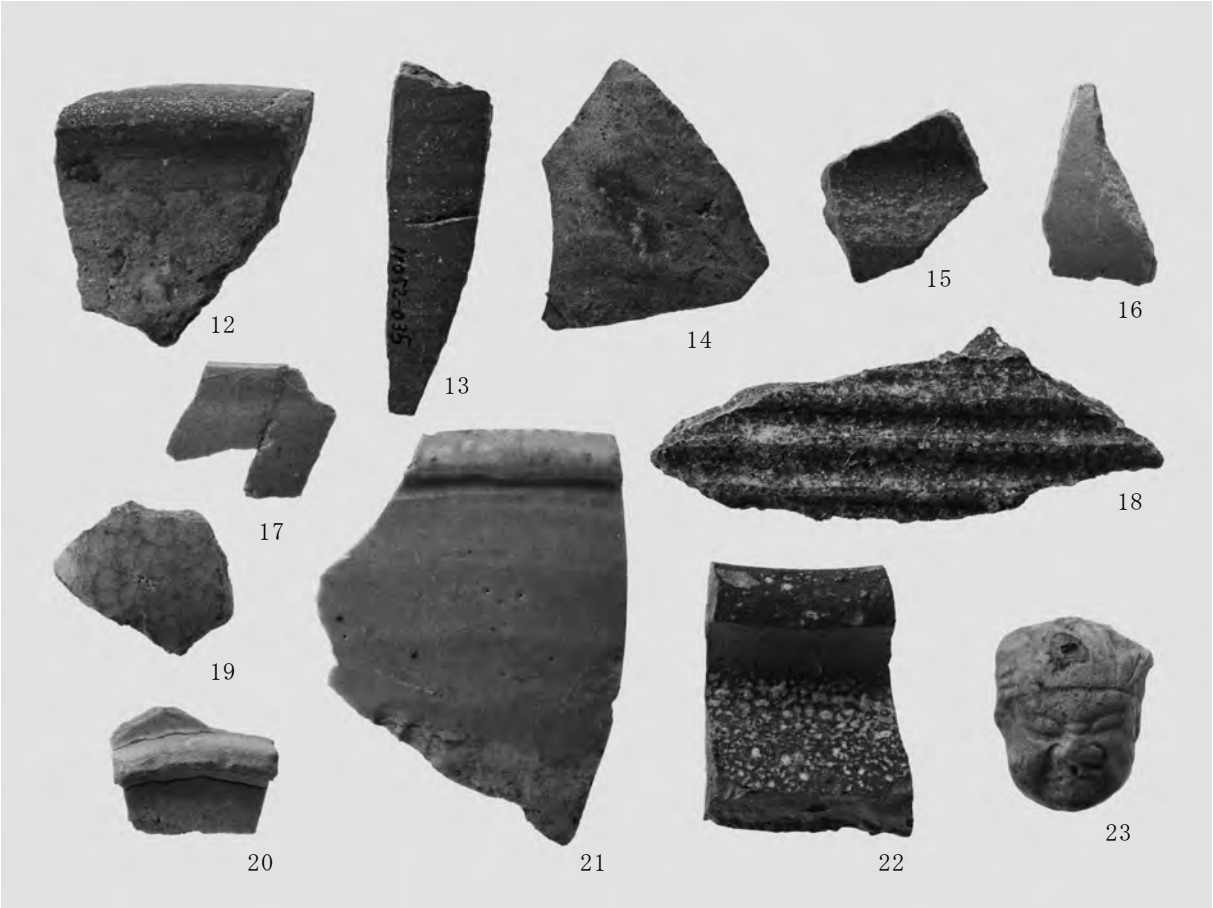
第 5 層（12）　製塩土器　約 1/1

図版三〇　久宝寺遺跡Ａ調査区　中世～近世　遺物　土器



畦畔 007（1）、畦畔 045（4･5･11）、溝 006（2）、溝 011（8）、溝 013（6･9）、溝 026（10）、溝 035（7）、溝 043（3）

1　青磁、3　土師器椀、5　備前焼、6　白磁、2・7　磁器、8　肥前系陶器、4・9　唐津焼、10・11　染付　　約 2/3



第 2 層（18・20 ～ 23）、第 3a 層（17・19）、第 3 層（12 ～ 16）　　約 2/3

12　東播系練鉢、13・18　丹波焼甕、22　備前焼壺、14　陶器、15　唐津焼、16・17　京焼系碗、19　志野焼、20・21　白磁碗、23　土人形

図版三一　久宝寺遺跡Ｂ調査区　弥生時代中期～後期　遺物　土器

1(32-1)

高まり 051 下層（1）

1’(32-1)

1’’(32-1)

2(32-2)

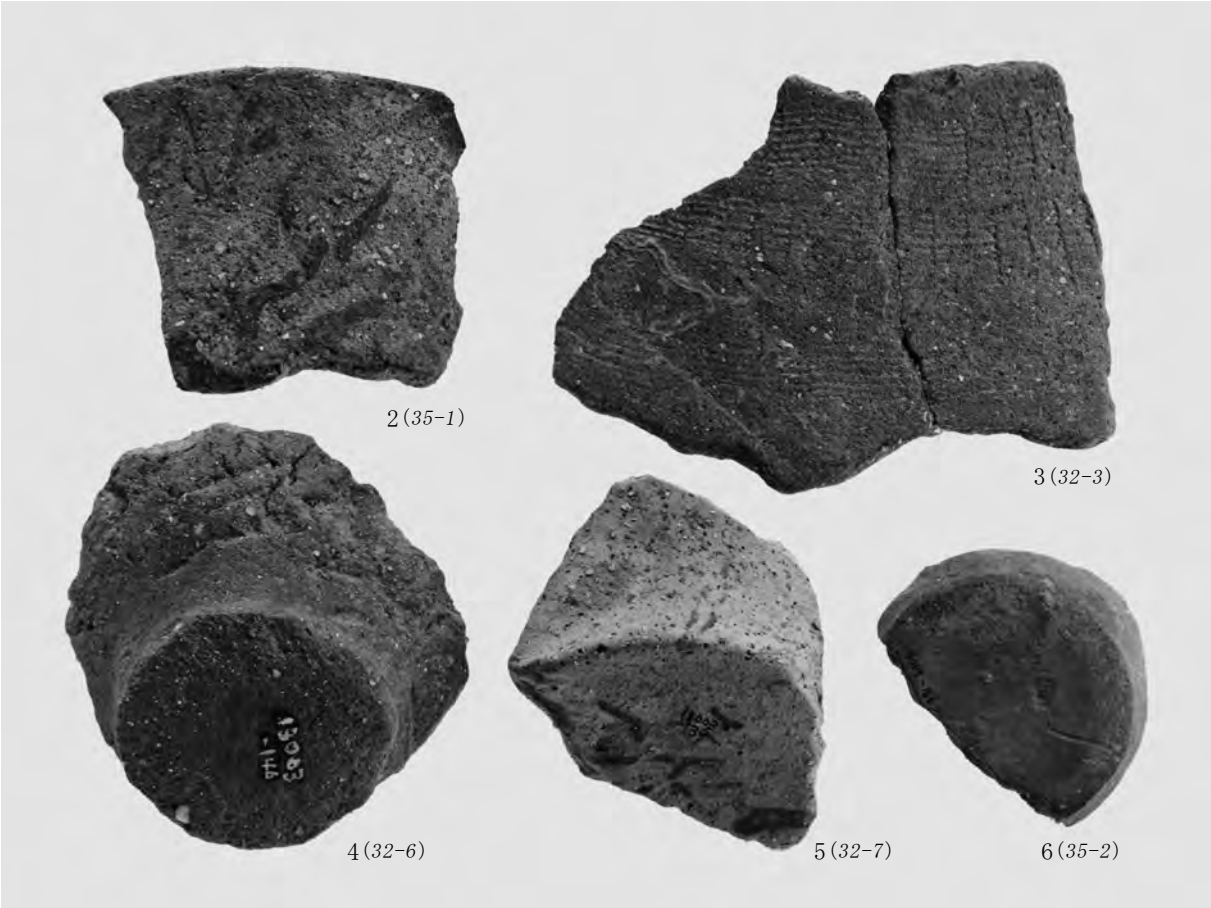
高まり 051 下層（2）

3(32-5)

高まり 051 上層（3）

図版三二　久宝寺遺跡Ｂ調査区　弥生時代中期～後期　遺物　土器

高まり 051 下層（1）



第 6 層以下（2）、高まり 051 下層（3）、高まり 051 上層（4・5）、第 7 層下位（6）　約 2/3

図版三三　久宝寺遺跡Ｂ調査区　弥生時代前期～古墳時代前期　遺物　土器

1（*35-4*）

2（*36-1*）

3（*36-3*）

第5c層（1・4・6・7）、流路044（2・3・5）

4

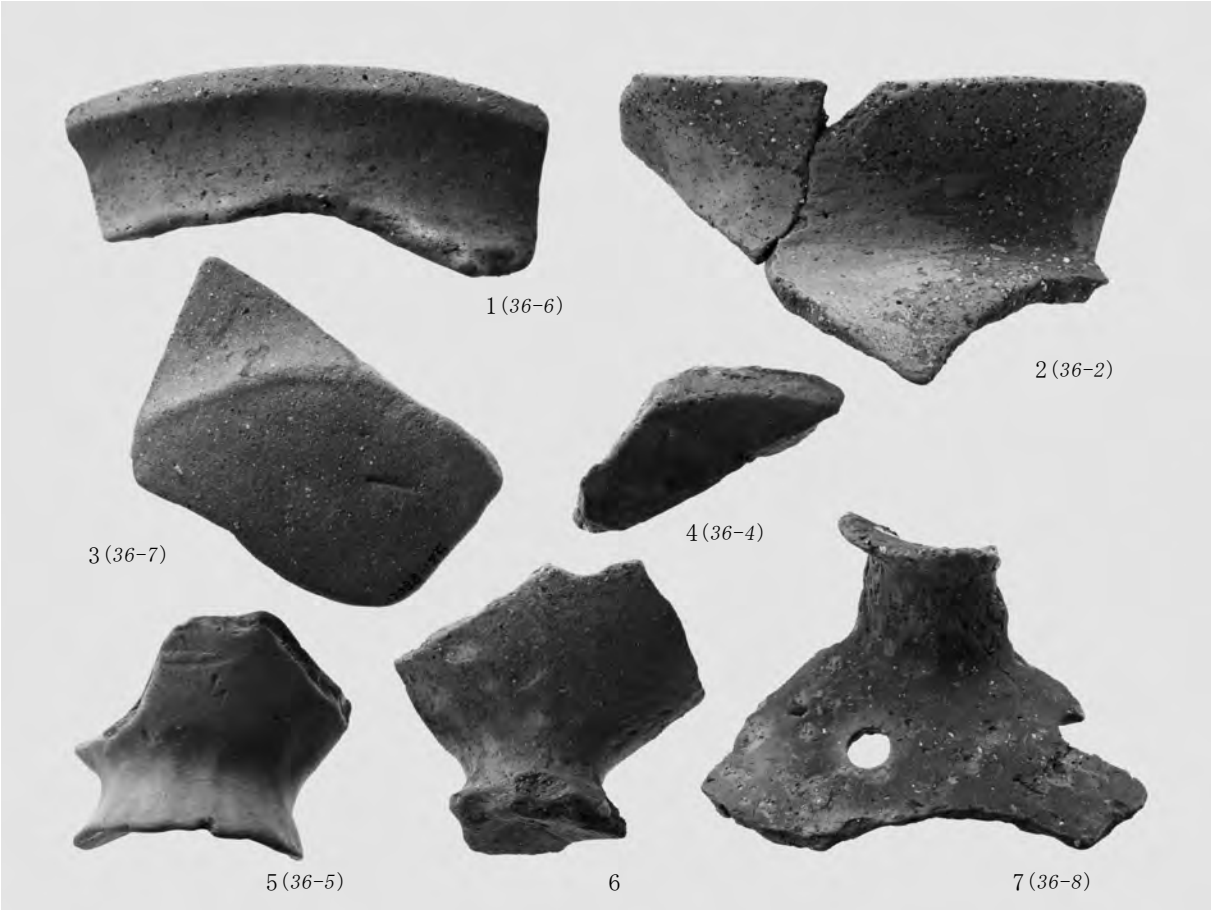
5（*35-3*）

6

7（*35-5*）

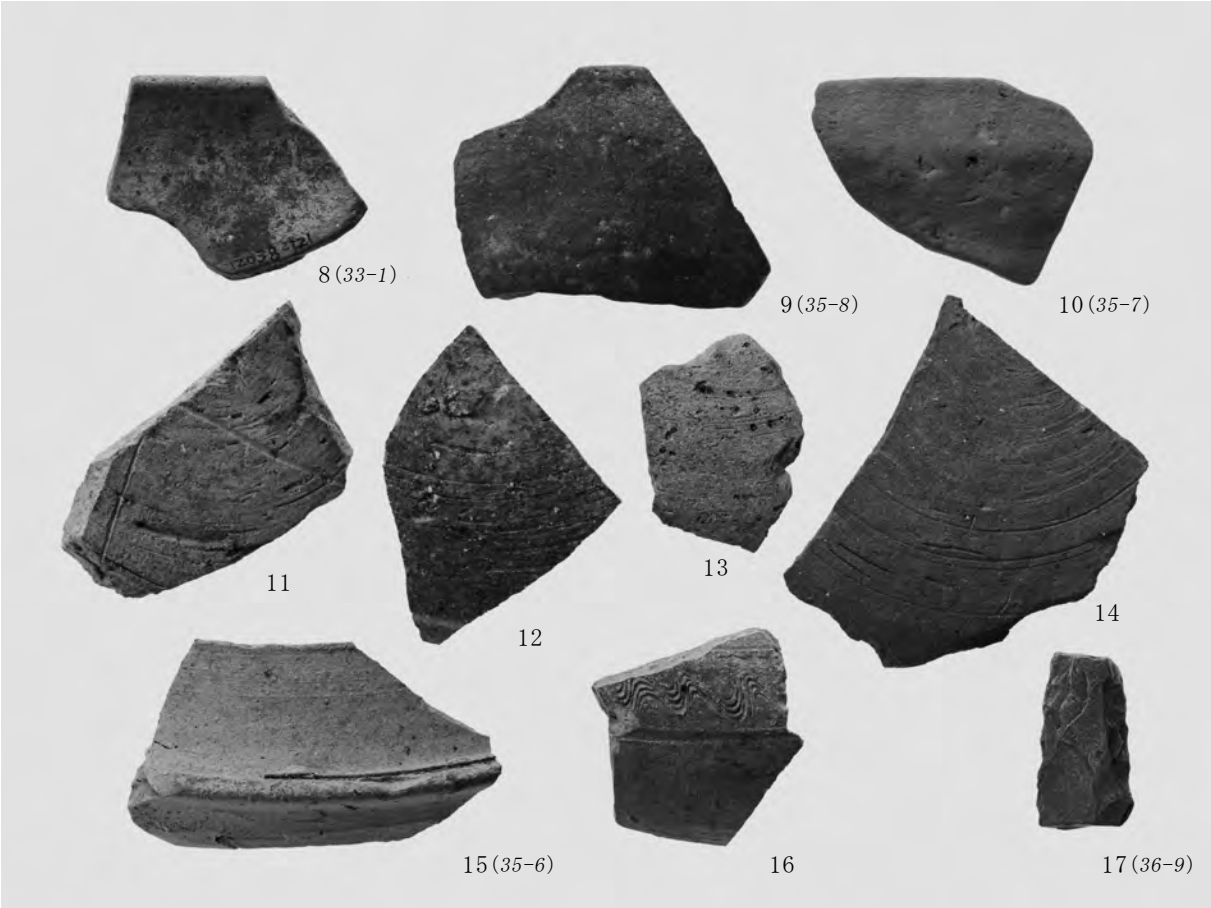
1・2・4　弥生土器、3・5～7　土師器

図版三四　久宝寺遺跡Ｂ調査区　古墳時代初頭～古墳時代中期　遺物　土器・サヌカイト



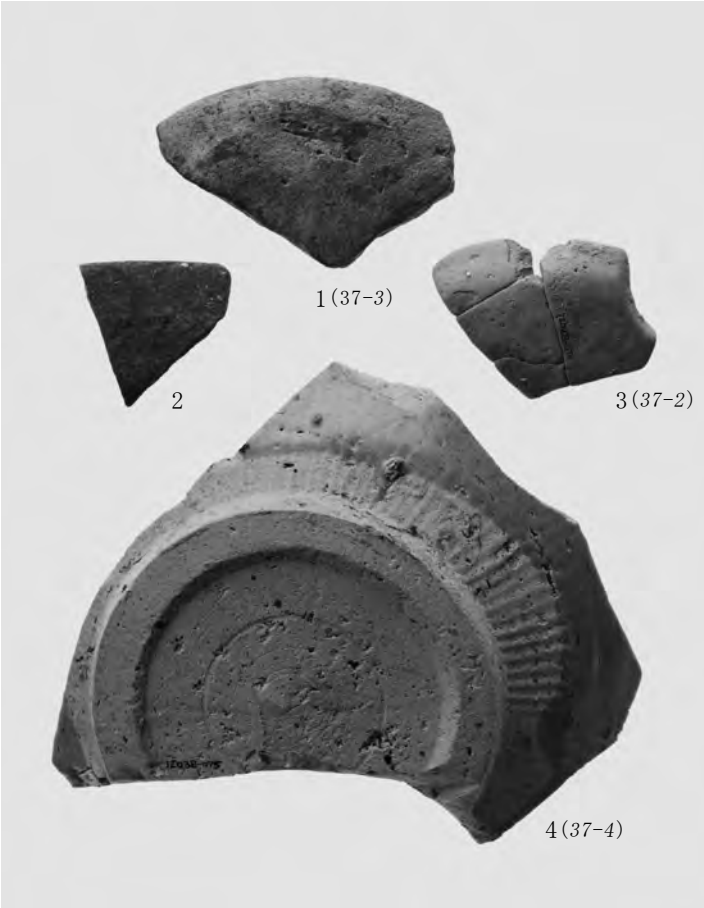
流路 044（1 ～ 7）　　約 1/2

1・2・4 ～ 7　土師器、3　弥生土器

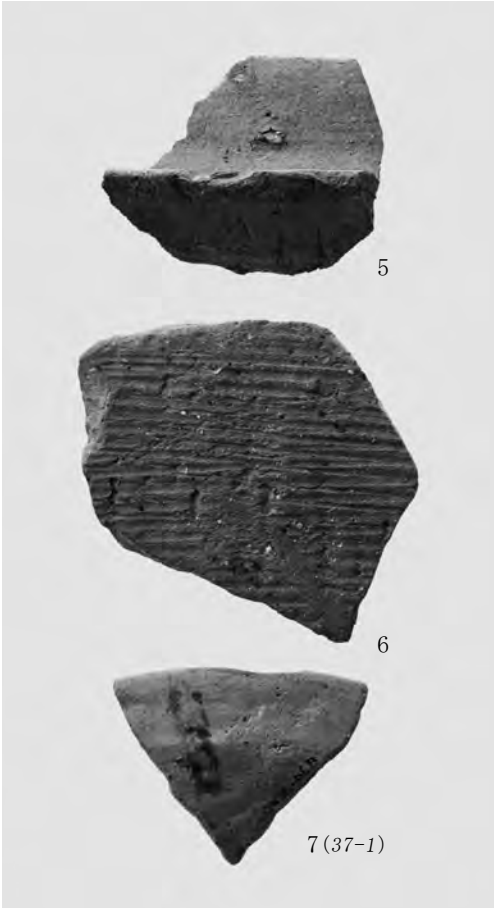


流路 043（8）、流路 044（17）、第 5a 層（11）、第 5b 層（9・13・14）、第 5 層上面（10）、第 5 層（12・15・16）　　約 2/3

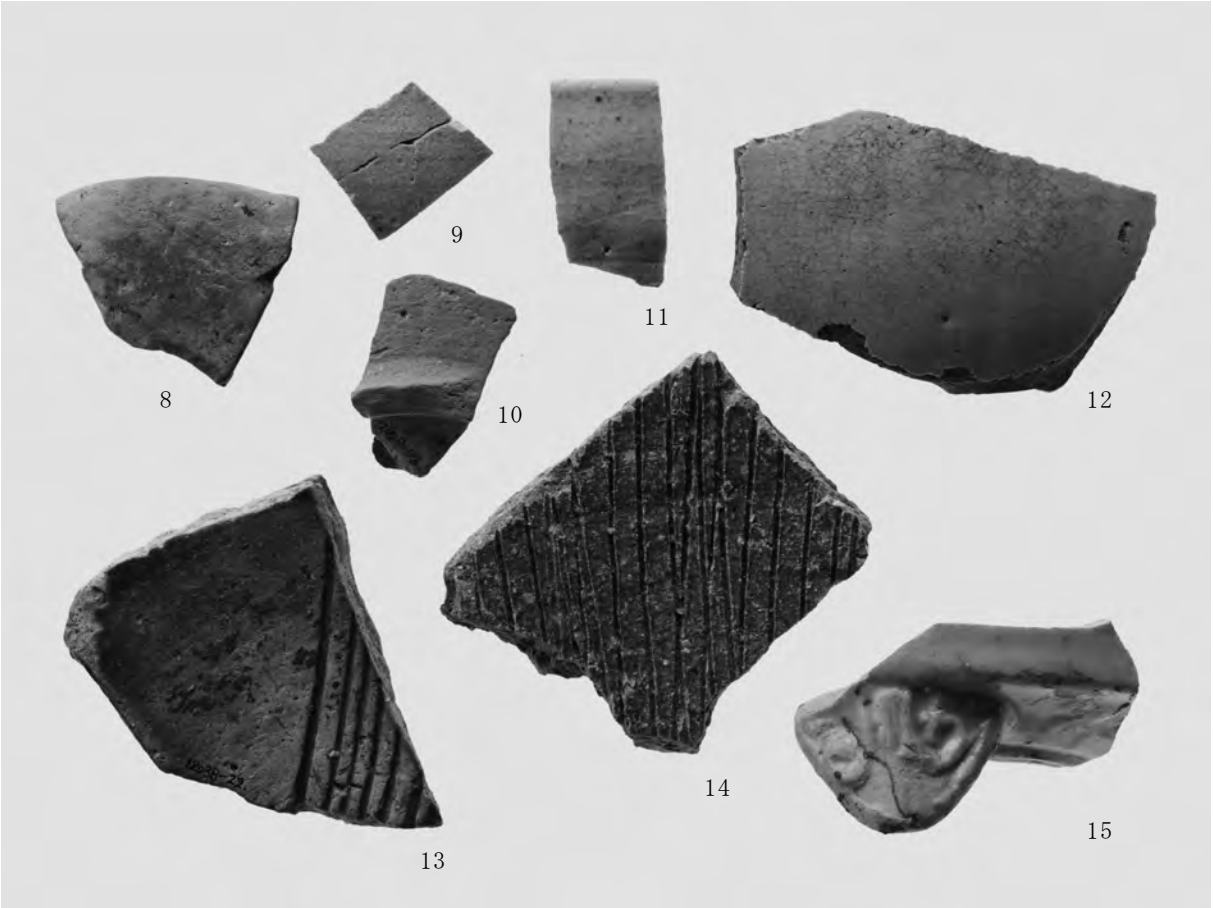
8 ～ 10　土師器、11 ～ 16　須恵器、17　石器



B調査区　土坑031（1～4）　約2/3
1・3　土師器、2　黒色土器B類椀、4　白磁

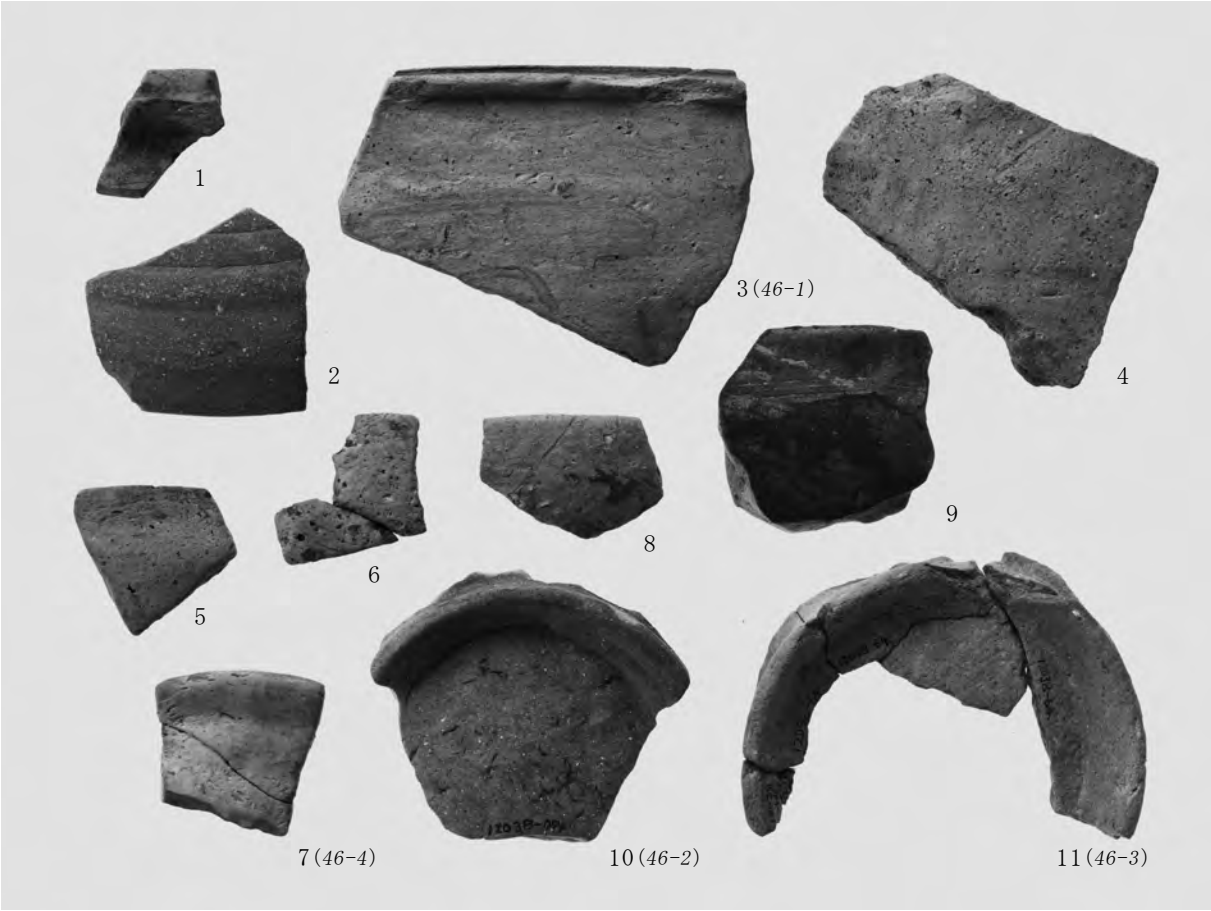


B調査区　土坑028（5～7）　約1/1
5・6　須恵器、7　土師器



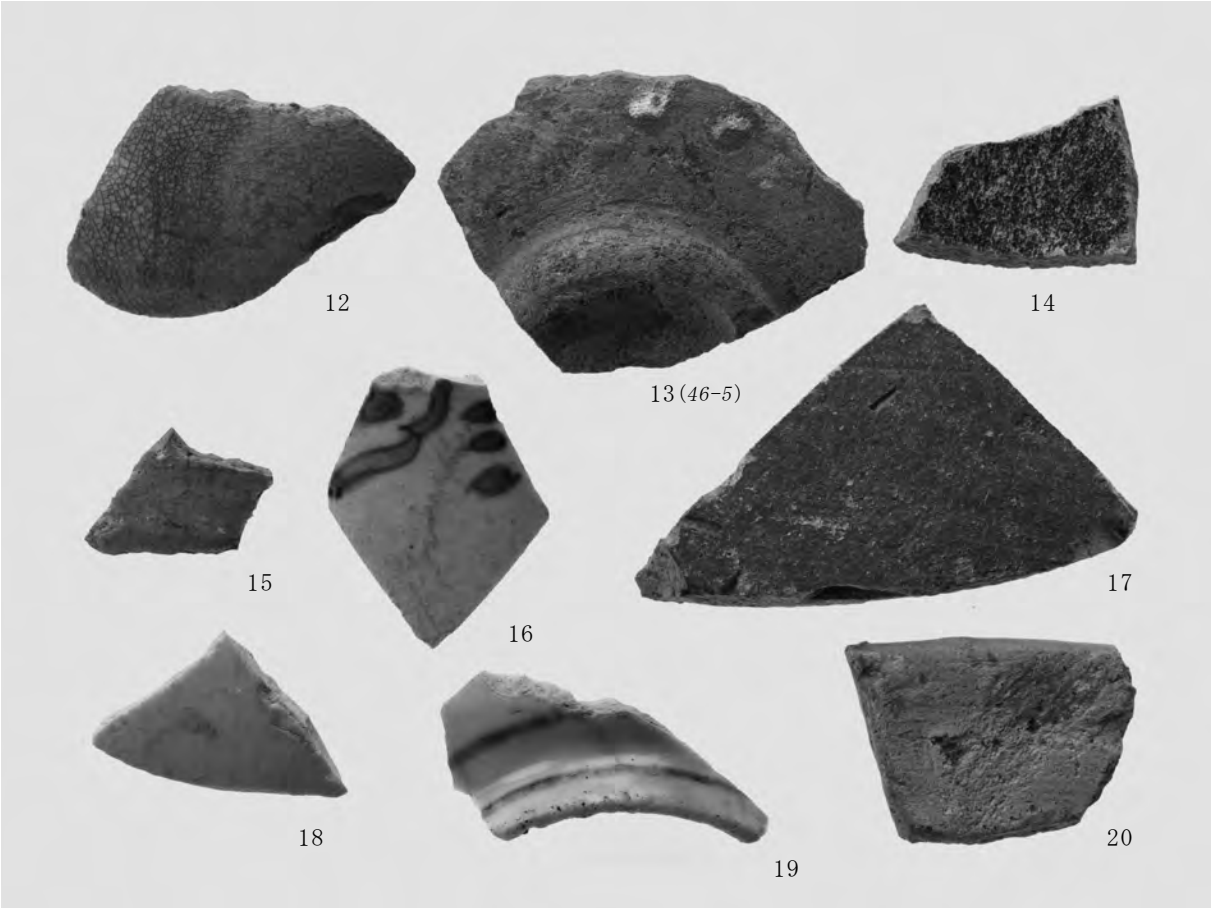
B調査区　溝003（8）、溝001（13）、溝020（9・10・12）、溝024（15）　約1/1
C調査区　溝007（11・14）
8　土師質土器、9　白磁、10　瓦器、11　唐津焼灰釉丸皿、12　唐津焼藁灰釉壺 or 徳利、13　瓦質土器擂鉢、14　丹波焼擂鉢、15　景徳鎮窯青白磁香炉

図版三六　久宝寺遺跡B調査区　古墳時代後期～近世　遺物　土器・陶磁器



第４層（1・3・5～11）、第３～４層（2・4）　約 2/3

1・2　須恵器、3　須恵質土器鉢、4　瓦質土器擂鉢、5～7　土師質小皿、8～11　瓦器椀



第３～４層（12・14・20）、第３層（16～19）、第２層（13・15）　約 1/1

12　京焼系碗、13　唐津焼皿、14　唐津焼黄茶釉碗、15　瀬戸焼香炉、16　景徳鎮窯青花瓶、17　備前焼甕、18　染付碗、19　漳州窯青花碗、20　東播系練鉢

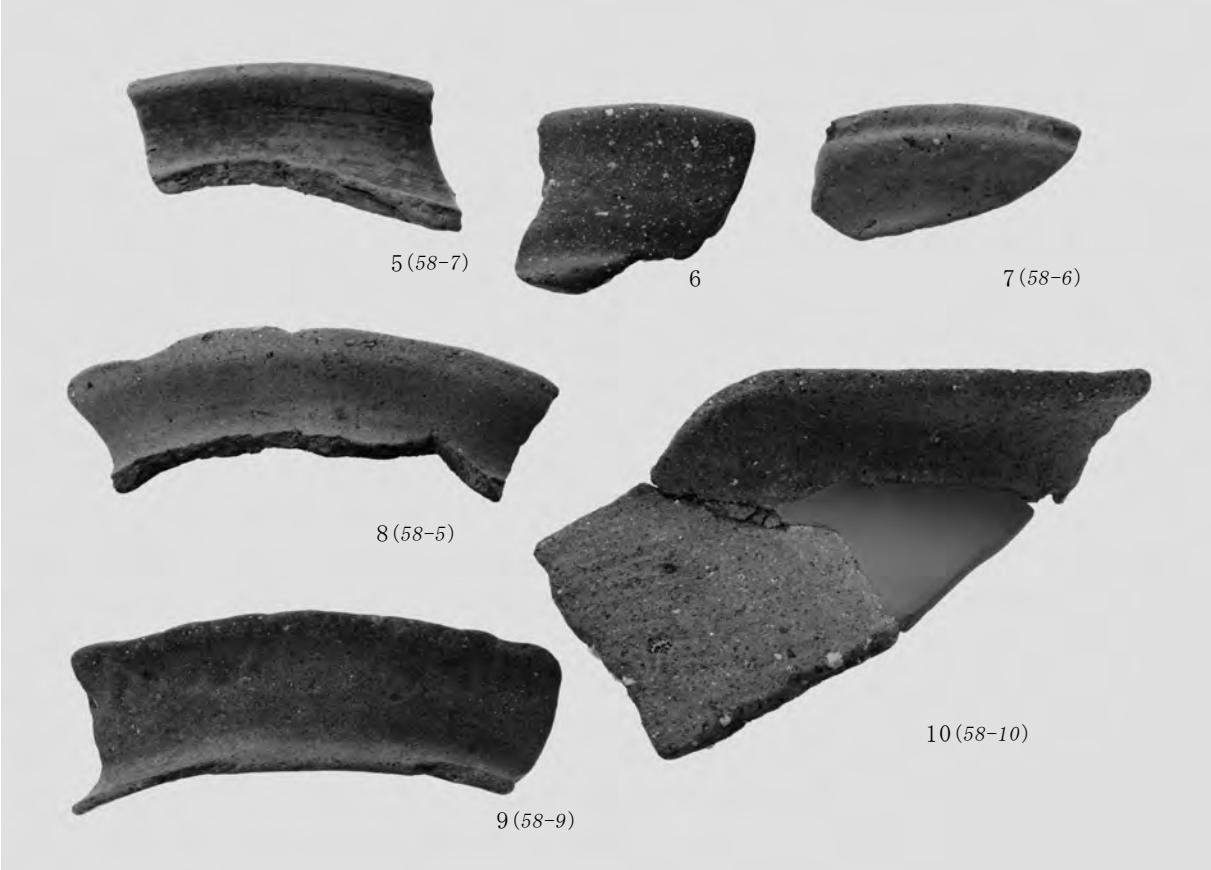
1(*53-1*)

2

3(*58-13*)

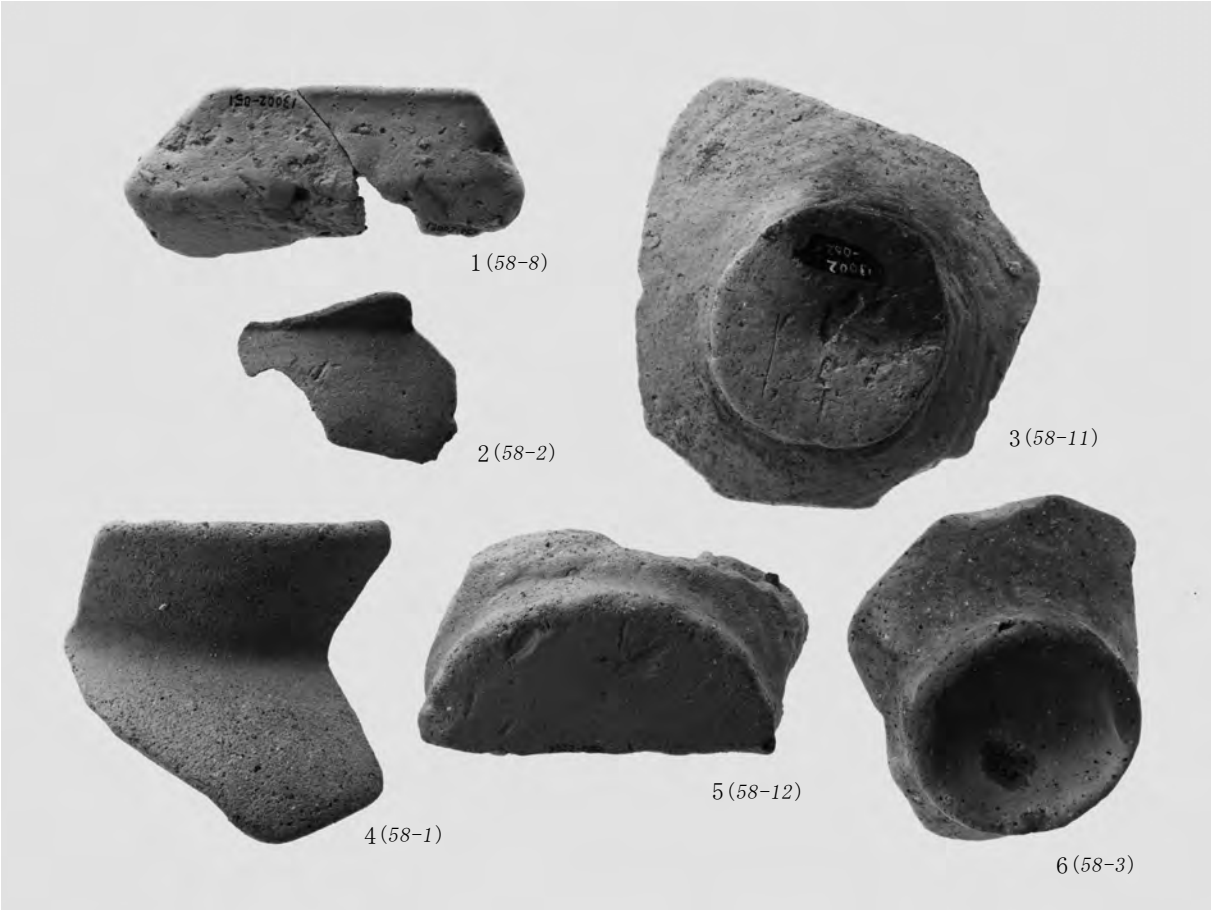
4(*58-14*)

流路 038（1）、流路 035（2）、第 5c 層（3・4）
1・2　縄文土器、3　弥生土器高坏、4　土師器高坏


5(*58-7*)
6
7(*58-6*)
8(*58-5*)
9(*58-9*)
10(*58-10*)

第 5 層＜砂＞　土師器　約 2/3

図版三八　久宝寺遺跡Ｃ調査区　弥生時代前期～古墳時代中期　遺物　土器



第 5c 層（1・2・4 ～ 6）、第 5b 層（3）　土師器

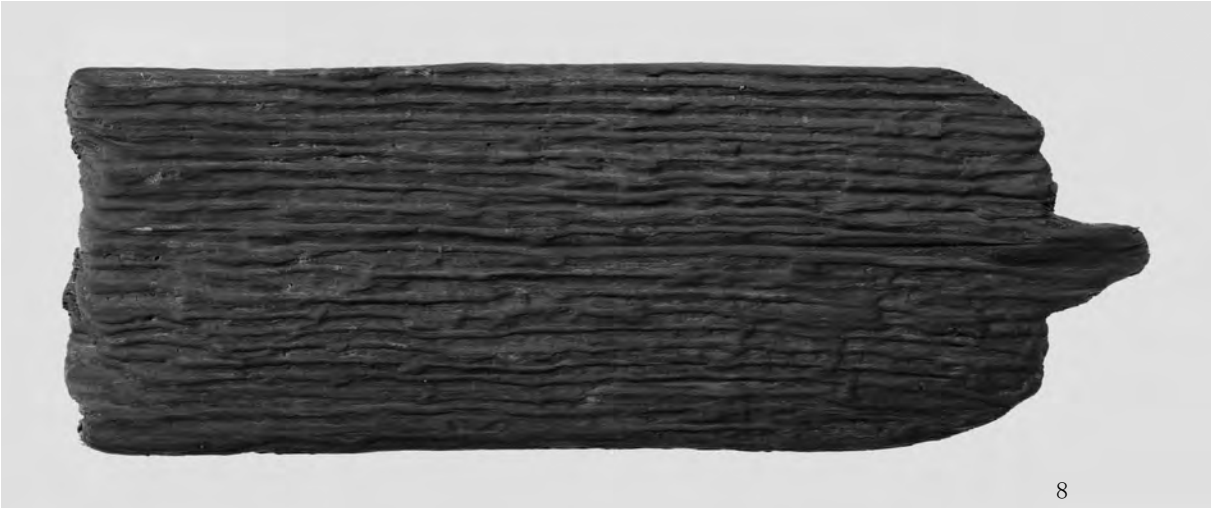
第 5c 層（7）　弥生土器甕

第 5c 層（8・9）
8　初期須恵器、9　韓式系軟質土器

C 調査区 溝 023 (1)、溝 009 (2)、溝 004 (3)、第 3 層 (4 ～ 6)　　約 1/1

1　土師質土器小皿、2・3・6　須恵器、4　土師器坏、5　東播系練鉢

A 調査区 井戸 023　曲げ物　　残存高約 7cm

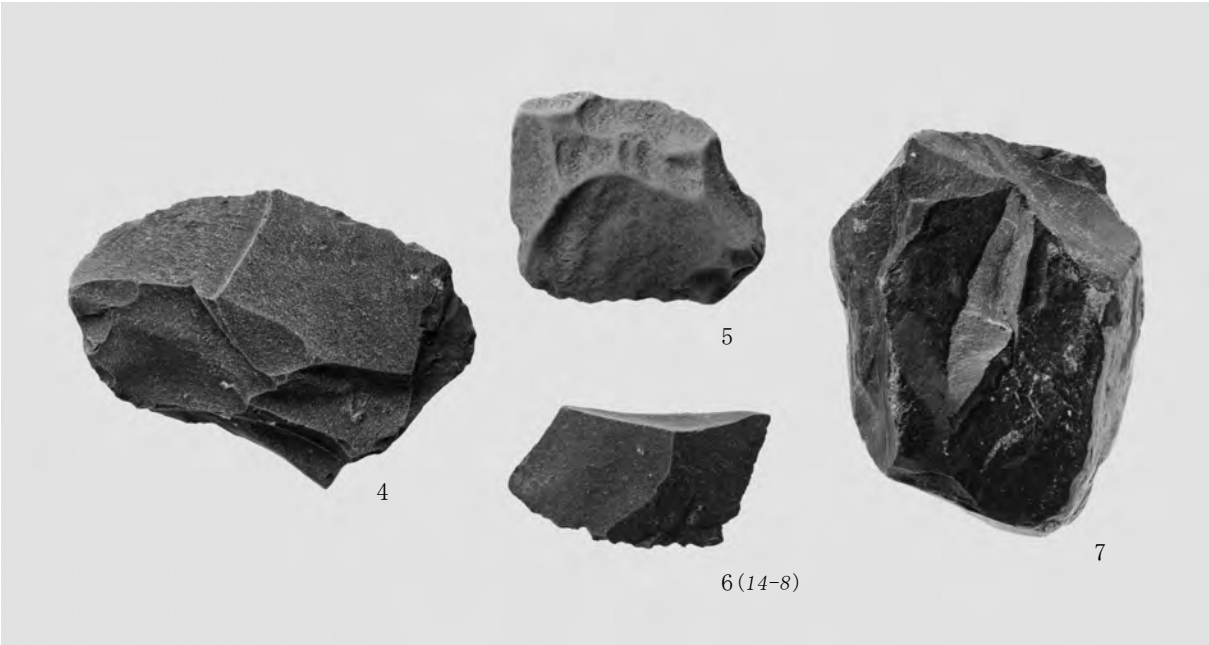


B 調査区　第 8 層下位　板状木製品　　長さ 24.5cm、幅 12cm

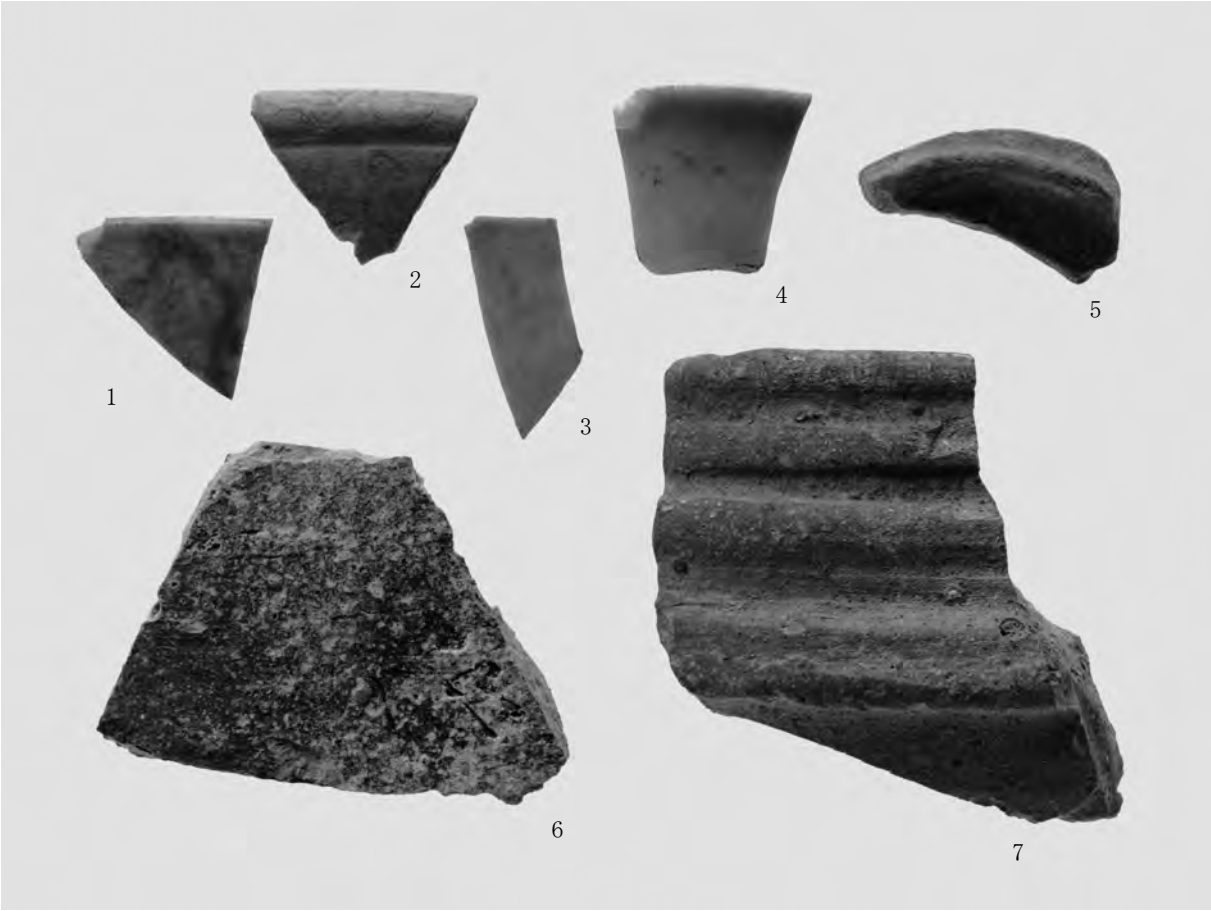
図版四〇　久宝寺遺跡A・C調査区　弥生時代　遺物　木製品・サヌカイト

C調査区　流路038（1）　杭　　長さ101cm

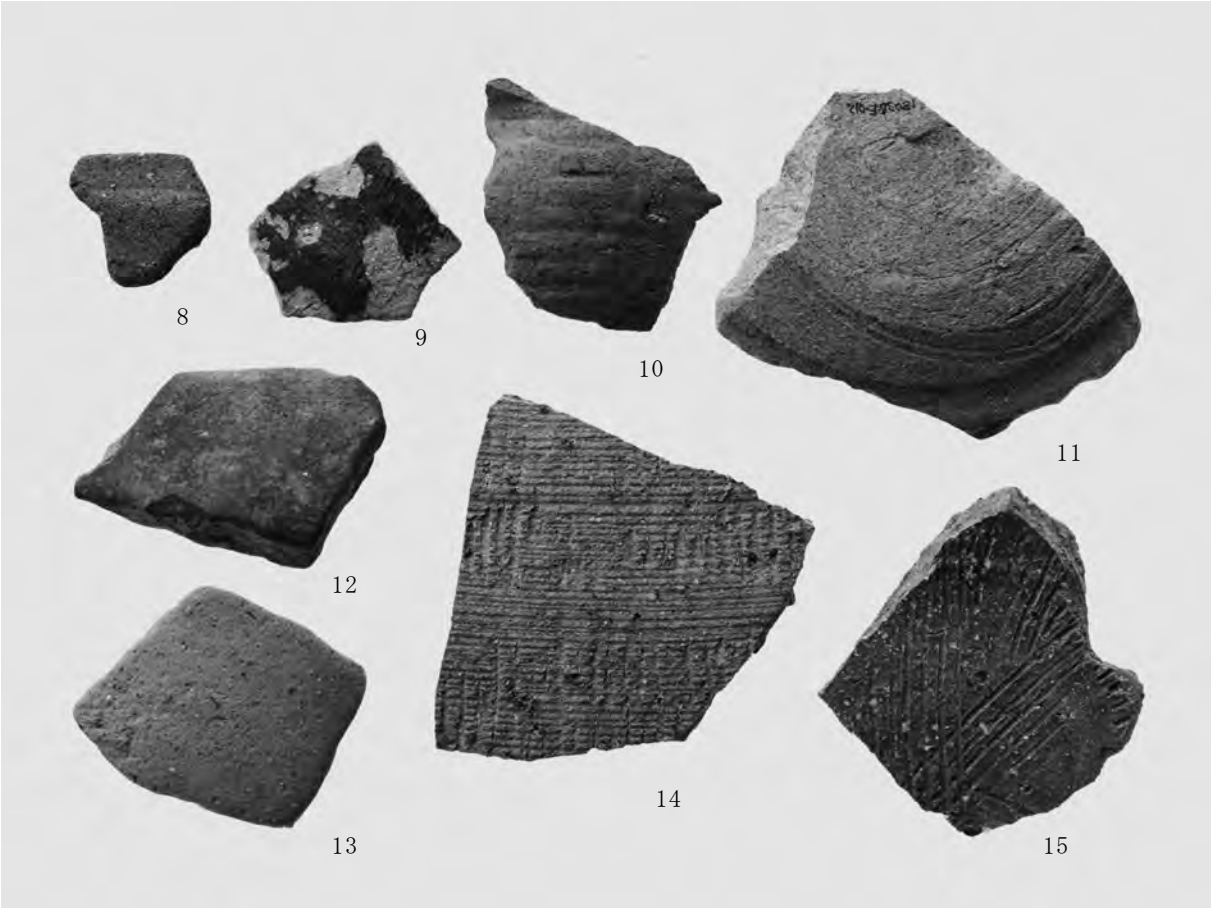
C調査区　流路035（2）、流路038（3）　加工木



A調査区　サヌカイト剥片・石核　第5層（4～7）　　約1/1



D調査区　第2層（1・4・6・7）、第4層（2）、溝004（5）、溝006（3）　約1/1
1～4　白磁、5　瓦器椀、6　常滑焼甕、7　備前焼擂鉢

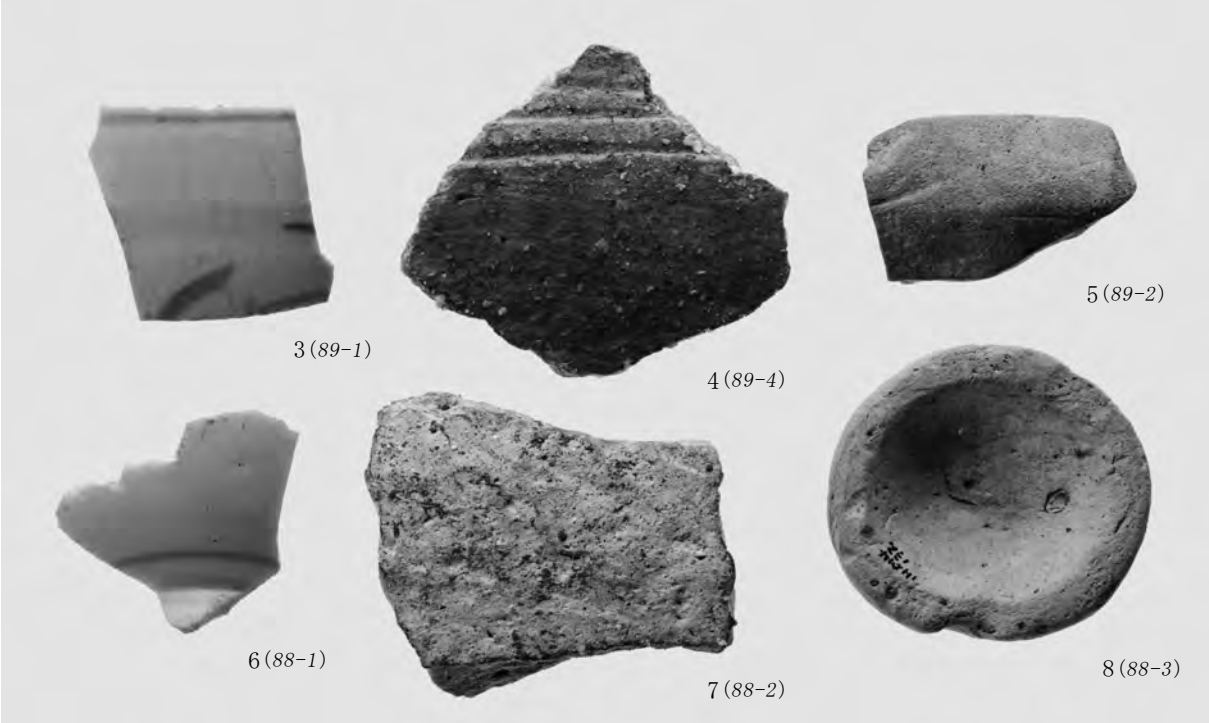


E調査区　土坑009（14・15）、溝008（12）、第5層（11・13）、第7層（8・9）、流路015（10）　約2/3
8～10・13　土師器、11・14　須恵器、15　丹波焼擂鉢、12　土師器坏

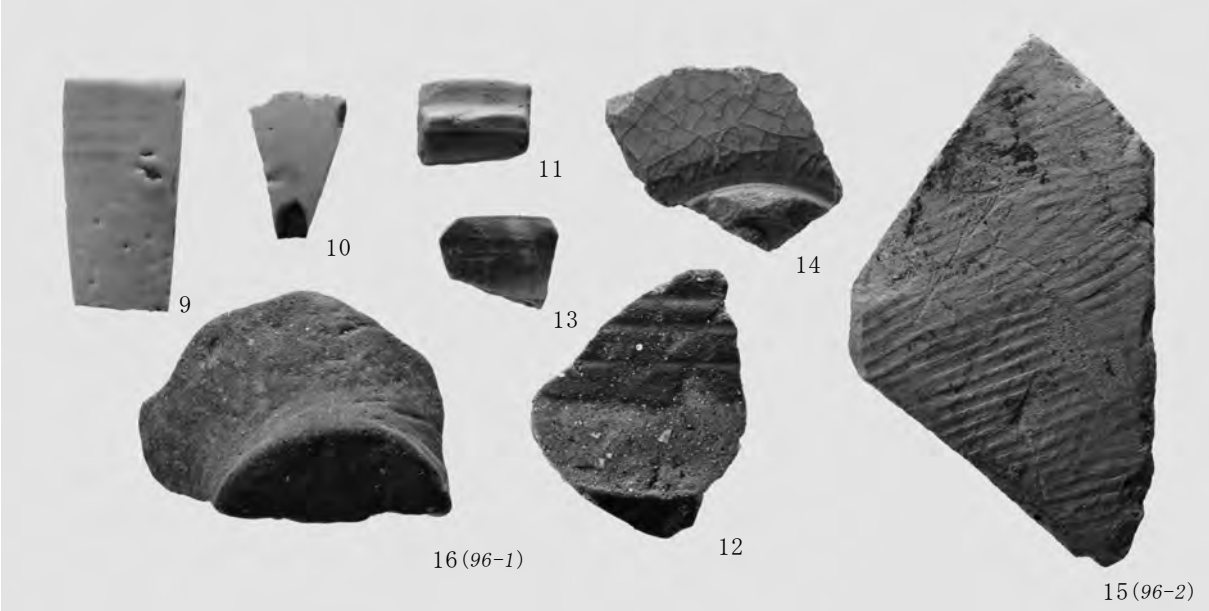
図版四二　久宝寺遺跡F・G調査区　弥生時代～近世　遺物　土器・陶磁器

F調査区 第5層（1）

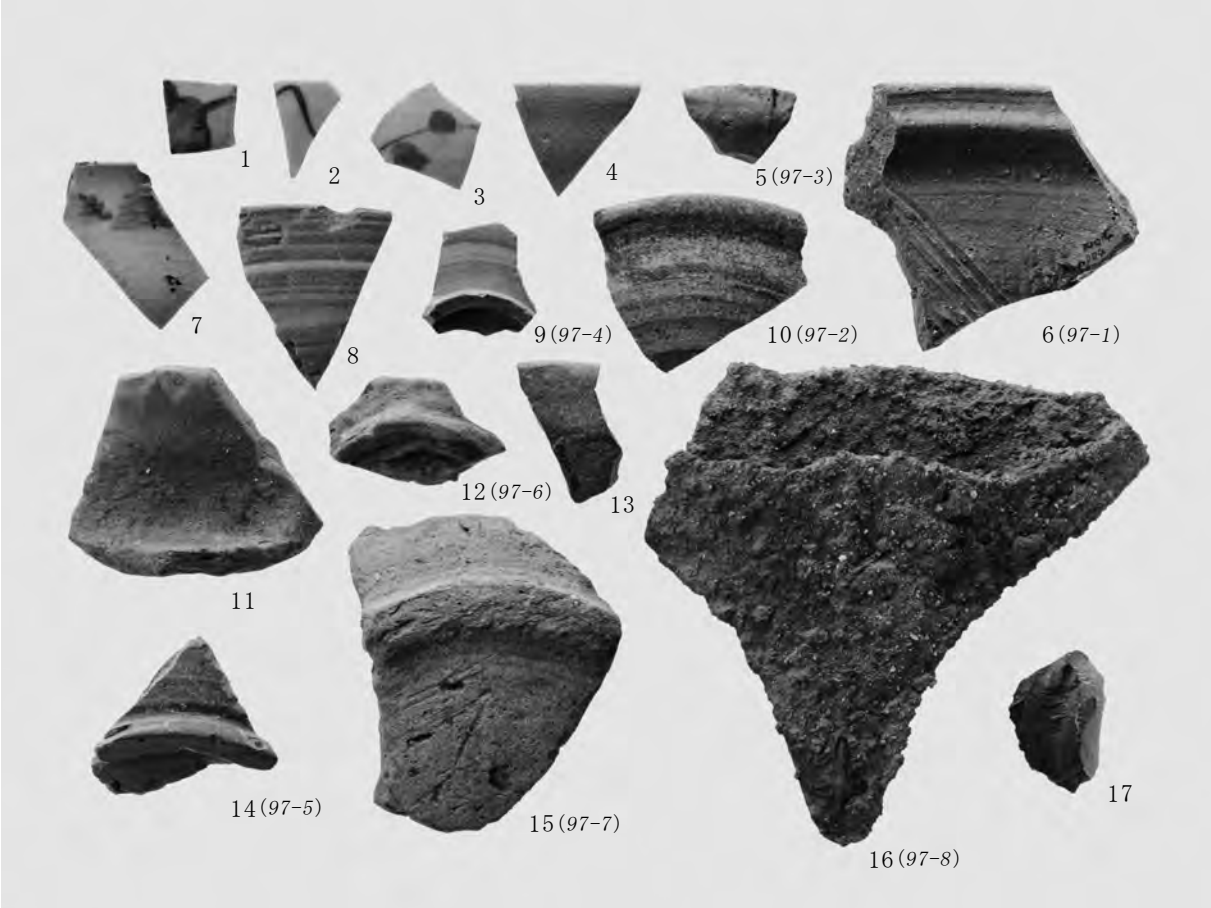
G調査区 第5層（2）



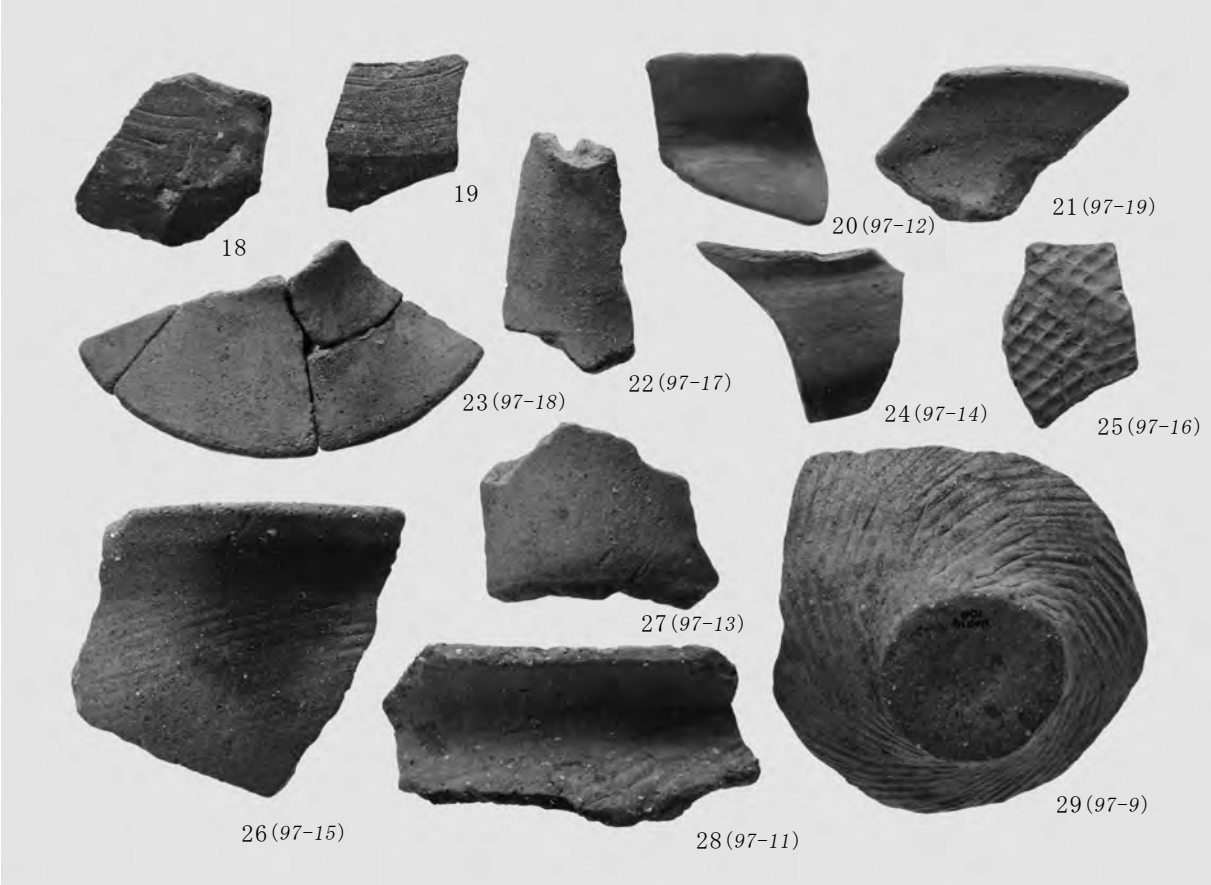
F調査区 溝039（6～8）、第1層（5）、第5-1層（3）、第8層以下（4）



G調査区 溝001（9）、溝018（10・11）、溝019（12）、溝023（13）、溝034（14）、溝035（15）、土坑011（16）



Ｇ調査区 第１～２層（6）、第２層（1・2・7・17）、第３層（3～5・9～11・14・16）、第４層（8・12・13）、第３～５層（15）



第５層（18～29）

報　告　書　抄　録

ふりがな	きゅうほうじいせき
書名	久宝寺遺跡
副書名	久宝寺緑地遊水池周辺整備工事に伴う発掘調査
シリーズ名	大阪府埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	2015－6
編著者名	宮崎　泰史、岡田　賢
編集機関	大阪府教育委員会
所在地	〒540 - 8571　大阪府大阪市中央区大手前二丁目　　TEL 06-6941-0351
発行年月日	2016 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	面積(㎡)	調査原因
久宝寺遺跡（きゅうほうじいせき）	大阪府八尾市（おおさかふやおし） 西久宝寺（にしきゅうほうじ）	27212	23	34° 37′ 43″	135° 34′ 55″	平成 24 年 1 月 24 日から 平成 26 年 11 月 26 日	630 ㎡	記録保存
	東大阪市（ひがしおおさかし） 大蓮南（おおはすみなみ） 3丁目（3ちょうめ）	27227	140					

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
久宝寺遺跡	集落跡	弥生時代 古墳時代 古代 中世 近世	高まり、溝、土坑、畦畔 溝、土坑、畦畔 溝、土坑、畦畔、井戸 溝、土坑、井戸 溝、土坑	弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、鉄製品、木製品	古墳時代前期の水田耕作域、弥生時代中期の高まり（方形周溝墓の流出土）

要　約	弥生時代～近世まで続く複合遺跡。古代～近世にかけては耕作地関係の遺構が認められた。また古墳時代前期においては、西接する加美遺跡で確認されている水田耕作域が本調査地でも認められ、当該期における耕地開発の面的な広がりをとらえることができた。さらに弥生時代中期に属する方形周溝墓のマウンドの流出土と考えられる高まり、および当該期の畦畔、溝等の遺構の存在からは、周辺での調査成果も合わせ、方形周溝墓とその周囲に広がる水田耕作域という景観の復元にとって重要な知見を得ることができた。

大阪府埋蔵文化財調査報告 2015-6

久宝寺遺跡

－久宝寺緑地遊水池周辺整備工事に伴う発掘調査－

発　行　大阪府教育委員会
〒540-8571　大阪市中央区大手前二丁目
TEL 06 - 6941 - 0351（代表）

発行日　平成 28 年３月 31 日

印　刷　株式会社　中島弘文堂印刷所
大阪市東成区深江南二丁目６番８号